

令和2年度

男女共同参画に関する市民意識調査

— 報 告 書 —

郡 山 市

目 次

令和2年度郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

第1章	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査対象者等	1
3	調査内容	1
4	回答状況等	1
5	回答者の属性	2
第2章	調査結果の概要	
1	男女平等意識について	5
2	人権について	7
3	家庭生活について	8
4	就業について	9
5	働き方と仕事と生活の調和について	10
6	女性活躍について	12
7	本市の男女共同参画に関する取り組みについて	14
第3章	調査結果（各設問分析）	
1	男女平等意識について	15
2	人権について	29
3	家庭生活について	50
4	女性活躍について	61
5	政策決定の場への参画について	68
6	就業について	73
7	男女の働き方と仕事と生活の調和について	76
8	防災について	83
9	本市の男女共同参画に関する取り組みについて	85
第4章	自由回答	
1	自由回答記述者数	95
2	各問の自由回答	96
3	男女共同参画に関する自由回答	102

第5章 資料

- 1 調査票 111
- 2 過去の調査との比較 123

第6章 参考

- 1 国・県・市の比較資料 159

本報告書の見方について

- 1 比率はすべて百分率（％）で表示し、表示単位未満を四捨五入し、単位未満の数値を調整した。そのため、個々の比率の合計が100%にならない場合がある。
- 2 本文や図表中の選択肢の標記は、短縮・簡略化している場合がある。
- 3 資料において、国（内閣府）及び福島県が実施した調査結果との比較を行った。
なお、比較した調査結果は、次のとおりである。

【国（内閣府）の調査】「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年9月実施）

調査対象：全国 18歳以上の日本国籍を有する男女 5,000人（個別面接調査）

【福島県の調査】「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査報告書」（令和元年11月実施）

調査対象：福島県内に居住する20歳以上の男女 2,000人（郵送による自記式調査）

令和2年度郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

第1章 調査の概要

この章では、調査の目的や調査対象及び方法、調査内容、回答者の数や属性について、掲載しています。

1 調査目的

この調査は、平成30年4月にスタートした「第3次こおりやま男女共同参画プラン」の推進に向けて、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握するとともに、今後の男女共同参画、女性活躍、人権の各種施策の展開の参考とするため実施する。

2 調査対象者等

年 度	令和2年度
調 査 対 象	市内在住20歳以上の男女 3,000人(男女各1,500人)
抽 出 数	住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
調 査 方 法	郵送による配布及び回収、インターネットによる電子申請
調 査 期 間	令和2年7月1日～7月31日 ※ただし、期限後の10月末日到達分まで集計した。
回 答 率	33.6%

3 調査内容

- (1) 回答者の属性
- (2) 男女平等意識
- (3) 人権
- (4) 家庭生活
- (5) 女性活躍推進
- (6) 就業
- (7) 仕事と生活の調和
- (8) 防災
- (9) 本市の取り組み
- (10) 意見・乾燥【自由記述】

4 回答状況等

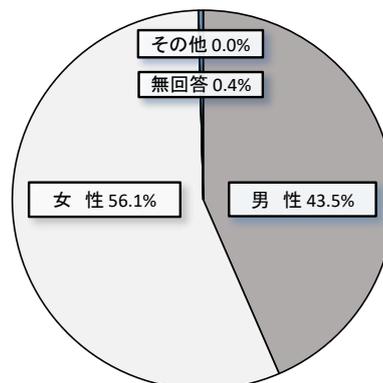
性別	男性	女性	性別無回答	総数
返 戻 数	10件	2件	—	12件
回 答 数	438件	565件	4件	1,007件
送 達 率	99.3%	99.9%	—	99.6%
回 答 率	29.2%	37.7%	—	33.6%

5 回答者の属性

(1) 性別

	基数 (人)	構成比 (%)
男 性	438	43.5%
女 性	565	56.1%
その他	0	0.0%
無回答	4	0.4%
計	1,007	100.0%

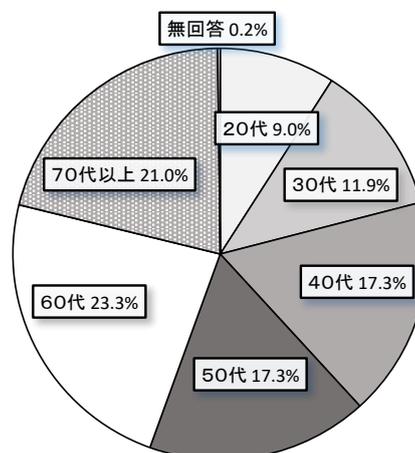
回答者の性別



(2) 年齢別

	基数 (人)	構成比 (%)
20代	91	9.0%
30代	120	11.9%
40代	174	17.3%
50代	174	17.3%
60代	235	23.3%
70代以上	211	21.0%
無回答	2	0.2%
計	1,007	100.0%

回答者の年齢

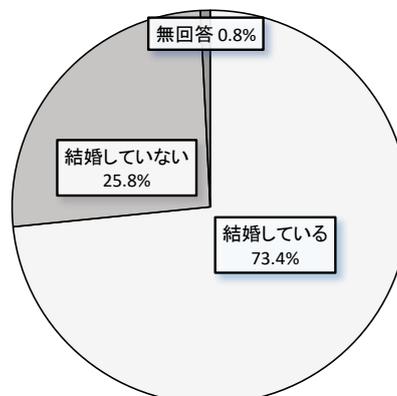


(3) 結婚等

問3

	基数 (人)	構成比 (%)
結婚している	739	73.4%
結婚していない	260	25.8%
無回答	8	0.8%
計	1,007	100.0%

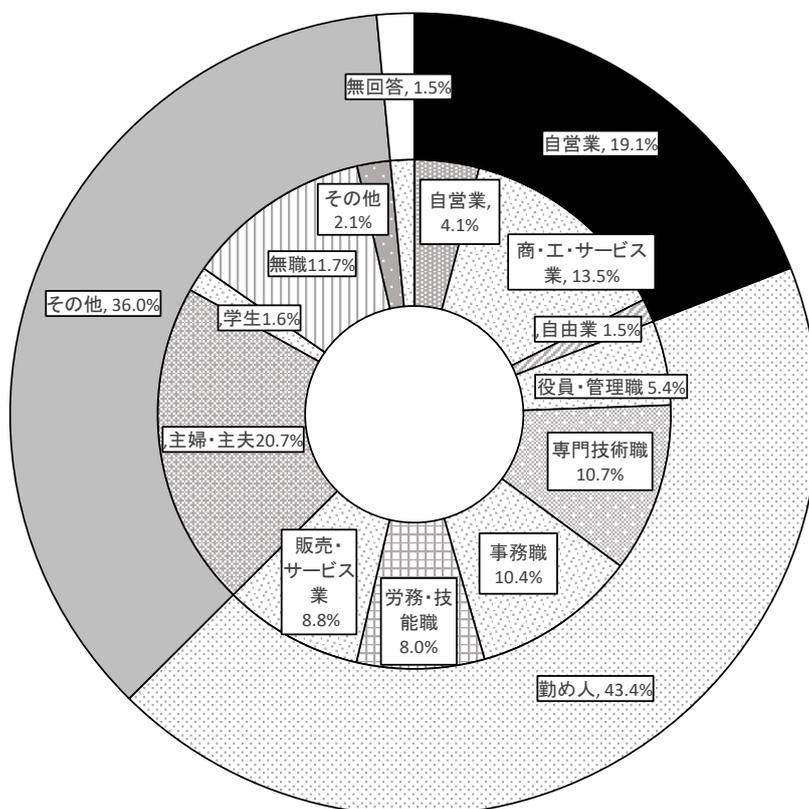
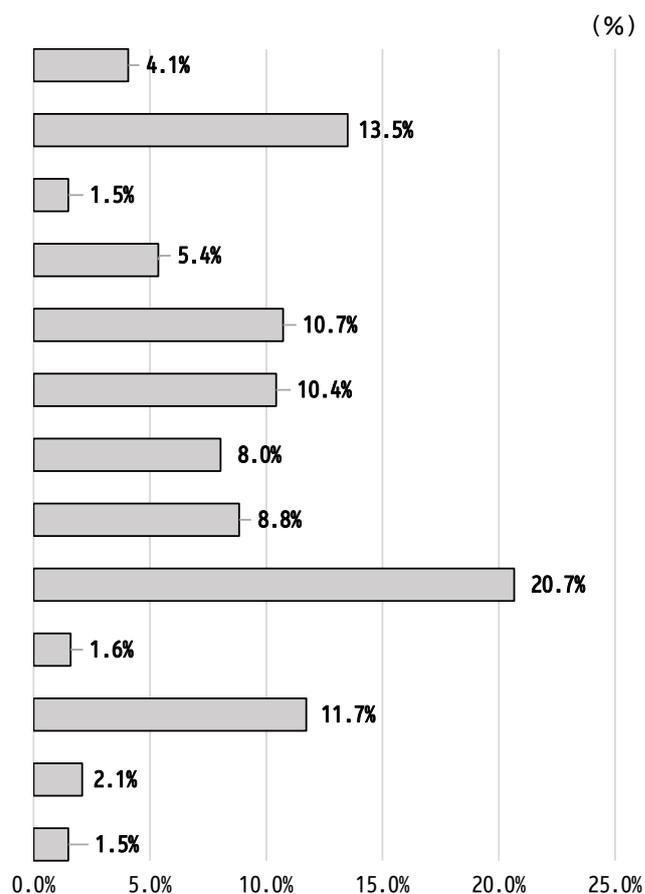
回答者の結婚等



(4) 職業

問4

	業種等	基数(人)	構成比(%)
自営業	農・林・漁業	41	4.1%
	商・工・サービス業	136	13.5%
	自由業	15	1.5%
勤め人	役員・管理職	54	5.4%
	専門技術職	108	10.7%
	事務職	105	10.4%
	労務・技能職	81	8.0%
	販売・サービス業	89	8.8%
その他	主婦・主夫	208	20.7%
	学生	16	1.6%
	無職	118	11.7%
	その他	21	2.1%
	無回答	15	1.5%
	計	1,007	100.0%



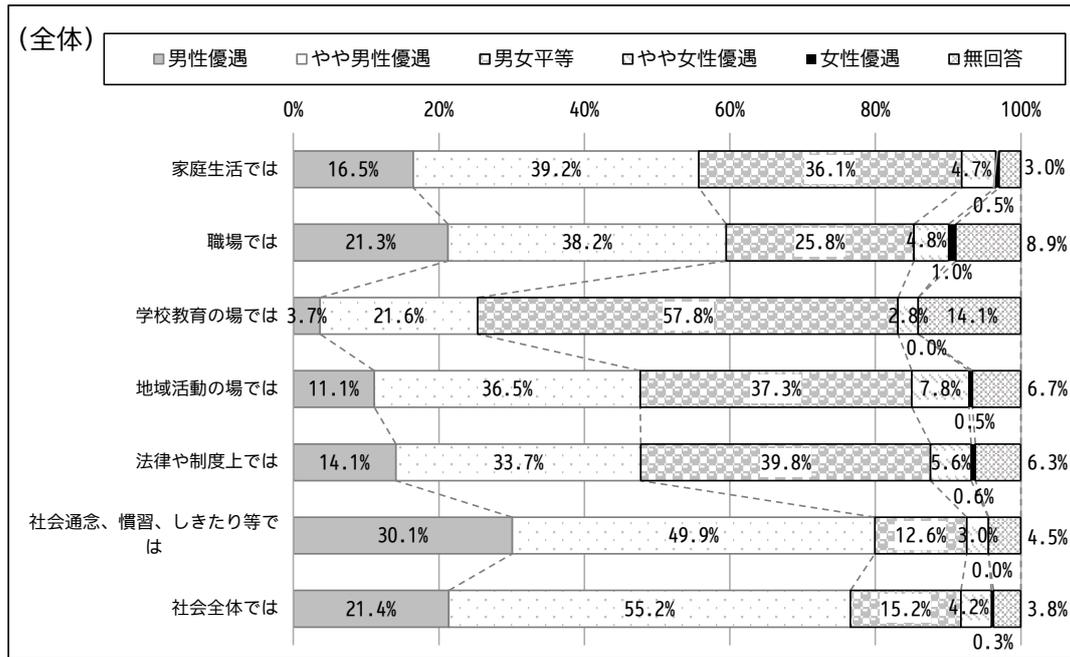
第2章 調査結果の概要

この章では、分野ごとに調査の目的や調査対象及び方法、調査内容、回答者の数や属性について、掲載しています。

1.男女平等意識について

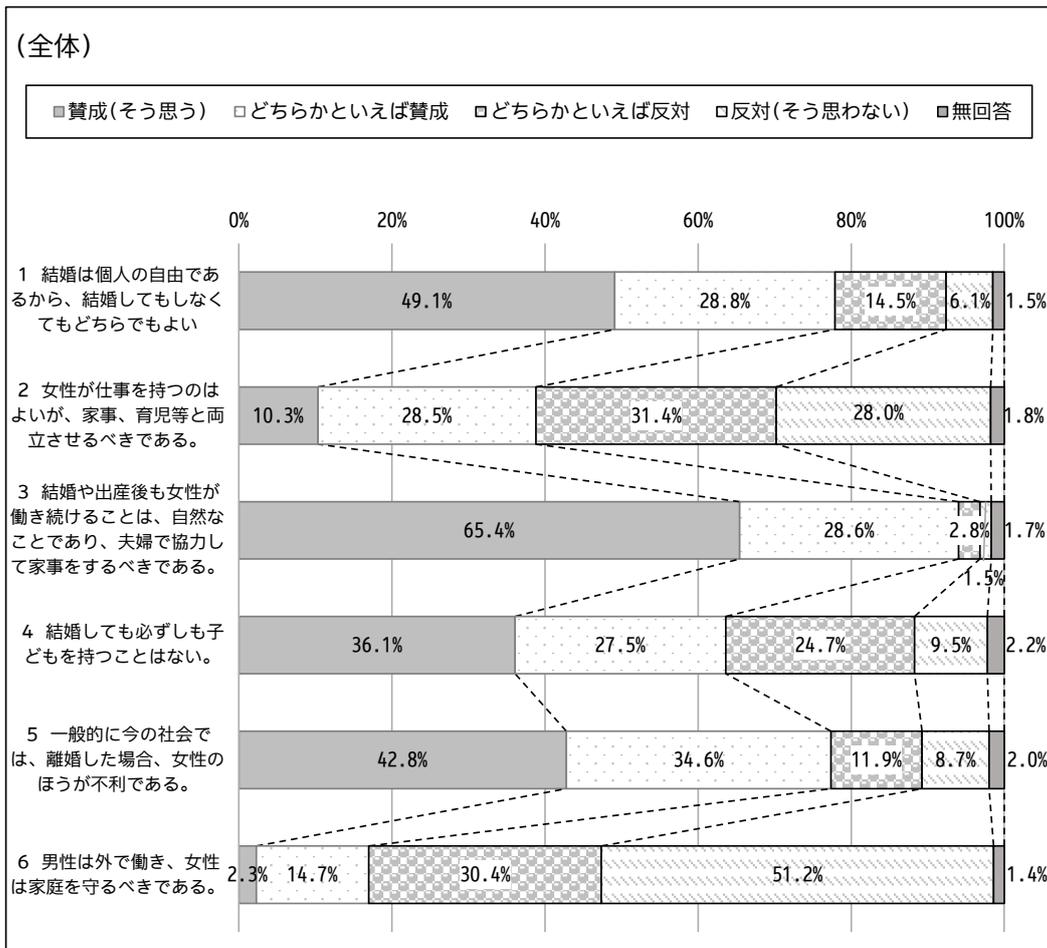
「家庭生活」、「職場」、「学校教育の場」、「地域活動の場」、「法律や制度上」、「社会通念、慣習、しきたり等」の各分野及び「社会全体」における男女の地位の平等感について

男女の地位の平等感について、「男性が優遇」又は「やや男性が優遇」と回答した割合は、「社会通念、慣習、しきたり等では」が80.0%と最も高く、「職場では」が59.5%、「家庭生活では」が55.7%といずれも5割を超えているが、「学校教育の場では」は25.3%と低く、57.8%が「男女平等」と回答している。



結婚、家庭、離婚の考え方について

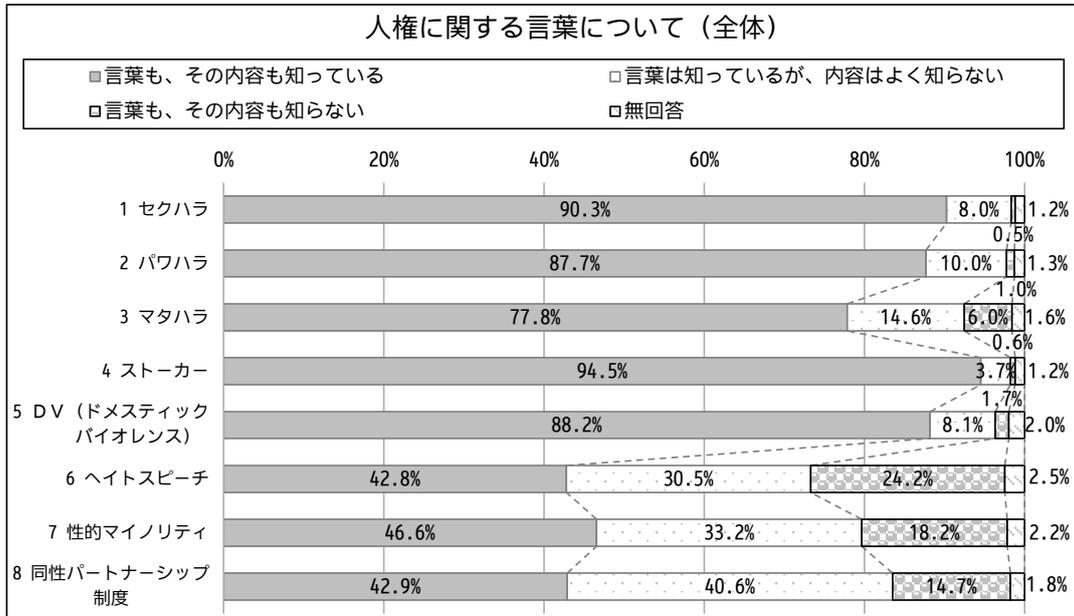
結婚、家庭、離婚の考え方について、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、「3 結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである」が94.0%と最も高く、「1 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は77.9%、「5 一般的に今の社会では、離婚した場合、女性の方が不利である」は77.4%といずれも7割を超えているが、「6 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」は、81.6%が「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答している。



2.人権について

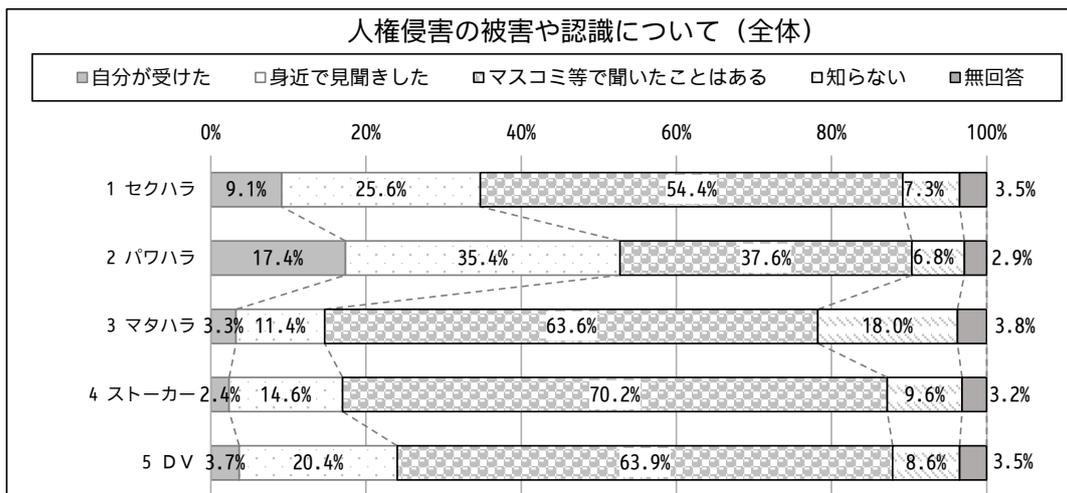
人権に関する言葉の認知度と人権侵害の被害や認識について

人権に関する言葉については、「4 ストーカー」が94.5%、「1 セクハラ」が90.3%、「5 DV（ドメスティックバイオレンス）」が88.2%、「2 パワハラ」が87.7%、「3 マタハラ」が77.8%と認知度は高いが、「6 ヘイトスピーチ」「7 性的マイノリティ」「8 同性パートナーシップ制度」は50%を下回っており、比較的新しい言葉の認知度は低い。



人権侵害の被害や認識について、「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は、「2 パワハラ」が52.8%と最も高く、次いで「1 セクハラ」が34.7%と続いた。

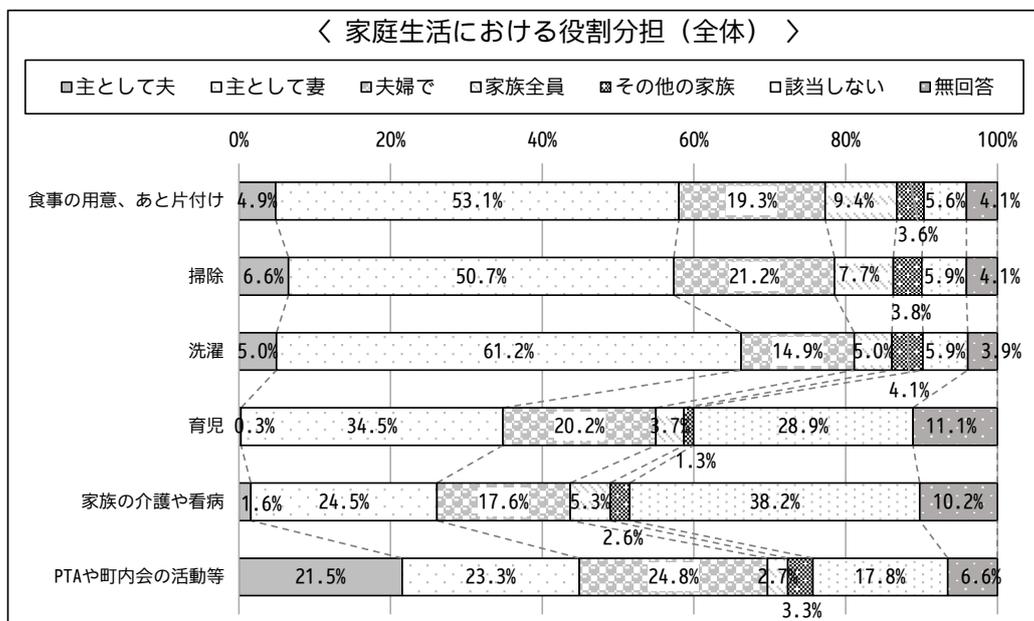
一方、「3 マタハラ」は、「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合が14.7%と、他の言葉と比較すると低い。



3.家庭生活について

家庭生活における家事等の役割分担について

家庭生活における役割分担については、「食事の用意、あと片付け」「掃除」「洗濯」が「主として妻」と回答している割合が最も高く、5割を超えている。「育児」「家族の介護や看病」も「該当しない（対象者がいない等）」を除くと、主として妻が行っている割合が高い。



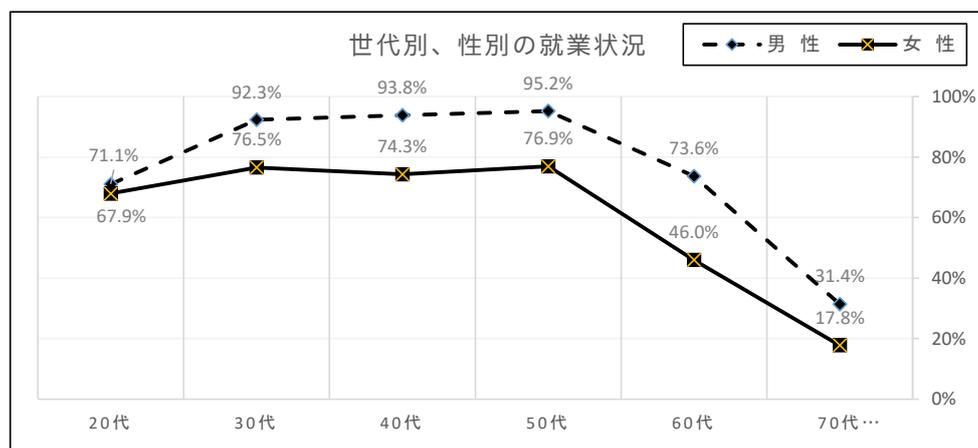
4. 就業について

世代別、性別の就業状況について

性別・年代別の就業率は、50代男性が95.2%と最も高く、次いで、40代男性93.8%、30代男性92.3%、20代男性71.1%と続いている。

一方、女性では、50代が76.9%と最も高く、次いで、30代が76.5%、40代が74.3%、20代67.9%となっており、M字カーブの現象は解消されてきている。

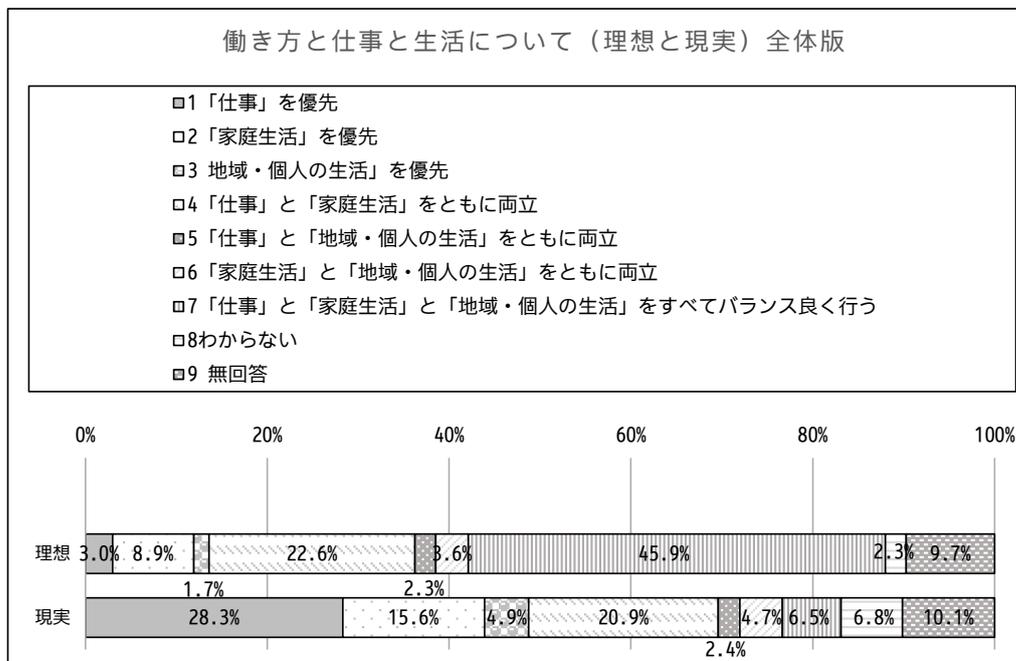
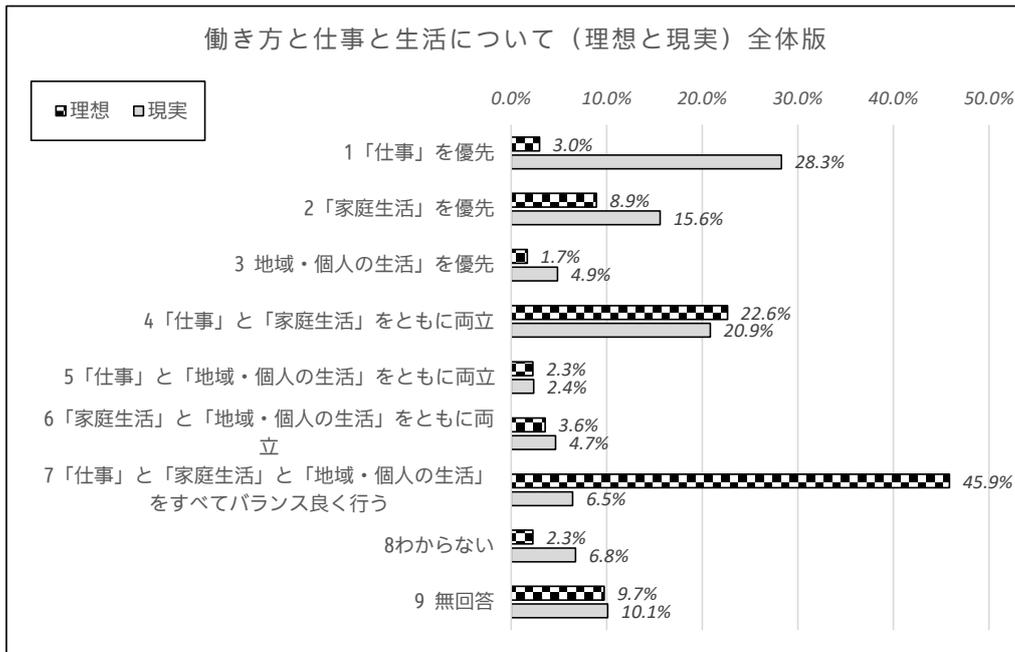
	男 性 (人)		女 性 (人)		性別無回答		男 性	女 性	性別無回答
	実人数	就業数	実人数	就業数	実人数	就業数	就業率 (%)		
20代	38	27	53	36	0	0	71.1%	67.9%	0%
30代	39	36	81	62	0	0	92.3%	76.5%	0%
40代	65	61	109	81	0	0	93.8%	74.3%	0%
50代	83	79	91	70	0	0	95.2%	76.9%	0%
60代	110	81	124	57	1	1	73.6%	46.0%	100%
70代 以上	102	32	107	19	2	1	31.4%	17.8%	50%
無回答	1	1	0	0	1	1	100.0%	0.0%	100%
計	438	317	565	325	4	3	72.4%	57.5%	75%



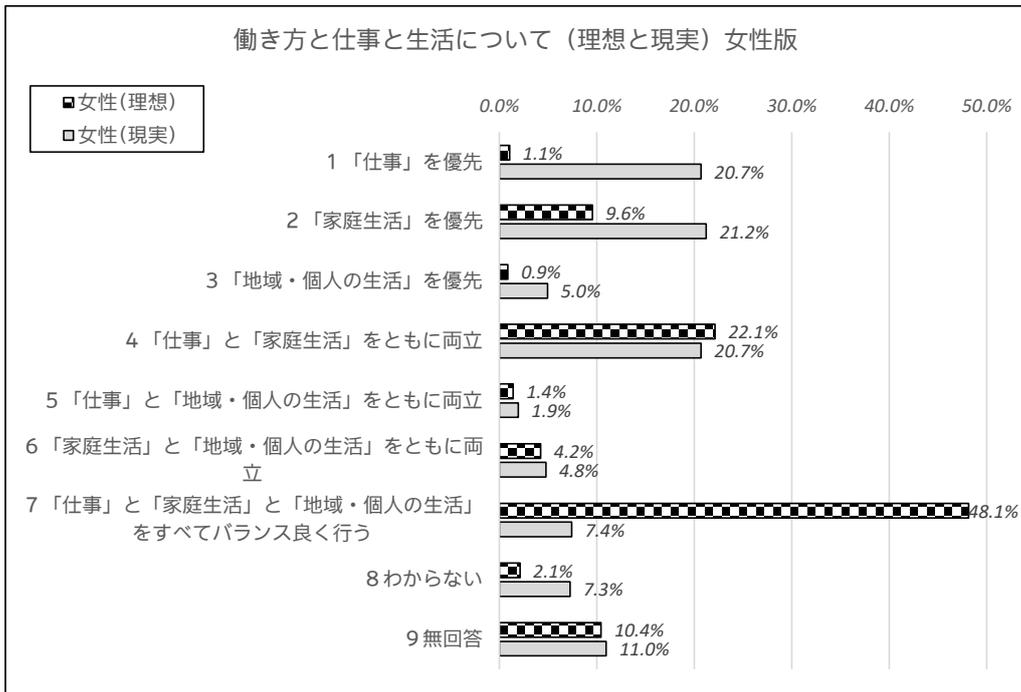
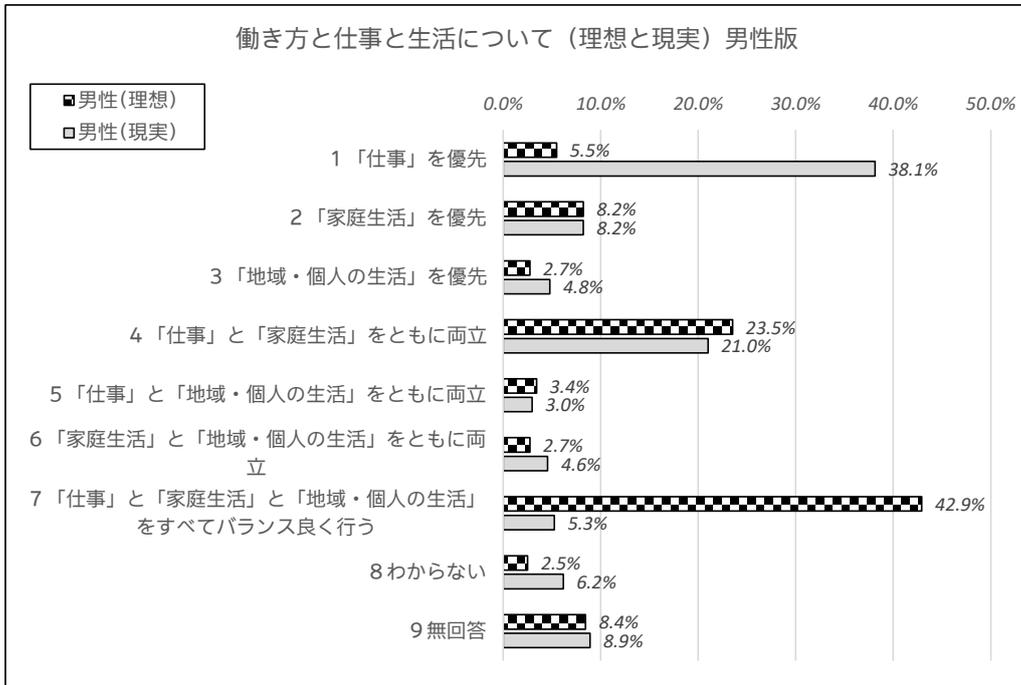
5.働き方と仕事と生活の調和について

ワークライフバランスに関する理想と現実について

全体では、理想は「7 仕事、家庭生活、地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」が45.9%で最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が22.6%、「2 家庭生活を優先」8.9%と回答した割合が高い一方で、現実には、「1 仕事を優先」が28.3%で最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が20.9%、「1 家庭生活を優先」15.6%となっており、理想と現実には大きな違いがある。



男女ともに「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」を理想（男性42.9%、女性48.1%）としているものの、現実には、男性は「1 仕事を優先」が38.1%で最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が21.0%、女性は「2 家庭生活を優先」が21.2%が最も高く、次いで「1 仕事を優先」、「4 仕事と家庭生活をともに両立」が20.7%と続いている。

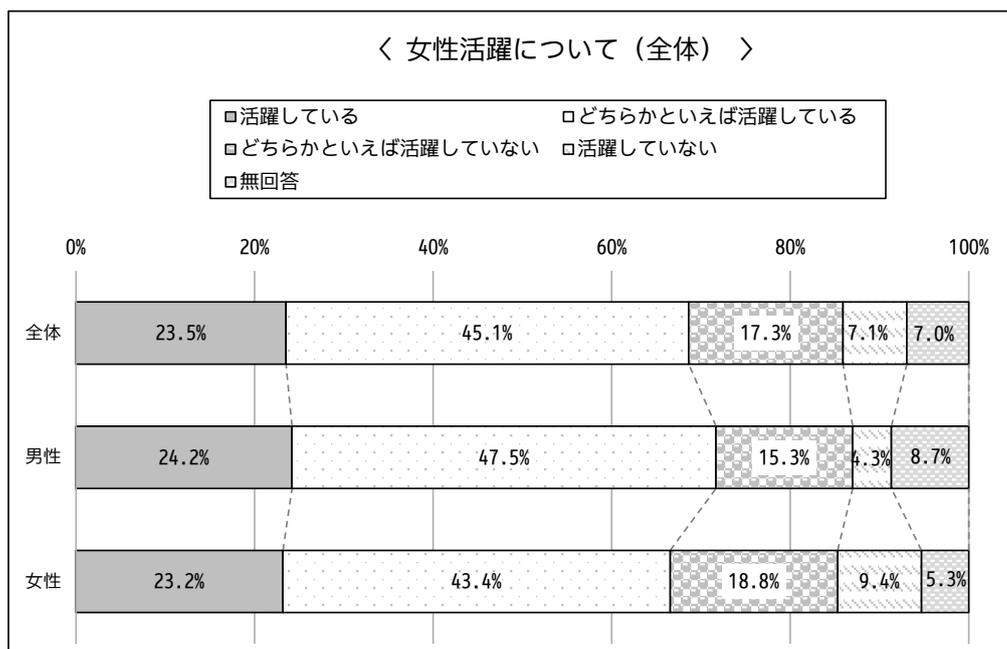


6.女性活躍について

女性活躍に関する意識とその理由について

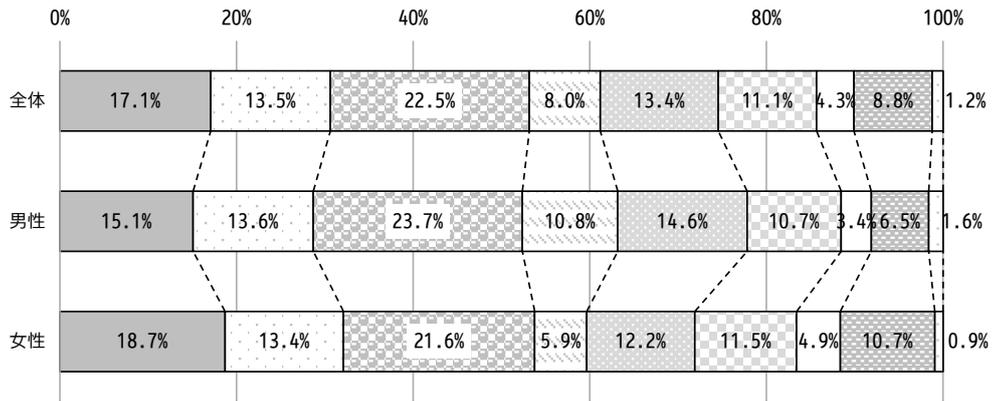
「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は、男性が71.7%、女性が66.6%で最も高く、男性の方が女性が活躍していると感じている割合が高い。

また、活躍していると感じる理由は、男女ともに「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合（男性23.7%、女性21.6%）が最も高く、活躍していないと感じる理由は、男性は「7 男性優位の考え方が変わっていない」が16.4%で最も高く、女性は「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が19.9%で最も高くなった。



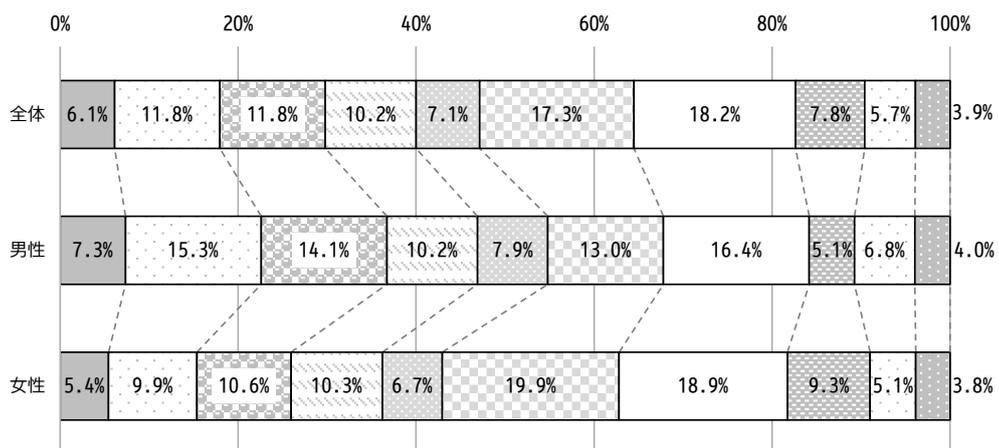
く 活躍していると感じる理由は何ですか 〉

- 1 産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退職が減っている
- 2 女性の経営者や管理職が増えている
- 3 管理職ではないが活躍する女性が増えている
- 4 女性の職域が増えている
- 5 報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている
- 6 女性のキャリア意識が上がっている
- 7 長時間労働の慣習が改善されてきている
- 8 PTAや自治会の会長等役職に就く女性が増えている
- 9 その他



く 活躍していないと感じる理由は何ですか 〉

- 1 産休・育児などの支援制度が不充実である
- 2 産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい
- 3 女性の経営者や管理職は少ない
- 4 女性の職域が限定的である
- 5 女性のキャリア意識が向上していない
- 6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
- 7 男性優位の考え方が変わっていない
- 8 長時間労働の慣習が改善されていない
- 9 PTAや自治会の会長等役職に就いている女性が少ない
- 10 その他



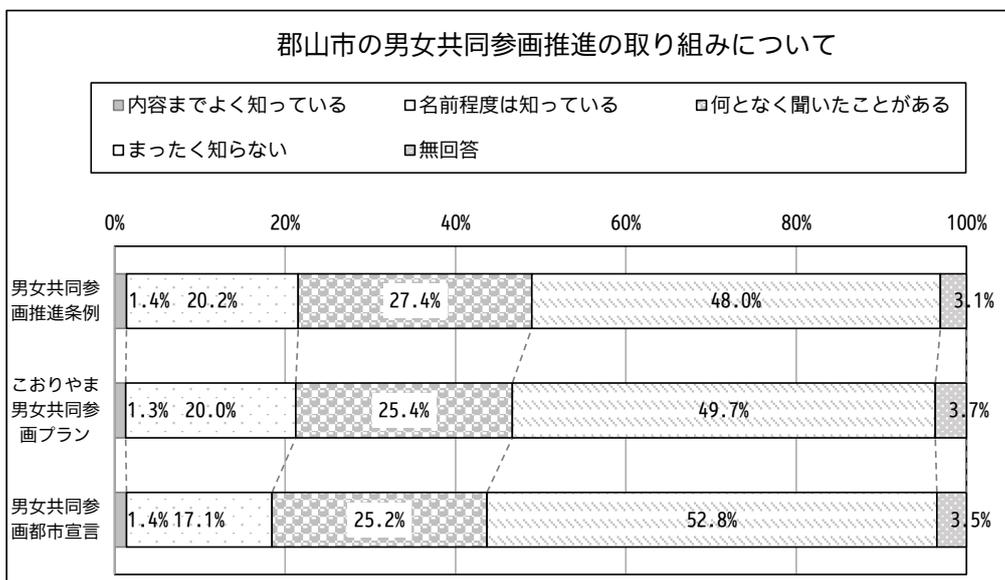
7.本市の男女共同参画に関する取り組みについて

本市の男女共同参画推進の取り組みに対する認知度について

「郡山市男女共同参画推進条例」については、「内容までよく知っている」と回答した割合は、1.4%と非常に低く、「名前程度は知っている」を合わせても21.6%である一方で、「まったく知らない」と回答した割合は48.0%と最も高く、認知度が低い状況にある。

「こおりやま男女共同参画プラン」については、「内容までよく知っている」と回答した割合は1.3%と非常に低く、「名前程度は知っている」を合わせても21.3%である一方で、「まったく知らない」と回答した割合は49.7%と最も多く、認知度が低い状況にある。

男女共同参画都市宣言については、「内容までよく知っている」と回答した割合は1.4%と非常に低く、「名前程度は知っている」を合わせても18.5%である一方で、「まったく知らない」と回答した割合は52.8%と約半数にのぼり、認知度を調べた3つの取り組みの中でも最も認知度が低い状況にある。



第3章 調査結果(各設問分析)

この章では、市民意識調査の設問ごとに、「回答者全体、男女別、年代別、前回調査（平成28年度）比較」の調査結果を掲載しています。

男女平等意識について

問5 あなたは、次のような各分野での男女の地位が平等だと思いますか。

問5-1 家庭生活では

【全体】

「やや男性が優遇」と回答した割合が39.2%で最も高く、次いで「男女平等」が36.1%、「男性が優遇」が16.5%と続いた。

【性別】

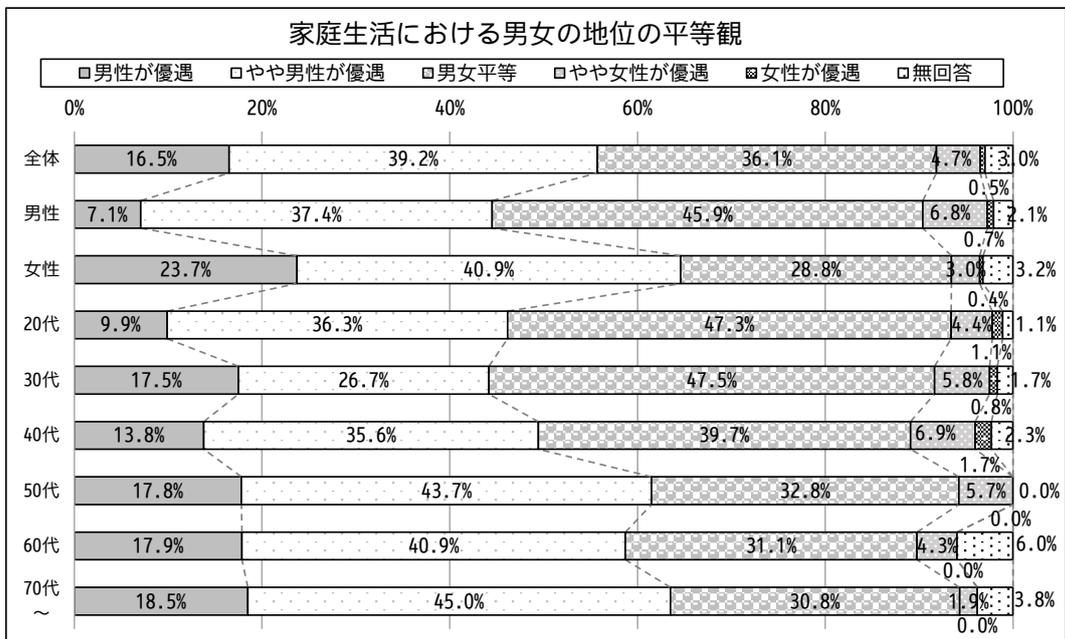
男性は「男女平等」と回答した割合が最も高いが、女性は「やや男性が優遇」と回答した割合が最も高い。

【年代別】

20代～40代は「男女平等」と回答している割合が最も高く、50代以上は「やや男性が優遇」と回答している割合が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「男女平等」と回答した割合が増加した。（H28 31.0%）



(人)

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	1,007	166	395	364	47	5	30
男性	438	31	164	201	30	3	9
女性	565	134	231	163	17	2	18
性別無回答	4	1	0	0	0	0	3
20代	91	9	33	43	4	1	1
30代	120	21	32	57	7	1	2
40代	174	24	62	69	12	3	4
50代	174	31	76	57	10	0	0
60代	235	42	96	73	10	0	14
70代～	211	39	95	65	4	0	8
年齢無回答	2	0	1	0	0	0	1

問5-2 職場では

【全体】

「やや男性が優遇」と回答した割合が38.2%で最も高く、次いで「男女平等」が25.8%、「男性が優遇」が21.3%と続いた。

【性別】

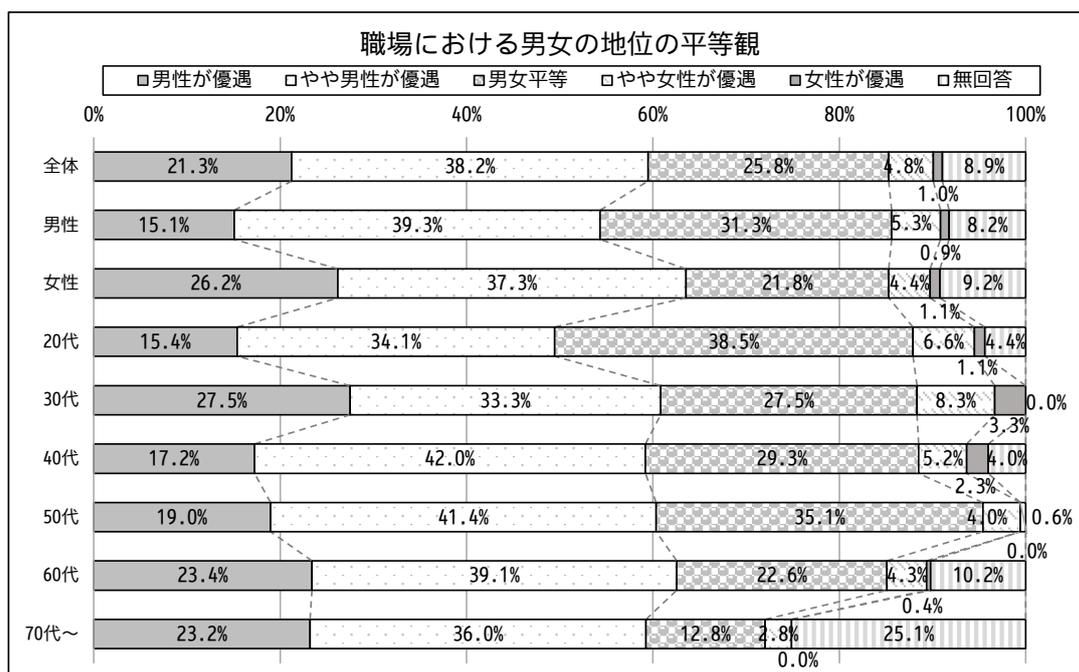
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性31.3%、女性21.8%）

【年代別】

20代は、「男女平等」と回答した割合が最も高く、30代以上は、「やや男性が優遇」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「男女平等」と回答した割合が増加した。（H28 24.0%）



(人)

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	1,007	214	385	260	48	10	90
男性	438	66	172	137	23	4	36
女性	565	148	211	123	25	6	52
性別無回答	4	0	2	0	0	0	2
20代	91	14	31	35	6	1	4
30代	120	33	40	33	10	4	0
40代	174	30	73	51	9	4	7
50代	174	33	72	61	7	0	1
60代	235	55	92	53	10	1	24
70代～	211	49	76	27	6	0	53
年齢無回答	2	0	1	0	0	0	1

問5-3 学校教育の場では

【全体】

「男女平等」と回答した割合が57.8%と最も高く、次いで、「やや男性が優遇」が21.6%と続いた。その一方で「女性が優遇」との回答はなかった。

【性別】

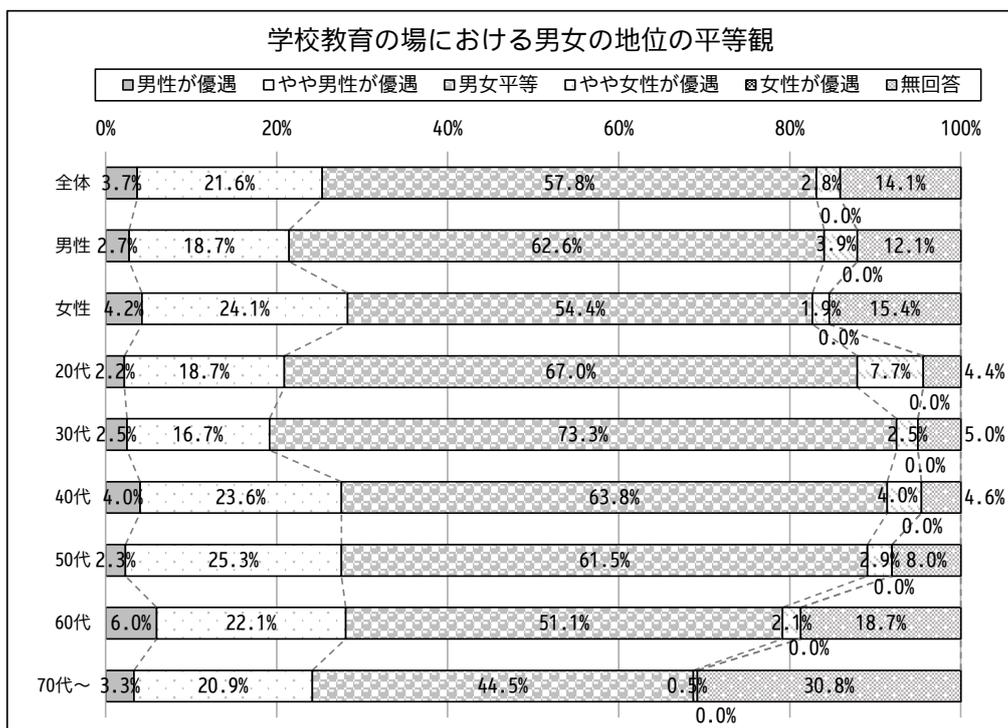
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性62.6%、女性54.4%）

【年代別】

20代～50代では「男女平等」と回答した割合が6割を超えているが、60代以上では5割程度となった。

【前回調査（平成28年）比較】

「男女平等」と回答した割合が減少した。（H28 65.3%）



(人)

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	1,007	37	218	582	28	0	142
男性	438	12	82	274	17	0	53
女性	565	24	136	307	11	0	87
性別無回答	4	1	0	1	0	0	2
20代	91	2	17	61	7	0	4
30代	120	3	20	88	3	0	6
40代	174	7	41	111	7	0	8
50代	174	4	44	107	5	0	14
60代	235	14	52	120	5	0	44
70代～	211	7	44	94	1	0	65
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	1

問5-4 地域活動の場では

【全体】

「男女平等」と回答した割合が37.3%で最も高く、次いで「やや男性が優遇」が36.5%、「男性が優遇」が11.1%と続いた。

【性別】

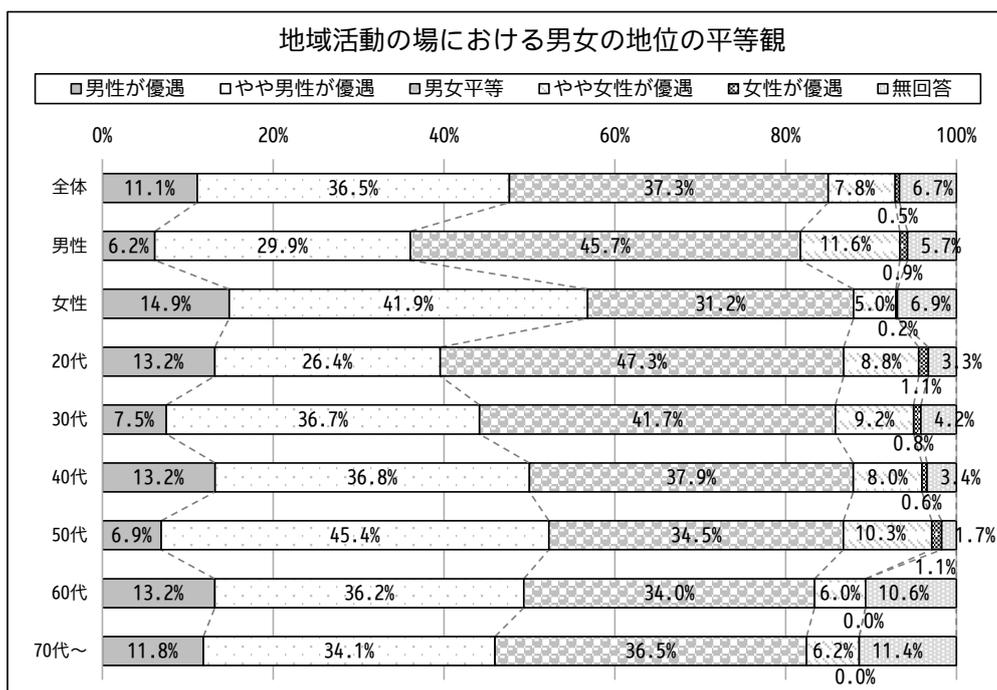
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性45.7%、女性31.2%）

【年代別】

「男女平等」と回答した割合は20代が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「男女平等」と回答した割合が減少した。（H28 43.6%）



(人)

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	1,007	112	368	376	79	5	67
男性	438	27	131	200	51	4	25
女性	565	84	237	176	28	1	39
性別無回答	4	1	0	0	0	0	3
20代	91	12	24	43	8	1	3
30代	120	9	44	50	11	1	5
40代	174	23	64	66	14	1	6
50代	174	12	79	60	18	2	3
60代	235	31	85	80	14	0	25
70代~	211	25	72	77	13	0	24
年齢無回答	2	0	0	0	1	0	1

問5-5 法律や制度上では

【全体】

「男女平等」と回答した割合が39.8%と最も高く、次いで「やや男性が優遇」が33.7%、「男性が優遇」が14.1%と続いた。

【性別】

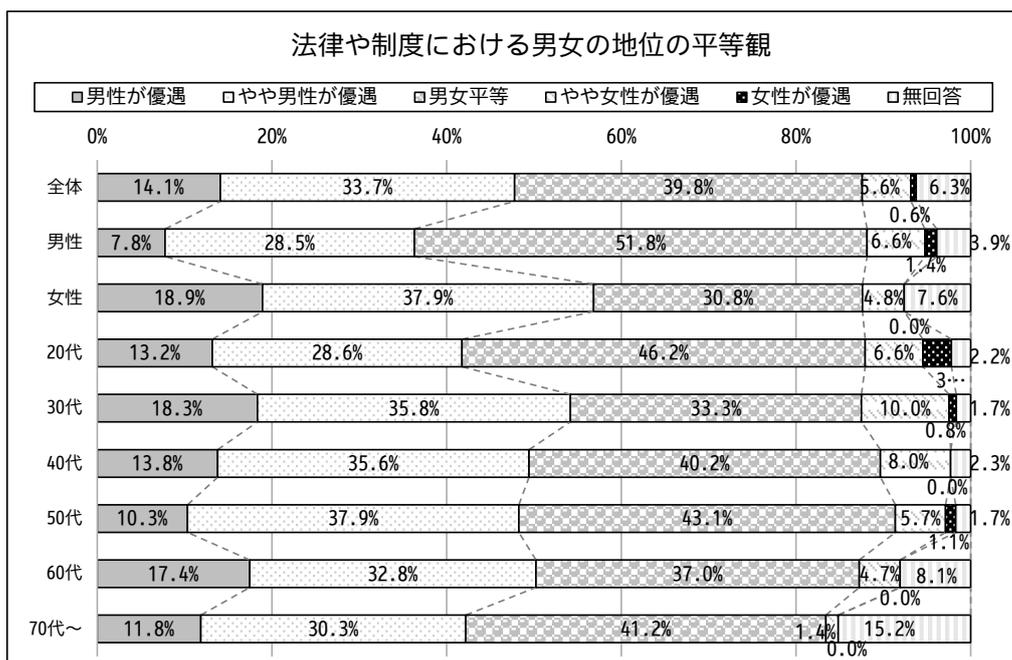
「男女平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性51.8%、女性30.8%）

【年代別】

「男女平等」と回答した割合は20代が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「男女平等」と回答した割合がほぼ同程度となった。（H28 39.7%）



(人)

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	1,007	142	339	401	56	6	63
男性	438	34	125	227	29	6	17
女性	565	107	214	174	27	0	43
性別無回答	4	1	0	0	0	0	3
20代	91	12	26	42	6	3	2
30代	120	22	43	40	12	1	2
40代	174	24	62	70	14	0	4
50代	174	18	66	75	10	2	3
60代	235	41	77	87	11	0	19
70代~	211	25	64	87	3	0	32
年齢無回答	2	0	1	0	0	0	1

問5-6 社会通念、慣習、しきたり等では

【全体】

「やや男性が優遇」と回答した割合が49.9%で最も高く、次いで「男性が優遇」が30.1%、「男女平等」が12.6%と続いた。

【性別】

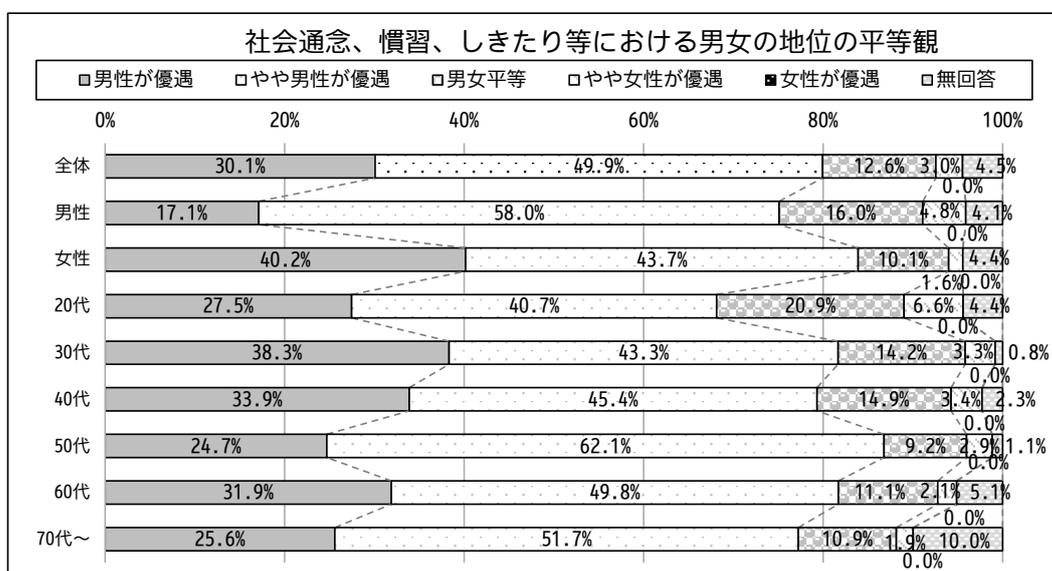
「男性が優遇」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。
(男性17.1% 女性40.2%)

【年代別】

すべての年代で「やや男性が優遇」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

前回同様、「男性が優遇」又は「やや男性が優遇」と回答した割合（H28 79.1%）が高く、「男女平等」と回答した割合が低かった。（H28 13.4%）



(人)

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	1,007	303	502	127	30	0	45
男性	438	75	254	70	21	0	18
女性	565	227	247	57	9	0	25
性別無回答	4	1	1	0	0	0	2
20代	91	25	37	19	6	0	4
30代	120	46	52	17	4	0	1
40代	174	59	79	26	6	0	4
50代	174	43	108	16	5	0	2
60代	235	75	117	26	5	0	12
70代~	211	54	109	23	4	0	21
年齢無回答	2	1	0	0	0	0	1

問5-7 社会全体では

【全体】

「やや男性が優遇」と回答した割合が55.2%で最も高く、次いで「男性が優遇」が21.4%、「男女平等」が15.2%と続いた。

【性別】

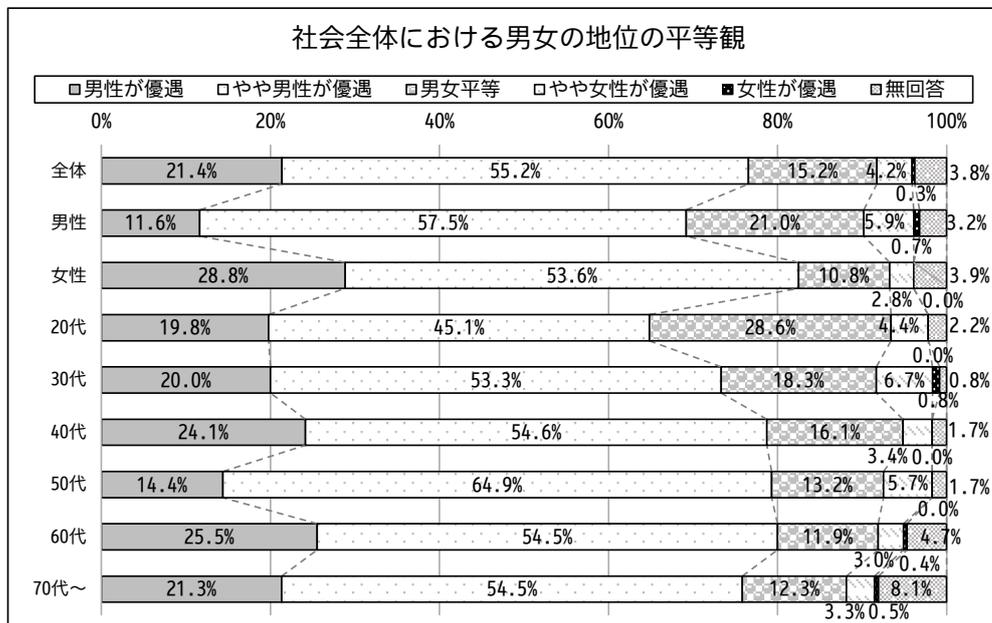
「男性が優遇」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。
(男性11.6% 女性28.8%)

【年代別】

すべての年代で「やや男性が優遇」と回答した割合が最も高い。

【前回調査(平成28年)比較】

前回同様、「男性が優遇」又は「やや男性が優遇」と回答した割合(H28 73.9%)が高く、「男女平等」と回答した割合が低かった。(H28 17.4%)



(人)

	実人数	男性が優遇	やや男性が優遇	男女平等	やや女性が優遇	女性が優遇	無回答
全体	1,007	215	556	153	42	3	38
男性	438	51	252	92	26	3	14
女性	565	163	303	61	16	0	22
性別無回答	4	1	1	0	0	0	2
20代	91	18	41	26	4	0	2
30代	120	24	64	22	8	1	1
40代	174	42	95	28	6	0	3
50代	174	25	113	23	10	0	3
60代	235	60	128	28	7	1	11
70代~	211	45	115	26	7	1	17
年齢無回答	2	1	0	0	0	0	1

問6 あなたは、性別に基づく「男らしさ」「女らしさ」という表現について、どう感じますか。

【全 体】

「どちらにも抵抗を感じない」と回答した割合が50.0%と最も高く半数を占めており、次いで「どちらともいえない」が22.3%と続いた。

【性 別】

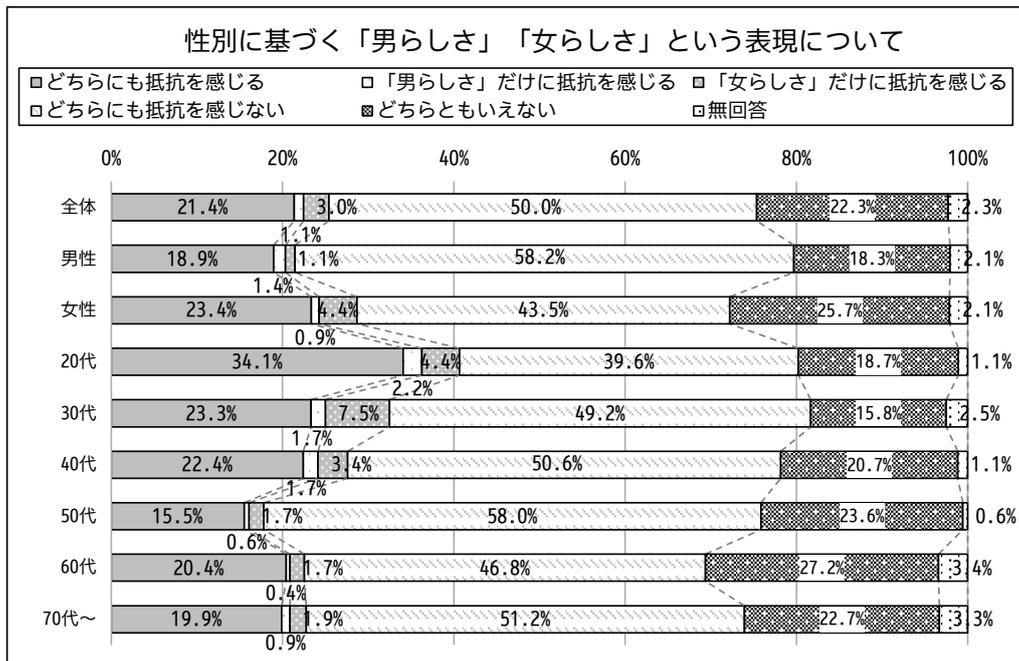
「どちらにも抵抗を感じる」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。
(男性18.9%、女性23.4%)

【年代別】

20代で「どちらにも抵抗を感じる」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「どちらにも抵抗を感じる」と回答した割合が増加した。(H28 17.3%)



(人)

	実人数	どちらにも抵抗を感じる	「男らしさ」だけに抵抗を感じる	「女らしさ」だけに抵抗を感じる	どちらにも抵抗を感じない	どちらともいえない	無回答
全体	1,007	215	11	30	503	225	23
男性	438	83	6	5	255	80	9
女性	565	132	5	25	246	145	12
性別無回答	4	0	0	0	2	0	2
20代	91	31	2	4	36	17	1
30代	120	28	2	9	59	19	3
40代	174	39	3	6	88	36	2
50代	174	27	1	3	101	41	1
60代	235	48	1	4	110	64	8
70代~	211	42	2	4	108	48	7
年齢無回答	2	0	0	0	1	0	1

問7 あなたは、結婚、家庭、離婚についての次のような考え方についてどう思いますか。

問7-1 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい。

【全体】

「賛成」と回答した割合が49.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が28.8%、「どちらかといえば反対」が14.5%と続いた。

【性別】

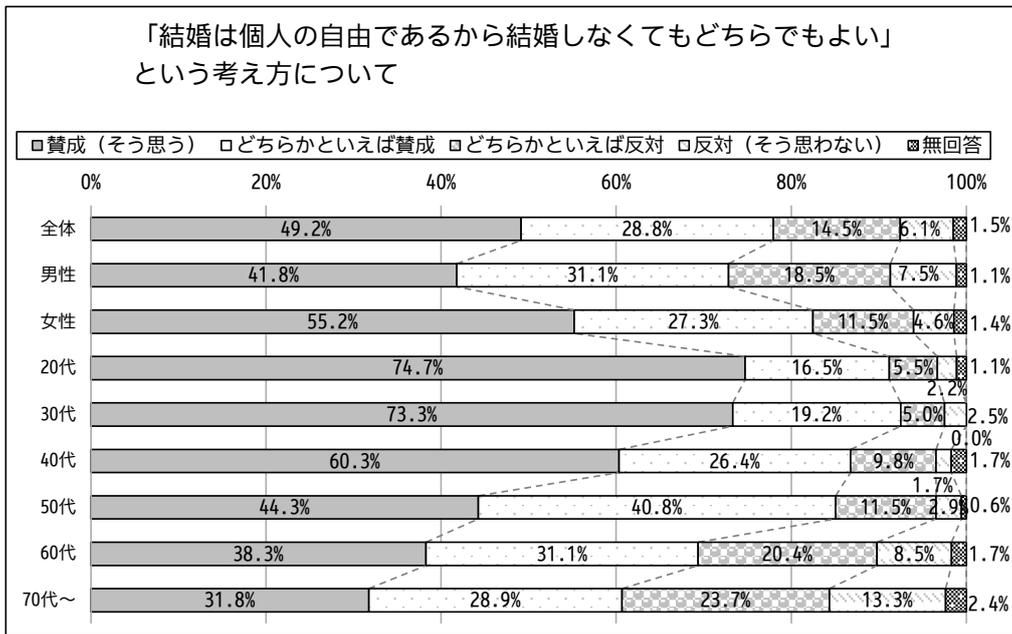
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性41.8%、女性55.2%）

【年代別】

年代が高くなるほど「賛成」と回答した割合は低くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合が増加した。（H28 71.8%）



(人)

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対 （そう思わない）	無回答
全体	1,007	495	290	146	61	15
男性	438	183	136	81	33	5
女性	565	312	154	65	26	8
性別無回答	4	0	0	0	2	2
20代	91	68	15	5	2	1
30代	120	88	23	6	3	0
40代	174	105	46	17	3	3
50代	174	77	71	20	5	1
60代	235	90	73	48	20	4
70代～	211	67	61	50	28	5
年齢無回答	2	0	1	0	0	1

問7-2 女性が仕事を持つのはよいが、家事、育児等ときちんと両立させるべきである。

【全体】

「どちらかといえば反対」と回答した割合が31.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が28.5%、「反対」が28.0%と続いた。

【性別】

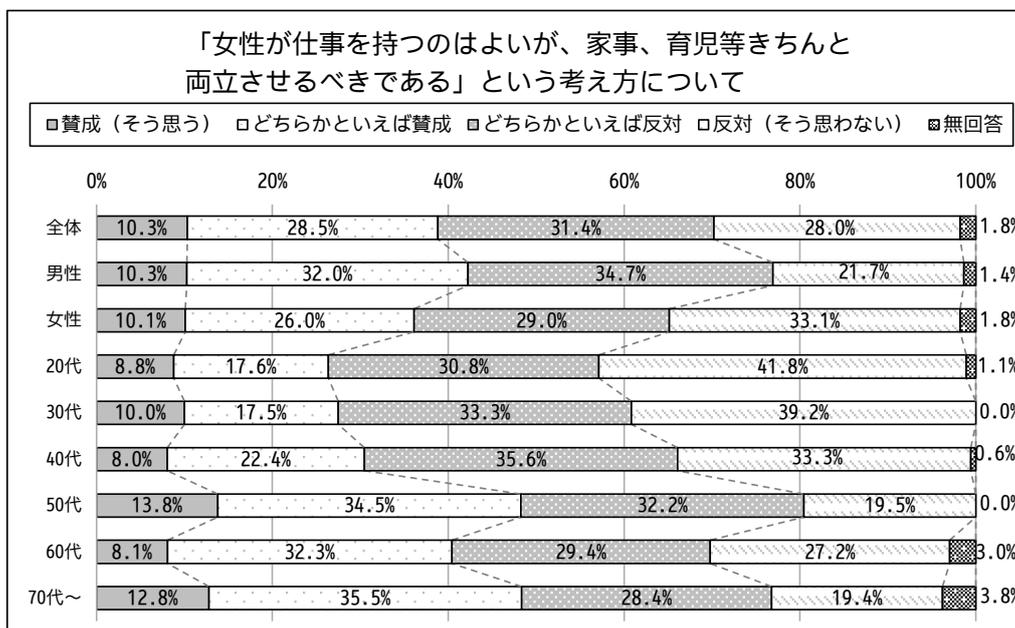
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。(男性42.3%、女性36.1%)

【年代別】

年代が高い方が、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は高い。

【前回調査(平成28年)比較】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は減少した。(H28 48.1%)



(人)

	実人数	賛成(そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対(そう思わない)	無回答
全体	1,007	104	287	316	282	18
男性	438	45	140	152	95	6
女性	565	57	147	164	187	10
性別無回答	4	2	0	0	0	2
20代	91	8	16	28	38	1
30代	120	12	21	40	47	0
40代	174	14	39	62	58	1
50代	174	24	60	56	34	0
60代	235	19	76	69	64	7
70代~	211	27	75	60	41	8
年齢無回答	2	0	0	1	0	1

問7-3 結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである。

【全体】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合が94.0%と続いた。

【性別】

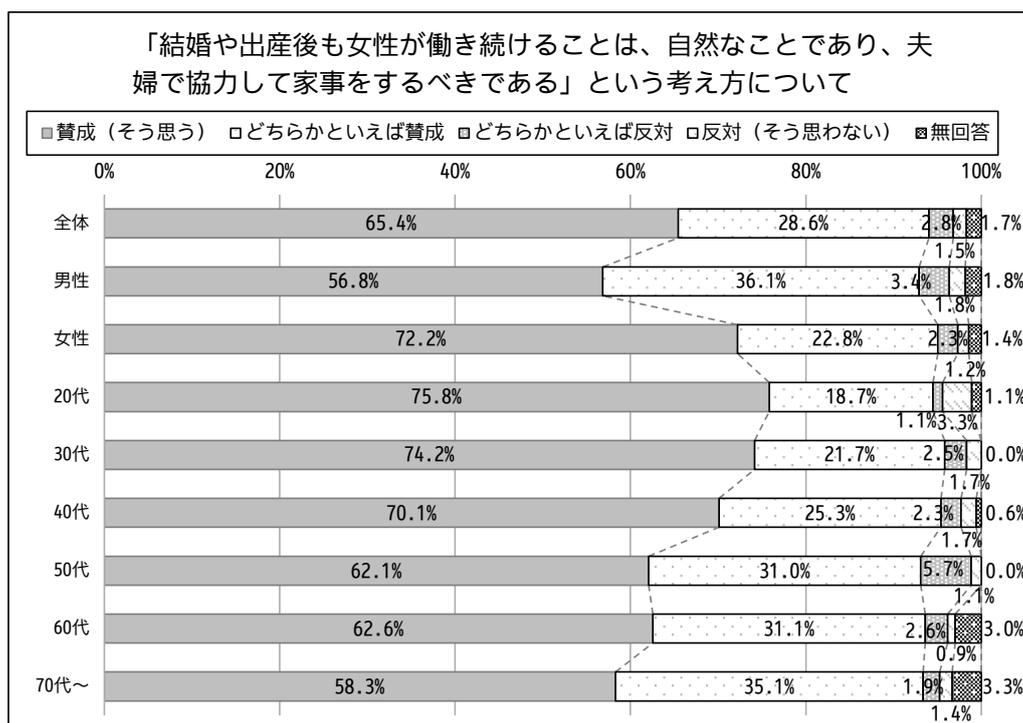
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性56.8%、女性72.2%）

【年代別】

すべての年代で「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合が9割を超えた。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は増加した。（H28 92.8%）



(人)

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	1,007	659	288	28	15	17
男性	438	249	158	15	8	8
女性	565	408	129	13	7	8
性別無回答	4	2	1	0	0	1
20代	91	69	17	1	3	1
30代	120	89	26	3	2	0
40代	174	122	44	4	3	1
50代	174	108	54	10	2	0
60代	235	147	73	6	2	7
70代~	211	123	74	4	3	7
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問7-4 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない。

【全体】

「賛成」と回答した割合が36.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が27.5%、「どちらかといえば反対」が24.7%と続いた。

【性別】

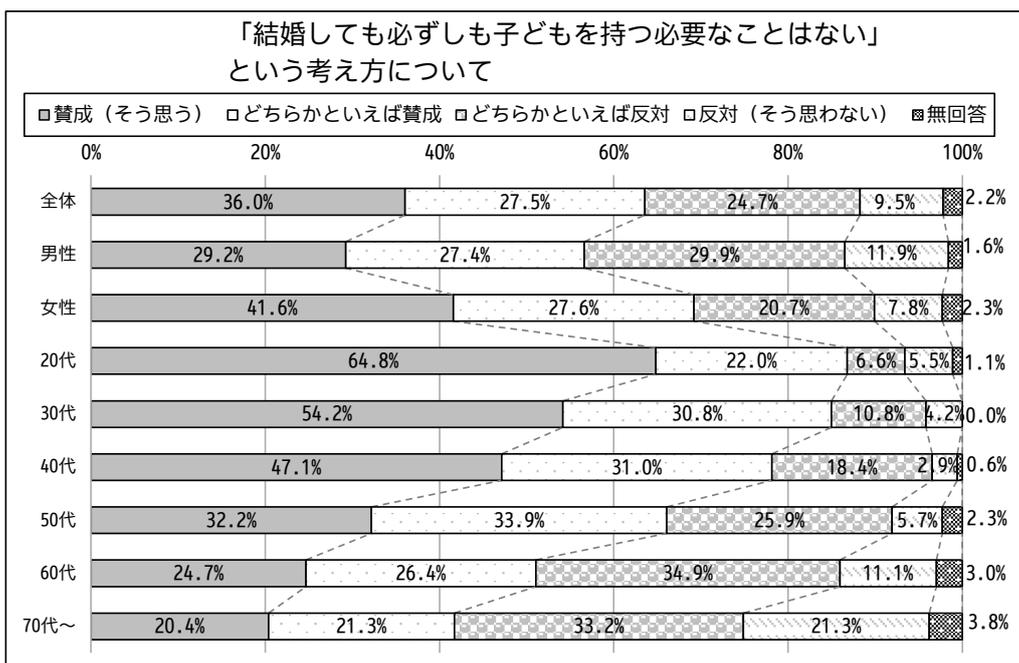
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性29.2%、女性41.6%）

【年代別】

年代が高くなるほど「賛成」と回答した割合は低くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は増加した。（H28 55.7%）



(人)

	実人数	賛成（そう思う）	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対（そう思わない）	無回答
全体	1,007	363	277	249	96	22
男性	438	128	120	131	52	7
女性	565	235	156	117	44	13
性別無回答	4	0	1	1	0	2
20代	91	59	20	6	5	1
30代	120	65	37	13	5	0
40代	174	82	54	32	5	1
50代	174	56	59	45	10	4
60代	235	58	62	82	26	7
70代～	211	43	45	70	45	8
年齢無回答	2	0	0	1	0	1

問7-5 一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である。

【全体】

「賛成」と回答した割合が42.8%で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が34.6%、「どちらかといえば反対」が11.9%と続いた。

【性別】

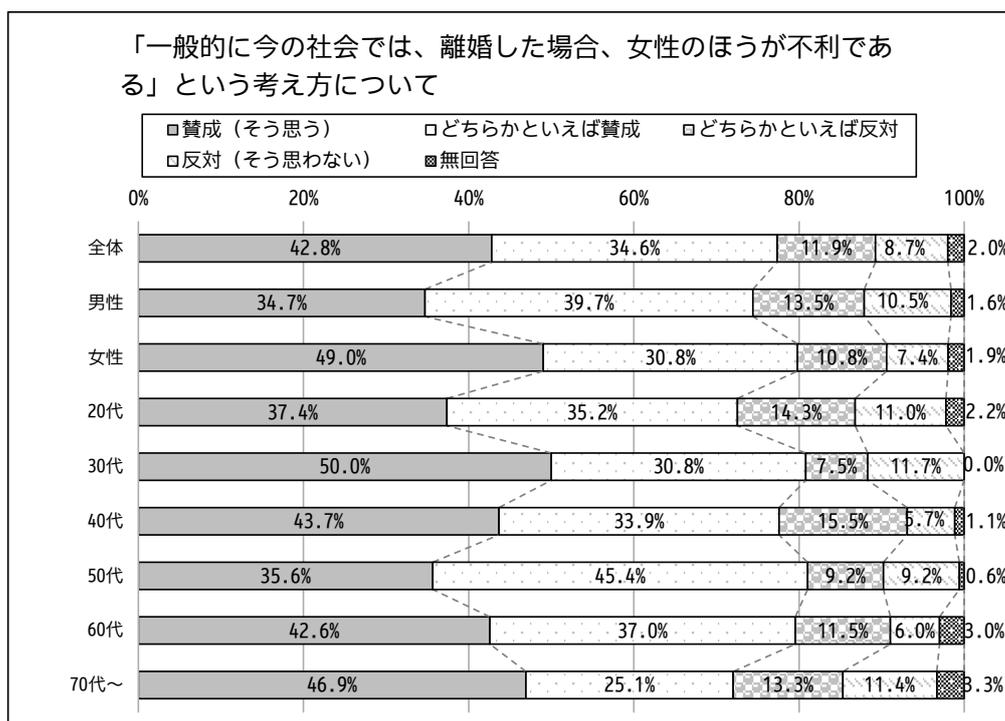
「賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性34.7%、女性49.0%）

【年代別】

すべての年代で「賛成」又は「どちらかといえば賛成」が7割を超えた。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は増加した。（H28 71.6%）



(人)

	実人数	賛成 (そう思う)	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対 (そう思わない)	無回答
全体	1,007	431	348	120	88	20
男性	438	152	174	59	46	7
女性	565	277	174	61	42	11
性別無回答	4	2	0	0	0	2
20代	91	34	32	13	10	2
30代	120	60	37	9	14	0
40代	174	76	59	27	10	2
50代	174	62	79	16	16	1
60代	235	100	87	27	14	7
70代～	211	99	53	28	24	7
年齢無回答	2	0	1	0	0	1

問7-6 あなたは「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という従来の固定的意識についてどう思いますか。

【全体】

「反対」と回答した割合が51.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が30.4%、「どちらかといえば賛成」が14.7%と続いた。

【性別】

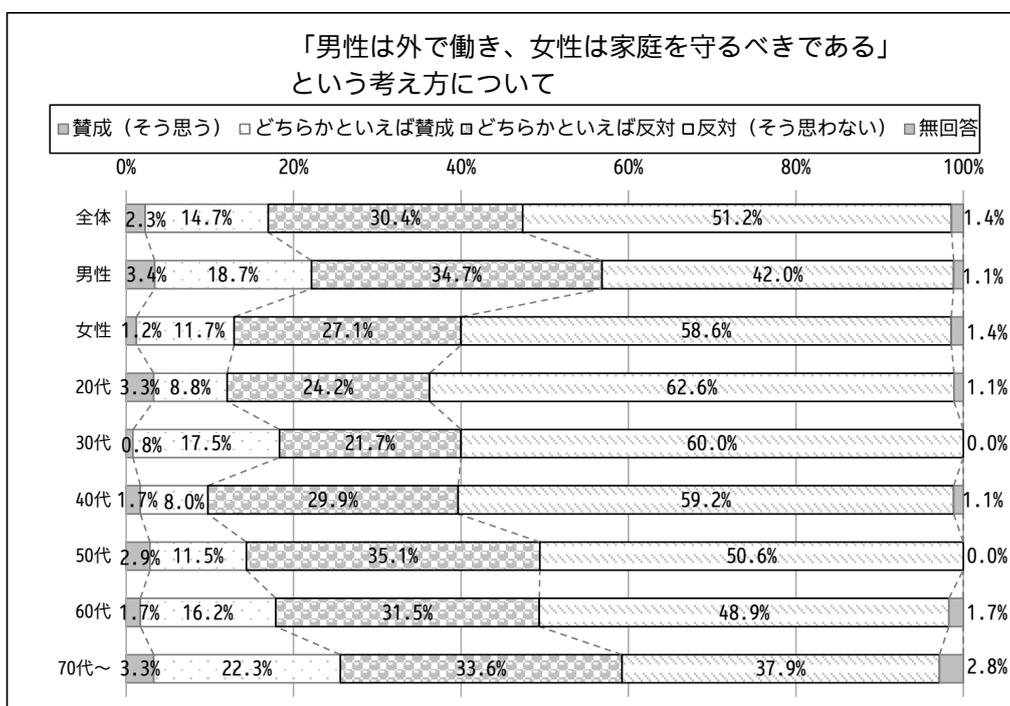
「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。(男性76.7%、女性85.7%)

【年代別】

すべての年代で「反対」と回答した割合が最も高い。

【前回調査(平成28年)比較】

「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答した割合は大幅に増加した。(H28 47.9%)



(人)

	実人数	賛成(そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対(そう思わない)	無回答
全体	1,007	23	148	306	516	14
男性	438	15	82	152	184	5
女性	565	7	66	153	331	8
性別無回答	4	1	0	1	1	1
20代	91	3	8	22	57	1
30代	120	1	21	26	72	0
40代	174	3	14	52	103	2
50代	174	5	20	61	88	0
60代	235	4	38	74	115	4
70代~	211	7	47	71	80	6
年齢無回答	2	0	0	0	1	1

人権について

問8 あなたは、人権に関する次の言葉について、知っていますか。

問8-1 セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）という言葉について

【全体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が90.3%で最も高い。

【性別】

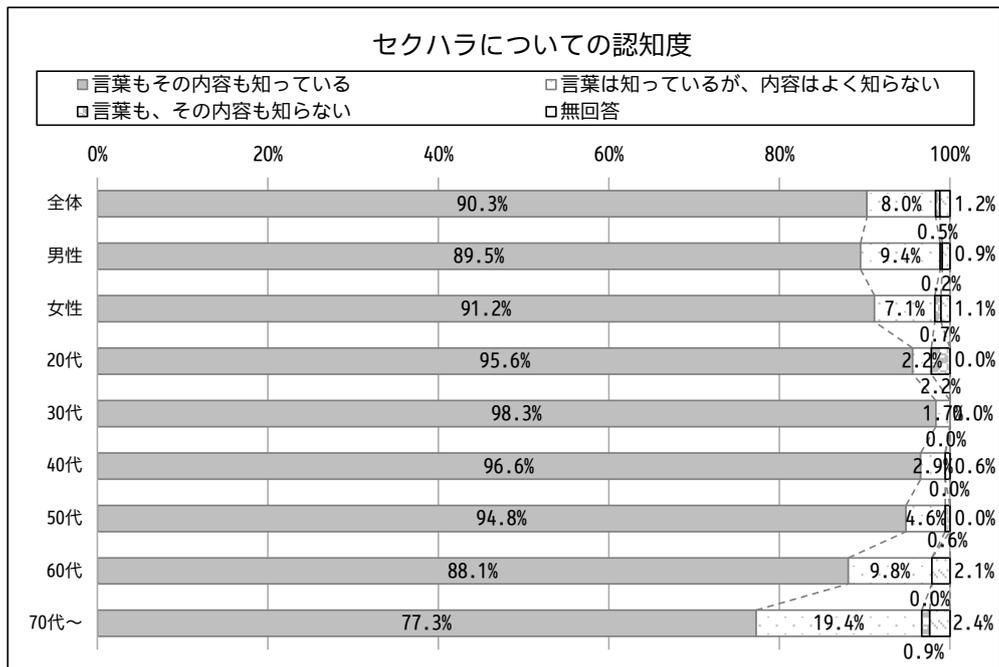
男女とも「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が約9割と最も高い。

【年代別】

年代が高くなるほど「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は低くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は、わずかに減少した。（H28 91.3%）



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	909	81	5	12
男性	438	392	41	1	4
女性	565	515	40	4	6
性別無回答	4	2	0	0	2
20代	91	87	2	2	0
30代	120	118	2	0	0
40代	174	168	5	0	1
50代	174	165	8	1	0
60代	235	207	23	0	5
70代～	211	163	41	2	5
年齢無回答	2	1	0	0	1

問8-2 パワハラ（パワー・ハラスメント）という言葉について

【全体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が87.7%で最も高い。

【性別】

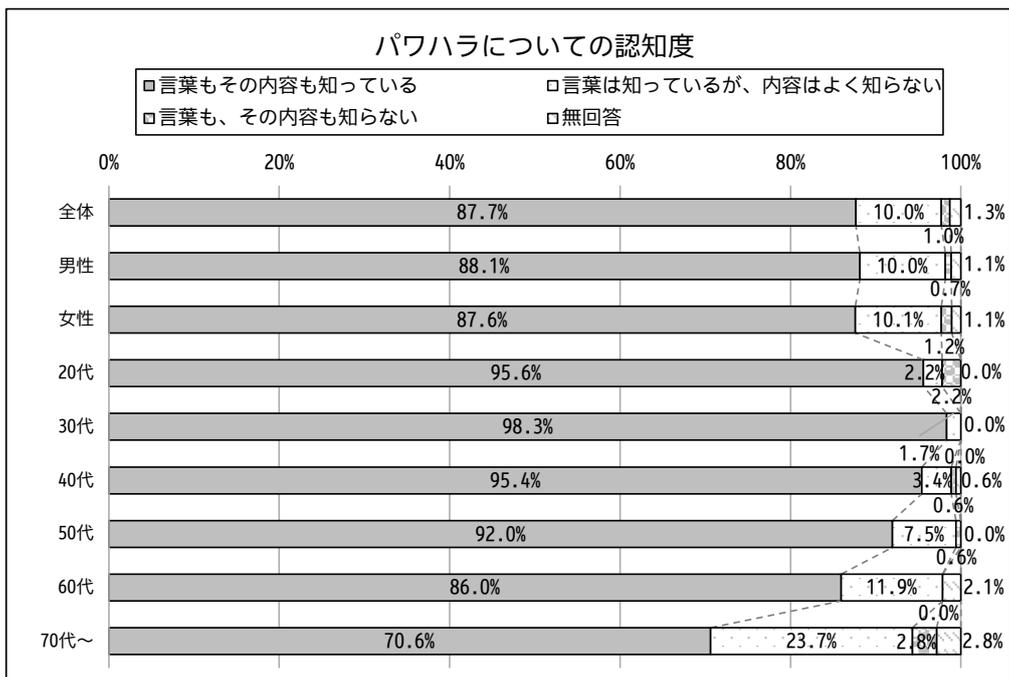
男女とも「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が約9割と最も高い。

【年代別】

年代が高くなるほど「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は低くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が増加した。（H28 75.2%）



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	883	101	10	13
男性	438	386	44	3	5
女性	565	495	57	7	6
性別無回答	4	2	0	0	2
20代	91	87	2	2	0
30代	120	118	2	0	0
40代	174	166	6	1	1
50代	174	160	13	1	0
60代	235	202	28	0	5
70代～	211	149	50	6	6
年齢無回答	2	1	0	0	1

問8-3 マタハラ（マタニティ・ハラスメント）という言葉について

【全体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が77.9%で最も高い。

【性別】

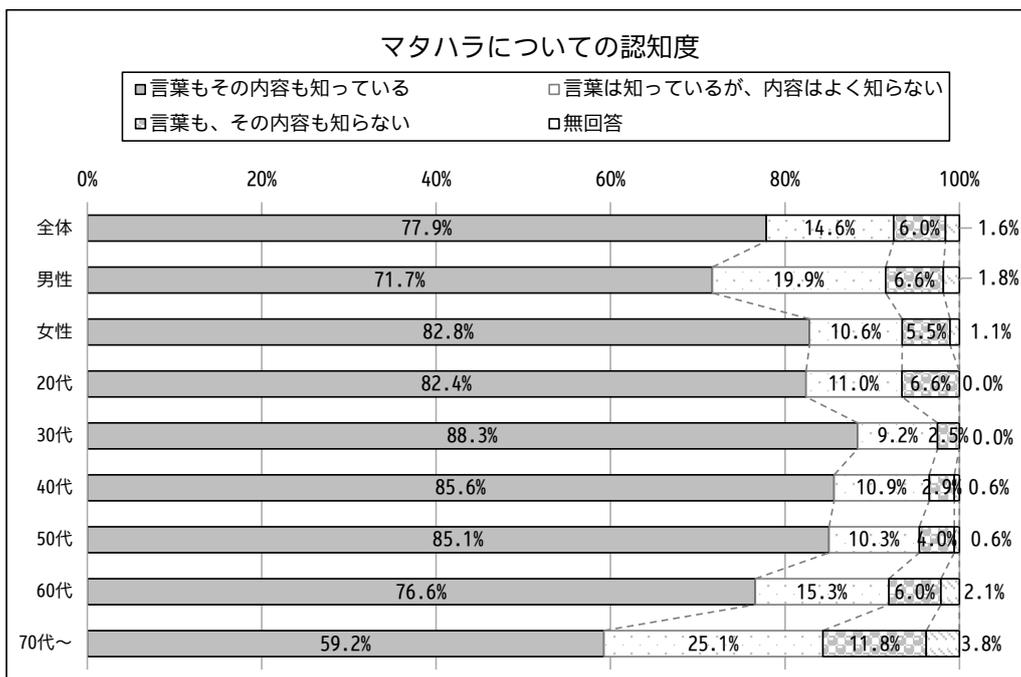
「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
 (男性71.7%、女性82.8%)

【年代別】

年代が高くなるほど「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が低くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は増加した。(H28 74.9%)



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	784	147	60	16
男性	438	314	87	29	8
女性	565	468	60	31	6
性別無回答	4	2	0	0	2
20代	91	75	10	6	0
30代	120	106	11	3	0
40代	174	149	19	5	1
50代	174	148	18	7	1
60代	235	180	36	14	5
70代～	211	125	53	25	8
年齢無回答	2	1	0	0	1

問8-4 ストーカーという言葉について

【全体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が94.5%で最も高い。

【性別】

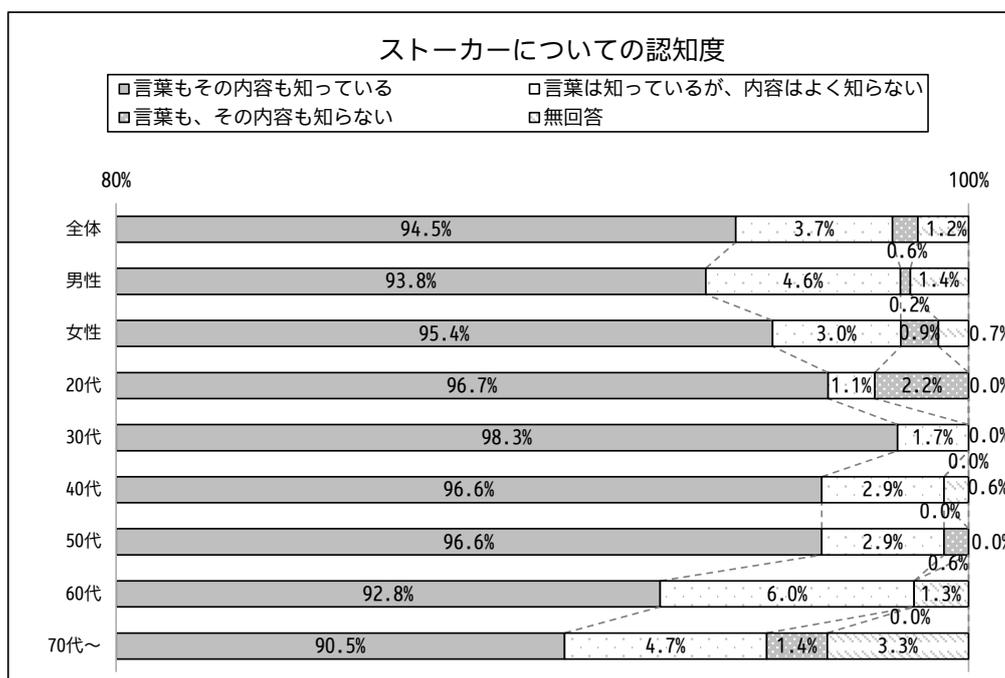
「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
(男性93.8%、女性95.4%)

【年代別】

年代が高くなるほど「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が低くなった。

【前回調査(平成28年)比較】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は増加した。(H28 93.9%)



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	952	37	6	12
男性	438	411	20	1	6
女性	565	539	17	5	4
性別無回答	4	2	0	0	2
20代	91	88	1	2	0
30代	120	118	2	0	0
40代	174	168	5	0	1
50代	174	168	5	1	0
60代	235	218	14	0	3
70代~	211	191	10	3	7
年齢無回答	2	1	0	0	1

問8-5 DV（ドメスティック・バイオレンス）という言葉について

【全体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が88.2%で最も高い。

【性別】

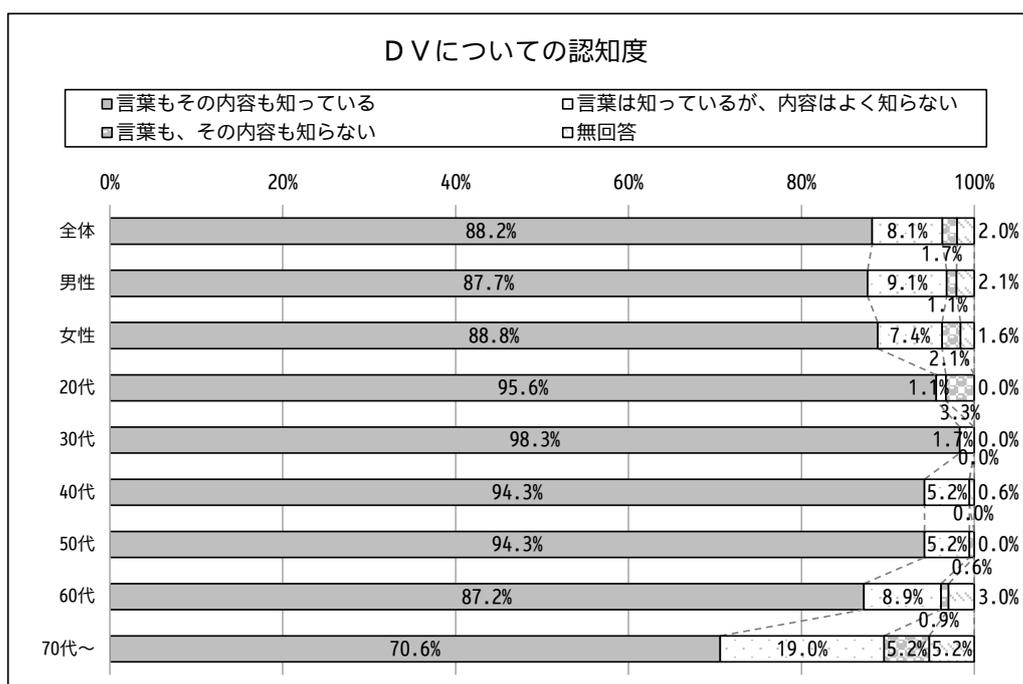
男女とも「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は約9割で最も高くなった。

【年代別】

年代が高くなるほど「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は低くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は増加した。（H28 85.3%）



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	888	82	17	20
男性	438	384	40	5	9
女性	565	502	42	12	9
性別無回答	4	2	0	0	2
20代	91	87	1	3	0
30代	120	118	2	0	0
40代	174	164	9	0	1
50代	174	164	9	1	0
60代	235	205	21	2	7
70代～	211	149	40	11	11
年齢無回答	2	1	0	0	1

問8-6 ヘイトスピーチという言葉について

【全体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が42.8%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、内容はよく知らない」が30.5%、「言葉も、その内容も知らない」が24.2%と続いた。

【性別】

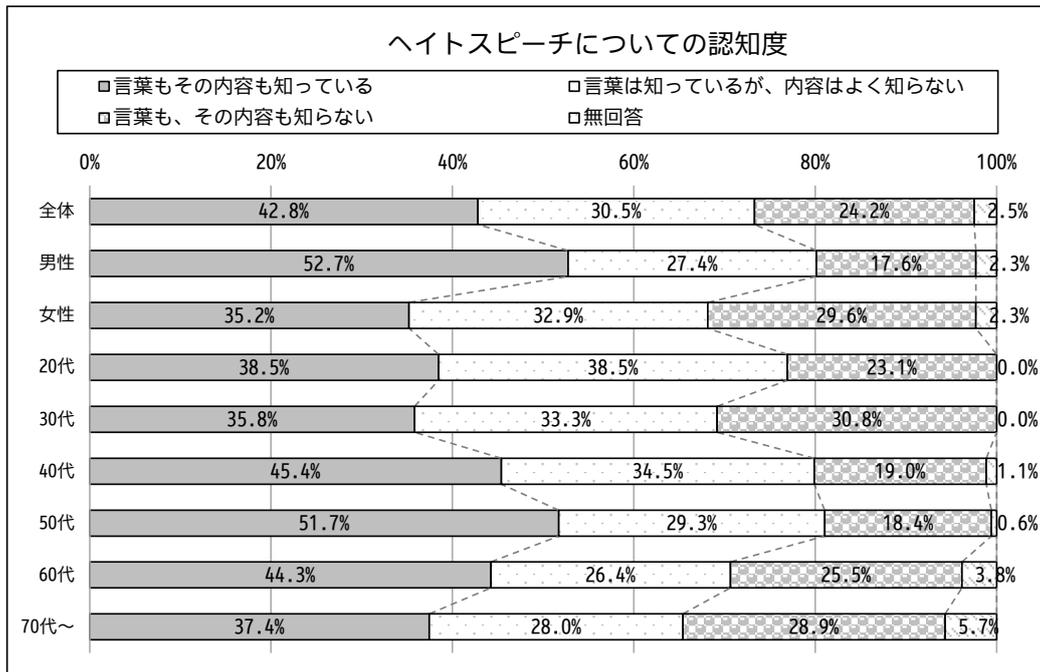
「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は女性より男性の方が高い。
(男性52.7%、女性35.2%)

【年代別】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は、50代が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は増加した。(H28 38.5%)



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	431	307	244	25
男性	438	231	120	77	10
女性	565	199	186	167	13
性別無回答	4	1	1	0	2
20代	91	35	35	21	0
30代	120	43	40	37	0
40代	174	79	60	33	2
50代	174	90	51	32	1
60代	235	104	62	60	9
70代～	211	79	59	61	12
年齢無回答	2	1	0	0	1

問8-7 性的マイノリティ（性的少数者）という言葉について

【全 体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が46.5%で最も高く、次いで「言葉は知っているが内容はよく知らない」が33.2%、「言葉もその内容も知らない」が18.2%と続いた。

【性 別】

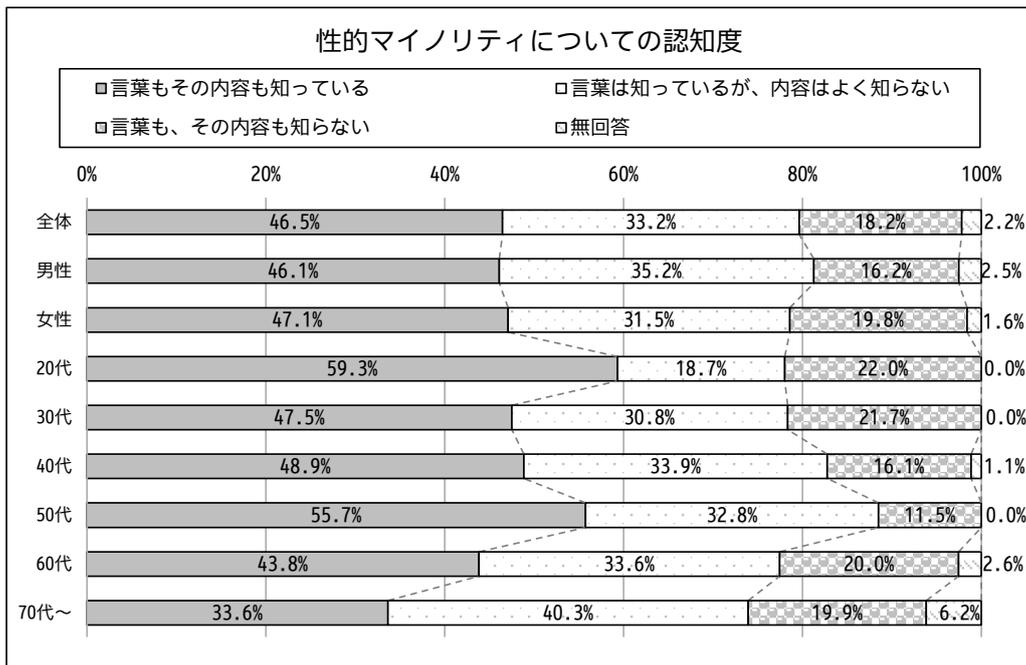
男女とも「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は5割程度となった。

【年代別】

70代で「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が33.6%で最も低い。

【前回調査（平成28年）比較】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は増加した。（H28 37.4%）



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	468	334	183	22
男性	438	202	154	71	11
女性	565	266	178	112	9
性別無回答	4	0	2	0	2
20代	91	54	17	20	0
30代	120	57	37	26	0
40代	174	85	59	28	2
50代	174	97	57	20	0
60代	235	103	79	47	6
70代～	211	71	85	42	13
年齢無回答	2	1	0	0	1

問8-8 同性パートナーシップ制度という言葉について

【全 体】

「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が42.9%で最も高く、次いで「言葉は知っているが内容はよく知らない」が40.6%、「言葉もその内容も知らない」が14.7%と続いた。

【性 別】

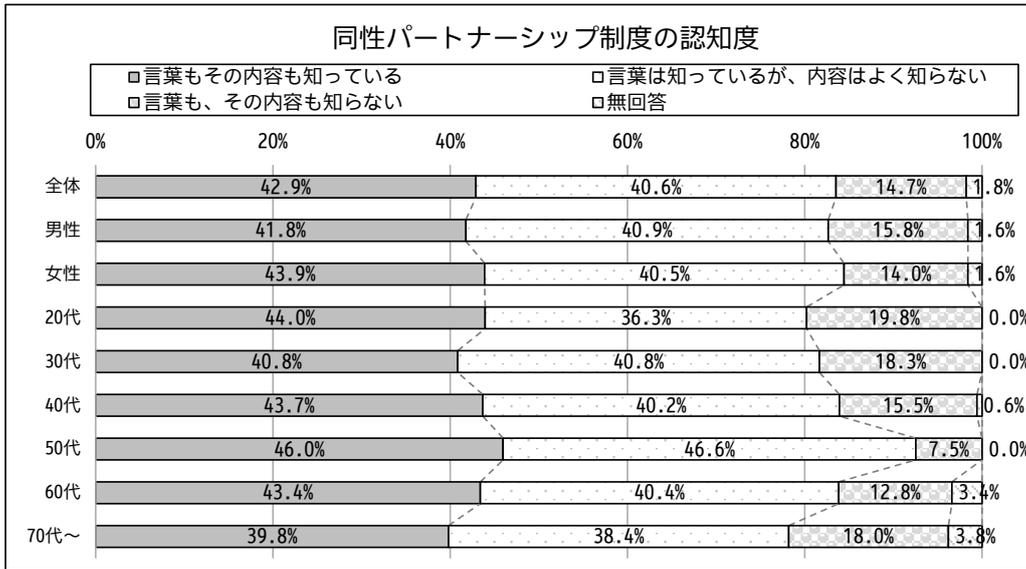
男女とも「言葉もその内容も知っている」と回答した割合は4割程度である。

【年代別】

70代で「言葉もその内容も知っている」と回答した割合が39.8%で最も低い。

【前回調査（平成28年）比較】

令和2年度新規調査項目



(人)

	実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	1,007	432	409	148	18
男性	438	183	179	69	7
女性	565	248	229	79	9
性別無回答	4	1	1	0	2
20代	91	40	33	18	0
30代	120	49	49	22	0
40代	174	76	70	27	1
50代	174	80	81	13	0
60代	235	102	95	30	8
70代～	211	84	81	38	8
年齢無回答	2	1	0	0	1

問9 性的マイノリティ（性的少数者）が生きやすい社会を実現するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

「1 市民の理解促進を図るための周知啓発」と回答した割合が23.7%で最も高く、次いで「2 悩みを相談できる窓口の設置」が22.4%、「5 同性パートナーシップ制度の導入」が16.9%と続いた。

【性別】

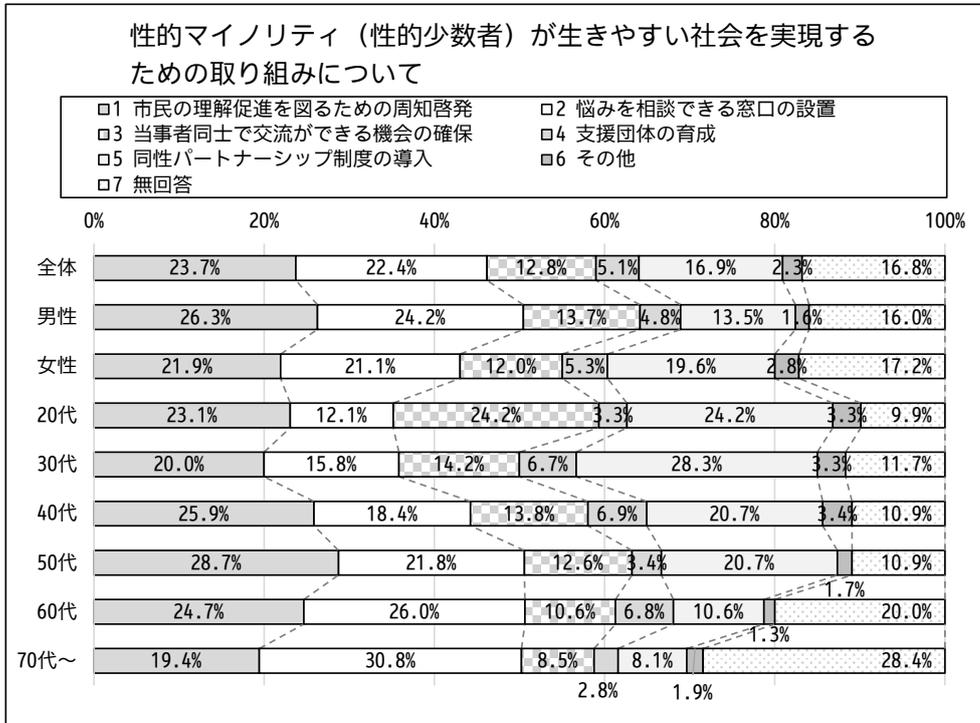
男女とも「1 市民の理解促進を図るための周知啓発」と回答した割合が最も高かった。（男性26.3%、女性21.9%）

【年代別】

20代、30代は「5 同性パートナーシップ制度の導入」と回答した割合が最も高く、40代、50代、70代は「1 市民の理解促進を図るための周知啓発」と回答した割合が最も高かった。60代、70代は、「2 悩みを相談できる窓口の設置」と回答した割合が高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

令和2年度新規調査項目



(人)

	実人数	市民の理解促進を図るための周知啓発	悩みを相談できる窓口の設置	当事者同士で交流ができる機会の確保	支援団体の育成	同性パートナーシップ制度の導入	その他	無回答
全体	1,007	239	226	129	51	170	23	169
男性	438	115	106	60	21	59	7	70
女性	565	124	119	68	30	111	16	97
性別無回答	4	0	1	1	0	0	0	2
20代	91	21	11	22	3	22	3	9
30代	120	24	19	17	8	34	4	14
40代	174	45	32	24	12	36	6	19
50代	174	50	38	22	6	36	3	19
60代	235	58	61	25	16	25	3	47
70代~	211	41	65	18	6	17	4	60
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

問10 あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

問10-1 セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）被害や認識について

【全体】

「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が54.4%で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が25.6%、「自分が受けた」が9.1%と続いた。

【性別】

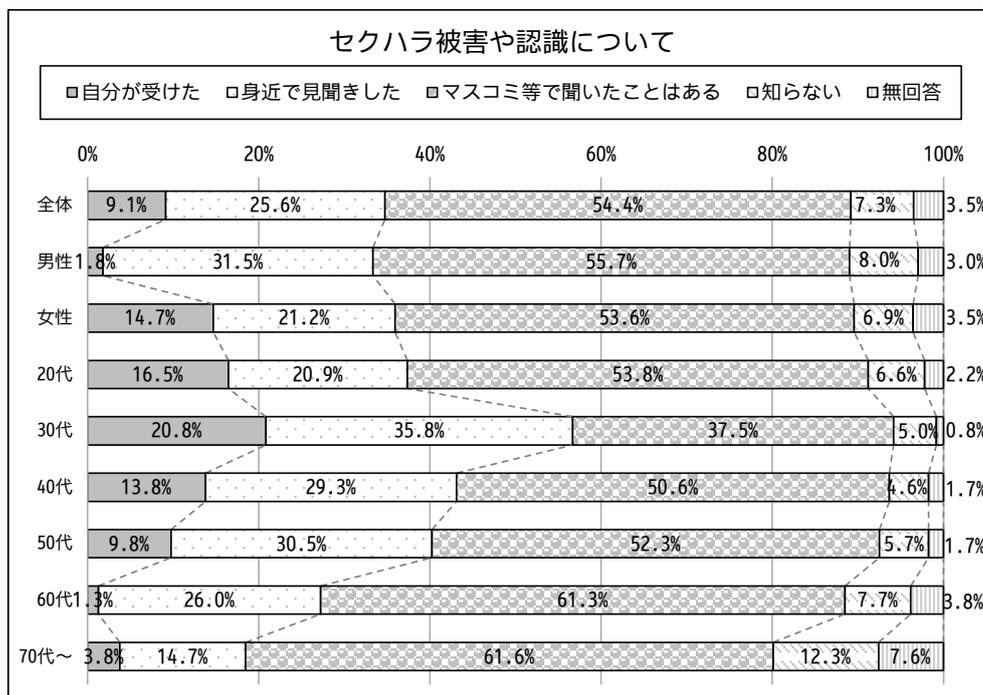
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性1.8%、女性14.7%）

【年代別】

「自分が受けた」と回答した割合は30代で最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は増加した。（H28 28.1%）



(人)

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	1,007	92	258	548	74	35
男性	438	8	138	244	35	13
女性	565	83	120	303	39	20
性別無回答	4	1	0	1	0	2
20代	91	15	19	49	6	2
30代	120	25	43	45	6	1
40代	174	24	51	88	8	3
50代	174	17	53	91	10	3
60代	235	3	61	144	18	9
70代～	211	8	31	130	26	16
年齢無回答	2	0	0	1	0	1

問10-2 パワハラ（パワー・ハラスメント）被害や認識について

【全体】

「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が37.6%で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が35.4%、「自分が受けた」が17.4%と続いた。

【性別】

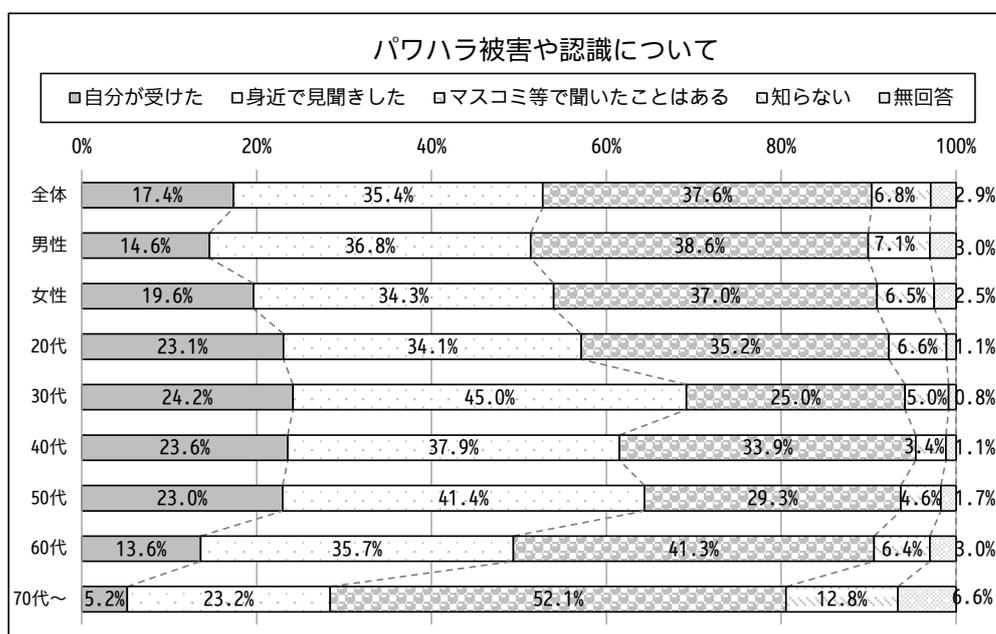
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。
（男性14.6%、女性19.6%）

【年代別】

「自分が受けた」と回答した割合は20代～50代が高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は増加した。（H28 39.5%）



(人)

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	1,007	175	356	379	68	29
男性	438	64	161	169	31	13
女性	565	111	194	209	37	14
性別無回答	4	0	1	1	0	2
20代	91	21	31	32	6	1
30代	120	29	54	30	6	1
40代	174	41	66	59	6	2
50代	174	40	72	51	8	3
60代	235	32	84	97	15	7
70代~	211	11	49	110	27	14
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問10-3 マタハラ（マタニティ・ハラスメント）被害や認識について

【全体】

「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が63.6%で最も高く、次いで「知らない」が18.0%、「身近で見聞きした」が11.4%と続いた。

【性別】

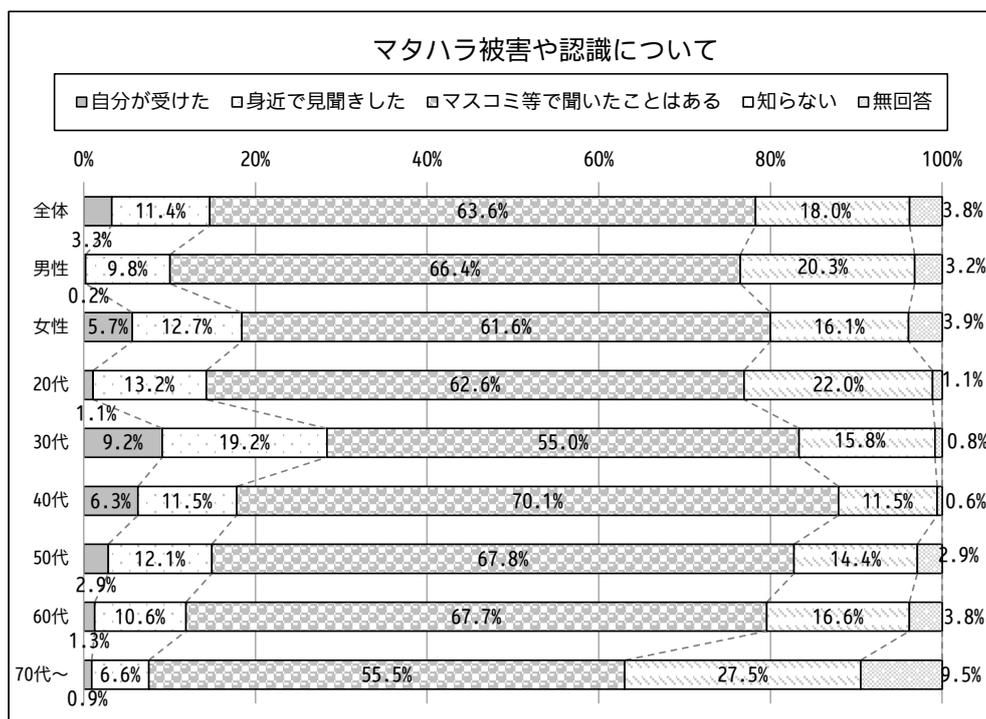
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性0.2%、女性5.7%）

【年代別】

「自分が受けた」と回答した割合は30代が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は減少した。（H28 39.5%）



(人)

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	1,007	33	115	640	181	38
男性	438	1	43	291	89	14
女性	565	32	72	348	91	22
性別無回答	4	0	0	1	1	2
20代	91	1	12	57	20	1
30代	120	11	23	66	19	1
40代	174	11	20	122	20	1
50代	174	5	21	118	25	5
60代	235	3	25	159	39	9
70代～	211	2	14	117	58	20
年齢無回答	2	0	0	1	0	1

問10-4 ストーカー被害や認識について

【全体】

「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が70.2%で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が14.6%と続いた。

【性別】

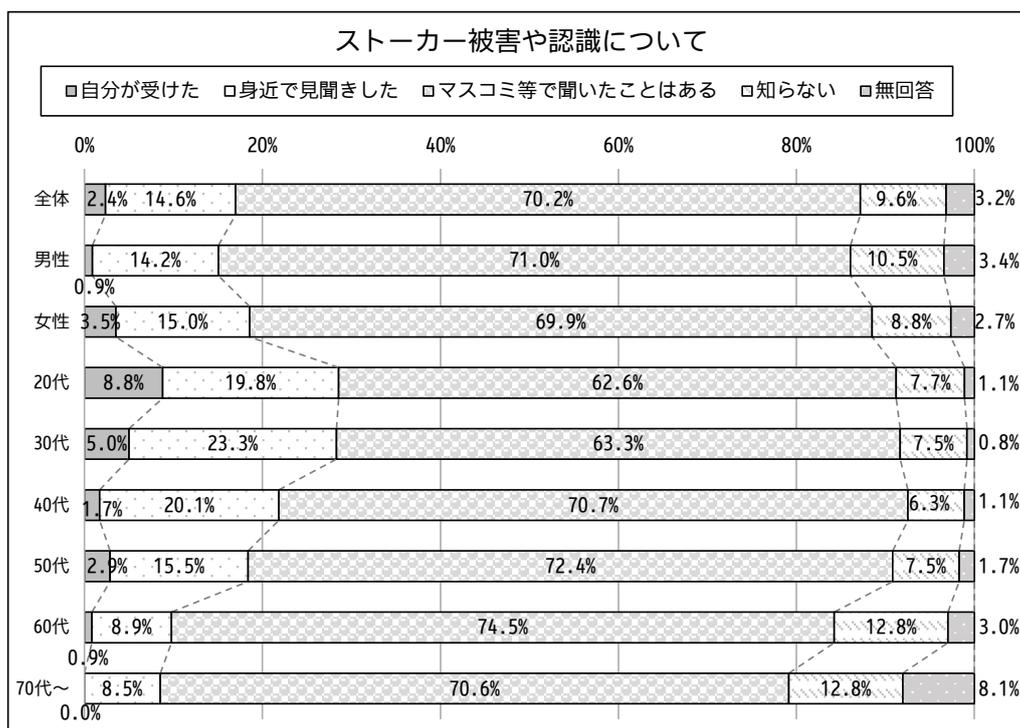
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性0.9%、女性3.5%）

【年代別】

「自分が受けた」と回答した割合は20代が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「自分が受けた」又は「身近で見聞きした」と回答した割合は減少した。（H28 19.1%）



(人)

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	1,007	24	147	707	97	32
男性	438	4	62	311	46	15
女性	565	20	85	395	50	15
性別無回答	4	0	0	1	1	2
20代	91	8	18	57	7	1
30代	120	6	28	76	9	1
40代	174	3	35	123	11	2
50代	174	5	27	126	13	3
60代	235	2	21	175	30	7
70代～	211	0	18	149	27	17
年齢無回答	2	0	0	1	0	1

問10-5 DV（ドメスティック・バイオレンス）被害や認識について

【全体】

「マスコミ等で聞いたことはある」と回答した割合が63.9%で最も高く、次いで「身近で見聞きした」が20.4%と続いた。

【性別】

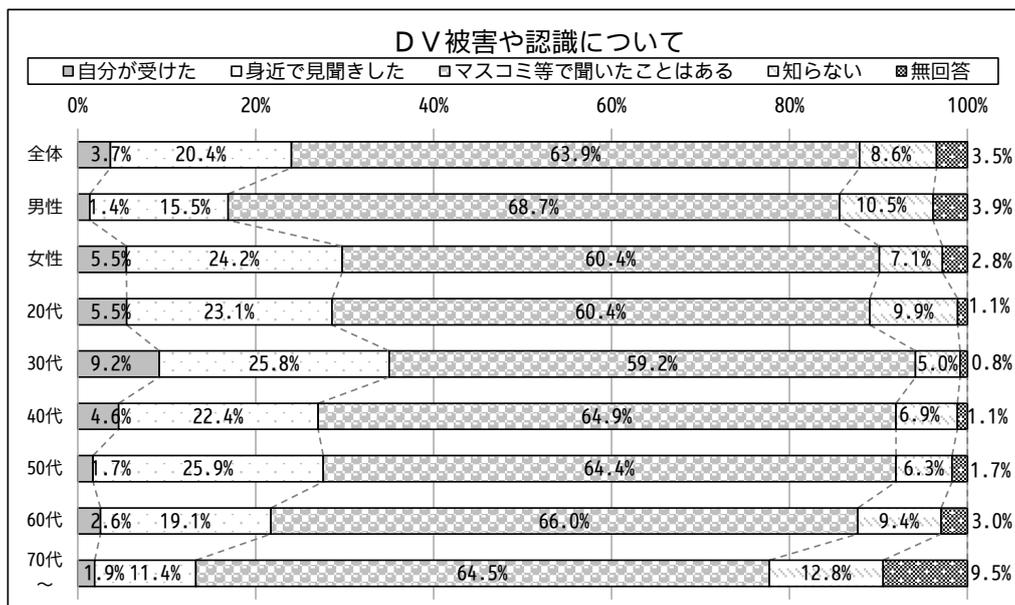
「自分が受けた」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性1.4%、女性5.5%）

【年代別】

「自分が受けた」と回答した割合は30代が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「自分が受けた」と回答した割合は増加した。（H28 3.0%）



(人)

	実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	1,007	37	205	643	87	35
男性	438	6	68	301	46	17
女性	565	31	137	341	40	16
性別無回答	4	0	0	1	1	2
20代	91	5	21	55	9	1
30代	120	11	31	71	6	1
40代	174	8	39	113	12	2
50代	174	3	45	112	11	3
60代	235	6	45	155	22	7
70代～	211	4	24	136	27	20
年齢無回答	2	0	0	1	0	1

問11 問10で「自分が受けた」と答えた方へ。あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

【全体】

「相談した」、「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した割合は同程度となった。

【性別】

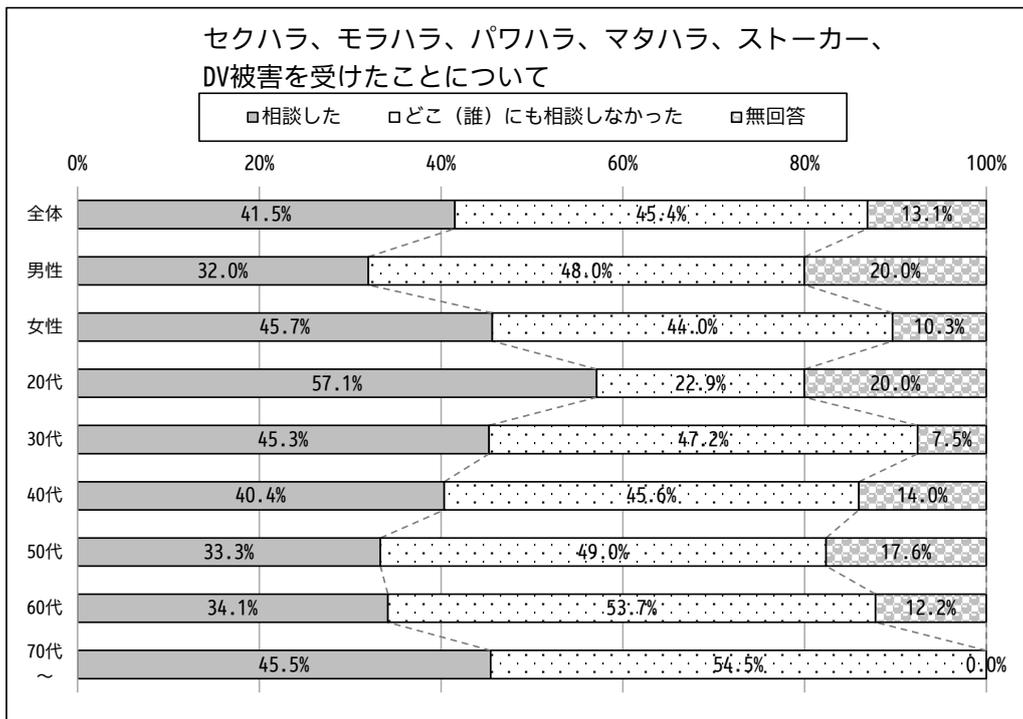
「相談した」と回答した割合は男性より女性の方が高い。（男性32.0%、女性45.7%）

【年代別】

年代が高くなるほど「相談した」と回答した割合は低い、70代以降は高くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「相談した」と回答した割合は減少した。（H28 51.4%）



(人)

	実人数	相談した	どこ（誰）にも相談しなかった	無回答
全体	260	108	118	34
男性	75	24	36	15
女性	184	84	81	19
性別無回答	1	0	1	0
20代	35	20	8	7
30代	53	24	25	4
40代	57	23	26	8
50代	51	17	25	9
60代	41	14	22	5
70代～	22	10	12	0
年齢無回答	1	0	0	1

問12 問11で「2.どこ(誰)にも相談しなかった」と答えた方へ。
 どこ(誰)にも相談しなかったのはなぜですか。(複数回答)

【全体】

「2 相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合が41.3%で最も高く、次いで「4 自分さえ我慢すればいいと思ったから」が16.4%、「3 相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから」が12.7%と続いた。

【性別】

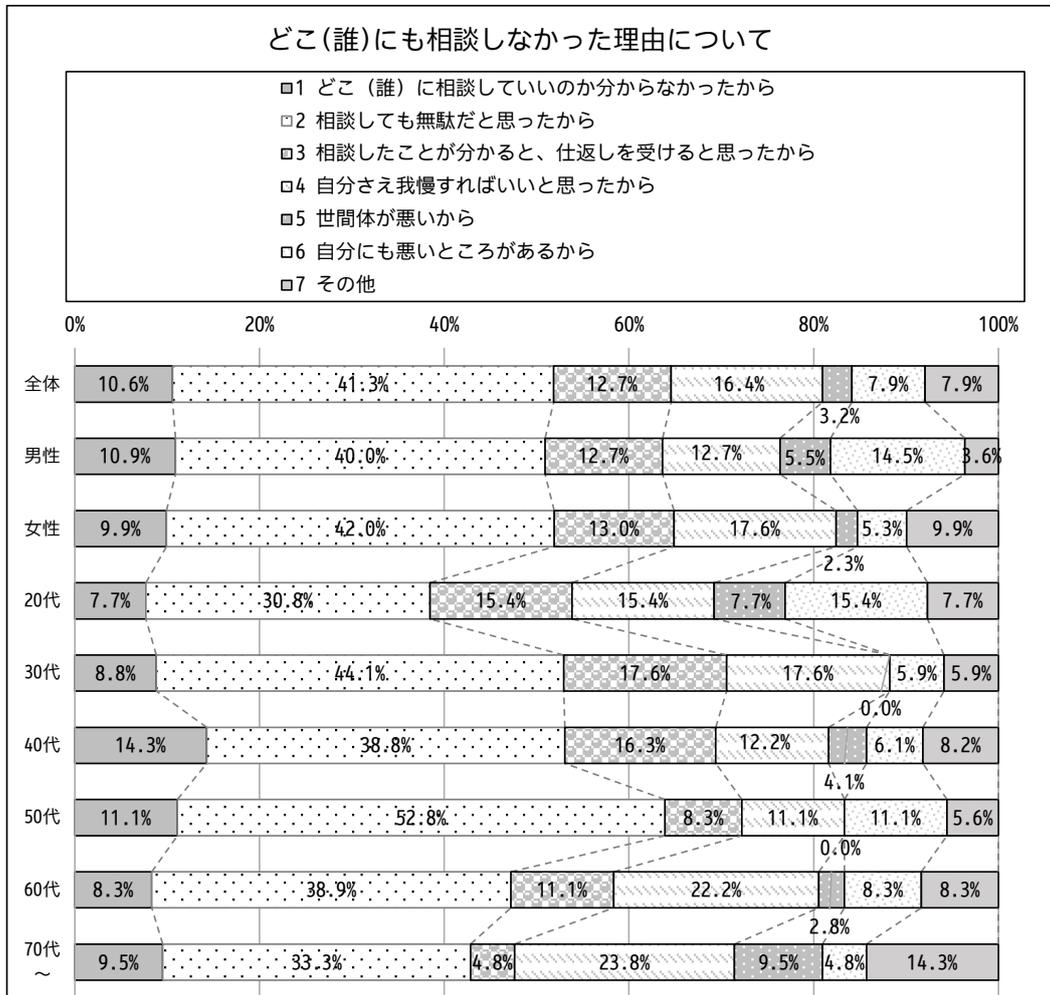
男女とも「2 相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合が最も高い。

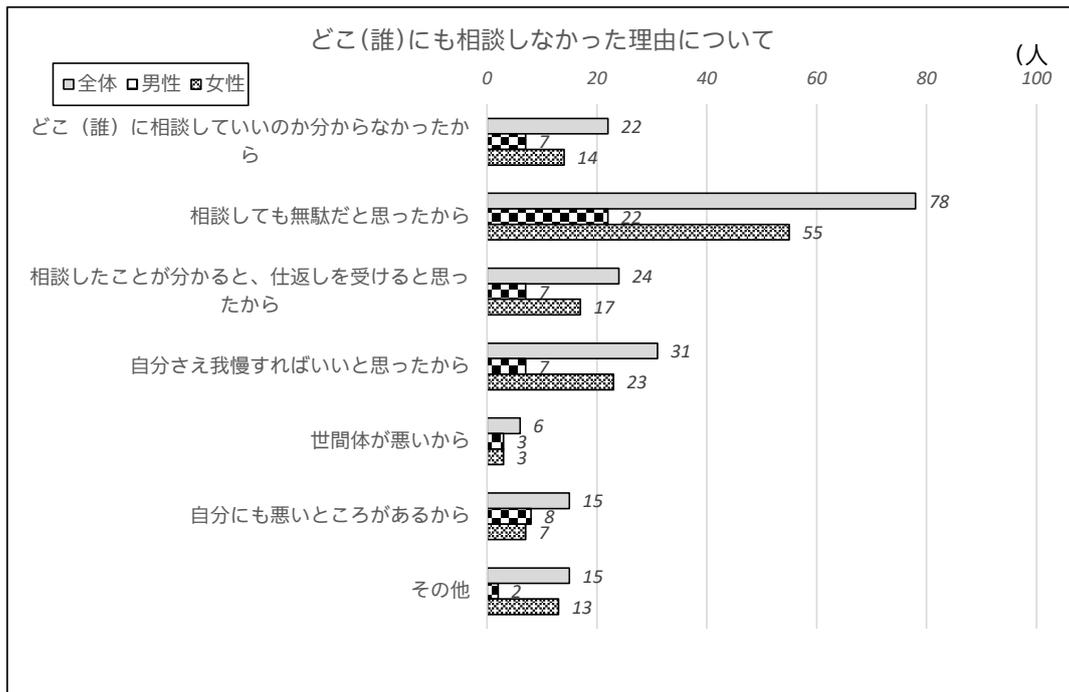
【年代別】

すべての年代で「2 相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合が最も高い。

【前回調査(平成28年)比較】

「1 どこ(誰)に相談していいのかわからなかった」「2 相談しても無駄だと思ったから」「3 相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから」「4 自分さえ我慢すればいいと思ったから」と回答した割合は減少したが、「5 世間体が悪いから」「6 自分にも悪いところがあるから」と回答した割合は増加した。





(上段:人)

	回答実人数	回答総数	1.どこ(誰)に相談していいのかわからなかったから	2.相談しても無駄だと思ったから	3.相談したことが分かったら、仕返しを受けると思ったから	4.自分さえ我慢すればいいと思ったから	5.世間体が悪いから	6.自分にも悪いところがあるから	7.その他
全体	118	191	22 11.5%	78 40.8%	24 12.6%	31 16.2%	6 3.1%	15 7.9%	15 7.9%
男性	37	56	7 12.5%	22 39.3%	7 12.5%	7 12.5%	3 5.4%	8 14.3%	2 3.6%
女性	80	132	14 10.6%	55 41.7%	17 12.9%	23 17.4%	3 2.3%	7 5.3%	13 9.8%
20代	9	15	3 20.0%	4 26.7%	2 13.3%	2 13.3%	1 6.7%	2 13.3%	1 6.7%
30代	22	34	3 8.8%	15 44.1%	6 17.6%	6 17.6%	0 0.0%	2 5.9%	2 5.9%
40代	27	49	7 14.3%	19 38.8%	8 16.3%	6 12.2%	2 4.1%	3 6.1%	4 8.2%
50代	26	36	4 11.1%	19 52.8%	3 8.3%	4 11.1%	0 0.0%	4 11.1%	2 5.6%
60代	22	36	3 8.3%	14 38.9%	4 11.1%	8 22.2%	1 2.8%	3 8.3%	3 8.3%
70代～	12	21	2 9.5%	7 33.3%	1 4.8%	5 23.8%	2 9.5%	1 4.8%	3 14.3%

問13 あなたは、セクハラ、パワハラ、ストーカー、DV等の被害にあったときの相談窓口をご存知ですか。

【全体】

「知らない」と回答した割合が68.4%、「知っている」が28.3%であった。

【性別】

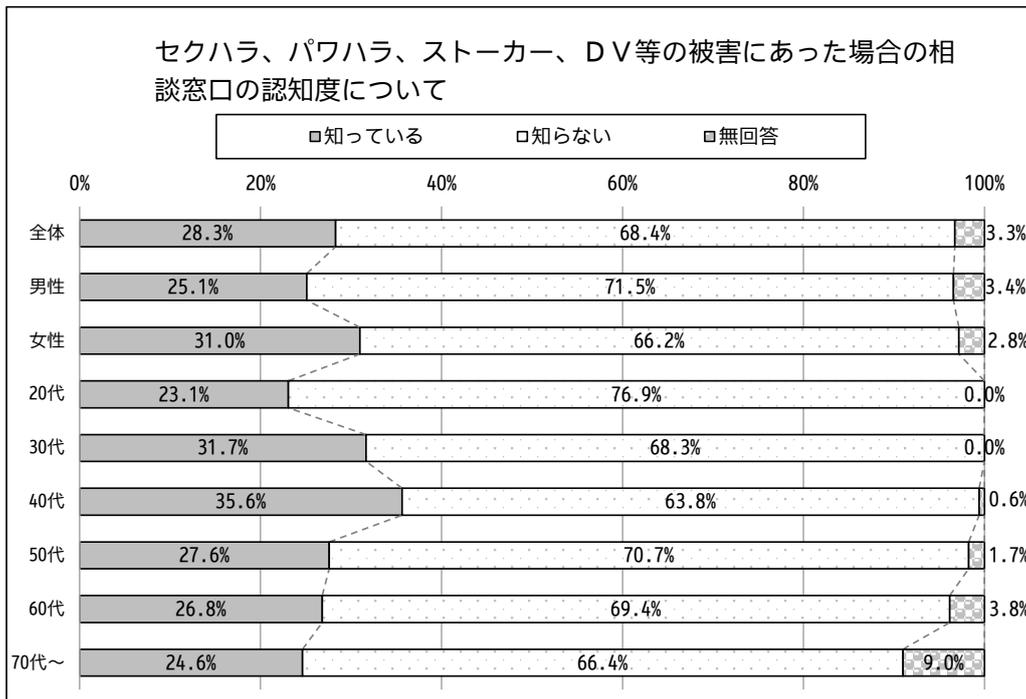
男女とも約7割が「知らない」と回答した。

【年代別】

すべての年代で「知らない」と回答した割合の方が高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「知っている」と回答した割合は減少した。（H28 29.8%）



(人)

	実人数	知っている	知らない	無回答
全体	1,007	285	689	33
男性	438	110	313	15
女性	565	175	374	16
性別無回答	4	0	2	2
20代	91	21	70	0
30代	120	38	82	0
40代	174	62	111	1
50代	174	48	123	3
60代	235	63	163	9
70代～	211	52	140	19
年齢無回答	2	1	0	1

問14 新聞、テレビなどで「人権問題」や「人権侵害」が報道されることがありますが、あなたの身近では、どのようになってきていると思いますか。

【全体】

「あまり変わらない」と回答した割合が40.2%で最も高く、次いで「わからない」が34.9%、「多くなってきた」が13.0%と続いた。

【性別】

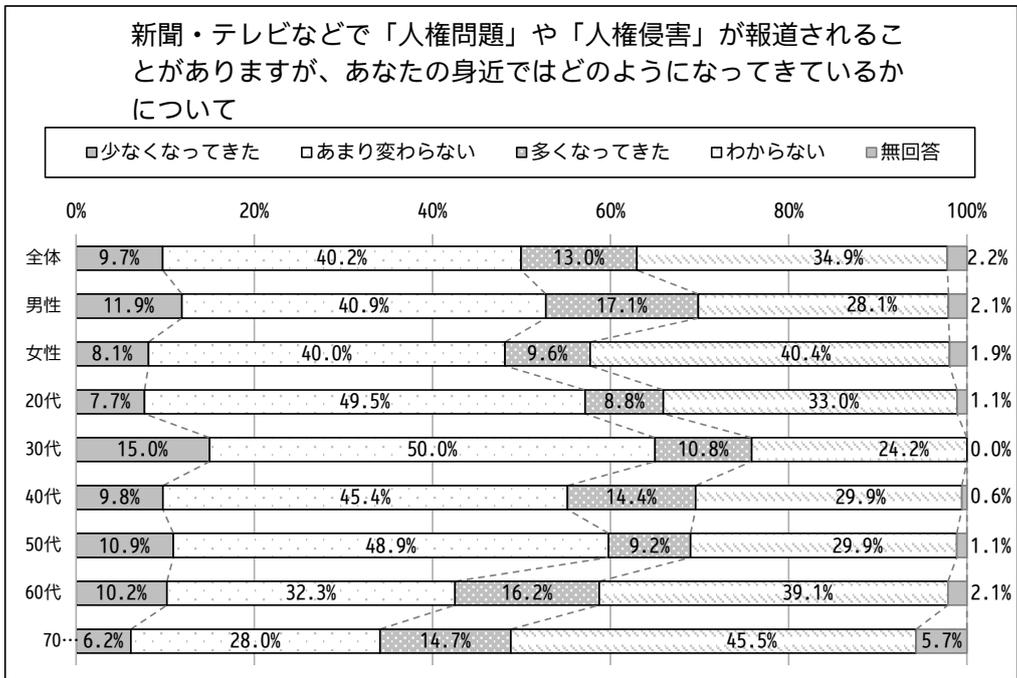
「多くなってきた」と回答した割合は女性よりも男性の方が高い。
(男性17.1%、女性9.6%)

【年代別】

50代までは「あまり変わらない」と回答した割合が5割程度であるが、60代以上は3割程度である。

【前回調査（平成28年）比較】

「多くなってきた」と回答している割合が増加した。(H28 11.4%)



(人)

	実人数	少なくなってきた	あまり変わらない	多くなってきた	わからない	無回答
全体	1,007	98	405	131	351	22
男性	438	52	179	75	123	9
女性	565	46	226	54	228	11
年齢無回答	4	0	0	2	0	2
20代	91	7	45	8	30	1
30代	120	18	60	13	29	0
40代	174	17	79	25	52	1
50代	174	19	85	16	52	2
60代	235	24	76	38	92	5
70代～	211	13	59	31	96	12
性別無回答	2	0	1	0	0	1

問15 あなたは、これまでにセクハラ、いじめ、虐待など「人権」について考えたり、学んだりした経験はありますか。（複数回答）

【全体】

「特に考えたり、学んだりしたことはない」と回答した割合が25.9%で最も高く、次いで「身近な人の経験や話から」が24.4%、「各種報道や書籍から」が23.0%と続いた。

【性別】

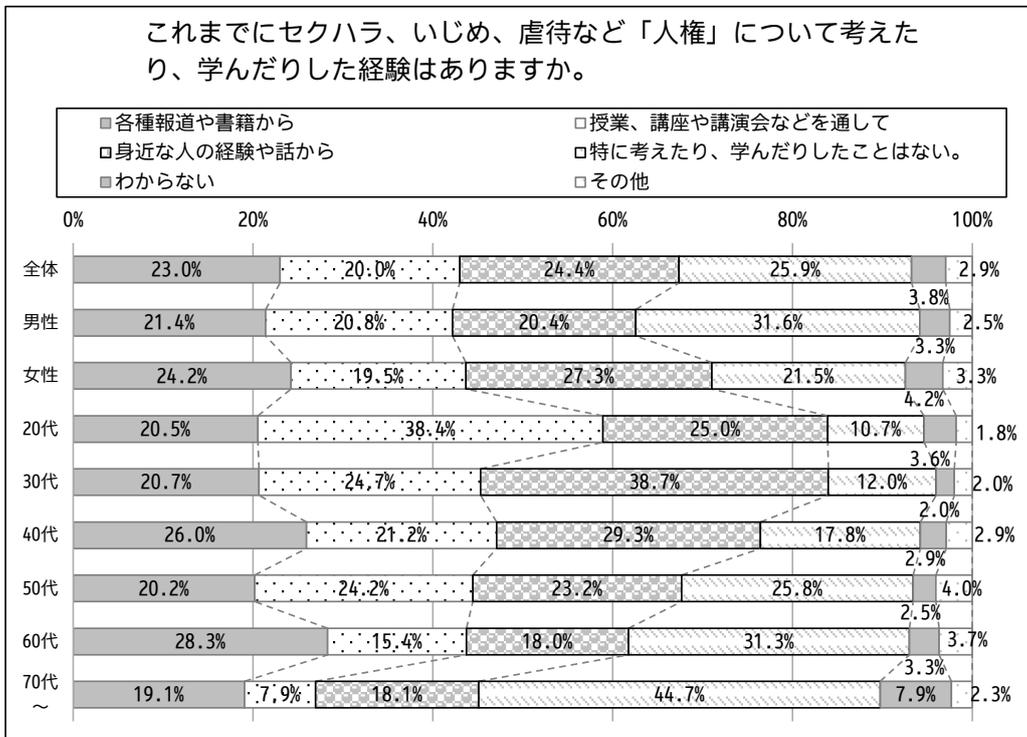
男性は「特に考えたり、学んだりしたことはない」と回答した割合が最も高く、女性は「身近な人の経験や話から」と回答した割合が最も高い。

【年代別】

20代では「授業、講座や講演会などを通して」、30代～40代は「身近な人の経験や話から」、50代以降は「特に考えたり、学んだりしたことはない」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「授業、講座や講演会などを通して」（H28 17.7%）「特に考えたり、学んだりしたことはない」（H28 24.2%）と回答した割合が増加した。



(人)

	回答実人数	回答総数	各種報道や書籍から	授業、講座や講演会などを通して	身近な人の経験や話から	特に考えたり、学んだりしたことはない	わからない	その他
全体	1,007	1,156	266	231	282	299	44	34
男性	438	481	103	100	98	152	16	12
女性	565	673	163	131	184	145	28	22
性別無回答	4	2	0	0	0	2	0	0
20代	91	112	23	43	28	12	4	2
30代	120	150	31	37	58	18	3	3
40代	174	208	54	44	61	37	6	6
50代	174	198	40	48	46	51	5	8
60代	235	272	77	42	49	85	9	10
70代～	211	215	41	17	39	96	17	5
年齢無回答	2	1	0	0	1	0	0	0

問16 『人権相談』をご存知ですか。

【全体】

「知っている」と回答した割合が29.6%、「知らない」が67.7%で、知らない割合が高い。

【性別】

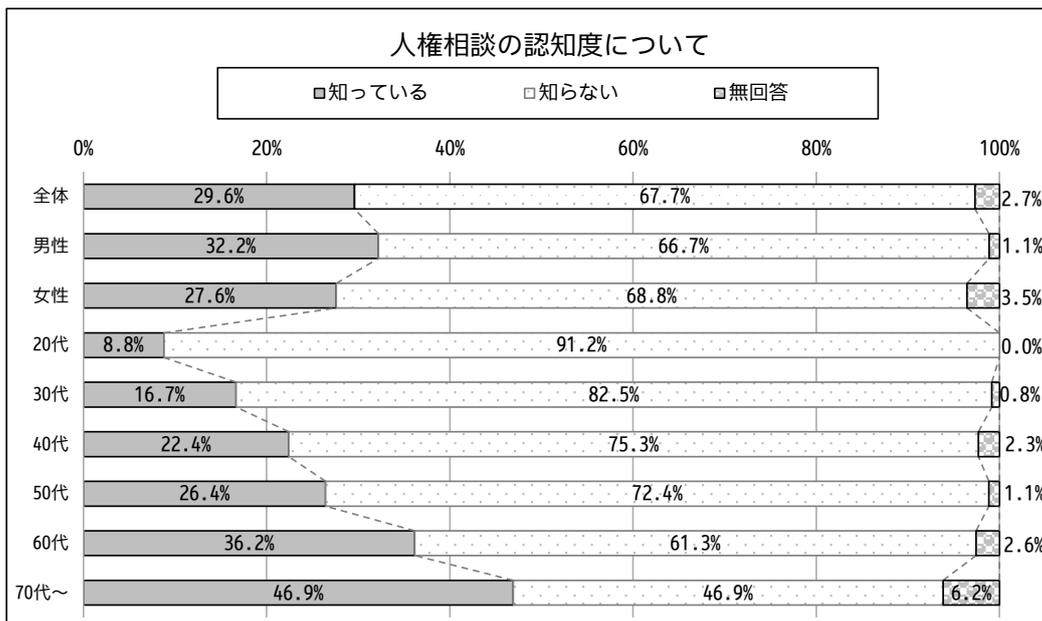
「知っている」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。
(男性32.2%、女性27.6%)

【年代別】

年代が高くなるほど「知っている」と回答した割合は高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「知っている」と回答した割合が減少した。(H28 34.1%)



(人)

	実人数	知っている	知らない	無回答
全体	1,007	298	682	27
男性	438	141	292	5
女性	565	156	389	20
性別無回答	4	1	1	2
20代	91	8	83	0
30代	120	20	99	1
40代	174	39	131	4
50代	174	46	126	2
60代	235	85	144	6
70代～	211	99	99	13
年齢無回答	2	1	0	1

家庭生活について

問17 あなたの家庭では、次にあげるような家事、育児や介護等を、主にどなたが担当していますか。

問17-1 食事の用意、あと片付け

【全体】

「主として妻」と回答した割合が53.1%で最も高く、次いで「夫婦で」が19.3%、「家族全員」が9.4%と続いた。

【性別】

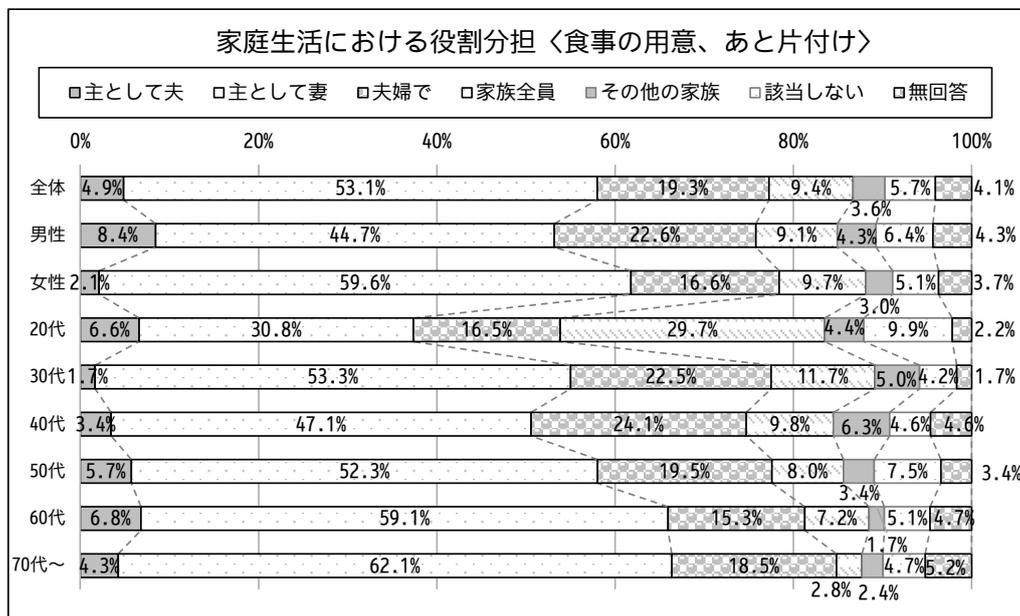
男女とも「主として妻」と回答した割合が最も高い。（男性44.7%、女性59.6%）

【年代別】

年代が高い方が「主として妻」と回答した割合が高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「夫婦で」（H28 16.5%）「家族全員で」（H28 7.9%）と回答した割合は増加した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	49	535	194	95	36	57	41
男性	438	37	196	99	40	19	28	19
女性	565	12	337	94	55	17	29	21
性別無回答	4	0	2	1	0	0	0	1
20代	91	6	28	15	27	4	9	2
30代	120	2	64	27	14	6	5	2
40代	174	6	82	42	17	11	8	8
50代	174	10	91	34	14	6	13	6
60代	235	16	139	36	17	4	12	11
70代～	211	9	131	39	6	5	10	11
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

問17-2 掃除

【全体】

「主として妻」と回答した割合が50.7%で最も高く、次いで「夫婦で」が21.3%、「家族全員」が7.7%と続いた。

【性別】

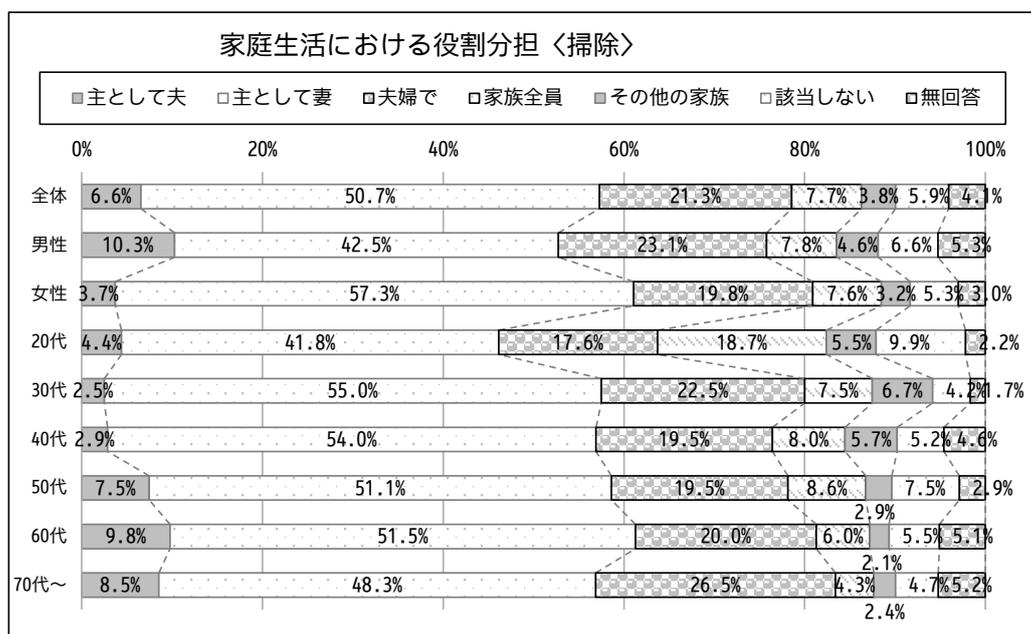
男女とも「主として妻」と回答した割合が最も高い。（男性42.5%、女性57.3%）

【年代別】

「夫婦で」と回答した割合は、70代が最も高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

「主として妻」と回答した割合は減少（H28 56.3%）、「夫婦で」「家族全員」（H28 7.4%）と回答した割合は増加（H28 19.3%）した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	66	511	214	78	38	59	41
男性	438	45	186	101	34	20	29	23
女性	565	21	324	112	43	18	30	17
性別無回答	4	0	1	1	1	0	0	1
20代	91	4	38	16	17	5	9	2
30代	120	3	66	27	9	8	5	2
40代	174	5	94	34	14	10	9	8
50代	174	13	89	34	15	5	13	5
60代	235	23	121	47	14	5	13	12
70代～	211	18	102	56	9	5	10	11
年齢無回答	2	0	1	0	0	0	0	1

問17-3 洗濯

【全体】

「主として妻」と回答した割合が61.2%で最も高く、次いで「夫婦で」が14.9%、「主として夫」及び「家族全員」が5.0%と続いた。

【性別】

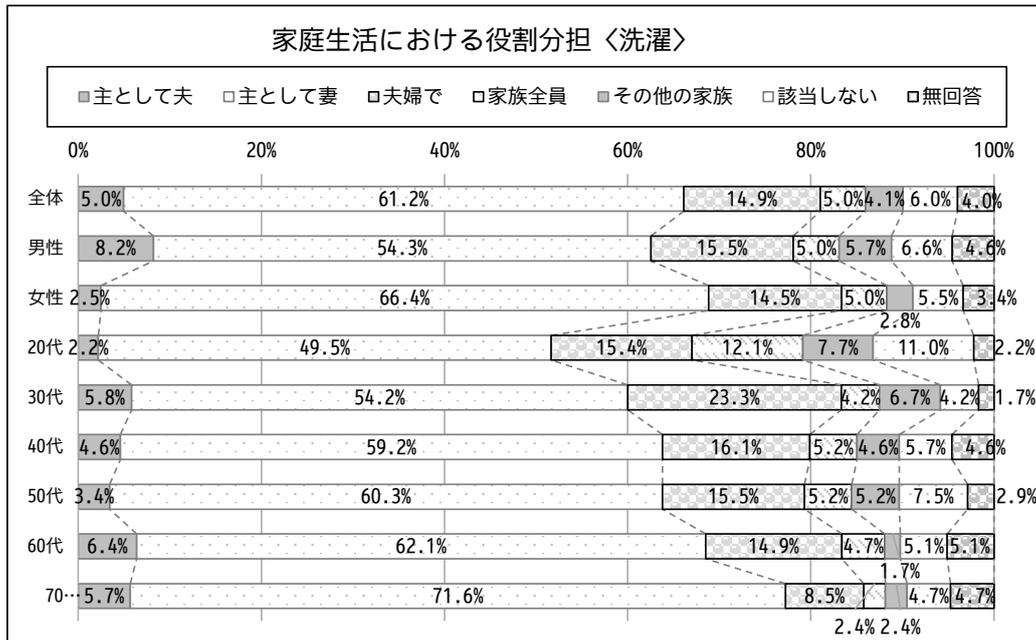
男女とも「主として妻」と回答した割合が最も高い。(男性54.3%、女性66.4%)

【年代別】

年代が高いほど「主として妻」と回答した割合が高い。

【前回調査(平成28年)比較】

「主として妻」と回答した割合は減少(H28 67.6%)しているが、「夫婦で」と回答した割合は増加(H28 11.2%)した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
男性	438	36	238	68	22	25	29	20
女性	565	14	375	82	28	16	31	19
性別無回答	4	0	3	0	0	0	0	1
20代	91	2	45	14	11	7	10	2
30代	120	7	65	28	5	8	5	2
40代	174	8	103	28	9	8	10	8
50代	174	6	105	27	9	9	13	5
60代	235	15	146	35	11	4	12	12
70代~	211	12	151	18	5	5	10	10
年齢無回答	2	0	1	0	0	0	0	1

問17-4 育児

【全体】

「該当しない」（対象外の方）を除くと「主として妻」と回答した割合が34.6%で最も高く、次いで「夫婦で」が20.2%、「家族全員」が3.7%と続いた。

【性別】

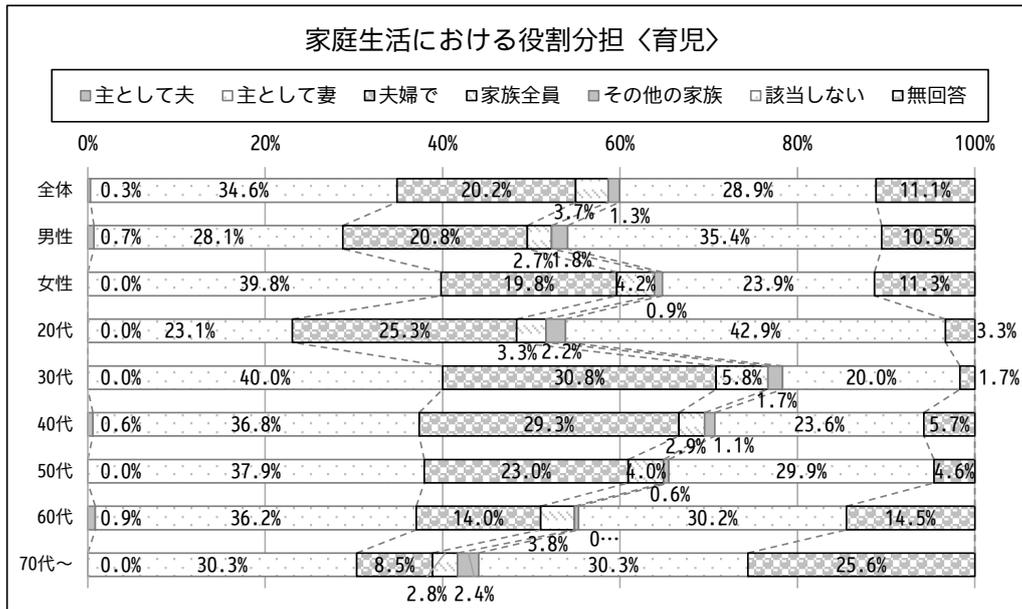
「主として妻」と回答した割合は男性よりも女性の方が高い。（男性28.1%、女性39.8%）

【年代別】

年代が高いほど「夫婦で」と回答した割合が低い。

【前回調査（平成28年）比較】

「夫婦で」と回答した割合は減少した。（H28 23.0%）



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	3	348	203	37	13	291	112
男性	438	3	123	91	12	8	155	46
女性	565	0	225	112	24	5	135	64
性別無回答	4	0	0	0	1	0	1	2
20代	91	0	21	23	3	2	39	3
30代	120	0	48	37	7	2	24	2
40代	174	1	64	51	5	2	41	10
50代	174	0	66	40	7	1	52	8
60代	235	2	85	33	9	1	71	34
70代～	211	0	64	18	6	5	64	54
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

問17-5 家族の介護や看病

【全体】

「該当しない」（対象外の方）を除くと、「主として妻」と回答した割合が24.5%で最も高く、次いで「夫婦で」が17.6%、「家族全員で」が5.3%と続いた。

【性別】

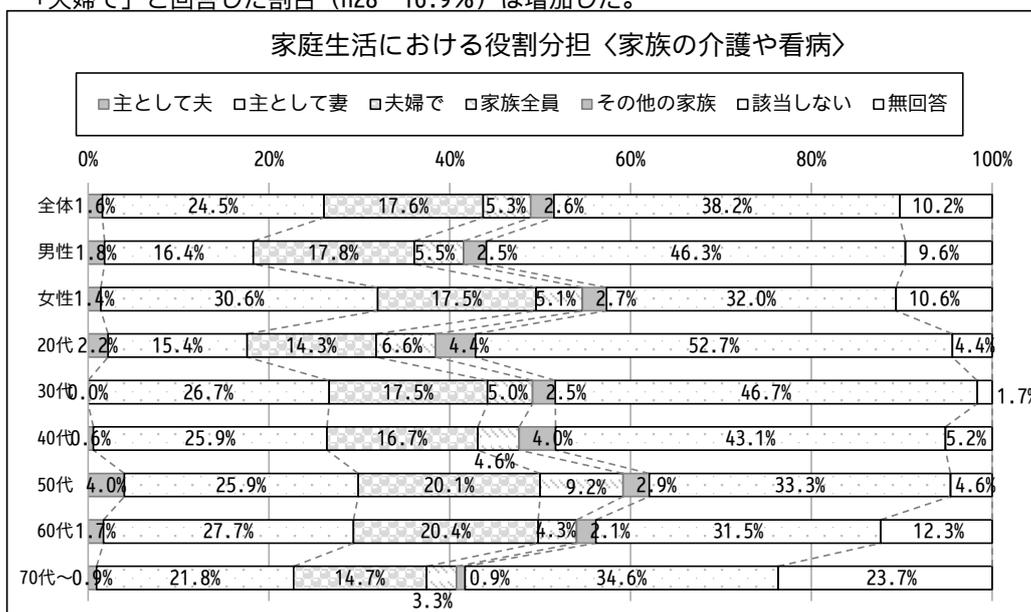
「主として妻」と回答した割合は男性よりも女性の方が高い。
（男性16.4%、女性30.6%）

【年代別】

すべての年代で「夫婦で」と回答した割合よりも「主として妻」と回答した割合の方が高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「主として夫」（H28 1.9%）「主として妻」（H28 28.8%）と回答した割合は減少し、「夫婦で」と回答した割合（H28 16.9%）は増加した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	16	247	177	53	26	385	103
男性	438	8	72	78	24	11	203	42
女性	565	8	173	99	29	15	181	60
性別無回答	4	0	2	0	0	0	1	1
20代	91	2	14	13	6	4	48	4
30代	120	0	32	21	6	3	56	2
40代	174	1	45	29	8	7	75	9
50代	174	7	45	35	16	5	58	8
60代	235	4	65	48	10	5	74	29
70代~	211	2	46	31	7	2	73	50
年齢無回答	2	0	0	0	0	0	1	1

問17-6 地域活動（PTAや町内会の活動等）

【全体】

「夫婦で」と回答した割合が24.8%で最も高く、次いで「主として妻」が23.3%、「主として夫」が21.5%と続いた。

【性別】

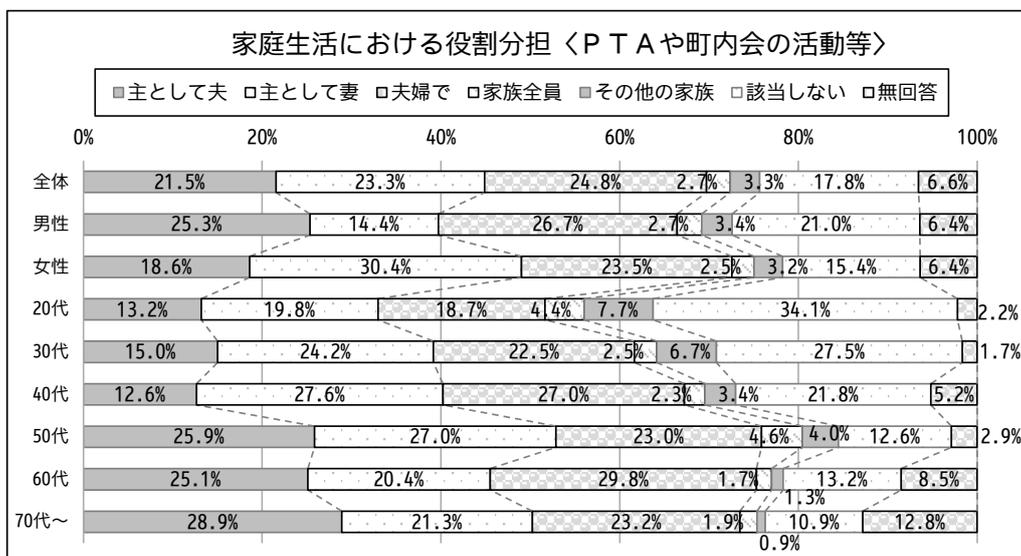
男性は「夫婦で」と回答した割合が最も高く、女性は「主として妻」と回答した割合が最も高い。

【年代別】

20代～40代では、「主として夫」と回答した割合が低い。

【前回調査（平成28年）比較】

「主として夫」と回答した割合（H28 18.6%）は増加しており、「主として妻」（H28 30.0%）「夫婦で」（H28 25.9%）と回答した割合は減少した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	217	235	250	27	33	179	66
男性	438	111	63	117	12	15	92	28
女性	565	105	172	133	14	18	87	36
性別無回答	4	1	0	0	1	0	0	2
20代	91	12	18	17	4	7	31	2
30代	120	18	29	27	3	8	33	2
40代	174	22	48	47	4	6	38	9
50代	174	45	47	40	8	7	22	5
60代	235	59	48	70	4	3	31	20
70代～	211	61	45	49	4	2	23	27
年齢無回答	2	0	0	0	0	0	1	1

問18 あなたの家庭では、次にあげるようなことを最終的に決定するのは主にどなたですか。

問18-1 家計費管理

【全体】

「主として妻」と回答した割合が45.5%で最も高く、次いで「夫婦で」が23.4%、「主として夫」が15.1%と続いた。

【性別】

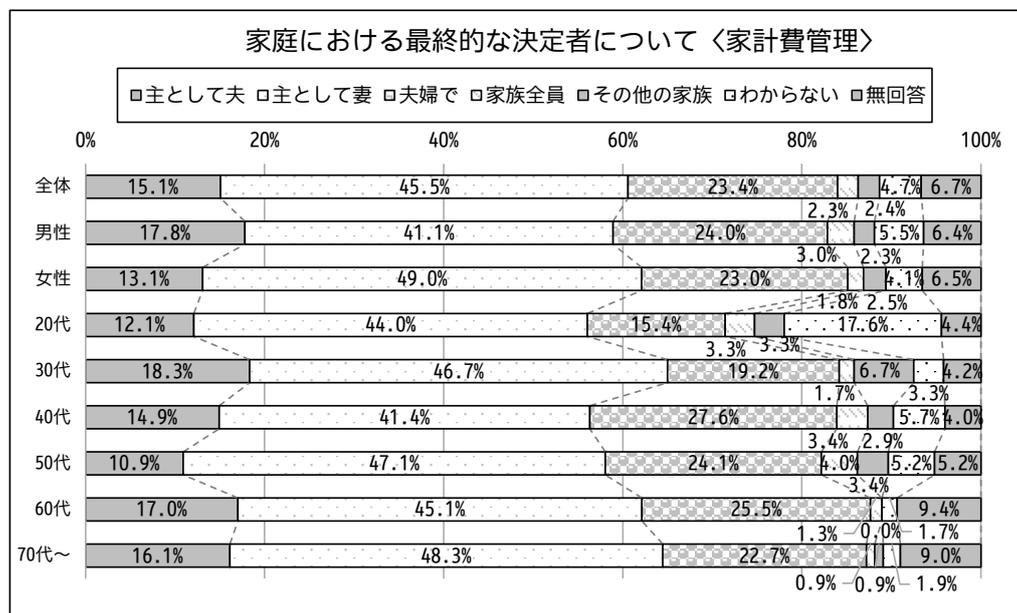
「主として妻」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。（男性41.1%、女性49.0%）

【年代別】

すべての年代で「主として妻」と回答した割合が最も高かった。
また、「夫婦で」と回答した割合は、20代～30代が40代以降と比較して、低くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「夫婦で」（H28 16.9%）「家族全員」（H28 1.8%）が増加した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	152	458	236	23	24	47	67
男性	438	78	180	105	13	10	24	28
女性	565	74	277	130	10	14	23	37
性別無回答	4	0	1	1	0	0	0	2
20代	91	11	40	14	3	3	16	4
30代	120	22	56	23	2	8	4	5
40代	174	26	72	48	6	5	10	7
50代	174	19	82	42	7	6	9	9
60代	235	40	106	60	3	0	4	22
70代～	211	34	102	48	2	2	4	19
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

問18-2 投資・不動産等

【全体】

「夫婦で」と回答した割合が32.2%で最も高く、次いで「主として夫」が31.7%と続いた。

【性別】

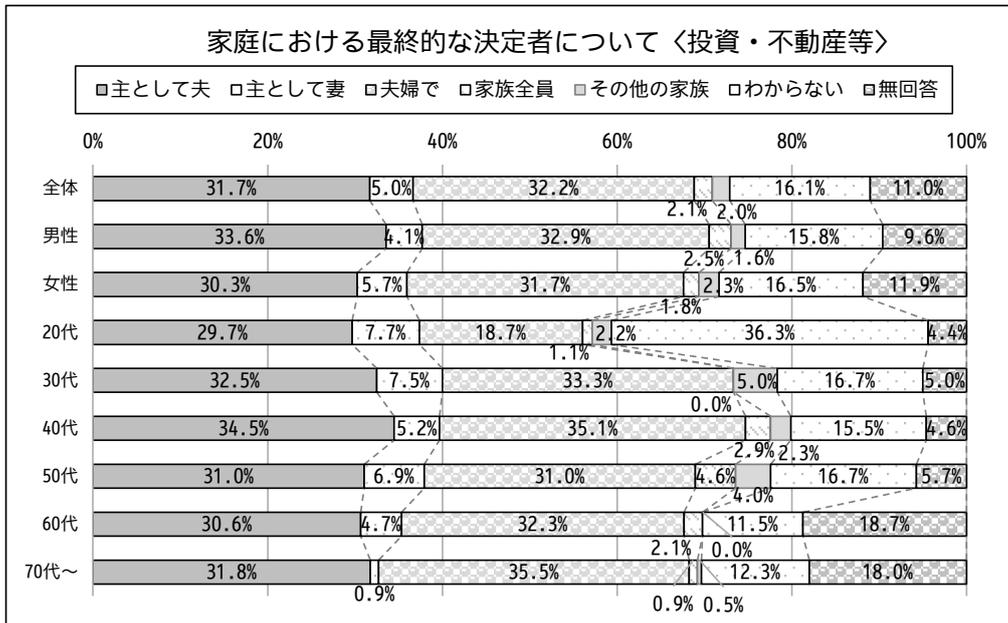
「主として夫」と回答した割合は女性よりも男性の方が高い。
(男性33.6%、女性30.3%)

【年代別】

20代は「わからない」と回答した割合が多かったものの、他の年代は「主として夫」又は「夫婦で」と回答した割合が最も高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

令和2年度新規調査項目



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	319	50	324	21	20	162	111
男性	438	147	18	144	11	7	69	42
女性	565	171	32	179	10	13	93	67
性別無回答	4	1	0	1	0	0	0	2
20代	91	27	7	17	1	2	33	4
30代	120	39	9	40	0	6	20	6
40代	174	60	9	61	5	4	27	8
50代	174	54	12	54	8	7	29	10
60代	235	72	11	76	5	0	27	44
70代~	211	67	2	75	2	1	26	38
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

問18-3 夫の就職・転職

【全体】

「主として夫」と回答した割合が41.4%で最も高く、次いで「夫婦で」が25.6%と続いた。

【性別】

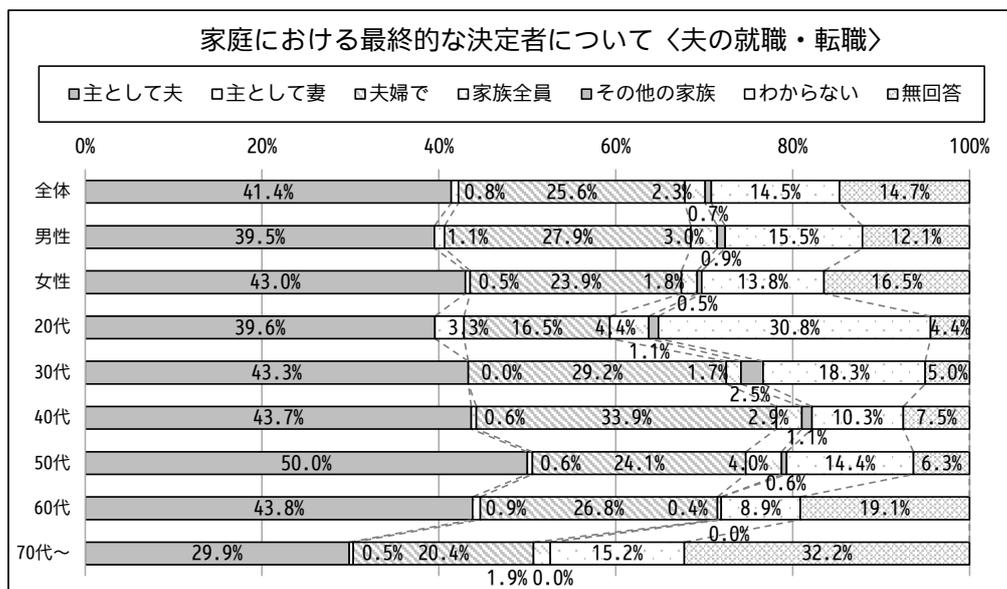
「夫婦で」と回答した割合は女性よりも男性の方が高い。（男性27.9%、女性23.9%）

【年代別】

すべての年代で「主として夫」と回答した割合が最も高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「主として夫」（H28 43.1%）「主として妻」（H28 1.7%）「夫婦で」（H28 27.6%）と回答した割合は減少した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	417	8	258	23	7	146	148
男性	438	173	5	122	13	4	68	53
女性	565	243	3	135	10	3	78	93
性別無回答	4	1	0	1	0	0	0	2
20代	91	36	3	15	4	1	28	4
30代	120	52	0	35	2	3	22	6
40代	174	76	1	59	5	2	18	13
50代	174	87	1	42	7	1	25	11
60代	235	103	2	63	1	0	21	45
70代～	211	63	1	43	4	0	32	68
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

問18-4 妻の就職・転職

【全体】

「主として妻」と回答した割合が38.1%で最も高く、次いで「夫婦で」が26.0%と続いた。

【性別】

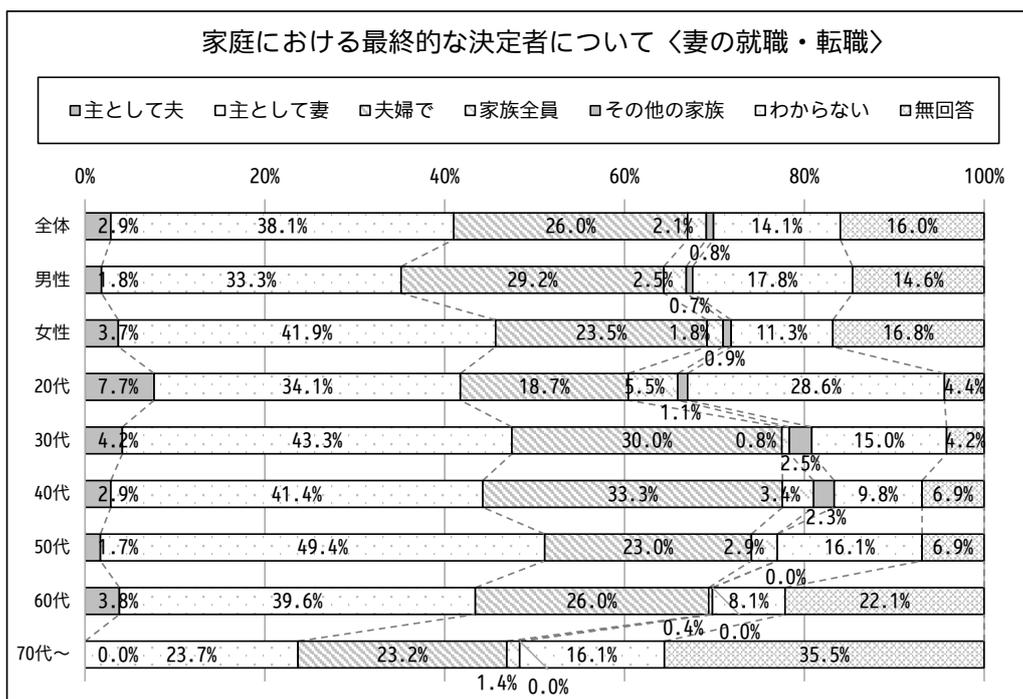
「夫婦で」と回答した割合は女性よりも男性の方が高い。（男性29.2%、女性23.5%）

【年代別】

70代以降は「主として妻」と回答した割合が他の年代に比べ低い。

【前回調査（平成28年）比較】

「主として夫」（H28 3.9%）「主として妻」（H28 40.8%）「夫婦で」（H28 26.9%）と回答した割合は減少した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	29	384	262	21	8	142	161
男性	438	8	146	128	11	3	78	64
女性	565	21	237	133	10	5	64	95
性別無回答	4	0	1	1	0	0	0	2
20代	91	7	31	17	5	1	26	4
30代	120	5	52	36	1	3	18	5
40代	174	5	72	58	6	4	17	12
50代	174	3	86	40	5	0	28	12
60代	235	9	93	61	1	0	19	52
70代~	211	0	50	49	3	0	34	75
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

問18-5 全体的な実権

【全体】

「主として夫」と回答した割合が34.9%で最も高く、次いで「夫婦で」が29.3%、「主として妻」が15.6%と続いた。

【性別】

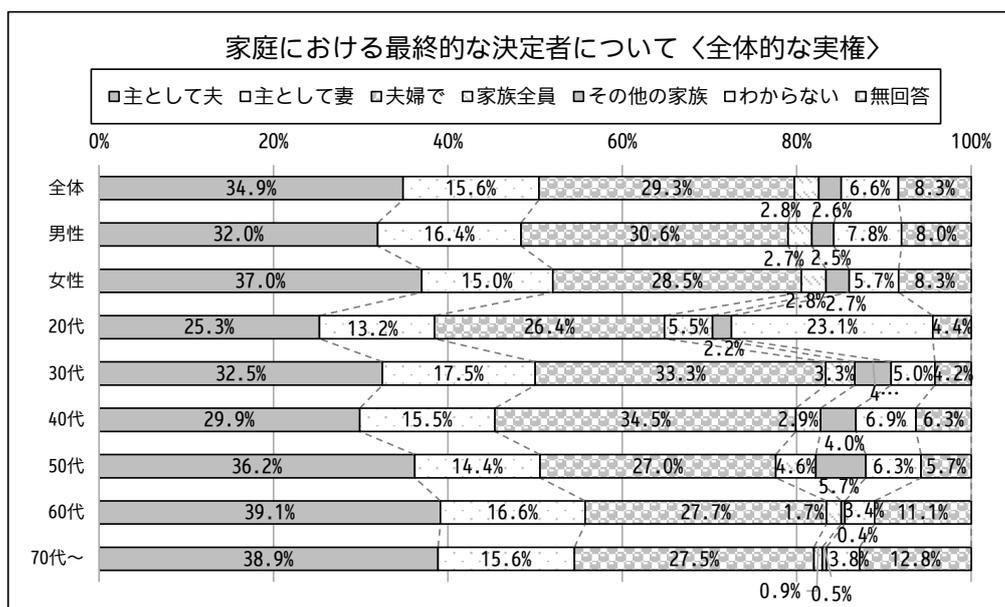
男女とも「主として夫」と回答した割合が最も高い。(男性32.0%、女性37.0%)

【年代別】

年代が高い方が「主として夫」と回答した割合が高い。

【前回調査(平成28年)比較】

「主として夫」(H28 41.3%)「主として妻」(H28 17.0%)と回答した割合は減少しており、「夫婦で」(H28 25.3%)「家族で」(H28 2.1%)と回答した割合は増加した。



(人)

	実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	1,007	351	157	295	28	26	66	84
男性	438	140	72	134	12	11	34	35
女性	565	209	85	161	16	15	32	47
性別無回答	4	2	0	0	0	0	0	2
20代	91	23	12	24	5	2	21	4
30代	120	39	21	40	4	5	6	5
40代	174	52	27	60	5	7	12	11
50代	174	63	25	47	8	10	11	10
60代	235	92	39	65	4	1	8	26
70代~	211	82	33	58	2	1	8	27
年齢無回答	2	0	0	1	0	0	0	1

女性活躍について

問19 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。

【全体】

「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は68.6%、「どちらかといえば活躍していない」又は「活躍していない」と回答した割合は24.4%となり、約7割は仕事や地域活動で「活躍している」と感じている。

【性別】

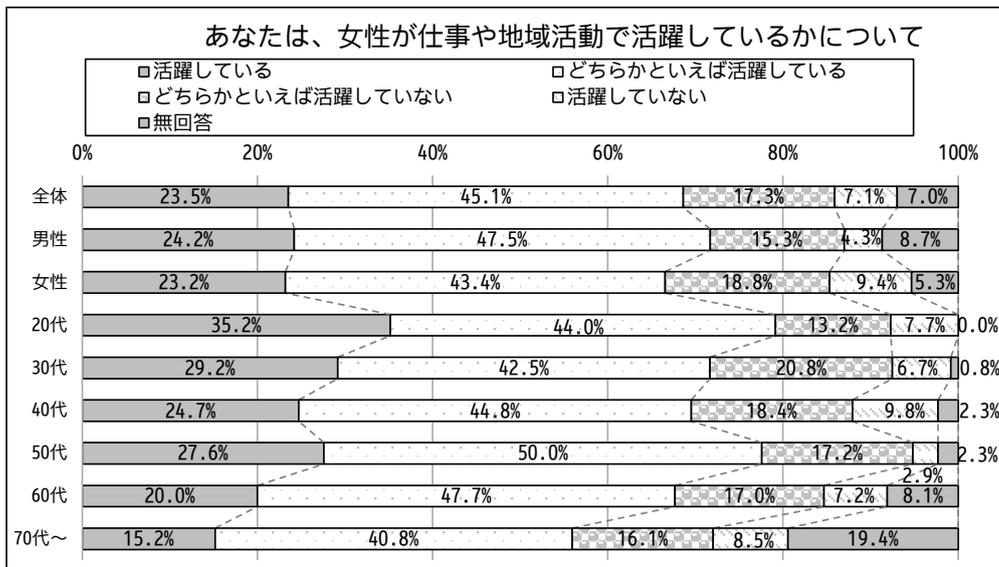
女性より男性の方が「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合が高い。（男性は71.7%、女性は66.6%）

【年代別】

「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は20代が79.2%と最も高いが、70代以上では56.0%と低い。

【前回調査（平成28年）比較】

「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は前回調査とほぼ同率となった。（H28 68.9%）



(人)

	実人数	活躍している	どちらかといえば活躍している	どちらかといえば活躍していない	活躍していない	無回答
全体	1,007	237	454	174	72	70
男性	438	106	208	67	19	38
女性	565	131	245	106	53	30
性別無回答	4	0	1	1	0	2
20代	91	32	40	12	7	0
30代	120	35	51	25	8	1
40代	174	43	78	32	17	4
50代	174	48	87	30	5	4
60代	235	47	112	40	17	19
70代～	211	32	86	34	18	41
年齢無回答	2	0	0	1	0	1

問20 問19のように感じる理由はなぜですか。(複数回答)

問20-① 活躍していると感じている理由は何ですか。

【全体】

「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合が22.5%と最も高く、次いで「1 産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退社が減っている」が17.1%、「2 女性の経営者や管理職が増えている」が13.5%と続いた。

【性別】

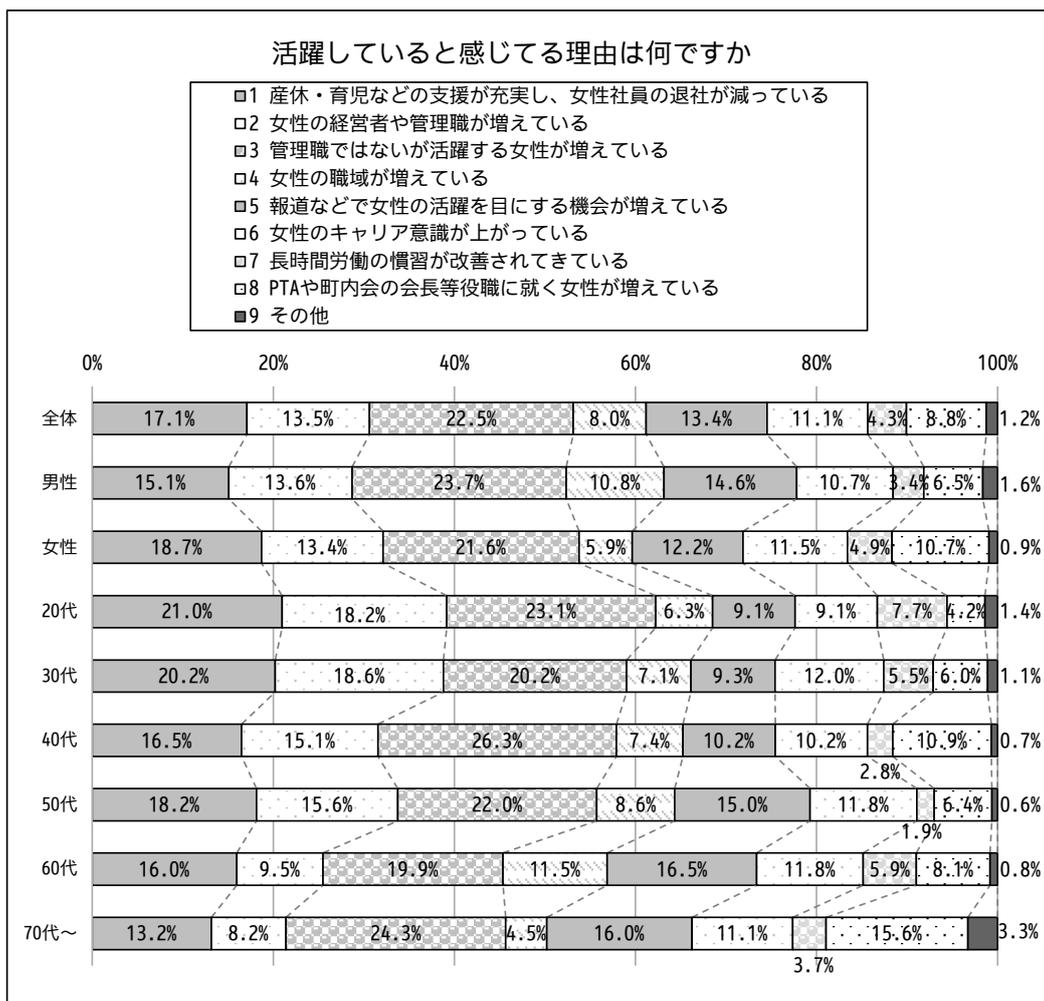
男女とも、「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合が最も高く(男性23.7%、女性21.6%)、次いで「1 産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退社が減っている」(男性15.1%、女性18.7%)と続いた。

【年代別】

すべての年代で「3 管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答した割合が最も高いが、20代、30代では「1 産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退職が減っている」も21.0%、20.2%と高い。

【前回調査(平成28年)比較】

「1 産休・育児などの支援が充実し、女性社員の退社が減っている」(H28 12.0%)、「2 女性の経営者や管理職が増えている」(H28 12.5%)、「7 長時間労働の慣習が改善されてきている」(H28 2.9%)と回答した割合が増加した。



(上段:人)

	回答実人数	回答総数	1.産休・育児などの支援が充実し、女性の退社が減っている	2.女性の経営者や管理職が増えている	3.管理職ではないが活躍する女性が増えている	4.女性の職域が増えている	5.報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている	6.女性のキャリア意識が上がっている	7.長時間労働の慣習が改善されてきている	8.PTAや町内会の会長等役職に就く女性が増えている	9.その他
全体	688	1,528	261 17.1%	207 13.6%	344 22.5%	123 8.1%	204 13.4%	170 11.1%	65 4.3%	135 8.8%	19 1.2%
男性	316	676	102 15.1%	92 13.6%	160 23.7%	73 10.8%	99 14.6%	72 10.7%	23 3.4%	44 6.5%	11 1.6%
女性	371	850	159 18.7%	114 13.4%	184 21.7%	50 5.9%	104 12.2%	98 11.5%	42 4.9%	91 10.7%	8 0.9%
20代	73	143	30 21.0%	26 18.2%	33 23.1%	9 6.3%	13 9.1%	13 9.1%	11 7.7%	6 4.2%	2 1.4%
30代	86	183	37 20.2%	34 18.6%	37 20.2%	13 7.1%	17 9.3%	22 12.0%	10 5.5%	11 6.0%	2 1.1%
40代	123	285	47 16.5%	43 15.1%	75 26.3%	21 7.4%	29 10.2%	29 10.2%	8 2.8%	31 10.9%	2 0.7%
50代	135	314	57 18.2%	49 15.6%	69 22.0%	27 8.6%	47 15.0%	37 11.8%	6 1.9%	20 6.4%	2 0.6%
60代	156	357	57 16.0%	34 9.5%	71 19.9%	41 11.5%	59 16.5%	42 11.8%	21 5.9%	29 8.1%	3 0.8%
70代～	114	243	32 13.2%	20 8.2%	59 24.3%	11 4.5%	39 16.1%	27 11.1%	9 3.7%	38 15.6%	8 3.3%

問20-② 活躍していないと感じている理由は何ですか。

【全体】

「7 男性優位の考え方が変わっていない」と回答した割合が18.2%と最も高く、次いで「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が17.3%、「2 産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい」及び「3 女性の経営者や管理職は少ない」が11.8%と続いた。

【性別】

男性は、「7 男性優位の考え方が変わっていない」が16.4%と最も高く、次いで「2 産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい」が15.3%と続いた。

女性は、「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が19.9%と最も高く、次いで「7 男性優位の考え方が変わっていない」が18.9%と続いた。

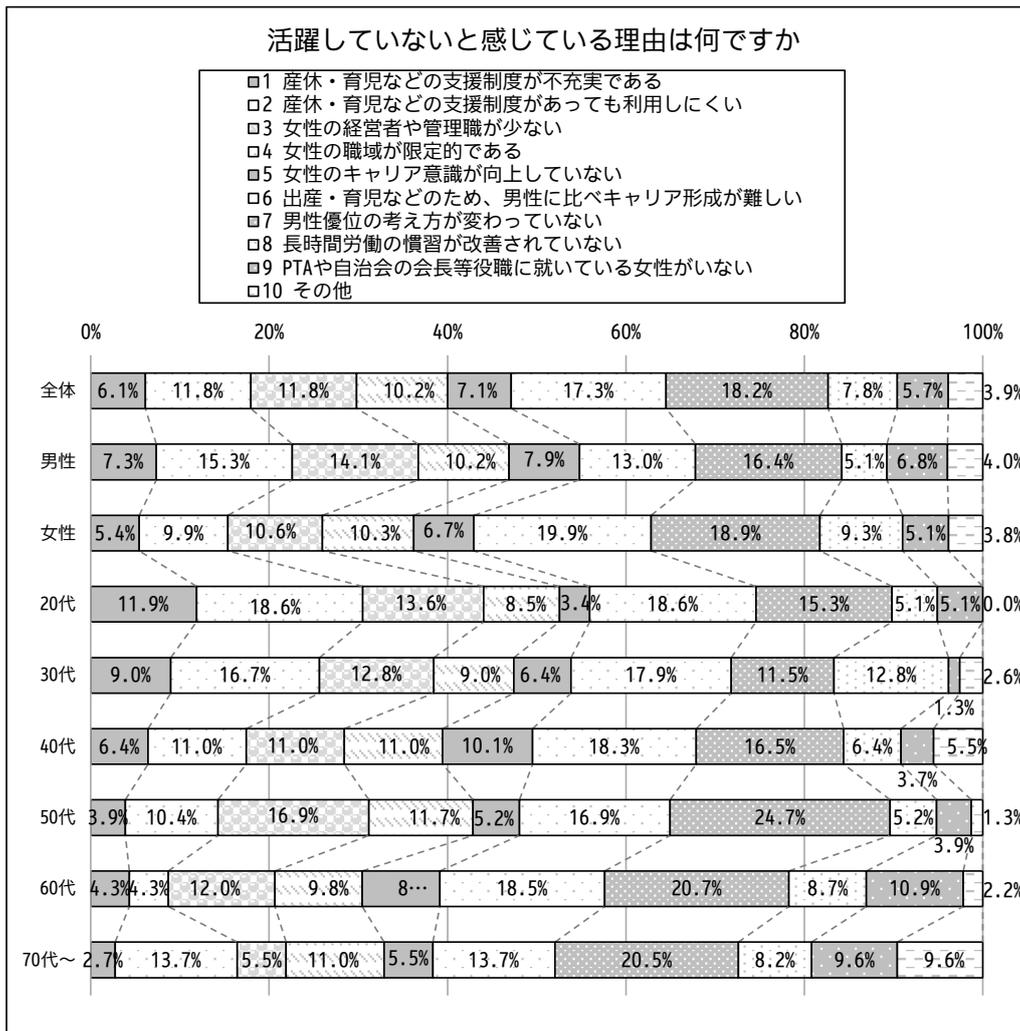
【年代別】

20～40代では「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」、「2 産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい」と回答した割合も高かった。また、50代以上の年代においては、「7 男性優位の考え方が変わっていない」と回答した割合が高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

前回同様「7 男性優位の考え方が変わっていない」と回答した割合が最も高かった。

なお、「2 産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい」（H28 10.4%）、「3 女性の経営者や管理職が少ない」（H28 11.6%）、「5 女性のキャリア意識が向上していない」（H28 6.5%）、「6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」（H28 16.5%）と回答した割合は増加した。



(上段:人)

	回答実人数	回答総数	1.産休・育児などの支援制度が不充実である	2.産休・育児などの支援制度があっても利用しにくい	3.女性の経営者や管理職が少ない	4.女性の職域が限定的である	5.女性のキャリア意識が向上していない	6.出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい	7.男性優位の考え方が変わっていない	8.長時間労働の慣習が改善されていない	9.PTAや自治会の会長等役職に就いていない女性が多い	10.その他
全体	241	490	30 6.1%	58 11.8%	58 11.8%	50 10.2%	35 7.1%	85 17.4%	89 18.2%	38 7.8%	28 5.7%	19 3.9%
男性	92	177	13 7.3%	27 15.3%	25 14.1%	18 10.2%	14 7.9%	23 13.0%	29 16.4%	9 5.1%	12 6.8%	7 4.0%
女性	148	312	17 5.5%	31 9.9%	33 10.6%	32 10.3%	21 6.7%	62 19.9%	59 18.9%	29 9.3%	16 5.1%	12 3.9%
20代	20	59	7 11.9%	11 18.6%	8 13.6%	5 8.5%	2 3.4%	11 18.6%	9 15.3%	3 5.1%	3 5.1%	0 0.0%
30代	35	78	7 9.0%	13 16.7%	10 12.8%	7 9.0%	5 6.4%	14 18.0%	9 11.5%	10 12.8%	1 1.3%	2 2.6%
40代	53	109	7 6.4%	12 11.0%	12 11.0%	12 11.0%	11 10.1%	20 18.4%	18 16.5%	7 6.4%	4 3.7%	6 5.5%
50代	40	77	3 3.9%	8 10.4%	13 16.9%	9 11.7%	4 5.2%	13 16.9%	19 24.7%	4 5.2%	3 3.9%	1 1.3%
60代	52	92	4 4.4%	4 4.4%	11 12.0%	9 9.8%	8 8.7%	17 18.5%	19 20.7%	8 8.7%	10 10.9%	2 2.2%
70代~	40	73	2 2.7%	10 13.7%	4 5.5%	8 11.0%	4 5.5%	10 13.7%	15 20.6%	6 8.2%	7 9.6%	7 9.6%

問21 女性が活躍するにはどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

【全体】

「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」と回答した割合が21.8%で最も高く、次いで「2 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が18.7%、「9 保育施設が充実していること」が14.3%、「6 仕事が適正に評価されていること」が12.2%と続いた。

【性別】

男女ともに「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が最も高くなった。(男性20.2% 女性22.9%)

【年代別】

すべての年代で「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」、「2 職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」、「9 保育施設が充実していること」と回答した割合が高かった。また、50代は「6 仕事が適正に評価されていること」と回答した割合が他の年代に比べ高かった。

【前回調査(平成28年)比較】

「8 キャリア形成のための研修制度があること」(H28 1.2%)、「3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」(H28 20.2%)と回答した割合が増加した。



(上段:人)

	回答実人数	回答総数	1. 企業トップが女性の活躍推進に積極的であること	2. 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること	3. 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること	4. 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること	5. 身近に活躍している女性がいること	6. 仕事 that 適正に評価されていること	7. 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること	8. キャリア形成のための研修制度があること	9. 保育施設が充実していること	10. 国や地方自治体など行政による企業支援があること	11. 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること	12. わからない	13. その他
全体	1,007	2,632	223 8.5%	493 18.7%	573 21.8%	210 8.0%	74 2.8%	321 12.2%	100 3.8%	48 1.8%	376 14.3%	90 3.4%	72 2.7%	34 1.3%	18 0.7%
男性	438	1,112	110 9.9%	212 19.1%	225 20.2%	82 7.4%	38 3.4%	140 12.6%	43 3.9%	20 1.8%	144 13.0%	37 3.3%	40 3.6%	15 1.4%	6 0.5%
女性	565	1,514	113 7.5%	279 18.4%	347 22.9%	128 8.5%	36 2.4%	180 11.9%	57 3.8%	28 1.9%	232 15.3%	52 3.4%	31 2.1%	19 1.3%	12 0.8%
20代	91	250	14 5.6%	47 18.8%	56 22.4%	29 11.6%	11 4.4%	28 11.2%	9 3.6%	2 0.8%	34 13.6%	11 4.4%	4 1.6%	3 1.2%	2 0.8%
30代	120	341	25 7.3%	55 16.1%	82 24.1%	41 12.0%	9 2.6%	40 11.7%	12 3.5%	6 1.8%	54 15.8%	9 2.6%	4 1.2%	2 0.6%	2 0.6%
40代	174	481	42 8.7%	88 18.3%	115 23.9%	41 8.5%	16 3.3%	57 11.9%	17 3.5%	8 1.7%	61 12.7%	17 3.5%	8 1.7%	5 1.0%	6 1.3%
50代	174	482	47 9.8%	90 18.7%	98 20.3%	26 5.4%	13 2.7%	73 15.2%	19 3.9%	11 2.3%	71 14.7%	19 3.9%	8 1.7%	4 0.8%	3 0.6%
60代	235	622	61 9.8%	112 18.0%	134 21.5%	43 6.9%	17 2.7%	70 11.3%	26 4.2%	12 1.9%	89 14.3%	22 3.5%	24 3.9%	8 1.3%	4 0.6%
70代～	211	454	34 7.5%	101 22.3%	88 19.4%	29 6.4%	8 1.8%	53 11.7%	17 3.7%	9 2.0%	67 14.8%	12 2.6%	24 5.3%	12 2.6%	0 0.0%

政策決定の場への参画について

問22 あなたは、女性が政策決定の場へ参画することについて、どう思いますか。

問22-1 都道府県、市（区）町村の首長

【全体】

「賛成」と回答した割合が62.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が27.0%と続いた。

【性別】

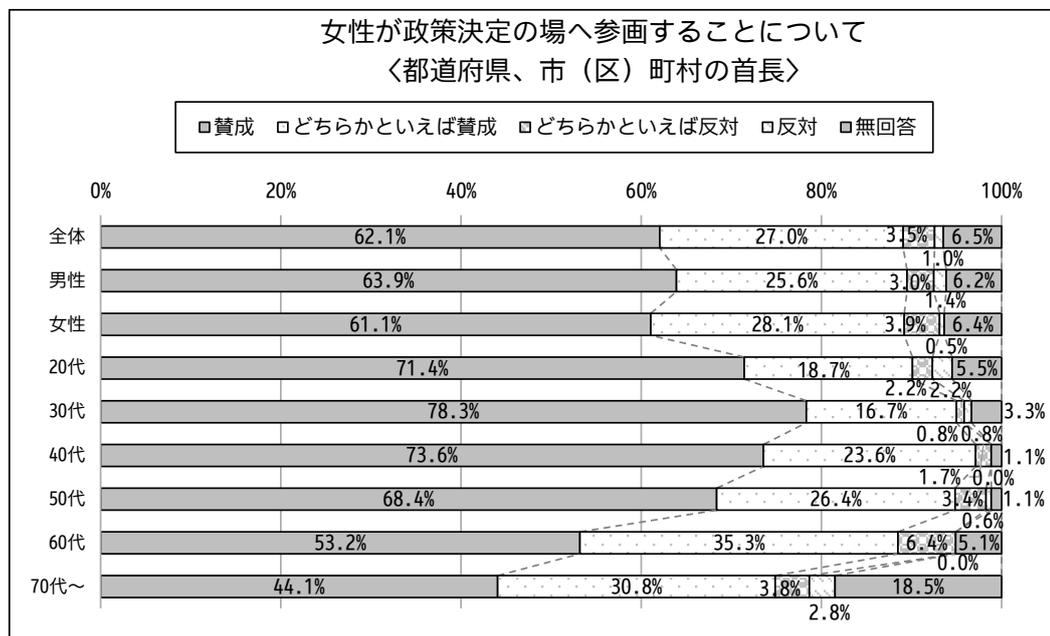
「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、男性は89.5%、女性は89.2%とほぼ同率となった。

【年代別】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、40代が97.2%と最も高く、次いで30代が95.0%、50代が94.8%と続いた。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」と回答した割合が増加した。（H28 62.1%）



(人)

	実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	1,007	625	272	35	10	65
男性	438	280	112	13	6	27
女性	565	345	159	22	3	36
性別無回答	4	0	1	0	1	2
20代	91	65	17	2	2	5
30代	120	94	20	1	1	4
40代	174	128	41	3	0	2
50代	174	119	46	6	1	2
60代	235	125	83	15	0	12
70代~	211	93	65	8	6	39
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問22-2 国会、都道府県議会、市（区）町村議会の議員

【全体】

「賛成」と回答した割合が、62.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が28.1%と続いた。

【性別】

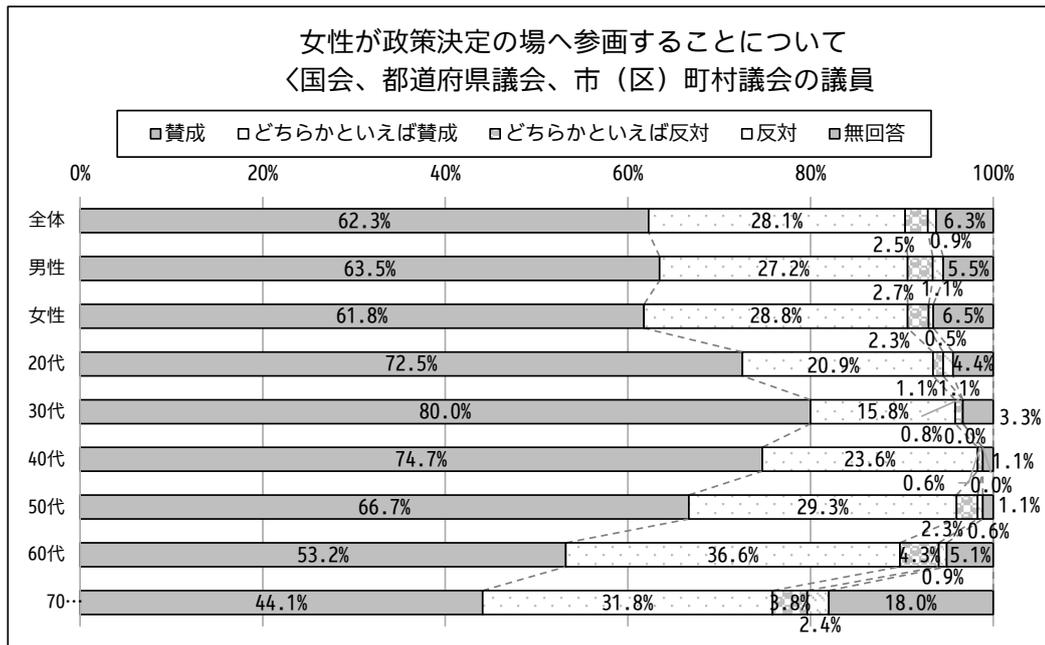
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、男性は90.7%、女性は90.6%とほぼ同率となった。

【年代別】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、40代が98.3%と最も高く、次いで50代が96.0%、30代が95.8%と続いた。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」と回答した割合が増加した。（H28 56.8%）



(人)

	実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	1,007	627	283	25	9	63
男性	438	278	119	12	5	24
女性	565	349	163	13	3	37
性別無回答	4	0	1	0	1	2
20代	91	66	19	1	1	4
30代	120	96	19	1	0	4
40代	174	130	41	1	0	2
50代	174	116	51	4	1	2
60代	235	125	86	10	2	12
70代～	211	93	67	8	5	38
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問22-3 官公庁、民間企業などの管理職

【全体】

「賛成」と回答した割合が62.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が27.3%と続いた。

【性別】

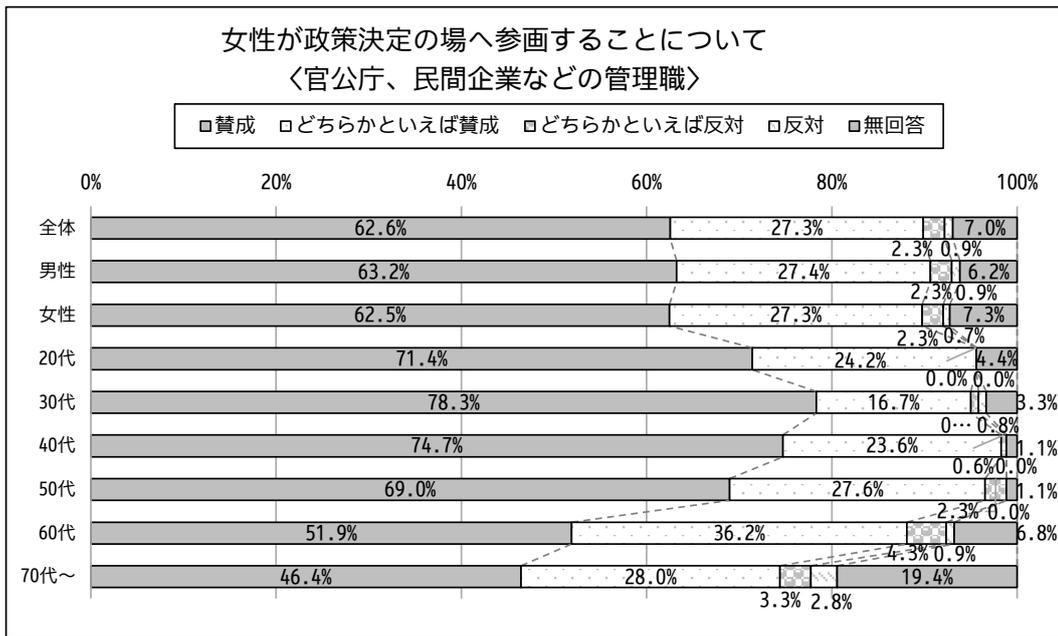
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、男性は90.6%、女性は89.8%とほぼ同率となった。

【年代別】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、40代が98.3%と最も高く、次いで50代が96.6%、20代が95.6%と続いた。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」と回答した割合が増加した。（H28 55.6%）



(人)

	実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	1,007	630	275	23	9	70
男性	438	277	120	10	4	27
女性	565	353	154	13	4	41
性別無回答	4	0	1	0	1	2
20代	91	65	22	0	0	4
30代	120	94	20	1	1	4
40代	174	130	41	1	0	2
50代	174	120	48	4	0	2
60代	235	122	85	10	2	16
70代～	211	98	59	7	6	41
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問22-4 PTAや自治会の会長、商工会などの団体役員

【全体】

「賛成」と回答した割合が62.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が28.2%と続いた。

【性別】

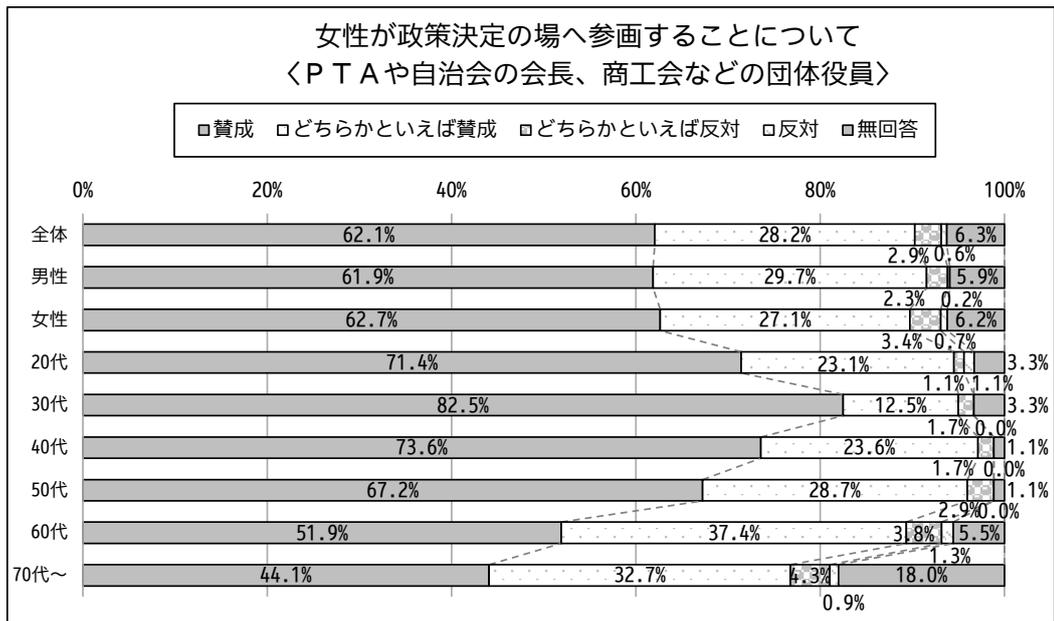
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、男性は91.6%、女性は89.8%とほぼ同率となった。

【年代別】

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、40代が97.2%と最も高く、次いで50代が95.9%、30代が95.0%と続いた。

【前回調査（平成28年）比較】

「賛成」と回答した割合が増加した。（H28 53.8%）



(人)

	実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	1,007	625	284	29	6	63
男性	438	271	130	10	1	26
女性	565	354	153	19	4	35
性別無回答	4	0	1	0	1	2
20代	91	65	21	1	1	3
30代	120	99	15	2	0	4
40代	174	128	41	3	0	2
50代	174	117	50	5	0	2
60代	235	122	88	9	3	13
70代～	211	93	69	9	2	38
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問23 政治分野における女性活躍として、女性の議員が増加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。

【全体】

「3 家族、パートナー等によるサポート」及び「5 家庭生活との両立のための各種制度（休暇等）の整備」と回答した割合が25.0%と最も高かった。

【性別】

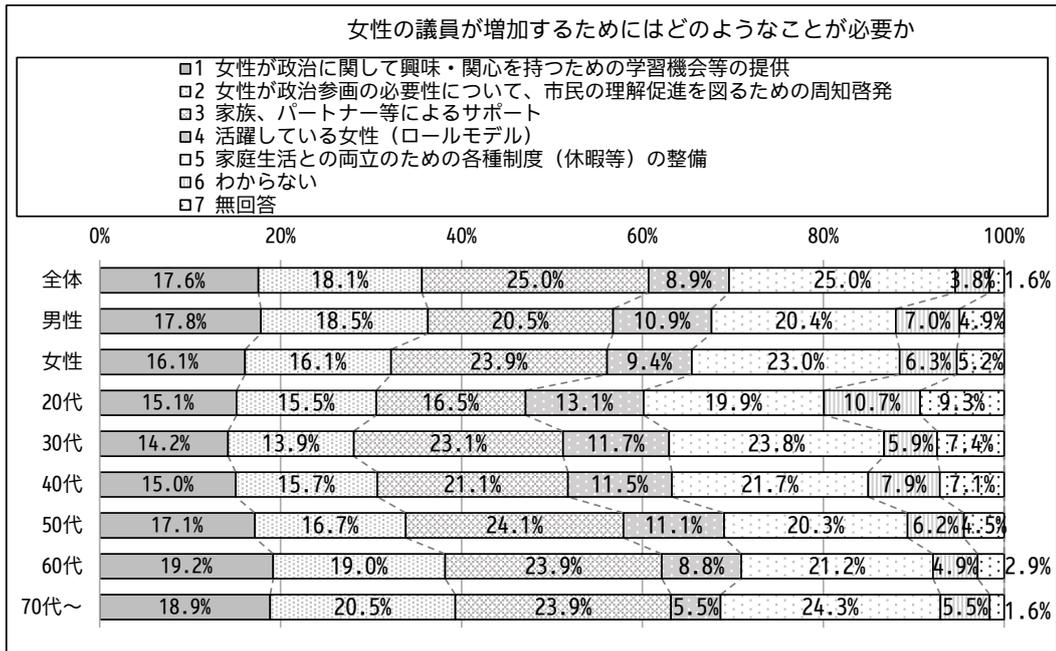
「3 家族、パートナー等によるサポート」及び「5 家庭生活との両立のための各種制度（休暇等）の整備」と回答した割合が、男性(40.9)より女性(46.9%)の方が高かった。

【年代別】

すべての年代において「3 家族、パートナー等によるサポート」及び「5 家庭生活との両立のための各種制度（休暇等）の整備」と回答した割合が高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

令和2年度新規調査項目



(人)

	回答実人数	回答総数	1 女性が政治に関して興味・関心を持つための学習機会等の提供	2 女性が政治参画の必要性について、市民の理解促進を図るための周知啓発	3 家族、パートナー等によるサポート	4 活躍している女性（ロールモデル）	5 家庭生活との両立のための各種制度（休暇等）の整備	6 わからない	7 無回答
全体	1,007	2,068	363	374	518	184	517	78	34
男性	438	1,094	195	202	224	119	223	77	54
女性	565	1,437	231	232	343	135	330	91	75
性別無回答	4	6	2	1	2	0	1	0	0
20代	91	291	44	45	48	38	58	31	27
30代	120	324	46	45	75	38	77	19	24
40代	174	479	72	75	101	55	104	38	34
50代	174	449	77	75	108	50	91	28	20
60代	235	547	105	104	131	48	116	27	16
70代～	211	440	83	90	105	24	107	24	7
年齢無回答	2	7	1	1	1	1	1	1	1

就業について

問24 働いている方にお聞きします。今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。

【全体】

「そのようなことはないと思う」と回答した割合が、66.5%で最も高く、次いで「女性が差別されていると思う」が15.1%と続いた。

【性別】

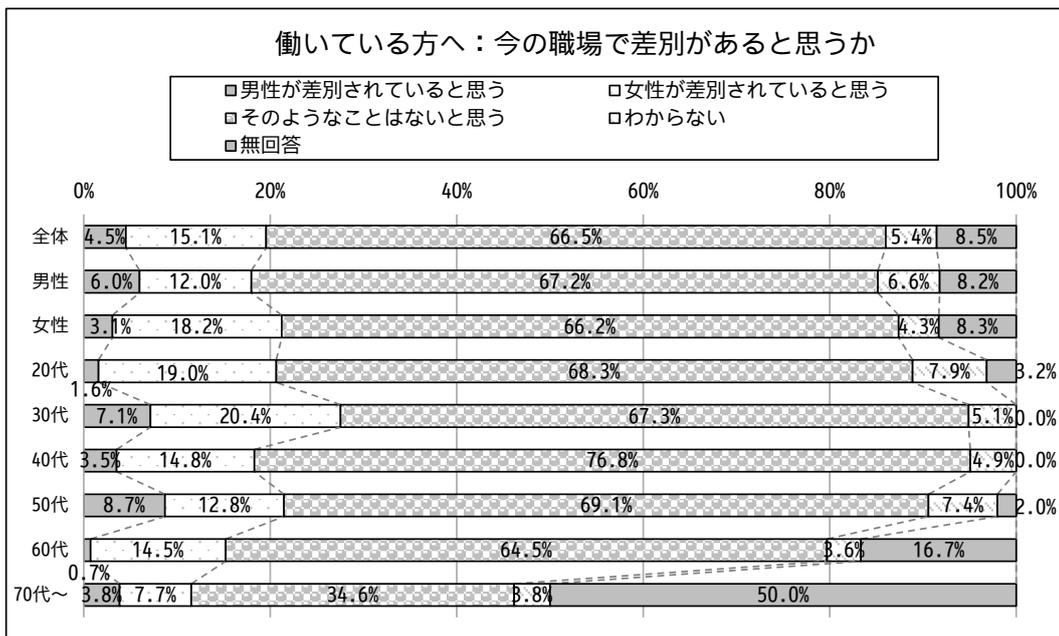
「そのようなことはないと思う」と回答した割合が男性67.2%、女性66.2%とほぼ同率となった。

【年代別】

20代、30代においては、女性が差別されていると思うと回答した割合が高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

「そのようなことはないと思う」と回答した割合が増加した。（H28 66.0%）



(人)

	実人数	男性が差別されていると思う	女性が差別されていると思う	そのようなことはないと思う	わからない	無回答
全体	644	29	97	428	35	55
男性	317	19	38	213	21	26
女性	325	10	59	215	14	27
性別無回答	2	0	0	0	0	2
20代	63	1	12	43	5	2
30代	98	7	20	66	5	0
40代	142	5	21	109	7	0
50代	149	13	19	103	11	3
60代	138	1	20	89	5	23
70代～	52	2	4	18	2	26
年齢無回答	2	0	1	0	0	1

問25 問24で「差別されていると思う」と答えた方にお聞きます。それは、具体的にどのようなことですか。（複数回答）

【全体】

「賃金に差がある」と回答した割合が27.8%と最も高く、次いで「昇進、昇格に差がある」が24.1%、「能力を適正に評価しない」が22.6%となった。

【性別】

男女ともに「賃金に差がある」（男性30.2%、女性26.0%）、次いで「昇進、昇格に差がある」（男性24.1%、女性24.0%）と回答した割合が高かった。

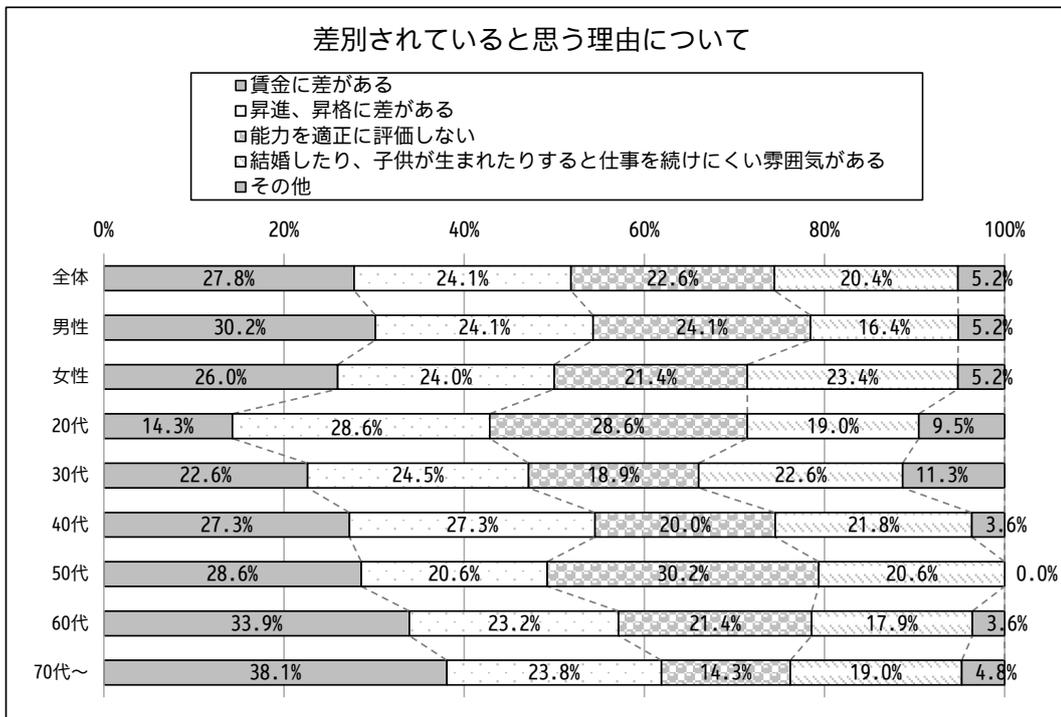
一方で、女性は「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」と回答した割合が23.4%と高かった。

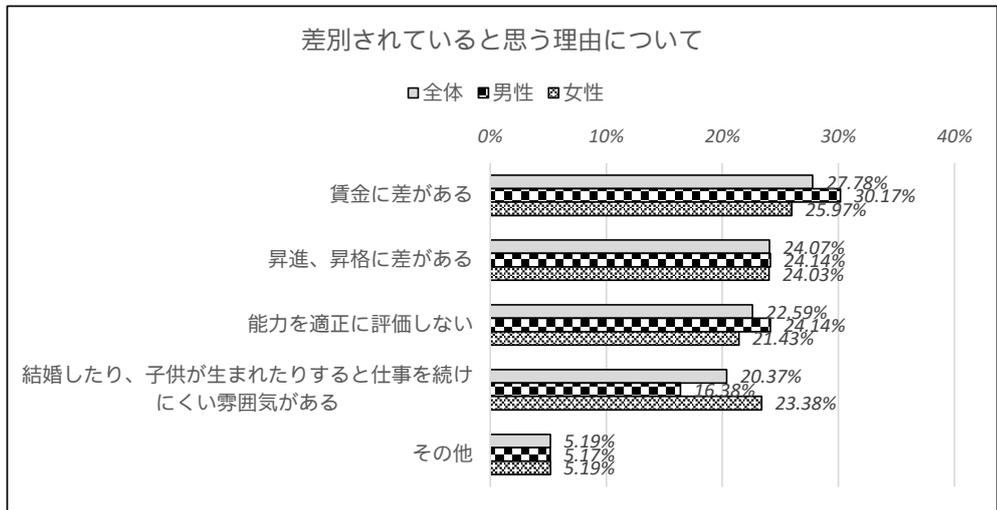
【年代別】

20代では、「賃金に差がある」と回答した割合は他の年代に比べ低いものの、「昇進、昇格に差がある」「能力を適正に評価しない」がともに28.6%と高くなっている。

【前回調査（平成28年）比較】

「昇進、昇格に差がある」と回答した割合が減少（H28 28.4%）し、「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある」と回答した割合が増加した。（H28 15.8%）





(上段:人)

	回答実人数	回答総数	賃金に差がある	昇進、昇格に差がある	能力を適正に評価しない	結婚したり、子供が生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある	その他
全体	150	270	75 27.8%	65 24.1%	61 22.6%	55 20.4%	14 5.2%
男性	69	116	35 30.2%	28 24.1%	28 24.1%	19 16.4%	6 5.2%
女性	81	154	40 26.0%	37 24.0%	33 21.4%	36 23.4%	8 5.2%
20代	15	21	3 14.3%	6 28.6%	6 28.6%	4 19.1%	2 9.5%
30代	28	53	12 22.6%	13 24.5%	10 18.9%	12 22.6%	6 11.3%
40代	30	55	15 27.3%	15 27.3%	11 20.0%	12 21.8%	2 3.6%
50代	35	63	18 28.6%	13 20.6%	19 30.2%	13 20.6%	0 0.0%
60代	30	56	19 33.9%	13 23.2%	12 21.4%	10 17.9%	2 3.6%
70代～	11	21	8 38.1%	5 23.8%	3 14.3%	4 19.1%	1 4.8%

男女の働き方と仕事と生活の調和について

問26 仕事と生活について、あなたの考え方にもっとも近いものを教えてください。

＜考え方（理想）＞

【全体】

「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」と回答した割合が、45.9%と最も高く、次いで「4 仕事と家庭生活をともに両立」が、22.6%となった。

【性別】

男女とも「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともにすべてバランス良く行う」と回答した割合が最も高いが、「1 仕事を優先」と回答した割合は、女性より男性の方が高かった。

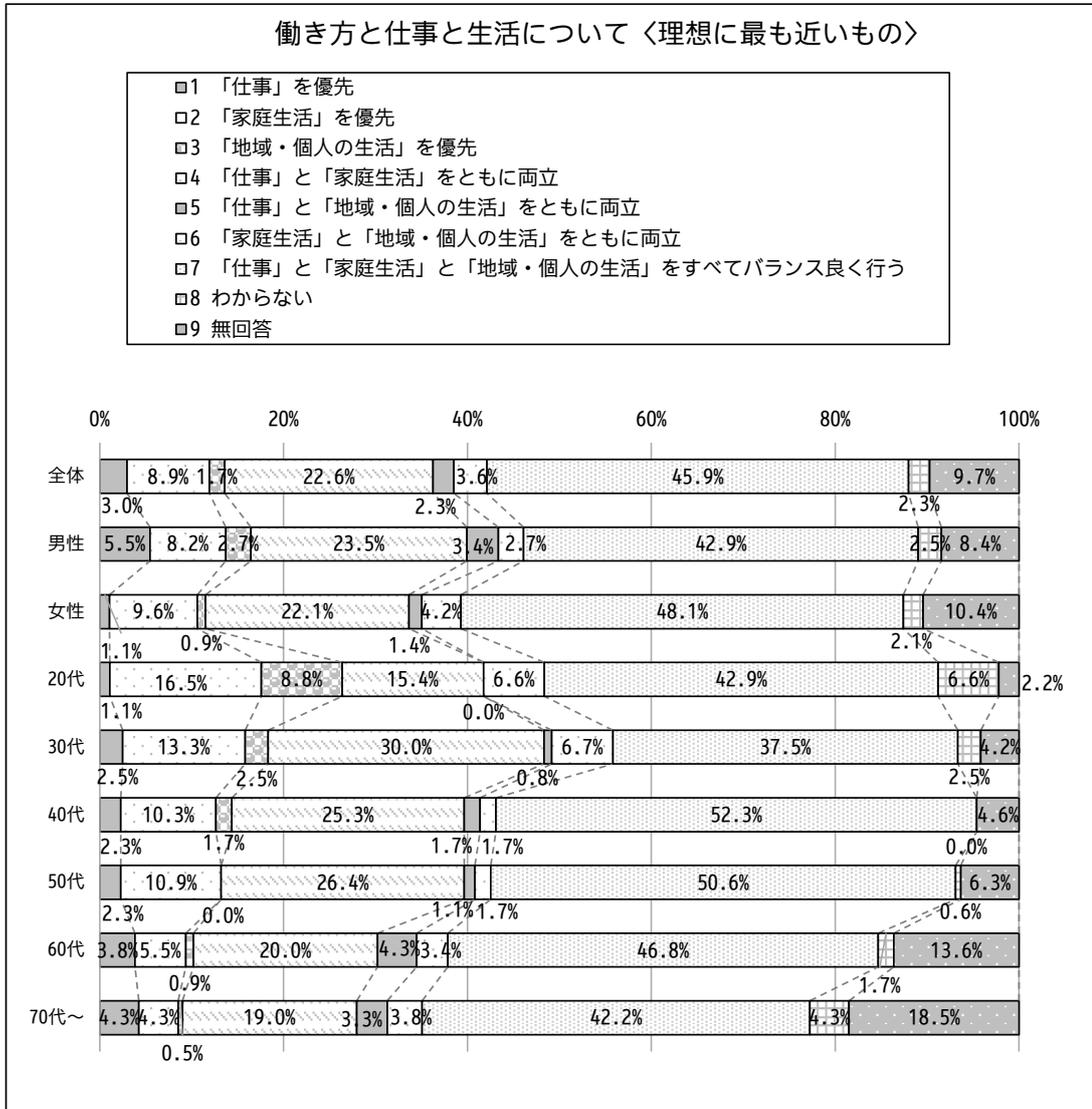
【年代別】

40代、50代で、「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」と回答した割合が52.3%、50.6%と高かった。

また、20代、30代は、「2 家庭生活を優先」、「6「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立」と回答した割合が他の年代よりも高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「7 仕事と家庭生活と地域・個人の生活をすべてバランス良く行う」と回答した割合が増加した。（H28 38.6%）



(人)

	実人数	1. 「仕事」を優先	2. 「家庭生活」を優先	3. 「地域・個人の生活」を優先	4. 「仕事」と「家庭生活」をともに両立	5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	8. わからない	9. 無回答
全体	1007	30	90	17	228	23	36	462	23	98
男性	438	24	36	12	103	15	12	188	11	37
女性	565	6	54	5	125	8	24	272	12	59
20代	91	1	15	8	14	0	6	39	6	2
30代	120	3	16	3	36	1	8	45	3	5
40代	174	4	18	3	44	3	3	91	0	8
50代	174	4	19	0	46	2	3	88	1	11
60代	235	9	13	2	47	10	8	110	4	32
70代～	211	9	9	1	40	7	8	89	9	39

< 現実（現状） >

【全 体】

「1 仕事を優先」と回答した割合が、28.3%で最も高く、次いで「2 仕事と家庭生活をともに両立」が20.9%となった。

【性 別】

男性は「1 仕事を優先」と回答した割合が38.1%、「2 家庭生活を優先」が8.2%となった一方、女性は「1 仕事を優先」が20.7%、「2 家庭生活を優先」が21.2%となった。

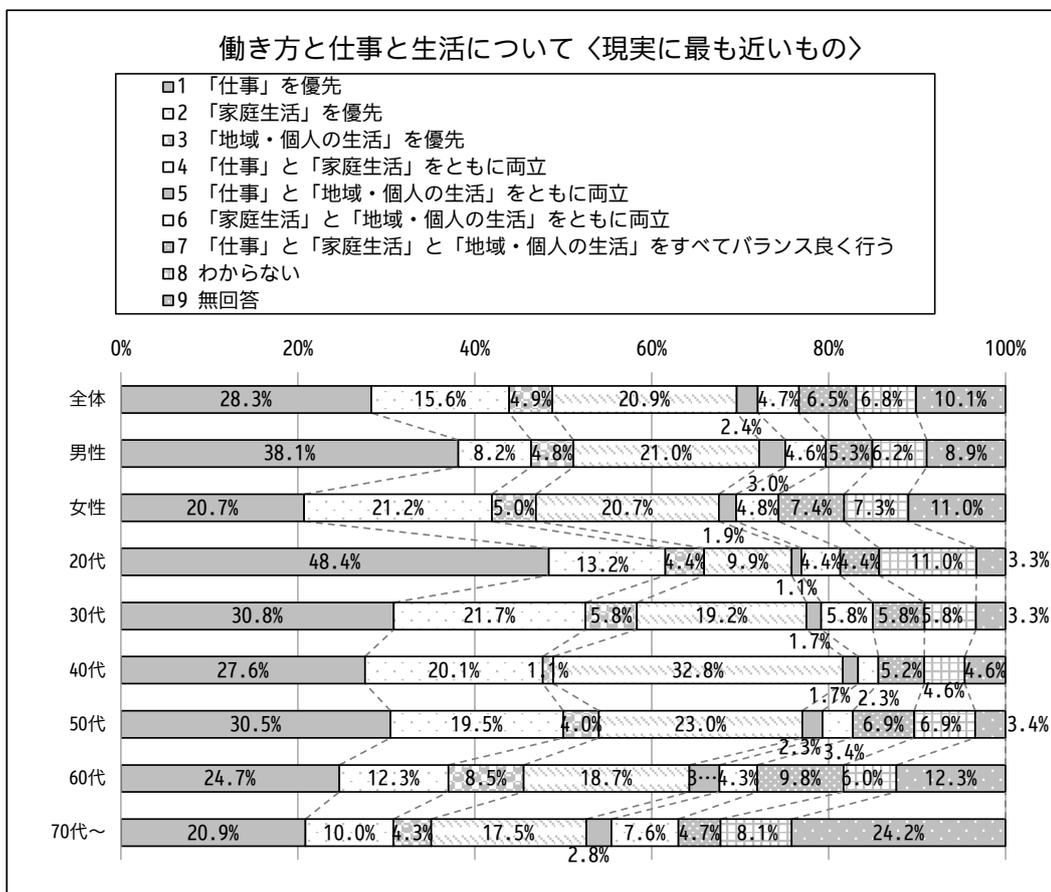
【年代別】

20代では、「1 仕事を優先」と回答した割合が48.4%と半数近くを占めており、次いで30代が30.8%、50代が30.5%と、「1 仕事を優先」している割合が高くなっている。

一方、40代は、「4 仕事と家庭生活をともに両立」と回答した割合が32.8%と高くなった。

【前回調査（平成28年）比較】

「1 仕事を優先」と回答した割合が減少（H28 32.1%）し、「4 仕事と家庭生活を両立」と回答した割合が増加した。（H28 15.7%）



(人)

	実人数	1. 「仕事」を優先	2. 「家庭生活」を優先	3. 「地域・個人の生活」を優先	4. 「仕事」と「家庭生活」をともに両立	5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	8. わからない	9. 無回答
全体	1,007	285	157	49	210	24	47	65	68	102
男性	438	167	36	21	92	13	20	23	27	39
女性	565	117	120	28	117	11	27	42	41	62
20代	91	44	12	4	9	1	4	4	10	3
30代	120	37	26	7	23	2	7	7	7	4
40代	174	48	35	2	57	3	4	9	8	8
50代	174	53	34	7	40	4	6	12	12	6
60代	235	58	29	20	44	8	10	23	14	29
70代～	211	44	21	9	37	6	16	10	17	51
年齢無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1
性別無回答	4	1	1	0	1	0	0	0	0	1

問27 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

【全体】

「3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」と回答した割合が17.7%で最も高く、次いで「1 男性自身の抵抗感をなくすこと」が15.0%、「6 労働時間短縮や休暇制度の普及」が13.1%と続いた。

【性別】

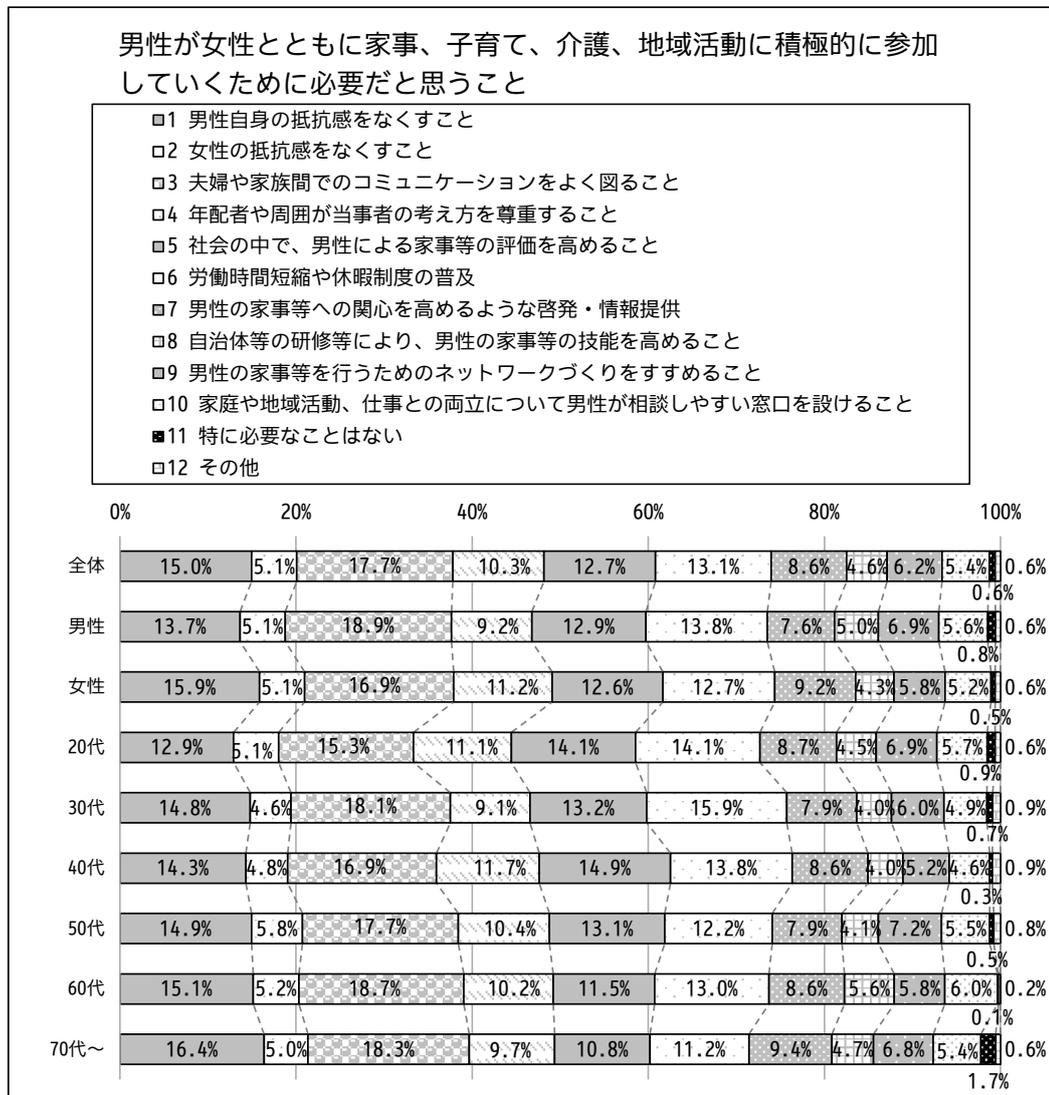
男女とも「3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」と回答した割合が最も高かった。（男性18.9%、女性16.9%）

【年代別】

すべての年代において大きな差はみられない。

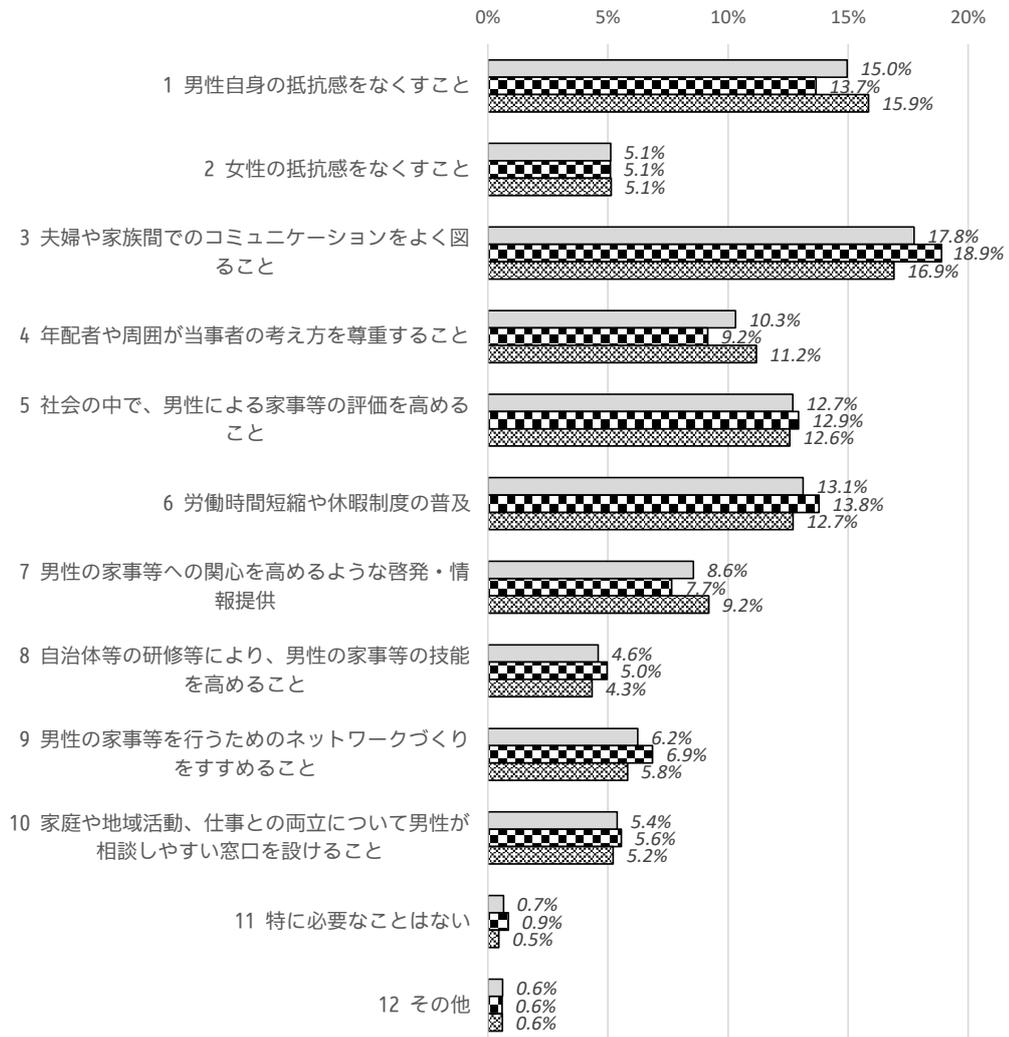
【前回調査（平成28年）比較】

「2 女性の抵抗感をなくすこと」と回答した割合が増加（H28 4.0%）し、「8 自治体等の研修等により、男性の家事等の技能を高めること」と回答した割合が減少した。（H28 5.5%）



男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと

□全体 ■男性 ▨女性



(上段:人)

	回答実人数	回答総数	1. 男性自身の抵抗感をなくすこと	2. 女性の抵抗感をなくすこと	3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	4. 年配者や周囲が当事者の考え方を尊重すること	5. 社会の中で、男性による家事等の評価を高めること	6. 労働時間短縮や休暇制度の普及	7. 男性の家事等への関心を高めるような啓発・情報提供	8. 自治体等の研修等により、男性の家事等の技能を高めること	9. 男性の家事等を行うためのネットワークづくりをすすめること	10. 家庭や地域活動、仕事との両立について男性が相談しやすい窓口を設けること	11. 特に必要なことはない	12. その他
全体	1,007	3,702	554 15.0%	189 5.1%	657 17.8%	382 10.3%	470 12.7%	486 13.1%	317 8.6%	170 4.6%	231 6.2%	199 5.4%	24 0.7%	23 0.6%
男性	438	1,530	209 13.7%	78 5.1%	289 18.9%	140 9.2%	198 12.9%	211 13.8%	117 7.7%	76 5.0%	105 6.9%	85 5.6%	13 0.9%	9 0.6%
女性	565	2,164	343 15.9%	111 5.1%	366 16.9%	242 11.2%	272 12.6%	275 12.7%	199 9.2%	94 4.3%	126 5.8%	113 5.2%	10 0.5%	13 0.6%
20代	91	333	43 12.9%	17 5.1%	51 15.3%	37 11.1%	47 14.1%	47 14.1%	29 8.7%	15 4.5%	23 6.9%	19 5.7%	3 0.9%	2 0.6%
30代	120	453	67 14.8%	21 4.6%	82 18.1%	41 9.1%	60 13.3%	72 15.9%	36 8.0%	18 4.0%	27 6.0%	22 4.9%	3 0.7%	4 0.9%
40代	174	651	93 14.3%	31 4.8%	110 16.9%	76 11.7%	97 14.9%	90 13.8%	56 8.6%	26 4.0%	34 5.2%	30 4.6%	2 0.3%	6 0.9%
50代	174	656	98 14.9%	38 5.8%	116 17.7%	68 10.4%	86 13.1%	80 12.2%	52 7.9%	27 4.1%	47 7.2%	36 5.5%	3 0.5%	5 0.8%
60代	235	886	134 15.1%	46 5.2%	166 18.7%	90 10.2%	102 11.5%	115 13.0%	76 8.6%	50 5.6%	51 5.8%	53 6.0%	1 0.1%	2 0.2%
70代～	211	721	118 16.4%	36 5.0%	132 18.3%	70 9.7%	78 10.8%	81 11.2%	68 9.4%	34 4.7%	49 6.8%	39 5.4%	12 1.7%	4 0.6%

防災について

問28 大規模災害時に備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるためには日常的にどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

【全体】

「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」と回答した割合が、22.7%と最も高く、次いで「2 郡山市地域防災計画に女性、子供、高齢者等の意見を反映する」15.5%、「5 防災について、学習機会の提供」14.0%となった。

【性別】

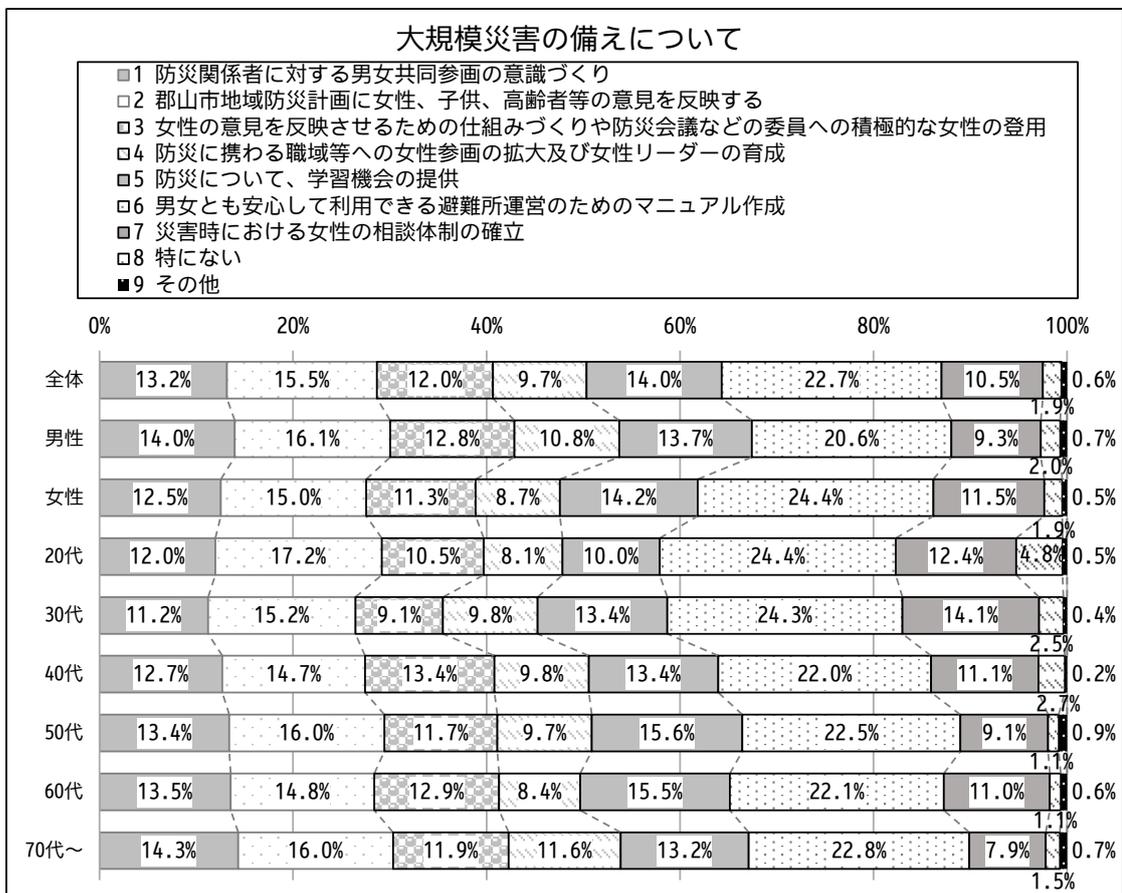
男女ともに「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」、次いで「2 郡山市地域防災計画に女性、子供、高齢者等の意見を反映する」と回答した割合が高かった。

【年代別】

全ての年代において、「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」が最も高かった。

【前回調査（平成28年）比較】

前回同様、「6 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成」と回答した割合が最も高かった。（H28 22.7%）



(上段:人)

	回答実人数	回答総数	1. 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり	2. 郡山市地域防災計画に女性、子供、高齢者等の意見を反映する	3. 女性の意見を反映させるための積極的な取り組みや防災会議などの委員への積極的な女性の登用	4. 防災に携わる職域等への女性参画の拡大及び女性リーダーの育成	5. 防災について、学習機会の提供	6. 男女とも安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成	7. 災害時における女性の相談体制の確立	8. 特になし	9. その他
全体	1,007	2,553	336 13.2%	396 15.5%	306 12.0%	247 9.7%	357 14.0%	580 22.7%	267 10.5%	49 1.9%	15 0.6%
男性	438	1,145	160 14.0%	184 16.1%	147 12.8%	124 10.8%	157 13.7%	236 20.6%	106 9.3%	23 2.0%	8 0.7%
女性	565	1,404	176 12.5%	211 15.0%	159 11.3%	122 8.7%	200 14.3%	342 24.4%	161 11.5%	26 1.9%	7 0.5%
20代	91	209	25 12.0%	36 17.2%	22 10.5%	17 8.1%	21 10.1%	51 24.4%	26 12.4%	10 4.8%	1 0.5%
30代	120	276	31 11.2%	42 15.2%	25 9.1%	27 9.8%	37 13.4%	67 24.3%	39 14.1%	7 2.5%	1 0.4%
40代	174	441	56 12.7%	65 14.7%	59 13.4%	43 9.8%	59 13.4%	97 22.0%	49 11.1%	12 2.7%	1 0.2%
50代	174	462	62 13.4%	74 16.0%	54 11.7%	45 9.7%	72 15.6%	104 22.5%	42 9.1%	5 1.1%	4 0.9%
60代	235	620	84 13.6%	92 14.8%	80 12.9%	52 8.4%	96 15.5%	137 22.1%	68 11.0%	7 1.1%	4 0.7%
70代～	211	544	78 14.3%	87 16.0%	65 12.0%	63 11.6%	72 13.2%	124 22.8%	43 7.9%	8 1.5%	4 0.7%

本市の男女共同参画に関する取り組みについて

問29 『男女共同参画社会』を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

【全体】

「9 子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援」と回答した割合が13.5%と最も高く、次いで「6 保育サービス、介護サービス等の充実」が13.3%、「10 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職支援」が12.2%となった。

【性別】

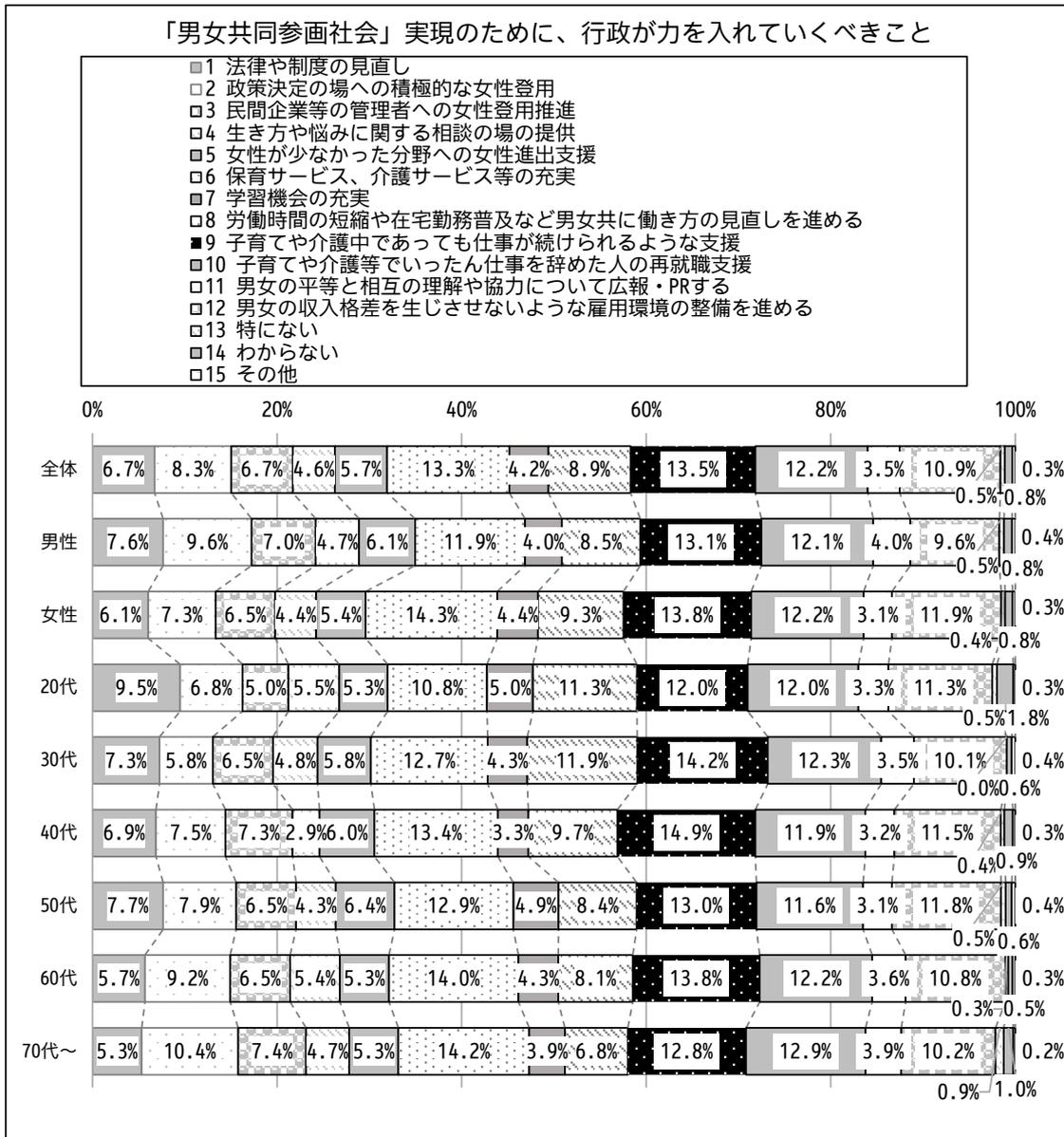
女性は、「6 保育サービス、介護サービス等の充実」と回答した割合が14.3%と最も高く、男性は、「9 子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援」が13.1%と最も高かった。

【年代別】

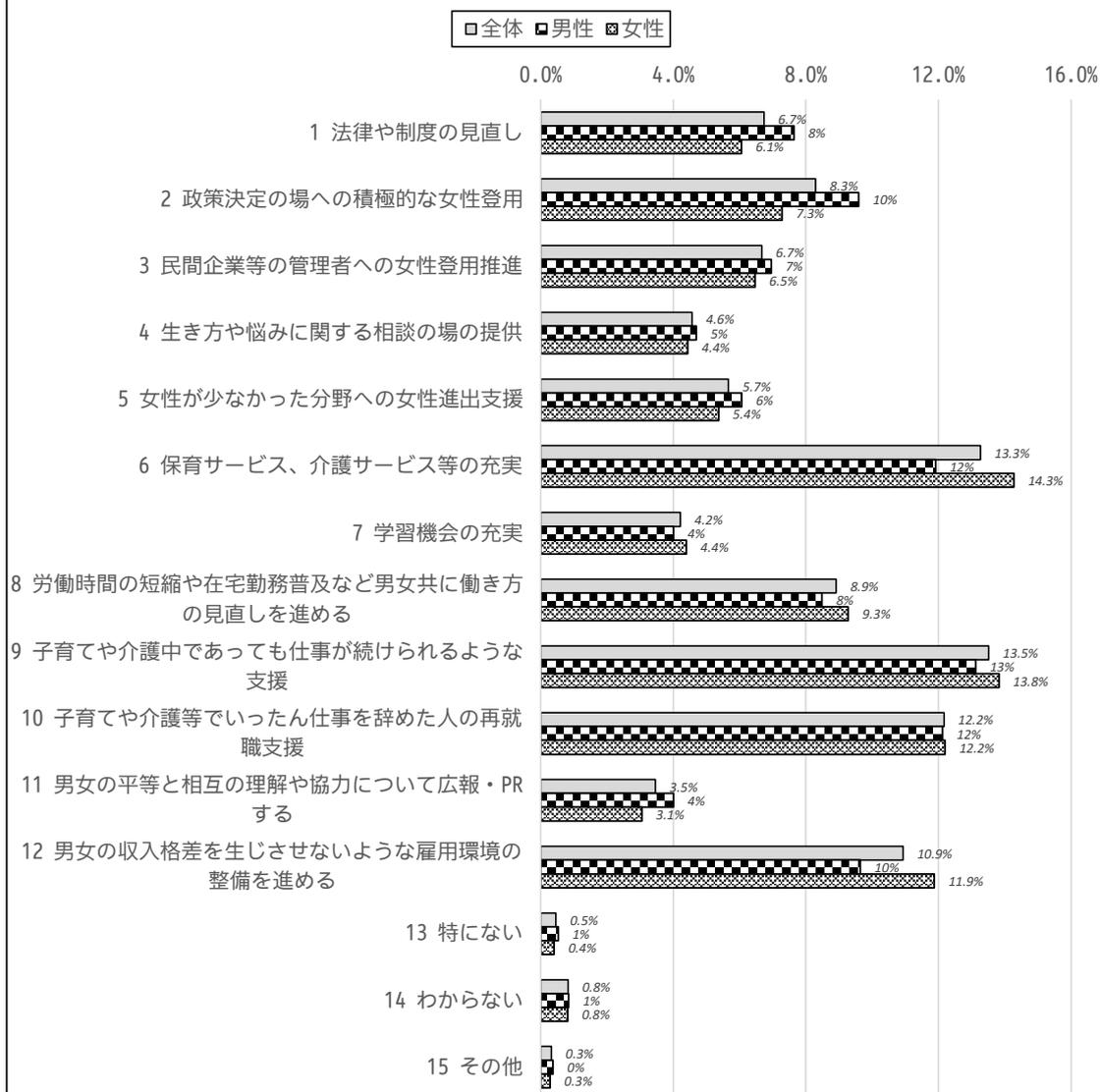
年代による大きな差は見られない。

【前回調査（平成28年）比較】

前回に比べ、「2 政策決定の場への積極的な女性登用」（H28 6.8%）、「5 女性が少なかった分野への女性進出支援」（H28 4.7%）と回答した割合が増加した。



「男女共同参画社会」実現のために、行政が力を入れるべきこと



(上段:人)

	回答者人数	回答総数	1. 法律や制度の見直し	2. 政策決定の場への積極的な女性登用	3. 民間企業等の管理者への女性登用推進	4. 生き方や悩みに関する相談の場の提供	5. 女性が少なかった分野への女性進出支援	6. 保育サービス、介護サービス等の充実	7. 学習機会の充実	8. 労働時間の短縮や在宅勤務普及など男女共に働き方の見直しを進める	9. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援	10. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職支援	11. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	12. 男女の収入格差を生じさせないような雇用環境の整備を進める	13. 特にない	14. わからない	15. その他
全体	1,007	4,364	294 6.7%	362 8.3%	291 6.7%	199 4.6%	247 5.7%	579 13.3%	184 4.2%	389 8.9%	590 13.5%	531 12.2%	151 3.5%	477 10.9%	20 0.5%	36 0.8%	14 0.3%
男性	438	2,459	145 7.6%	182 9.6%	132 7.0%	89 4.7%	115 6.1%	226 11.9%	76 4.0%	161 8.5%	249 13.1%	230 12.1%	76 4.0%	183 9.7%	10 0.5%	16 0.8%	7 0.4%
女性	565	537	149 6.1%	179 7.3%	159 6.5%	109 4.4%	132 5.4%	351 14.3%	108 4.4%	228 9.3%	340 13.8%	300 12.2%	75 3.1%	292 11.9%	10 0.4%	20 0.8%	7 0.3%
20代	91	770	38 9.5%	27 6.8%	20 5.0%	22 5.5%	21 5.3%	43 10.8%	20 5.0%	45 11.3%	48 12.0%	48 12.0%	13 3.3%	45 11.3%	2 0.5%	7 1.8%	1 0.3%
30代	120	537	39 7.3%	31 5.8%	35 6.5%	26 4.8%	31 5.8%	68 12.7%	23 4.3%	64 11.9%	76 14.2%	66 12.3%	19 3.5%	54 10.1%	0 0.0%	3 0.6%	2 0.4%
40代	174	756	52 6.9%	57 7.5%	55 7.3%	22 2.9%	45 6.0%	101 13.4%	25 3.3%	73 9.7%	113 15.0%	90 11.9%	24 3.2%	87 11.5%	3 0.4%	7 0.9%	2 0.3%
50代	174	770	59 7.7%	61 7.9%	50 6.5%	33 4.3%	49 6.4%	99 12.9%	38 4.9%	65 8.4%	100 13.0%	89 11.6%	24 3.1%	91 11.8%	4 0.5%	5 0.7%	3 0.4%
60代	235	1,018	58 5.7%	94 9.2%	66 6.5%	55 5.4%	54 5.3%	143 14.1%	44 4.3%	82 8.1%	140 13.8%	124 12.2%	37 3.6%	110 10.8%	3 0.3%	5 0.5%	3 0.3%
70代~	211	881	47 5.3%	92 10.4%	65 7.4%	41 4.7%	47 5.3%	125 14.2%	34 3.9%	60 6.8%	113 12.8%	114 12.9%	34 3.9%	90 10.2%	8 0.9%	9 1.0%	2 0.2%

問30 あなたは、郡山市の男女共同参画推進の取り組みについてご存知ですか。

問30-1 郡山市男女共同参画推進条例

【全体】

「まったく知らない」と回答した割合が48.0%で最も高く、次いで「なんとなく聞いたことがある」が27.4%、「名前程度は知っている」が20.2%となった。

【性別】

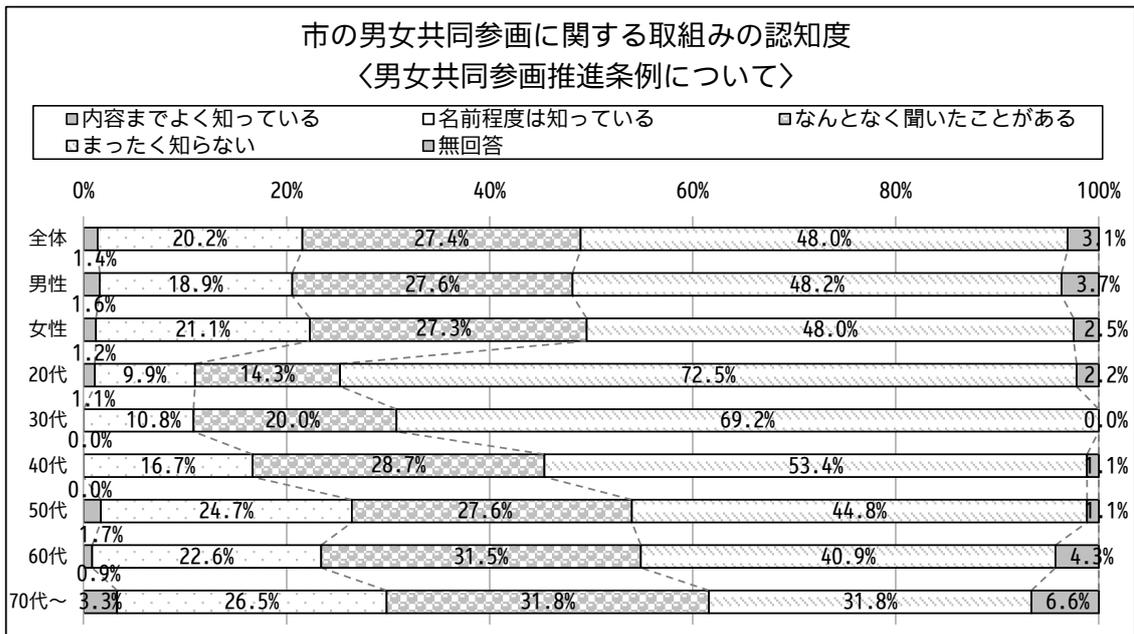
「内容までよく知っている」又は「名前程度は知っている」と回答した割合は、男性21.6%、女性22.3%であり、わずかに女性が高い。

【年代別】

若い世代ほど「まったく知らない」と回答した割合が高い。

【前回調査（平成28年）比較】

前回同様、「まったく知らない」と回答した割合が最も高く、約5割を占めている。
(H28 45.2%)



(人)

	実人数	内容までよく知っている	名前程度は知っている	なんとなく聞いたことがある	まったく知らない	無回答
全体	1007	14	203	276	483	31
男性	438	7	83	121	211	16
女性	565	7	119	154	271	14
性別無回答	4	0	1	1	1	1
20代	91	1	9	13	66	2
30代	120	0	13	24	83	0
40代	174	0	29	50	93	2
50代	174	3	43	48	78	2
60代	235	2	53	74	96	10
70代～	211	7	56	67	67	14
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問30-2 こおりやま男女共同参画プラン

【全体】

「まったく知らない」と回答した割合が49.7%で最も高く、次いで「何となく聞いたことがある」25.4%、「名前程度は知っている」20.0%となった。

【性別】

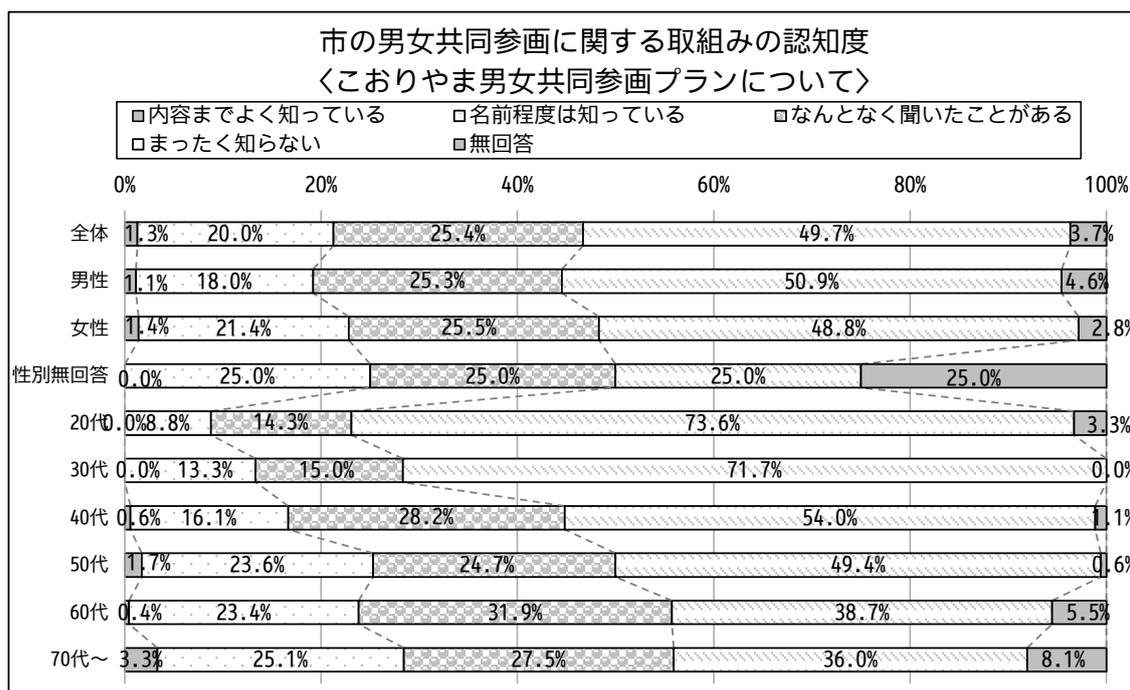
「内容までよく知っている」又は「名前程度は知っている」と回答した割合は、男性21.3%、女性22.8%であり、わずかに女性が高い。

【年代別】

若い世代ほど「まったく知らない」と回答した割合が高い。

【前回調査（平成28年）比較】

前回同様、「まったく知らない」と回答した割合が最も高く、約5割を占めている。
(H28 43.1%)



(人)

	実人数	内容までよく知っている	名前程度は知っている	何となく聞いたことがある	まったく知らない	無回答
全体	1007	13	201	256	500	37
男性	438	5	79	111	223	20
女性	565	8	121	144	276	16
性別無回答	4	0	1	1	1	1
20代	91	0	8	13	67	3
30代	120	0	16	18	86	0
40代	174	1	28	49	94	2
50代	174	3	41	43	86	1
60代	235	1	55	75	91	13
70代～	211	7	53	58	76	17
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問30-3 男女共同参画都市宣言

【全体】

「まったく知らない」と回答した割合が52.8%で最も高く、次いで「何となく聞いたことがある」25.2%、「名前程度は知っている」17.1%となった。

【性別】

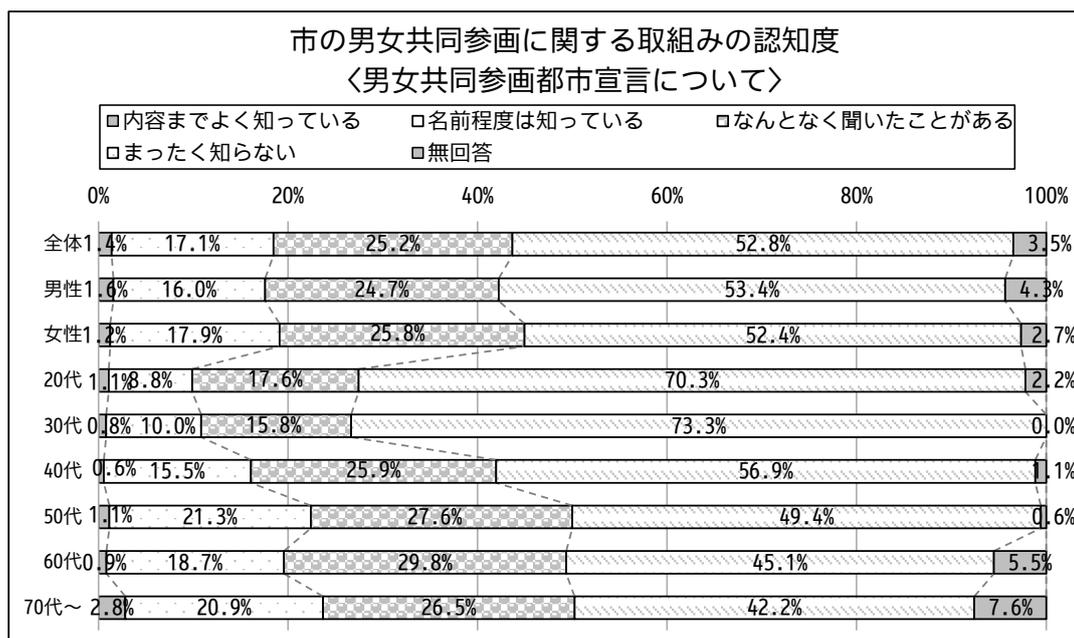
「内容までよく知っている」又は「名前程度は知っている」と回答した割合は、男性17.6%、女性19.1%であり、わずかに女性が高い。

【年代別】

若い世代ほど「まったく知らない」と回答した割合が高い。

【前回調査（平成28年）比較】

前回同様、「まったく知らない」と回答した割合が最も高く、約5割を占めている。
(H28 48.1%)



(人)

	実人数	内容までよく知っている	名前程度は知っている	何となく聞いたことがある	まったく知らない	無回答
全体	1007	14	172	254	532	35
男性	438	7	70	108	234	19
女性	565	7	101	146	296	15
性別無回答	4	0	1	0	2	1
20代	91	1	8	16	64	2
30代	120	1	12	19	88	0
40代	174	1	27	45	99	2
50代	174	2	37	48	86	1
60代	235	2	44	70	106	13
70代～	211	6	44	56	89	16
年齢無回答	2	1	0	0	0	1

問31 あなたは、男女共同参画センター（愛称：さんかくプラザ）をご存知ですか。

【全体】

「知らない」と回答した割合が51.3%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」が35.3%「利用したことがある」10.4%となった。

【性別】

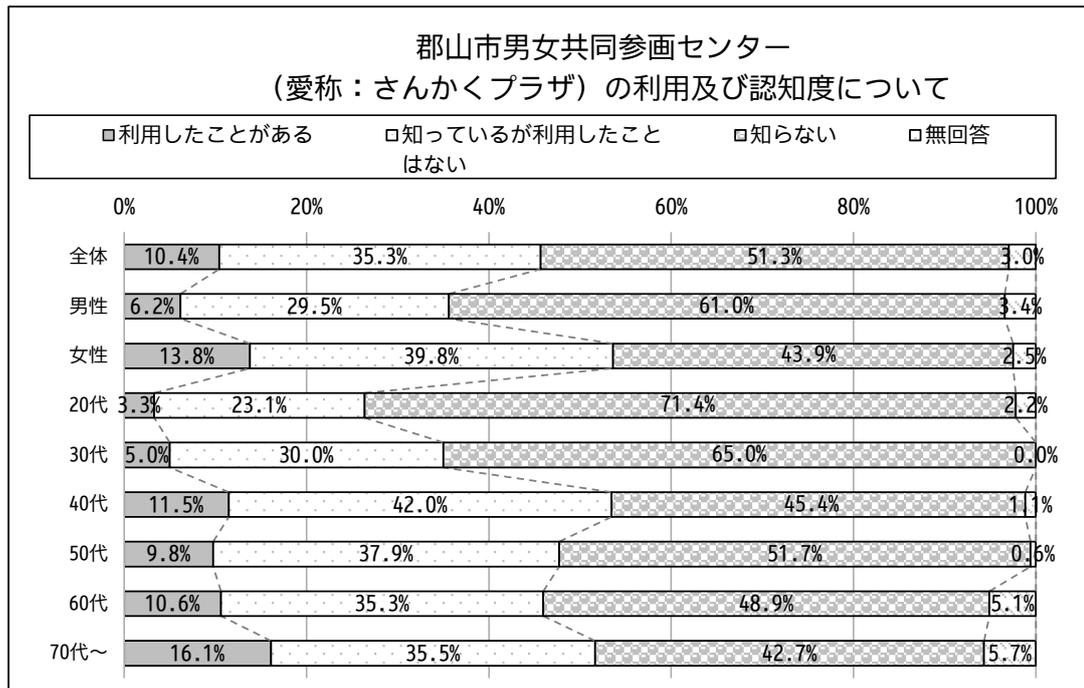
「知らない」と回答した割合は、女性より男性の方が高い。（男性61.0%、女性43.9%）

【年代別】

「知らない」と回答した割合が、20代、30代で特に高い。

【前回調査（平成28年）比較】

「知らない」と回答した割合が増加した。（H28 40.7%）



(人)

	実人数	利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らない	無回答
全体	1007	105	355	517	30
男性	438	27	129	267	15
女性	565	78	225	248	14
性別無回答	4	0	1	2	1
20代	91	3	21	65	2
30代	120	6	36	78	0
40代	174	20	73	79	2
50代	174	17	66	90	1
60代	235	25	83	115	12
70代～	211	34	75	90	12
年齢無回答	2	0	1	0	1

問32 今後、『さんかくプラザ』に何を充実してほしいですか。（複数回答）

【全体】

「学習・研修機能の充実」が25.5%で最も多く、次いで「市民団体の交流、活動機能」24.4%、「相談機能」23.2%となった。

【性別】

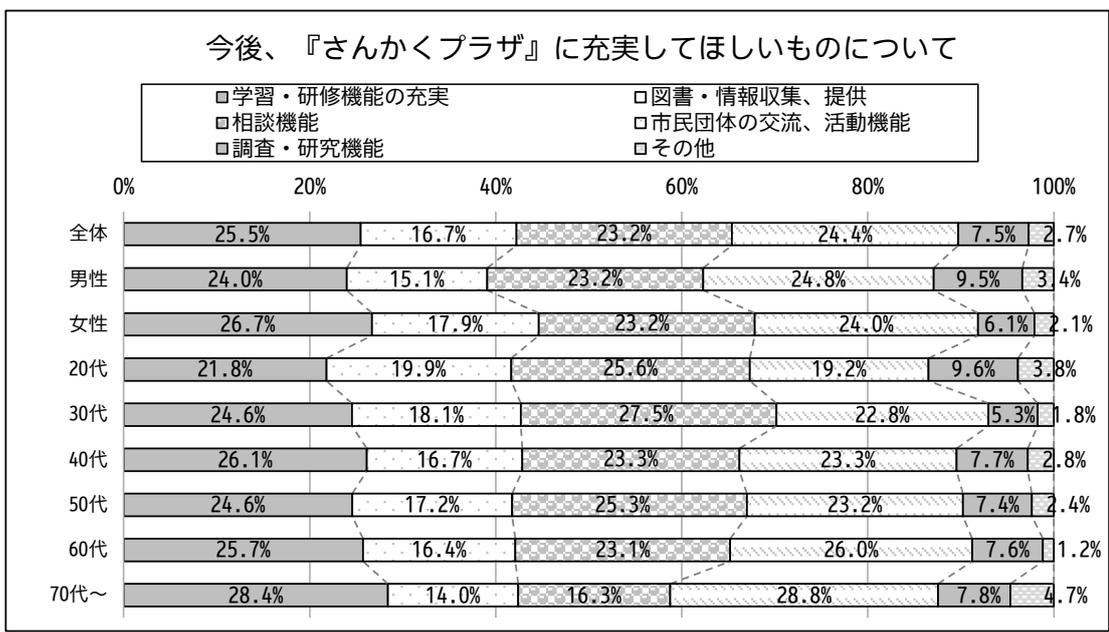
男性は「市民団体の交流、活動機能」、女性は「学習・研修機能の充実」と回答した割合が最も高かった。

【年代別】

すべての世代で「学習・研修機能の充実」、「市民団体の交流・活動機能」と回答した割合は高く、60代までの世代は「相談機能」と回答した割合も高かった。

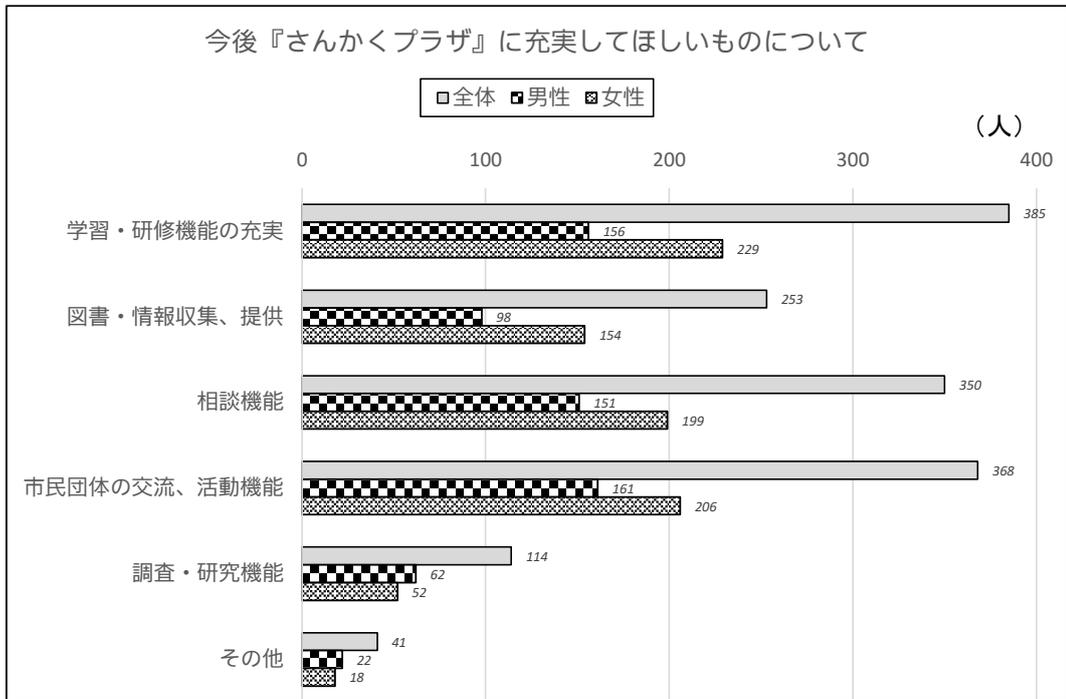
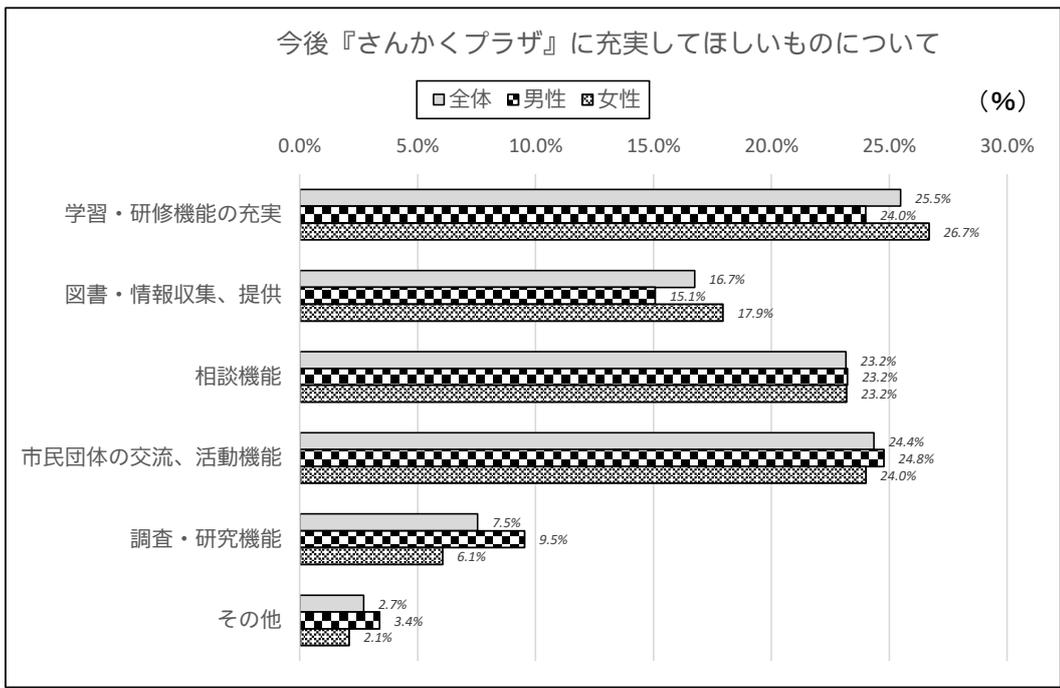
【前回調査（平成28年）比較】

「市民団体の交流・活動機能」（H28 22.3%）、「調査・研究機能」（H28 6.4%）と回答した割合が増加した。



(上段:人)

	回答実人数	回答総数	学習・研修機能の充実	図書・情報収集、提供	相談機能	市民団体の交流、活動機能	調査・研究機能	その他
全体	1007	1,511	385 25.5%	253 16.7%	350 23.2%	368 24.4%	114 7.5%	41 2.7%
男性	438	650	156 24.0%	98 15.1%	151 23.2%	161 24.8%	62 9.5%	22 3.4%
女性	565	858	229 26.7%	154 18.0%	199 23.2%	206 24.0%	52 6.1%	18 2.1%
20代	91	156	34 21.8%	31 19.9%	40 25.6%	30 19.2%	15 9.6%	6 3.9%
30代	120	171	42 24.6%	31 18.1%	47 27.5%	39 22.8%	9 5.3%	3 1.8%
40代	174	287	75 26.1%	48 16.7%	67 23.3%	67 23.3%	22 7.7%	8 2.8%
50代	174	297	73 24.6%	51 17.2%	75 25.3%	69 23.2%	22 7.4%	7 2.4%
60代	235	342	88 25.7%	56 16.4%	79 23.1%	89 26.0%	26 7.6%	4 1.2%
70代～	211	257	73 28.4%	36 14.0%	42 16.3%	74 28.8%	20 7.8%	12 4.7%



第4章 自由回答

この章では、市民意識調査において、各問の自由回答欄や男女共同参画に関するご意見、ご感想などにいただいた回答の一部を掲載しています。

自由回答記述者数 計 5 2 4 名

(上段：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	年齢不明	合計
男性	25 4.8%	29 5.5%	25 4.8%	41 7.8%	49 9.4%	42 8.0%	6 1.1%	217 41.4%
女性	19 3.6%	46 8.8%	73 13.9%	42 8.0%	62 11.8%	61 11.6%	0 0.0%	303 57.8%
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.6%	1 0.2%	4 0.8%
計	44 8.4%	75 14.3%	98 18.7%	83 15.8%	111 21.2%	106 20.2%	7 1.3%	524 100.0%

各問の自由回答

※明らかな誤字・脱字の修正を除き、原文のまま掲載。

問9：性的マイノリティ（性的少数者）が生きやすい社会を実現するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか？	年代	性別	備考
市町村等が理解をしているという雰囲気を出すことが大事だと思う。	20代	男	
テレビや広告には異性夫婦があたりまえに出てくるが同性同士は見ない。様々なパターンがあれば意識が変わると思う。	20代	女	
若い人は変に思わないと思うけど年のとった人がそう思うだろうから年寄りに講演会などをいかす。	30代	男	
性的マイノリティに対して、否定的態度をとる人達の考え方や価値観を知る。それから、1番（市民の理解を得るための周知啓発）の実行。	30代	男	
性的少数者、結婚出来る制度	40代	男	
学校教育	40代	男	
性的マイノリティでもできることを増やす。公的サービス、入院時の保証人、同居、入居など。	40代	女	
個々の意識の改革が必要で、あたり前として受け入れる幼児からの受入れ環境の整備。	40代	女	
当事者以外も性的マイノリティについて学ぶ	40代	女	
社会はマイノリティが常に生きにくい、踏み付けられることを前提に成り立っているものだと感じています。	40代	女	
知名度が高い人物による告知、あるいは、メディアで報道する。	50代	男	
何もしない。	50代	男	
1つだけでは足りないと思うので（選択項目の内容が）全部あるといい	50代	女	
性的マイノリティー等の尊厳都市宣言をかかげ人権も含め相談から解決へ導く広くコーディネート出来る窓口（部署）があれば。	60代	男	
小学校低学年のうちから人間としていろいろな生き方、人間がいるという事を教えるべき。	60代	女	
職場などの周囲の人間が自然に受けとめることができることが大事だと思う。	60代	女	
当然の権利であることを法的に定め学校教育にとりいれなければならない。	70代以上	女	
国や自治体が社会制度で差別せず、柔軟に対応する。	70代以上	女	
当事者の方々の考えや思い等を芯から理解出来る（又、そうしよう）とする心がほぼ低いと感じます。	70代以上	女	
問12：人権侵害を自分で受けた方で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。	年代	性別	備考
話し合いと徹底的な無視を貫き、最終的にやめてくれたので相談しなかった。	20代	女	
線引きが難しく、よほどの事でない限りとりあってくれなそう。当人、職場全体で気まづくなりそう。	30代	女	
暴言の内容を全て拒否して、その場でそのような言葉を使用するのを止めるよう直接相手に伝えた。	30代	男	
我慢できる範囲内はテキストに記入したり、かわすが、それ以外はハッキリとことわったため。	40代	女	
それぞれの関係を悪くしたくないから。	40代	女	
そう言う人だったから。それより自分の方が仕事もできたから。	40代	女	
言葉や態度による暴力であり、体への直接暴力では無いので無駄だと思ったし、上手く説明も出来なそうだったから	50代	女	
証明するものがそろっていないから。	50代	女	
負けない自分になろうと思った。友達が聞いてくれた。	60代	女	
一度だけだったから。	60代	女	
会社内はいくらでもいる。	60代	男	
自分でダメでない、できるということを証明しようとした。自分で対処した。	70代以上	女	
上司に身体に欠陥があるのか？だから結婚をしないのかと聞かれたが最低の上司だったので無視した。不愉快だった。	70代以上	女	
50年以上前の事なので現在の様な社会状況ではなかった。	70代以上	女	

問15：あなたは、これまでにセクハラ、いじめ、虐待など「人権」について考えたり、学んだりした経験はありますか。	年代	性別	備考
仕事上考えたり学んだりした。	70代以上	女	同様意見外10件
同じ人間なのに（仲間）なのになぜいじめ、虐待などがあるのか？又逆の立場よりしたの立場になったらその様な事は出来ないのではないかと思います。なぜ？かと思ひます。	60代	男	
立ち向かう気迫を持つことにより、強い気構えから打開できる。その時の状況によって対応の仕方が違うので、いろんな経験をして、臨機応変な対応が出来る様に鍛えなければならない。でなければまだまだ「あまい人生」を歩んでいることだ。	60代	男	
自分が当事者だった時期があるので、実際に経験して考えたり、学んだりしたことがある。	20代	女	同様意見外6件
”ここは今から倫理です”を読んで言葉や態度について考えるようになった	30代	女	
メディアで取り上げているのを見て、考えさせられる程度。	40代	女	同様意見外1件
子どものいじめでスクールカウンセラーに相談していた。	50代	女	
ネットによるいじめ、無視など子供達にとって、スマホは、どのように対応しなければならないか。	70代以上	女	
近所に子供を長時間、叱り付けたり、大声で言葉の暴力をしていた母親がいたので、みかねて、保健所に相談（30年以上前）に行ったことがあった。	70代以上	女	
アムネスティ・インターナショナル※でボランティア活動をしていました。 ※国際連合との協議資格を持つ非政府組織（NGO）難民救護・救済活動・死刑の廃止・人権擁護などの啓発活動をしている。	50代	女	
問20-①：女性が活躍していると感じている理由は何ですか。	年代	性別	備考
女性は今まで意見が通らなかったイメージがあったが、意見が通りやすくなった為。	20代	男	
看護師を近くで見ているから。	20代	女	
多くの女性が働いている。	30代	男	
職場に女性が多く、しっかり仕事をしている人が多い。	30代	女	
単に共働きなだけ。	40代	男	
管理職や長のつくポジションにあるか、にかかわらず、仕事もしつつ地域活動にも関わっている人は、むしろ女性の方が多いと感じる。	40代	女	
社内において生き生きしている。	50代	女	
女性が仕事を持っている。	60代	男	
家族構成・高齢他地域社会の変化による。	60代	男	
ボランティア。	60代	女	
毎日家事全般を行っている。	70代以上	男	
趣味の世界	70代以上	男	
ヨガ講師として活動	70代以上	男	
仕事以外でもボランティア活動に参加している。	70代以上	女	
仕事していないから。	70代以上	女	
地域の町内会で保健委員3年目。	70代以上	女	

問20-②：女性が活躍していないと感じている理由は何ですか。	年代	性別	備考
心身療養中。	30代	男	
社会の制度は充実しているが、目立った女性キャリアがない。能力、意識、慣習もあるかもしれない。（女性の上昇志向がないのかも）	40代	女	
正規雇用になりたくてもなれない雇用が多いと見受けられる。	40代	女	
活躍できる人は仕事をしているのに、平日にそういう活動があって参加できない。	40代	女	
育児中で無職の為。	40代	女	
体調が悪い。	40代	女	
活躍したいと思わない。	60代	女	
年齢が上がるにつれ場が減少していった。	70代以上	女	同様意見外4件
まごの介護や看病。	70代以上	女	
孫6人毎日食事を作っているの。	70代以上	女	
女性自身が自己抑制的に働いていると感じる時。昇任の希望をしない時。	年齢不明	男	
問21：女性が活躍するにはどのようなことが必要だと思いますか。	年代	性別	備考
男女で区別して施策をすすめるのではなく男女ともに働きやすい環境をつくるべきだと思う。	20代	男	
女性の働くことに対する意識向上	20代	男	
女性だからと言って否定的態度でチャンスを与えないのではなく、あらゆるチャンスを与えること。	30代	男	
家庭での育事、家事の分担。	30代	女	
本人の意識改革。	40代	男	
女性も長時間勤務ができるように対応するべき	40代	女	
配偶者の理解が必要。	40代	女	
男性の意識改革、本当の意味での理解。	40代	女	
女性が男性より劣るという考えを持つ人間が、（男女ともに）減って、社会の中でそういった考えが認められなくなれば…。	40代	女	
子どものころから、性差について性別について教育を充実させる。	40代	女	
家族内での意識共有、協力	50代	女	
結局子育て、介護、家事等の負担は女性のほうが多いと思うので、それを助けてもらえる国、県、市等の支援の制度が必要	50代	女	
法の整備	50代	女	
女性が働く場合の税制の改革。扶養家族の収入による税金の対象額の撤廃 or 改正	60代	男	
社会で活躍したいという意志を自分自身でしっかり持つこと。	60代	女	
男性の意識の変化。	60代	女	
上司が、仕事を性別に関係なく分け隔てなく割り振ること。 子育て中だから、という変な配慮をしないこと。（夫側も同じ）	年齢不明	男	

問23：女性の議員が増加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。	年代	性別	備考
女性に対する男性議員の意識改革	20代	男	同様意見外6件
女性の議員の推定枠を設ける。国会を例にあげると、そもそも男しかなくて政治＝男性のイメージが学生の自分からすると定着している。このイメージが女性議員の増加をさまたげている。	20代	男	同様意見外3件
そもそも立候補者が少ないので能力がある人を擁立を増やす？	20代	男	
なるべく若い年代が議員になること。おばさんがなってもしょうがない。	20代	女	
女性の当選を有利にする。(女性わくの 신설)	30代	男	同様意見外2件
本人の実力	30代	女	
男性が女性の意見にもっと強く耳を傾けること、協力すること。	30代	女	
そもそも議員は増加しなくてよい。税金がかかるのが嫌なため。	30代	女	
子供のめんどうを見てくれる人が居ないと行動出来ないため、あずけ先があるとたすかる。パートナーが動かないひとだったり、ベビーシッターなど	40代	女	
立候補者のヤル気	40代	女	
女性の政治家が“女性の立場”とか“女性のための”と連呼しないこと。ふつうのことをふつうにしっかりやること。	40代	女	
社会全体の意識が変化すること。女性が政治家なんて…という風潮を乗り越えなければ、女性は政治家になれない感じなのに、男性はボンクラでも(親次第で)なれる。すみません、だだの印象です。	40代	女	
現職で政治活動している人が女性を排除している(女なんてという考え方)傾向があると思う。	40代	女	
きれい事だけでは済まされない。	50代	男	
女性が女性に投票すること。	60代	男	
男女の性で議員を選んだ事がないので別に女性議員が増加して欲しいとは思わない。	60代	女	
老ガイ男性議員がやめること。	60代	女	
女性自身がしっかりとした国家観を持つことだと思う。	60代	女	
学校(小・中・高)での教育。	70代以上	男	
中・高生の段階に於いてこの件のための学習機会を教育の場で設けてもらいたい	70代以上	女	
色々な知識を身に付いていて考え行動が出来る人材である事。	70代以上	女	
男女共に政治に関心を持ち国民としての権利を履行できるよう教育がなされるべき。	70代以上	女	
自己抑制をしないこと。	年齢不明	男	
問25：仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思うことは、具体的にどのようなことですか。	年代	性別	備考
男性は総合職採用で様々な部署に配属されるが、女性は一般職(事務職)としてしか採用されず、入社後もほとんど異動がない。	20代	男	
女性の意見が通りやすくなったのは良い事だが不必要な意見まで通さなければならない事が増えすぎている。	20代	男	
仕事内容が制限されている。(外回り営業出来ない。)	30代	男	
女性が多い職場に男性を入れると不倫等の問題があることがあるため、男性を入れない職場もある。	30代	女	
雑用が女性。	30代	女	
女性の方が力仕事(荷物の運搬などの仕事)をしているから。	30代	女	
責任のある仕事や、遅くなる仕事は男性となる。	40代	男	
女性の方が得意だからと、裁縫、洗濯、掃除と目に見えない雑用がある。 当番制にしていいのではないか	40代	女	
管理職が男性が多い。積極的に発言する機会がすくない。	50代	女	
女性が上司になると男性は仕事に力が入らずやる気がうせると考えている人が多い	60代	男	
お茶入れ等々女性がする。	60代	女	
子供が病気になって看護が必要になると、母である女性が全て引き受けるのが現状。	70代以上	女	
女性の自己抑制を助長、容認している。	年齢不明	男	

問27：今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。	年代	性別	備考
本人の意志があるかが重要です。男性がなるべく出かけず家に居る事	20代	男	
職場での理解。	20代	女	
夫が参加することで、税を安くする策の施策。男性個人に参加することで、補助金を出す。ベーシックインカム※の導入。※最低所得保障の一種で、政府がすべての国民に一定の現金を定期的に配る制度。	30代	男	
小さいうちから、男性も何でもやらせる事をしなければ、女がやってあたりまえは、なくならないと思う。	30代	女	
日本人の家事に対する固定観念を変えない限り無理だと思う。どうすればと考えている時点で自分の役割ではないと思っているので無理だと思う。	30代	女	
全国的に報道すること。	30代	女	
大人になってから啓発するのではなく、子供の頃から教育することが大事。	40代	男	
学校教育	40代	男	
働く企業が子育て、介護を積極推進する、評価する（ほめるだけでも）	40代	女	
短縮や休暇制度などがあっても、仕事の内容によっては穴があいてしまうため、利用出来ない。	40代	女	
幼少期から男女共に家事を行う環境で育てていくこと。	40代	女	
考え方、育ってきた環境の問題がある。おそらく20代男性は圧倒的に共働き世代に育てられているからやるのが当然と思っている。95年に専業と共働きが逆転していたはず。なので、考え方を変えないと不可能ではないでしょうか。	40代	女	
学校（小学校から）による男女共同参画についての教育の充実。	50代	男	
お金、収入。	50代	男	
小中学生の頃から男性女性の区別なく家事、育児、介護等を共に行うことを学校教育で教えるべきではないか	50代	女	
男性が子供や親のめんどうを見るのは当たり前であるという啓発をうながす機会を多く企画し参加させる	50代	女	
子供の頃から、家事を男の子にもさせる教育。	50代	女	
生活レベルの向上。お金があればそこそこ幸せな気持ちでゆとりができる	60代	男	
年配男性の男尊女卑の考えがある以上むり。	60代	女	
主人は何も出来ない人なので。	70代以上	不明	
妻が夫に家事のやり方を教えること、それを消極的にならないこと。夫が家事に手を出さないのは知識、技術がないから。	70代以上	男	
男性が、必要にその事象に迫られれば、自ずとする様になる、自覚の問題。	70代以上	男	
将来において男女共同の生活を考えると、幼い頃より、そのための教育方針を考慮すべき。	70代以上	女	
問28：大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために日常的にどのようなことが必要だと思いますか。	年代	性別	備考
大規模災害時にも安心して過ごせる施設や環境の準備	20代	男	
防災士資格取得援助。	30代	男	
避難所で性的暴行を受けるケースもあるので、一部だけでなく全体にそういう事があるということを周知して、他人の困る防犯の手助けにするのも必要だと思う。	40代	女	
性被害の減少	40代	女	
各地域のネットワーク（防災）。	50代	男	
早期防災インフラの整備。	50代	男	
経験者の声をきき、まとめて多く取り入れる。良かった事、悪かった事。	50代	女	
高齢者の避難は市の人員把握と声かけと避難方法が必要 水陸両用車などの配置が必要。	60代	男	
市長の意識改革	60代	男	
市民の意見を受けるポスト等を設けてみては？	60代	女	
河川管理、防災について国交省は何をしているのか。あまりにも無能ではないか。	70代以上	男	
避難所誘導看板の設置	70代以上	男	
19号台風の災害の時に高齢の方が全員家にいました（水害にあいました）。阿武隈川の土手がないことがわかりました（早急に作り直した）。	70代以上	女	
防災を推進する防災運営の中心はどこにあれば安心なのか。実際に動ける人、リーダーが必要と思う。	70代以上	女	

問29：『男女共同参画社会』を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。	年代	性別	備考
男性が家事をしたり、女性が育休をとることに対して抵抗があるように感じる人が多い。少しでも考えが変わる政策があればいい。	20代	女	
ベーシックインカムの導入。	30代	男	
何かあったとき、主婦でなく主夫でうちはうまくいったというケースもあるので、男性が家庭のメインでもおかしくないと思える。地域だと男性も生きやすくなるのではないかと。	40代	女	
1（法律や制度の面で見直し）2（国・地方公共団体審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用）3（民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する）の質問があるということは、郡山市自体が女性に対して、下に見ていると言うことなのですか。	40代	女	
育児休職中の企業側への労働力確保の支援	50代	男	
現場の声、現実を良く見てほしい！！書類上にとどめるのは、カッコは良いが現実的ではない事が多い。地域によって状況は違う。	50代	女	
雇用の確保（増やしてほしい）。	50代	女	
実現するための具体策に取り組める人材の育成	60代	男	
職場でのお茶くみを女子にやらせていませんか パワハラ、セクハラは市の内部から取り組みを。	60代	男	
雇用男女平等といっても体力能力と男女差が生じるのは当たり前。それを踏まえて得意分野で活躍できる進んだ環境になる事が理想。地域的な特性も有り難しい問題ですが若い方々のやる気を引き出せる能力のある指導者が欲しいですね!!	60代	女	
2（国・地方公共団体審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用）3（民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する）は職業による。	70代以上	男	
上記はどこから始めるのか？どこにまず重点をおくのか？理想を文章にしても、一歩前進するためには、その中から実現する項目を選ぶべき。	70代以上	女	
男女比率に応じた議員数、組織の管理職比率の法定化。	年齢不明	男	
問32：今後『さんかくプラザ』に何を充実してほしいですか。	年代	性別	備考
研究結果を郡山市全体に広く普及して欲しい。活用してもらいたい。	20代	男	
私は知らなかったので、私のように知らない人に知る機会、PRをしたら良いと思う（堅苦しいのではなく、馴染みやすくPRする）。	20代	男	同様意見外 7 件
イベント	40代	女	
さんかくプラザ自体のPR。	40代	女	同様意見外 1 件
今のままでも十分です。	40代	女	
再就職のあっせん。介護の手続窓口。産科、婦人科の紹介窓口。	50代	女	
結婚推進に向けて、男女の意識向上。	50代	男	
そもそもさんかくプラザの必要性と目的の明確化。	50代	男	
調理室の備品を7テーブル分そろえてほしいです。	60代	女	
ボランティアの活動。	70代以上	女	
駐車場を利用しやすくしてほしい。以前、さんかくプラザを利用していましたが特に夜間は暗く、駐車スペースが狭かった。	70代以上	女	同様意見外 2 件
提案機能	70代以上	男	

男女共同参画に関する自由記載欄

1 男女平等について	年代	性別	備考
行政、政治が良くなって経済面や色々な事に対して良くならなければ何も良くなっていくわけがない！！	20代	男	
新卒、若手女性社会人へのキャリア支援が必要だと思います。	20代	男	
性差までも平等にする必要はないと思います。	20代	男	
時代は変わっていきます。が、田舎は今だに”村八部”があるなど変化は遅いです。福島県が早く”LGBTQ”などの問題に取り組めば若者も注目してくれるのでは！？それから、こういった企画に若い男女を使うと良いと思います。おじさんおばさんを使っているのはこれから変わりませんよ。	20代	女	
結婚したら、女が家を守るという年配者の考え自体を取りはらってほしい。正直、夫の給料だけで生きていけるほど今の世の中、給料はよくない。	20代	女	
女性が働きやすい社会を作ってもらいたいです。	20代	女	
「男女が」ではなく、「人間として」生き生きと暮らせる社会、人が人に優しい社会になってほしいし、していきたいです。	20代	女	
どういう活動があるのか、アンケートに答えていてもわからないことがありました。そういうところを市民にそもそも知らせる方法を考えるべきだと思います。	20代	女	
家事や育児も夫婦で協力し、女性が子育てをしながら仕事がしやすい環境をもっと広めていけたら、仕事も育児もストレスなく行えるのではないかと、思う。	20代	女	
女性だからや男性だから、昔の考えなどの固定概念を無くすることが出来ればもう少し過ごしやすい社会になるのではと個人的に思いました。	20代	女	
この市民意識調査を通して男女の平等について深く考えるきっかけになりました。	20代	女	
我が家は家事も育児も夫婦協力して毎日生活しているが、子育てのために技術職を離れなければならなかった自分にとっては、まだまだ社会は男性優位で、仕方なく一定期間休まなければならない女性（母親）への評価は低いように思う。休まなければならない理由はやはり子の預け先が問題で、もっと臨機応変に対応してほしいし、自分の技術のためにも育児休暇ってどうして長期間を父、母でとらなければならないんだろうと疑問に思っていた。長くは休みたくないけど子育ても大事なので特に赤ちゃんの時は、一週間の内夫婦で半々くらいにとれる育休の制度みたいなのがいい。	30代	女	
若い世代よりも、年配の人の男尊女卑の考えが変わらない限り、男女平等になんてならないと思う。「女のくせに」と言うのは大体年配の人。	30代	女	
男女というより人を人として見られるようになるといいと思います。	30代	女	
男性中心の考えの社会なので、男女がともに生きいきとくらせる社会づくりをしても、ずっと男性優先の社会のままだと思います。 問18. どれにも該当しないので○をつけられません。(全て自分です。)	30代	女	
政治、家庭、社会共に、男性の家事・育児への意識改革が不可欠。保育施設等の充実も必要。(保育園をあきらめている現状がある。)	30代	女	
男女が平等であることが重要だと思います!!	30代	女	
会社をはじめ、個々の考え方を変えていかなくてはいけないと思う。	30代	女	
性別に関係なく、様々な支援やサービスが充実すれば良いと思う。女性が働き、男性が家庭に入るのが不自然でない世の中になれば良いと思う。	30代	女	
子そだてしやすい環境整備をもっと充実させてほしい。男性にもっと「子そだて」というものに関心、興味、楽しさを知ってほしい。	30代	女	
年齢、性別、社会的地位、等 何も関係なく、意見が言える社会をつくるために、必要な事をしてほしい。	30代	女	
昔よりは良くなってきたと思うが、やっぱり女性は男性より下に見られる事が多いので、その差別の目がなくならなければ男女平等にはならないと思う。	30代	女	
小、中、高校での社会活動や学習が分かりやすく、実感しやすいものを実践できると良いと思う。	30代	女	
男性は仕事、女性は家事という概念をなくし、お互い平等にどちらもこなすというのが当たり前になってほしい。(男性の意識的にも)	30代	女	
今は男女だから・・・ということは特にないと思う	30代	男	
女性、特に子育て中の女性に優しい社会、家庭になってほしい。今の日本では出産、子育てをしている女性は役職や昇進において障害が多い。男性全体も変わらなければと思う。	30代	男	
まだまだ、昔の考え方が多い(男女を分ける等)ので、多くの場所で女性の活やく出来る場を作ることが大切と思う。(女性議長等。)	30代	男	
男女とおこお言っている時点で考え方が間違ってる。そこから直した方がいいんじゃないですか？	30代	男	
男女という性別で分けるのではなく「人として生きいきと暮らせる社会づくり」という考え方が大切だと思います。また、男女という表記はやめた方が良いと思います。	30代	男	
一人一人が自分に自信の持てる人間になるための教育などを小さい頃から教える時間があれば良いなと思います。	30代	男	
ベーシックインカム導入。 問8-8 (同性パートナーシップ制度) 初めてきた。	30代	男	

お互いに切磋琢磨して何事も一生懸命に努めればおのずとそうなると思う。	30代	男	
男女差別を感じる事が少ないご時世だと思うので、男女の差を設けることに抵抗を示す人は少ないと思う。ある程度の男らしさ、女らしさはあると思うが、性別関係なく、「その人らしさ」「その人が描く生活像」を柔軟に実現できる社会になってほしい。ポイントは「育児」「雇用」だと思う。	30代	男	
男性が子育て、家事、介護をしなければいけない法律や制度をつくって下さい。	40代	女	
子供たちの道徳の授業がなくなったのが残念だと思う。小さい時から多彩な人間がいるという事をみとめられると受け入れやすいのかも知れない。今までもあったが、声を出して言わなかったりかくれていたものが表面に出たことにより多く見えていると思っている。「手伝う」とは自分のやる事じゃないと思っている。どうやっていいかわからないので手を出さない。ゴミ捨てを例にすれば、ゴミ捨てをしたのでやったと思っているだろうが、その前の分別、洗浄、集めて歩いてまとめて捨てて行くまでがゴミ捨てだと理解出来ていない。	40代	女	
男女とくくらず人としてという考えですべてを決めるべき。男だから女だからじゃなく、その人の中身で判断すべき。	40代	女	
一日も早く「女性は家庭を守るべき」という悪い習慣がなくなればと思います。東日本大震災時、0才児を抱え、開成山球場の避難所に断われ、主人は仕事で不在（帰宅できない）の中、「女子ども」の無力さを痛感しました。差別と区別のない社会に我が子たちが育った時代にはなってくれていることを願います。	40代	女	
男は外、女は家にいるというのが田舎の価値観だ、とあきらめず、`何をがんばるかは自由` `がんばることに男も女もない`、とひろめ続けて下さい。	40代	女	
女性の活躍は少し心配です。以前の職場の上司は50代の女性でしたが、なにかにつけて「私の時代は子供のことで、かんたんに仕事を休んだりしない!!」といい近所のおばさまも、主婦としてのお話をダラダラという女性らしく、女のくせにと言うのは、女性の方が多いです。男性の方がパワハラ、モラハラ、マタハラなどにびんかんですよ。	40代	女	
知り合いの男性（3人ですが）、家庭環境もあると思いますが、家事、育事（ご飯、洗濯）など、しています。そういう人が増えていると少し感じます。婚活など、知り合える場が欲しいです。	40代	女	
役所の方々が男女の機会均等や共同参画について、色々取り組んでくださっていても、市民に浸透していくには時間がかかるかも知れないと感じました。災害やコロナの影響で私たちの生活に余裕がなくなってきて、社会的に弱い立場の人間には割合として大きなしわ寄せが来ていると思います。女性の立場は、弱いままなのに、立て前としては平等の「社会」に理不尽を感じています。	40代	女	
男女平等や人権問題などを学校で教わっている若い世代の人が企画・チャレンジする内容について、教わってこなかった古い世代の人が否定したり、妨害したりしない事が一番大事だと思う。取り組みが定着するのは時間がかかるので、この先の社会の中心となる今の20代前後の人に向けた政策はいずれ市民全体がその恩恵にあずかれるはず。	40代	女	
ともにいきいきしていると思うので、意見も感想もありません。	40代	女	
現在離婚協議中です。専業主婦として子育てをしてきて、離婚協議に入ったので就活しましたが、年齢や社会経験の有無で就活は難航しました。わたしは、今や、子を持つことや、子育てをすることは、当たり前ではなく、選択肢のひとつになってきていると考えています。少子化を憂うなら、子育てしやすい環境、子育てをしても安心して働ける社会を整えて欲しいです。また、子育てがひと段落したら年齢に関係なく、就職できるような社会であって欲しいです。子育て期間中、仕事をしていなければ社会経験はないと見做されるならば、子育てなどしないで働き続けた方が得な社会であるように思え、子を持つ選択肢を選ばない女性も増えるのは当然に思えます。	40代	女	
昔、女子校、男子校だった所が共学に変わったように、政治、企業、職場共に男女同じ割合で共存出来れば良いと思う。最初から比率が違いますよね。人口は、半分なのに……	40代	女	
昔からの考え方やこうあるべき、ということに捉われず、時代の流れに沿った方向で制度や相談窓口の設置、アピールをすることで、男女が平等にそれぞれの良い部分を生かしながら生活できればよいと思います。	40代	女	
男女平等。	40代	女	
「男女共同」という言葉を利用している限り、男女平等にはならないと思う。男・女ではなく人として区別なく生活する意識が特に高齢者に必要だと思う。	40代	女	
男女平等と言えども、男性の方が向いている事、女性の方が向いている事、また、個人の個性（男女共に個人の向き不向き）、いずれにせよ男女にとらわれずコミュニケーションをしっかりと取る事からが大事と考えます。	40代	女	
男女にこだわらない、LGBTの方たち等も含めて個性を大事にすべき。	40代	男	
男女のコミュニケーターを多くし、意見交換、決定ができる社会づくりが必要と感じます。	40代	男	
お互いが良くコミュニケーションを図り、お互いのことを良く知ることだが、それを実行出来ている方は少ないと思います。	40代	男	
女性の議員を増やす（市・県）。女性の目線が必要なのは？	40代	男	
男・女・夫・妻でアンケートをしてる事がそもそも違和感があります。	40代	男	
仕事の分野によって男女の比率にひらきがあるように感じます。	40代	男	

男性だから、女性だからと色眼鏡で見ずに、個人々を適正に評価する意識の定着を図る必要があると思っています。	40代	男	
平等であれど、ゆとりでは無く、男女平等の実力評価される社会も必要。目標や向上心が無ければ、成長が無くなる。	40代	男	
今、フランス語を学習していますが、子どもも使用できるテキストに同性のカップルが登場します。法の整備、PR、小さい頃からの教育をコツコツと進めていくのが良いと思います。日本はまだ何十年もかかると思います。地方都市はその何倍もかかると思います。	50代	女	
男女ともに平等という意識をもつことが大事だと思います。	50代	女	
尊重し合い、思いやりをもって生活をする事だと思う。	50代	女	
収入格差（男女）を減らし、女性も、キャリア意識を持ち活躍出来るように、市や国が啓発してほしいと思います。	50代	女	
男だから女だからではなく“人”としてのその人をみきわめて、適正を的確に、確認して、配置することが必要ではないか。	50代	女	
ともに生き生きと過ごせるコミュニケーションを図れる場所を提供してはどうかと思います。例えばスポーツのサークルなど。	50代	女	
まだまだ男女に差があるのはしょうがありませんが、少しでもお互い近かより歩みやすい社会になることを望みます。	50代	女	
男性にはかなわないと思うことは世の中にまだまだたくさんある。男女平等は、女性がそれなりの学力や教養を身に付けてきた人の話で、何もない女性はどうあがいても平等のラインには行けないと思う。資格や免許がなく、それでも生活のために働かざるを得ないので低賃金でも在職していくのが現実。	50代	女	
自分もそうだが、根本的に男女差別をなくす、考えを変えていかないと、なかなか実現が難しいと思います。	50代	女	
問題を検討する際、男女の「数」だけ「平等」に組織するのではなく、「数」に入る男性及び女性が、その職務を担える資質を備え、男女とも対等な実力を基に、協力できる関係を築きながら市政運営を願いたい。暮らしやすいよ郡山市の発展を期待しています。	50代	女	
男・女にかかわらず本人の意識や考え方によるものは大きいと思います	50代	男	
人間は平等である事を子供の頃から教育していく。	50代	男	
女性の職場での地位は向上していると思いますが、まだまだというのが実感です。更なる女性の地位向上へ向けて出来ることは協力して行きます。	50代	男	
男女平等は特に意識する必要はないと思います。そもそも体の作りが異なるものです。基本は、男性が働いて、女性が子育てする、又、女性が働く事は、OKですが、男性のみの賃金で生活を可能にすれば、女性が働いた時の賃金は、少しのせいで消費金のサイクルがより良く回ると思います。	50代	男	
家事、介護、子育て、地域活動は“妻まかせ”という古い考えがはびこっている。女性の負担を減らさないと少子化も続く。	50代	男	
個々の考え方が違うので長い目で続けてほしい	50代	男	
小中高校等の学校教育の中に組み込み、幼少期から意識の醸成を図る。	50代	男	
男女の能力評価が平等であるべき。女性の活躍する場を作るのは必要だが、能力の低い女性を相応の役職に登用するのはいかなものか。	50代	男	
男・女平等とは言っても、それぞれの特性はちがっていると思う。その特性を生かせる社会づくりが大事だと考えます。	60代	女	
男女平等などと云ってもまだ>>男性社会です。家事・育児など家庭内の考えを変える必要があると思います。	60代	女	
共に生きいきと暮らす社会など絶対にありえない。	60代	女	
男女共同参画に関する意識調査のアンケートに答えながら何も知らない自分にはがゆく、学ぶことばかりです。ありがとうございました。	60代	女	
二人で働かないと食べていけない世の中です。	60代	女	
今はかなり男女共に生きていると思う（主婦）。	60代	女	
男女共同の取り組みは良い事だと思いますが！やはり、男は男らしく、女は女らしさは忘れないでほしいです。	60代	女	
まだまだ男性が優位な社会であると感じます。女性が一人でも安心して生きられる（経済的にも身体的にも）社会であってほしいと思います。	60代	女	
男だから女だからと仕事を決めつけない。働きやすい職場で男性にも育児休暇が取れる様な環境を作る。	60代	女	
これからは、男女共にお互いの特性で理解し合っ思いやりのある優しい社会になって欲しいものです。男女はすべて同じでは無いのですから。	60代	女	

郡山市は多方面にわたり男女共同参画に取り組んでいると思います。誰もが人権を尊重され「自分らしく」安心して生きられる社会が必要です。環境の変化も大きく、現代と合っているかの見直しが常に大切だと思います。よろしくお願いたします。	60代	女	
誰でも参加出来る研修、講座を提供してほしい。	60代	女	
国、県、市、町、村と住む場所、おかれている立場など、個人、個人によって、感じ方、考え方、暮らし方などさまざまなので、これというものは、ないと思う。みんなの協力しだいでは？	60代	女	
男女の持つ性的に優れている点を生かしつつ、家庭生活や社会生活を協力し共に生きることのできる社会になってほしいです。	60代	女	
私達の年代は女性が家の事等すべてする時代でした。でも、そのような時も楽しくしていた思い出があります。	60代	女	
このアンケートで、まったく無知だと知りました。「男女共同参画」のこと、広く知られる様に、ピーアールして下さい。	60代	女	
男性も家庭の中 今まで多くの女性がやっていた そうじ、料理、皿洗い、せんたくをやってほしい。	60代	女	
男女共同参画推進とかの取り組みとか、とくに大事ではあるが、その前に人間的であれとの精神を大事にすることが必要	60代	男	
郡山は田舎だから家庭も会社も男女差別はある。女子も個人で努力すれば男子と同じくできると思う。男子も昔の考えを捨てる必要が有る。今は若い人口が少ないためチャンスだと思う。もっと子供からの教育ももっと必要。	60代	男	
男女と云うより、人として他の個性を尊重することが大事だと思います。	60代	男	
子供女性優先の社会。	60代	男	
家庭は基より、地域全体で意識を図り充実した環境に取り組んでいきたい。	60代	男	
知識があっても良い事と思っても行動に移すきっかけ作りが大事だと思います。意識を変える情報発信。	60代	男	
市役所内はどのようになっているのかと郡山市男女共同参画周知のため、市民へのさらなる情報提供。	60代	男	
男女の根本的な生理的な違いを良く理解する事が大事で、その上でおたがいに尊重する事が大事だと思う。(物の考え方の中で、思いやり、やさしさ！) 問17.？一人で住んでいるので、解答に？	60代	男	
日本は古来より世界に冠たる女性上位社会である。欧米はできないことを言うだけ。	60代	男	
考える良い機会になりました。「さんかくプラザ」何かあれば利用したいと思います。	60代	男	
男女をとわず相手の事を尊重すること。	60代	男	
社会全体が古い観念や常識等にとらわれてきたように思います。社会の意識改革は必要だと思います。	60代	男	
男尊女卑の考え方を男性から払拭が必要。 女性は、男性の庇護下でのみ、活躍できるといった立ち位置を払拭する必要がある。	60代	男	
まだまだ郡山はローカルですので男女平等はむずかしいと思います。もっと情報を積極的に発信し理解が必要だと思います。	60代	男	
思いやりの心。	70代以上	女	
年齢を重ねるごとに男とか女とかではなく人としてどうあるべきか。家の中で主婦(夫)がキリキリ舞いしていれば当たり前のように主夫が代われば良いし協力して生活することが基本。育児は周囲の人に頼むことも必要なのです。	70代以上	女	
私くしは70代と年令的にも現代の様な男女平等は、社会的にも広くフキウしておりませんでした。男女の違い(体力、得意分野は別れると思います。しいて平等々と、一率に並べなくてもよいのでは、お母さん達(ママ)は自分で出来る事は自分で、あまりにも他力本願のような気が致します。	70代以上	女	
活躍する人達を私達は「やっかみ」しないで応援出来る人間になりたい。	70代以上	女	
まずは、男は仕事第1、女は家庭を守るという考え、男は仕事でくたくたに疲れているという状況を改める必要があると思います。	70代以上	女	
郡山市も高齢者が多くなっています。男性、女性にかかわらず共に生活しやすい環境づくりにしていただきたい。	70代以上	女	
小さいうちからの学校教育が重要。	70代以上	女	
男女がともに生きいきと暮らせる会社は理想であるが現実はなかなかそうなって居ない。男性が変わらなければと思う。男らしく、女らしくという風潮が未だみられる。特に私の年代の方にその傾向がみられる。”上から目線的な…” 問17.私は1人暮らしですので、記載の問いには該当しないです。 問18.該当しない。	70代以上	女	
男女が共に協力できる地域社会になればと思います。時には、古い考え方に、耳を傾けるのも必要かと思えます。	70代以上	女	
従来の慣習にしばられる人が多い間は進みが遅くなります。市民全体年令を問わず人間として平等に生きて行かなければという事を認識するのが一番大事と思っております。	70代以上	女	
男女を問わず相手を思いやりの心を強く考え行動すれば優しい人間になれると思います。逆の立場で物事を考える事が大切と思う。	70代以上	男	

「男女」の問題は「子育て」や「高齢化」の問題を常にセットでマルチです。一方で郡山の地域交流は急激に衰退しています。	70代以上	男	
男女共同参画には、大賛成ですが、まずは家庭内条件が整うことが必要であり、夫婦間の理解活動が不可欠と思う。	70代以上	男	
主旨はよく分かるのですが自分の家族も回りも独身が目立ちなかなか共に生きてゆく体制なっていません。男女同権は大賛成です。もっともっと女性の社会進出を期待します。	70代以上	男	
各種相談の窓口一覧が掲載されていますがもっと多くの方が目に入るように広報活動する必要があります。	70代以上	男	
現在の社会は、どうしても男性上位にみられがちです女性も学力も能力も男性以上の力を発揮できる様な社会（仕組み）を作り上げる事が男女平等と言う社会になると思います。（中国を参考にしても良いと思います。）	70代以上	男	
感心をもたせる宣伝や報告に接する機会が少ない、家庭や職場へも入って宣伝必要。	70代以上	男	
市広報等で「男女共同参画社会」のPR必要。	70代以上	男	
理解の向上。	70代以上	男	
啓蒙活動&情報提供の充実。	70代以上	男	
支援制度の充実。	70代以上	男	
頭では理解しているつもりでも、いざ、行動レベルとなると、ともなわない事が多々、のが現実です。	70代以上	男	
もっと女性に考えさせたら良いのではないかな。	70代以上	男	
年齢層によって考え方（生きて来た歴史によるちがいがい）により意見は分けられると思う。一日24時間、今も昔も同じそれ以外は全て考えたかがちがう。時代の流れをつくる年代の人にまかせたい。	70代以上	男	
個人の生き方、考えを尊重し、誰もが平等で生活していける…、遊興等に溺れ、破滅等しないような生活環境を構築していく事を願います。	70代以上	男	
女性でも能力の高い方が沢山おりますので、発揮できる環境整備が急がれます。	70代以上	男	
各地域の小さな声、活動から「男女共同参画」を知ること。	70代以上	男	
設問が抽象的で回答に困ります・・・政治家に聞くべきですね。それでも書いて下さいと言うのなら、底辺層のボトムアップが必要と考えています。例えば、派遣制度の廃止・パートタイマーの地位向上・最低賃金の底上げ・低所得者に対する減税・富裕層に対する税制改革等々、生活格差を根本的に解消していけない限りその様な時代は絵空事と思います。現状は、すべて悪政が招いている事ですが・・・。	70代以上	男	
思いやりの心。	70代以上	男	
男性だから、女性だからという変な配慮をしない。同じ給料の前にぶら下がっている仕事は同じであるべき。	年齢不明	男	
2 働き方について			
仕事と家事を両立し、子育ても片寄る事なくしていけたらと思います。	20代	男	
子育て介護しながらでも働ける社会にして欲しいです。介護認定を受けてもその時だけ対象者が頑張っ普通出来ない事でも出来てしまいうように介護度が認定されず家族がとて疲れてしまいう中々難しい事があります。	20代	女	
様々な生活スタイルを選択出来るような支援をお願いします。子育て世代としては、育休が3年取れると嬉しいです。また、早産で生まれても修正月齢でカウントされないのをなんとかしてほしいです。	20代	女	
男性がもっと家庭に時間を使うように、労働環境や賃金の見直しが必要かと思う。女性の産休や育休に対する社会の理解を高める必要があると思う。	30代	男	
出産や育児による社会へのブランクを埋める為の就業機会のあっせんをわかりやすく通いやすい形で公共の機関が行えばいいと思う。	30代	女	
フルタイムで働いて育児をして全てにおいて余裕がないと感じています。それでも生活していくために安い給料でも働かなくては、自分らしく働いて充分なお給料をもらえる社会になって欲しいです。	30代	女	
昔に比べて女の人が働きやすい環境にはなっているとは思うけどまだまだだと思ふ。保育園が少なく働けない人はいっぱいいるのでどうかしてほしい。	30代	女	
女性が社会に出て働くことは、出産・育児があるととても大変です。でも、それは（出産・育児）正直女性が大きな役割を担うことで男性はそのサポートに徹するのが限界だと思います。出産・育児を経ても働きつづけてられる雇用環境や安定した給料の確保などが社会全体に広まってほしいです。	30代	女	
有給を男もとりやすい環境にしてほしい（学校現場-義務教育）。	30代	女	
ひとり親家庭でも、収入が少ない家庭などを、優先した社会にしてほしい。体を悪くしてまで働く母親が増えている。	30代	女	
寿退社で女性はやめていく人が多いし、そういう考えがある。何々、責任感があるとは思わない人がいると思う。	40代	男	

何と言っても現在は仕事中心の生活に至っているので、働く環境を改善し、家庭生活の充実を図る事が大事だと思います。	40代	男	
女性には、出産や育児を経ても、やりがいがあり、待遇も見合う仕事に就ける機会（そのような職）が当たり前にある社会、男性には長時間労働をやめ、家事や地域活動に関わることが当たり前となる社会が必要だと思います。	40代	女	
官僚や上場企業のトップが女性になると、またこの日本も変わってくると思う。生きいきと暮らすためには、社会づくりも重要だけど、まずは自分自身を認め、自らを輝かせるためにも、努力をしなきゃならないとも、思う。	40代	女	
定年後（60）再就職の支援。	50代	男	
男性の育休取得率を上げる為の会社の理解を得る様、社会全体の運動が必要だと思う。	50代	男	
子育て世代に力を入れているのを感じますが、50代からの再就職（特に女性）などの活躍も応援してほしい。	50代	女	
少子高齢化社会になり、団塊の世代の私達が、元気なうちは、若い世代の方々に協力できると思います。子供達は未来の宝です。乳幼児にとって母との時間は大切だと思います。仕事の時間帯、産休、育休等、男性の協力は絶対に必要だと思うし、相手を思いやる心が大切だと感じています。	70代以上	女	
企業が働きやすい環境を整え労働が社会全体で平等になる事は？	30代	男	
3 防災について			
災害時のスピード感、正確な情報収集、連絡がまだまだ足りてない。ボランティアの受入れ体制が良くないと実感した。（申込時）市職員の緊張感が足りない！！その後の対応見ていると被災した側に寄り添った行動をしているとは思えなかった。	50代	女	
「コミュニケーション」を取る策です。働いている人は、つかれていてほかの事には余裕がない。狙いは、年をとると特に男性が内にこもりぎみになる。その打開策を見つけること、それは趣味を作ること、健康の悩みを解消するストレッチや老人はスマホの操作が出来ない、など「アイデア」がいっぱいあるので、行動を起こすだけです。「防災」「いじめ」「健康」「スポーツ」テーマを決めて参加者（市民）募集してみようでしょう。	60代	男	
4 人権について			
だいたいの企業のトップ層は昭和生まれでハラスメントに対する認識が甘いと思う。昭和と平成では基準が違うのでそのずれを小さくしていかないと、女性は心のどこかで抵抗をもち続けると思う。	20代	男	
人権に基づいた考え方の普及。	30代	男	
人権関連問題に限らず幅広い問題解決を期待したい。	60代	女	
娘がいじめから不登校になり、家に一人していると、近所の人から差別され心無い言葉（頭がおかしいとか）を掛けられて大変傷つきました。今も、その人は挨拶してくれません。ですから、誰もが他人の気持ちを押し測れる優しい社会を望みます。	60代	女	
今まで娘が勤めたところの社長（60代男性3人）は、ものすごいパワハラで、聞くこともはずかしいくらいの言葉、例えば、事故で朝出勤ができないと連絡すると「何をしゃがっているこのうすらバカ」、もう1人は社長室で必ず昼食をとる様にと言っていたら、何と部屋に盗聴器、そしてもう1人、残業代も出していないのに夜遅く（深夜までかかる日もある）まで時間がかかっていると、能力がなさすぎ、下請け業者と仲良くして俺の会社をのっとるつもりか、このアマが！！ちなみに娘は30代ですが、さすがに会社の為と思ってやってきましたが、今月会社をやめる予定。日本の社長はこんなもんか？男性（社長）不審になってます。	60代	男	
いき詰まり悩んだ時の相談案内窓口は、広報おおりやまに記載されているが、TV・ラジオ・新聞でももっと多く周知した方が良くと思う。	60代	男	
5 市政について			
生活や労働環境や人権の問題など役所などと連携を強めて郡山市を良い都市に導いていただきたいです。	20代	男	
東京から郡山に移住してきた者ですが、まだまだまわりでは年配の方を中心に「男は男らしく、女は女らしく」といった考えが根強く、男性コミュニティの中では女性蔑視ともとれる発言も多いので、その意識から、ぜひ改革していただきたいです。	20代	男	
このアンケートが男女差別に対して【私たちは差別をなくせるように努力しています】というアピールのためだけにならないことを祈っている。身内にいる女性は仕事をした上で家事を行う姿をよく見るので、そんな人が過ぎしやすい社会になってくれた方が嬉しく感じる。	20代	男	
働きたくても子供（未就学児）の保育園の入所が難しく働きに出る事が出来ない家庭があるので、保育施設や保育士の数を増やせるようにして欲しい。子育て中の母親の再就職先問題もあるので、企業側にも進んで主婦の雇用の増加。	30代	男	
若年者が大都市に出て行かないような魅力を持つことがまず重要。ずっと郡山で暮らしたいと思えるようにしないとそういう段階に行けないと思う。	30代	男	
P T Aや町内会など、不要なものを止める。男女問わず負担が大きい。	40代	男	

ひとりひとりが郡山市を好きならば楽しい社会が生まれると思います。郡山市が大好きなリーダーがいて下さったら素敵な音楽が流れ、楽しい街となるのではないのでしょうか。郡山を愛するリーダーが必要です。	50代	女	
お互い心が豊かに暮らせるよう、芸術、音楽など、気軽に足を運べる施設がもっと増えても良いと思う。企業からも協力を得れば来県者増で雇用も女性に多くなるかと思う。音楽都市なのだから、男女参画にもうまく、取り入れてみてはどうかと思う。	50代	女	
若い親が子育てしやすい社会になるといい。介護をお願いできる(特養)を増やしてほしい。とても、ありがたいです。	50代	女	
行政や企業等が同じ考え方を維持するなどブレない取り組みが大切かと思います。	50代	女	
子育て世帯に支援するだけでなく、シルバー世帯にも環境支援をしてほしいです。	50代	女	
豊かな未来の創造。子どもだけではなく大人も夢を語れる社会づくり	50代	男	
「広報こおりやま」等を通して、育む(研修、学習、啓発事業)、よりそう(相談事業)、繋げる(市民活動推進事業)、支える(運営事業)、調べる(調査、研究事業)、伝える(情報の収集や発信事業)等を告知し、展開していく事だと思う。	50代	男	
男女参画推進条例等の内容を市民全員が理解して条例として自主法が成立することを望みます。	50代	男	
短期的、長期的な視野に立ち、意図的・計画的に施策を進めたい。そのためにも、行政と学校教育がリンクしないと、将来的な成果(10年後、20年後)が得られないと考える。	50代	男	
可処分所得が低すぎて結婚出来ない人が多数。所得税・社会保険・年金・固定資産税・市県民税・自動車税・他みなし税の様なNHK受信料・車の車検に任意保険・生命保険等、これ等を総額すると、手取は約半額。役所も今後この内容を考慮した税制を構築すべき。	50代	男	
高齢者にやさしい町作り、住みやすい社会であってほしいです。	60代	女	
何事にも市で決めて、結果報告でなく、もっともっと市民の意見を取り入れてから決定してほしい!	60代	女	
型にはまった企画ではなく、機能する企画を望みます。これからますます高齢化社会になります。1人暮らしの人が多くなるので人にやさしい町、安心して住んでいられる町作りをお願いしたいです。	60代	女	
一般的な考えを排除して積極的いろいろな新しい取り組みを行うことが大事ではないか。失敗してもいいので。次の教訓になる。	60代	男	
全ての市民が必要に応じてスマートにサポートが受けられるように既往の施策や慣習に捕らわれることなく新たな生活様式を創造し、あるべきモデルシティ郡山の実現に協力したいと考えています。	60代	男	
市の長は市民の声をよく聞くこと。唯一人置きざりにしないを基本理念とすること。	70代以上	女	
特に、地方自治体のトップが、男女共同参画の意識を、強く持ち市民団体交流活動を理解し、推進するよう働きかけること。縮小だけはしないでほしい。	70代以上	女	
地域社会の理解と安心できる暮らしが出来る社会づくりが必要、いずれ皆、年をとる。	70代以上	男	
6 その他について			
大きい商業施設やイベント時の女性のトイレの待ちの列を良く見るので女性トイレの数を増やしても良いかと個人的に思います。	20代	男	
もう少しさんかくプラザのPRをしてほしい。	30代	女	
明るい話題のない世の中でなかなか難しいと思う。老後や子・孫の世代等が心配。色々なワケを子供達以降の世代が全て責任を負う感じで明るい未来がなくなってしまう。	30代	女	
孤立・孤独を男女・年齢関係なく感じる事が出来ない社会になってほしいです。	30代	女	
コンプライアンスに対する、風通しの良さをもっと企業で追及したい。	30代	女	
独身の場合、適切な回答選択肢がないと感じました。また、差別的な背景を前提にした設問が複数あり不適切だと思います。	30代	女	
郡山市には、もっとがんばってほしい。給付金とかスマートフォンとかほしい物は自分で調べる。さんかくプラザを知らないと言うことは逆にいいこと?	30代	男	
特に福祉の充実(安心して暮らせる仕組み、制度)で、精神的な不安や負担が少なくなるといいなと思う。既婚、独身問わず人は一人、精神的に安定(経済の安定も)すれば、前向きに積極的になれる一歩が踏み出せる人が多いかもしれません。	40代	女	
何に対してもお金が必要なので、税金を安くして下さい。そうすれば生き生きと暮らせます。	40代	女	
自分の仕事をしていなかった為、今まで親の仕事が無償で手伝い、介護をし、兄弟から仕事してなくひまだから当たり前と思われていて腹立つ!!	40代	女	
独身やシングルマザーの若者が増えているのが気になります。結婚への憧れや一緒に生活する楽しみを味わえる郡山であってほしいです。	40代	女	
結婚をして家庭を持つ事があたりまえではない。単身者も生きやすい社会づくりにも目を向けてほしい。	40代	女	

保育所4月に入所しないと、来春まで入所できない状況から、4月入所が必要でなくても早めに入所させている人も多いです。必要な月から入所できるよう、4月の一斉入所をやめてほしい。郡山市は 保育所4月一斉入所の為、必要な時に入れない。4月まで待たないと入れない。	40代	女	
今の人は出逢いの場が少ないせいか、彼氏、彼女がいない人が多い気がします。出逢いの場が多くなれるような企画があれば良いと思います。	40代	女	
このアンケートへ記述する内容ではないかもしれませんが、せっかくの機会なので書かせていただきたいと思いますが。社会に対して、漠然とではあります、「働くママに」や「子育て中のママに」等の言葉はよく見かけますが、そればかりが目立つと、独身の人や子供のいない人は、潜在的に劣等感を覚えて、埋もれてしまうように感じます。また、高齢者の介護だけではなく、障害のある家族の介護に生活時間の多くを割いている女性も多いと思います。あまり大きく光の当たっていない所へ目を向けて改善していく事で、社会の変化を大きく感じる人が増えてくるのではないかと思います。	40代	女	
このアンケートですが、職業がしっくりこない。あまり職業を知らない方が作成したんだろうと思った。	40代	女	
消防団や町内会等に若い方を勧誘や参加させて年代問わず交流を図る。地域コミュニケーションの確立。	40代	男	
相談機能等で、最終的な答えがでるまで相談出来る機関の確立（土・日曜日の運営等）。仕事で平日休みが取得出来ない人もいる為。	40代	男	
年金制度、サラリーマンの妻の廃止	50代	女	
中、高生あたりの時に、さんかくプラザに行って、研修を受けるなどが1日ぐらゐれば、グッと距離が近くなるのでは？（敷居が高い）。	50代	女	
郡山と都会の生活を経験していますが、職場でも、地域社会でも、保守的な人が郡山市は多いと感じています。もう少し、他者を見守る雰囲気が必要では？と思います。	50代	女	
この度の調査でいろんな事が知りました。ありがとうございます。	50代	男	
家庭を持っている男女は、そこそこ良いと思いますが、独身の男女の方がなかなか地域に溶け込まないような気がします。	50代	男	
誰にでも優しい心で接すればいいかな。	50代	男	
国や地方公共団体の支援制度。 なんとと言ってもある程度の収入がないと暮らしていけないので収入確保 保育施設 企業の理解が必要で子供が育てられる環境。	50代	男	
人の基本は何か・・・？祖父、祖母、両親がいて、自分がいることを考えて下さい。ダメはダメなども。	60代	女	
子どもも大人も（老人も）みんな生き生き暮らせるのがいいですね。まずは家庭でコミュニケーションを図っていききたいですね。ひと言でも大事です。	60代	女	
老若男女問わず、地域社会の中心に、さんかくプラザの様な市民の交流・活動できる場と機会を活発にする事。	60代	女	
家などにいる時間を、少なくして、もっと色々な方達と交流出来る場所をふやしてほしいです。外に出て色々チャレンジする事がふえるといいですね。	60代	女	
こういう言葉は若い人達用の気がする。	60代	女	
私はもうすぐ70才 主人を亡くし独り住みです。今は元気で働いておりますが、私事で申し訳ありませんが、いくつ迄生きるかわかりません。今の住宅処分してシェアハウスのような所があればと考えております。多分同様の考えの方 多いと思います。相談窓口があれば安心して生活できるかと♡よろしく願い致します。問17.18.独り住みですので全て自分です。問22-4.PTAは女性じゃ無い方が色々な意味で良い。そもそもPTAの必要性を余り感じていない。	60代	女	
市役所の介護保険課の相談機能をもっときちんと答えがでるようにして下さい。相談に行っても、ぜんぜん相談にならず、母は、施設をたらいまわしのようになって亡くなりました。	60代	女	
若い人の意見をどんどん取り入れていくことを行って下さい。	60代	女	
郡山市民の皆様はまじめな方が多く、それぞれ男女年齢をとわず、働き、社会活動もがんばり生きいき暮らしていると思います。	60代	女	
健やかに安心して暮らせる社会づくりが出来たらと希望です。	60代	女	
生き甲斐を感じられる社会。	60代	女	
家族としての役割を果たしながら地域活動、これからの介護ができるように。	60代	女	
今の時代は、皆守られる世の中なので、自由過ぎる。すぐ結婚してすぐ離婚する。女性は、お金の苦労してないと思う。	60代	女	
子供が小さい時、小学校くらいまで、急病や親が体調不良になった時、又、研修受けたい時、地域で見られるネットワーク作りができると助かると思います。	60代	女	
自治会機能をもっと活発にすれば良いと思う。古い人が役員に多すぎで、若い優秀な人を育成すべきと思う。集計結果は発表されるのでしょうか？3000人のアンケートは妥当なのでしょうか？少ない気がします。	60代	男	

私のように一人で生活している人間は今後増えていくと思います。そんな人間が安心して生活できたり、知らない人達と交流したりして生きる希望を与えてほしい。	60代	男	
ご苦労様です。より良い社会にしたいですね。	60代	男	
地方の人口減対策として（少子化対策を）実施してほしい。特に若い人が結婚して子供を育てやすい社会を作してほしい。	60代	男	
似かよった言葉などが出ていると頭が「こんがらがって」、良くわからなくなる。	60代	男	
生きて行くうえで、心配事の少ない社会。	60代	男	
子供は、もう地域で育てる考え方、システムの構築が必要。	60代	男	
私は便利の良い場所に住んでいるため郡山が住みやすいです。人口が減って行かない方法、安心して生活出来る社会であります様に。	70代以上	女	
70才すぎても、80才すぎても、90才すぎても、安心して、すごせる郡山であってほしい。一番は、金銭面かな？	70代以上	女	
「さんかくプラザ」のPR不足が目立つとっております。	70代以上	女	
今の時代は大変ですね お金がかかりすぎます 仕事によって 家はもてないですね。休日もふえたけど けっこんも出来ない方がいっぱい 年をとってからさみしいと思います。	70代以上	女	
さんかくプラザは今後共一層充実してほしいと思います。	70代以上	女	
高齢者も元気に運動する場所がもっとほしいと思います。（パークゴルフ場等）	70代以上	女	
さんかくプラザはいつも利用しています。	70代以上	女	
私はもう74才で自分の事をなるべく長く出来るよう心がけていますが、他の人の事までは気がまわりませんので申し訳ありません。	70代以上	女	
地域事にボランティアの仲間づくり。	70代以上	女	
まず身边から「あいさつ」のある街づくり。ゴミ出しの時などにあってもあいさつがない事が多い。	70代以上	女	
社会や地域に無関心（生活に忙しい？その他？）は知りませんが、自分はこのアンケート用紙を委ねられている立場にあたる者として、全く無知であります。子供食堂など開設して頂きましたが、どこまで親子の絆と云うのか、誰、与えるだけになってしまうのでは？と心が痛む処です。基から考えて行かなければと思います。	70代以上	女	
郡山市は福島市（あづま公園）やその他とくらべ屋外の公園が小さめ。大池公園、鳥見山公園の様な広大さが無い。残念です。	70代以上	男	
高令者の人口比率が、高い今日、生き方、考え方が、片寄り方になりがちと思うが、そうした人生の考え、生き方を、現世の姿に、なじませる努力の教育の必要性。	70代以上	男	
老後の生き方。	70代以上	男	
健康を守る運動その他の提案、実施。	70代以上	男	
福島県の高齢化率は約32%と全国平均でも上回っており今後行政の取り組み方などが注目されますが是非安心して住める町づくり、高齢者にやさしい市の運営に期待致します。	70代以上	男	

第5章 資料

この章では、市民意識調査の「調査票」及び過去の調査結果との比較資料を掲載しています。

【男女平等意識についておたずねします。】

問5 あなたは、次のような各分野での男女の地位が平等だと思いますか。
(それぞれの項目ごと、1つに○)

項 目	男性が優遇 されている	やや男性が 優遇されている	男女平等である	やや女性が 優遇されている	女性が優遇 されている
1 家庭生活では	1	2	3	4	5
2 職場では	1	2	3	4	5
3 学校教育の場では	1	2	3	4	5
4 地域活動の場では	1	2	3	4	5
5 法律や制度上では	1	2	3	4	5
6 社会通念、慣習、 しきたり等では	1	2	3	4	5
7 社会全体では	1	2	3	4	5

問6 あなたは、性別に基づく「男らしさ」「女らしさ」という表現について、どう感じますか。(1つに○)

- 1 どちらにも抵抗を感じる
- 2 「男らしさ」だけに抵抗を感じる
- 3 「女らしさ」だけに抵抗を感じる
- 4 どちらにも抵抗を感じない
- 5 どちらともいえない

問7 あなたは、結婚、家庭、離婚等についての次のような考え方についてどう思いますか。
 (それぞれの項目ごと、1つに○)

項目	賛成 (○)と思う)	どちらか いえば賛成 (○)と思う)	どちらか いえば反対 (○)と思わない)	反対 (○)と思わない)
1 結婚は個人の自由であるから、結婚 してもしなくてもどちらでもよい。	1	2	3	4
2 女性が仕事を持つのはよいが、家事、 育児等と両立させるべきである。	1	2	3	4
3 結婚や出産後も女性が働き続けるこ とは、自然なことであり、夫婦で協力し て家事をするべきである。	1	2	3	4
4 結婚しても必ずしも子どもを持つ ことはない。	1	2	3	4
5 一般的に今の社会では、離婚した 場合、女性のほうが不利である。	1	2	3	4
6 男性は外で働き、女性は家庭を守るべ きである。	1	2	3	4

【人権についておたずねします。】

問8 あなたは、人権に関する次の言葉について、知っていますか。
 (それぞれの項目ごと、あてはまるものに○)

項目	言葉も、その内 容も知っている	言葉は知ってい るが、内容はよ く知らない	言葉も、その内 容も知らない
1 セクハラ(セクシュアル・ハラスメント) ※1	1	2	3
2 パウハラ(パワー・ハラスメント) ※2	1	2	3
3 マタハラ(マタニティ・ハラスメント) ※3	1	2	3
4 ストーカー ※4	1	2	3
5 DV(ドメスティック・バイオレンス) ※5	1	2	3
6 ハイトスピーチ ※6	1	2	3
7 性的マイノリティ(性的少数者) ※7	1	2	3
8 同性パートナーシップ制度 ※8	1	2	3

- ※1 相手が望まない性的な意味合いを持つ言動のことをいいます。
- ※2 同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいいます。
- ※3 職場において妊娠や出産を理由に行われる嫌がらせ、退職の強要、雇い止めなどをいいます。
- ※4 同一の者に対し、つきまとい行為等を繰り返し行うことをいいます。
- ※5 夫婦や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力をいいます。
- ※6 特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動のことをいいます。
- ※7 性同一性障害（「体の性」と「心の性」との間に食い違いが生じ、自分の性別に違和感を持っている、あるいは受け入れられない状態）の人や、恋愛感情などの性的な意識が同性や両性に向かう人（同性愛、両性愛）、身体的な性別が不明瞭な人（性分化疾患）などのことをいいます。性的マイノリティの方々の中には、日常生活や現在の社会制度にさまざまな精神的苦痛を感じ、生きづらいと思っている方もいます。
- ※8 個人の多様性を尊重するため、同性の2人を人生のパートナーとして自治体が認める制度のことをいいます。

問9 性的マイノリティ（性的少数者）が生きやすい社会を実現するために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。（1つに○）

- 1 市民の理解促進を図るための周知啓発（講座、情報紙等）
- 2 悩みを相談できる窓口の設置
- 3 当事者同士で交流ができる機会の確保
- 4 支援団体の育成
- 5 同性パートナーシップ制度の導入
- 6 その他（具体的に ）

問10 あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。（それぞれの項目ごと、あてはまるものに○）

項 目	自分が受けた	身近で見聞きした	ある聞いたことは	マスコミ等で	知らない
1 セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）	1	2	3	4	4
2 パワハラ（パワー・ハラスメント）	1	2	3	4	4
3 マタハラ（マタニティ・ハラスメント）	1	2	3	4	4
4 ストーカー	1	2	3	4	4
5 DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3	4	4

問11 問10で、「1 自分が受けた」と回答された方にお聞きします。あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1つに○)

- 1 相談した
- 2 どこ(誰)にも相談しなかった →問12へ

問12 問11で、「2 どこ(誰)にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。どこ(誰)にも相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 どこ(誰)に相談してよいのか分からなかったから
- 2 相談しても無駄だと思ったから
- 3 相談したことが分かって、仕返しを受けると思ったから
- 4 自分さえ我慢すればよいと思ったから
- 5 世間体が悪いから
- 6 自分にも悪いところがあるから
- 7 その他(具体的に)

問13 あなたは、セクハラ、パワハラ、ストーカー、DV等の被害にあったときの相談窓口をご存知ですか。(1つに○)

<県内の相談窓口については、アンケート依頼文書の裏面をご参照ください。>

- 1 知っている
- 2 知らない

問14 新聞、テレビなどで「人権問題」や「人権侵害」が報道されることがありますが、あなたの身近では、どのようになってきていると思いますか。(1つに○)

- 1 少なくなってきた
- 2 あまり変わらない
- 3 多くなってきた
- 4 わからない

問15 あなたは、これまでにセクハラ、いじめ、虐待など「人権」について考えたり、学んだりした経験はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 各種報道や書籍から「人権」について考えたり、学んだりしたことがある
- 2 授業、講座や講演会等を通して考えたり、学んだりしたことがある
- 3 身近な人の経験や話から、考えたり、学んだりしたことがある
- 4 特に考えたり、学んだりしたことはない
- 5 わからない
- 6 その他(具体的に)

問16 『人権相談』※をご存知ですか。(1つに○)

- 1 知っている
- 2 知らない

※ 人権相談は、全国の法務局に常時開設されている「常設人権相談」のほか、市内各施設で開設する「特設人権相談」があり、家庭内や隣近所のもめごとなど様々な相談ができます。(相談は無料、秘密厳守) 特設人権相談は、地元の人権擁護委員が相談に応じます。

開設日程は、広報こおりやま、市ウェブサイト、チラシ等でお知らせしています。

【家庭生活についておたずねします。】

問17 あなたの家庭では、次にあげるような家事、育児や介護等を、主にどなたが分担していますか。(それぞれの項目ごと、1つに○)

項目	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員(夫婦と子ども)	族その他の家	※ 該当しない
1 食事の用意、あと片付け	1	2	3	4	5	6
2 掃除	1	2	3	4	5	6
3 洗濯	1	2	3	4	5	6
4 育児	1	2	3	4	5	6
5 家族の介護や看病	1	2	3	4	5	6
6 地域活動(PTA や町内会の活動等)	1	2	3	4	5	6

※ 「該当しない」には、各項目に該当しない場合のほか、家族等以外の方が主に分担している場合(家事支援サービスの利用など)も含まれます。

問18 あなたの家庭では、次にあげるようなことを最終的に決定するのは主にどなたですか。(それぞれの項目ごと、1つに○)

項目	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員(夫婦と子供)	族 その他の家	わからない
1 家計費管理	1	2	3	4	5	6
2 投資・不動産等購入	1	2	3	4	5	6
3 夫の就職・転職	1	2	3	4	5	6
4 妻の就職・転職	1	2	3	4	5	6
5 全体的な実権を握っているのはどなたですか	1	2	3	4	5	6

【女性活躍についておたずねします。】

問19 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------------|---|--------|
| 1 活躍している | } | 問20 ①へ |
| 2 どちらかといえば活躍している | | |
| 3 どちらかといえば活躍していない | } | 問20 ②へ |
| 4 活躍していない | | |

問20 問19のように感じる理由は何ですか。(それぞれの項目ごと、3つまで○)

① 問19で「1 活躍している」又は「2 どちらかといえば活躍している」と回答された方にお聞きします。活躍していると感じている理由は何ですか。

- 1 産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている
- 2 女性の経営者や管理職が増えている
- 3 管理職でないが活躍する女性が増えている
- 4 女性の職域（研究開発、マーケティング、営業など）が広がっている
- 5 報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている
- 6 女性のキャリア意識が上がっている
- 7 長時間労働の慣習が改善されてきている
- 8 PTA や自治会の会長等役職に就く女性が増えている
- 9 その他（具体的に

問20は、次ページに続きがあります

② 問19で「3 どちらかといえば活躍していない」又は「4 活躍していない」と回答された方にお聞きします。活躍していないと感じている理由は何ですか。

- 1 産休・育休などの支援制度が不充実である
- 2 産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい（できない）
- 3 女性の経営者や管理職が少ない
- 4 女性の職域が限定的である
- 5 女性のキャリア意識が向上していない
- 6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
- 7 男性優位の考え方が変わっていない
- 8 長時間労働の慣習が改善されていない
- 9 PTA や自治会の会長等役職に就いている女性がいない
- 10 その他（具体的に _____ ）

問21 女性が活躍するにはどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）

- 1 企業トップが女性の活躍促進に積極的であること
- 2 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
- 3 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること
- 4 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
- 5 身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること
- 6 仕事が適正に評価されていること
- 7 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
- 8 キャリア形成のための研修制度があること
- 9 保育施設が充実していること
- 10 国や地方自治体など行政による企業支援があること
- 11 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること
- 12 わからない
- 13 その他（具体的に _____ ）

問22 あなたは、女性が政策決定の場へ参画することについて、どう思いますか。
（それぞれの項目ごと、1つに○）

項目	賛成	賛成 と どちら か え ば	反対 と どちら か え ば	反対
1 都道府県、市(区)町村の首長	1	2	3	4
2 国会、都道府県議会、市(区)町村議会の議員	1	2	3	4
3 官公庁、民間企業などの管理職	1	2	3	4
4 PTA や自治会の会長、商工会などの団体役員	1	2	3	4

問23 政治分野における女性活躍として、女性の議員が増加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。

(○は3つまで)

- 1 女性が政治に関して興味・関心を持つための学習機会等の提供
- 2 女性が政治参画の必要性について、市民の理解促進を図るための周知啓発
- 3 家族、パートナー等によるサポート
- 4 活躍している女性（ロールモデル）
- 5 家庭生活との両立のための各種制度（休暇等）の整備
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に)

【就業についておたずねします。】

《問24、25は、現在、働いている方におたずねします。》

問24 今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。

(1つに○)

- 1 男性が差別されていると思う
 - 2 女性が差別されていると思う
 - 3 そのようなことはないと思う
 - 4 わからない
- } 問25へ

問25 問24で、「差別されていると思う」と答えた方にお聞きします。それは、具体的にどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 賃金に差がある
- 2 昇進、昇格に差別がある
- 3 能力を正當に評価しない
- 4 結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある
- 5 その他（具体的に)

【男女の働き方と仕事と生活についておたずねします。】

問26 仕事と生活について、あなたの考え方（理想）と現実（現状）にもっとも近いものを教えてください。（それぞれの項目ごと、1つに○）

項目	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」ともに両立	「仕事」と「地域・個人の生活」ともに両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」ともに両立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う。	わからない
考え方（理想）	1	2	3	4	5	6	7	8
現実（現状）	1	2	3	4	5	6	7	8

※「地域・個人の生活」とは、地域活動、学習、趣味、付き合いなどを指します。

問27 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 特に必要なことはない
- 12 その他（具体的に _____）

【防災についておたずねします。】

問28 大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために日常的にどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり
- 2 郡山市地域防災計画に女性や子供、高齢者等の意見を反映する ※
- 3 女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議等の委員への積極的な女性の登用
- 4 防災に携わる職域等への女性参画の拡大及び女性リーダーの育成
- 5 防災について、学習機会の提供
- 6 男女ともに安心して利用できる避難所運営のためのマニュアル作成
- 7 災害時における女性の相談体制の確立
- 8 特にない
- 9 その他(具体的に)

※ 郡山市地域防災計画：災害対策基本法の規定に基づき、本市の防災に関する基本的事項を総合的に定め、市民の生命、身体及び財産を災害から保護するとともに、被害を最小化する「減災」の考え方に立ち、郡山市防災会議が策定する計画です。

【郡山市の男女共同参画に関する取り組みについておたずねします。】

問29 『男女共同参画社会』を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 法律や制度の面で見直しを行う
- 2 国・地方公共団体審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 3 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 4 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
- 5 従来、女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出を支援する
- 6 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
- 7 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
- 8 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
- 9 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
- 10 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 11 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
- 12 男女の収入格差を生じさせないような雇用環境の整備を進める
- 13 特にない
- 14 わからない
- 15 その他(具体的に)

問30 あなたは、郡山市の男女共同参画推進の取り組みについてご存知ですか。
(それぞれの項目ごと、1つに○)

項目	知っている	よく知っている	内容まで	知っている	名前程度	とがある	聞いたこと	何となく	知らない	まったく
1 郡山市男女共同参画推進条例		1		2		3		4		
2 こおりやま男女共同参画プラン		1		2		3		4		
3 男女共同参画都市宣言		1		2		3		4		

問31 あなたは、男女共同参画センター（愛称：さんかくプラザ）をご存知ですか。※
また、利用したことがありますか。（1つに○）

- 1 利用したことがある
- 2 知っているが、利用したことはない
- 3 知らない

※ さんかくプラザは、「男女共同参画のまち郡山」の実現を目指すための市民活動の拠点施設です。男女共同参画推進の活動をする皆さまを支援します。
さんかくプラザの4つの機能 ・学習 ・交流 ・情報 ・相談

問32 今後、『さんかくプラザ』に何を充実してほしいですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 学習・研修機能の充実
- 2 図書・情報収集、提供
- 3 相談機能
- 4 市民団体の交流、活動機能
- 5 調査・研究機能
- 6 その他（具体的に

※「男女がともに生きいきと暮らせる社会づくり」に向けて、あなたのご意見、ご感想などを、ぜひお聞かせください。

.....

.....

.....

ご協力 ありがとうございました。

お手数をおかけいたしますが、この調査票を、同封いたしました返信用封筒（切手不要）に入れ、令和2年7月31日（金）までにご投函ください。

なお、このアンケートは「無記名調査」ですので、お名前やご住所の記載は不要です。

2.過去の調査との比較

経年比較をするために、過去に実施した平成20年、平成24年、平成28年調査の3回分の結果との比較を行った。
実施方法は、すべて同じ方法であるが、設問の違いがあるため、比較可能な項目に絞っている。

【令和2年調査】

調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

調査時期：令和2年7月

調査対象：市内在住20歳以上の男女 3,000人

調査方法：郵送による自記式又はインターネットによる電子申請

回収率：33.6% 回答数：1,007件

【平成28年調査】

調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

調査時期：平成28年7月

調査対象：市内在住20歳以上の男女 3,000人

調査方法：郵送による自記式

回収率：32.3% 回答数：968件

【平成24年調査】

調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

調査時期：平成24年7月

調査対象：市内在住20歳以上の男女 3,000人

調査方法：郵送による自記式

回収率：30.6% 回答数：917件

【平成20年調査】

調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

調査時期：平成20年7月

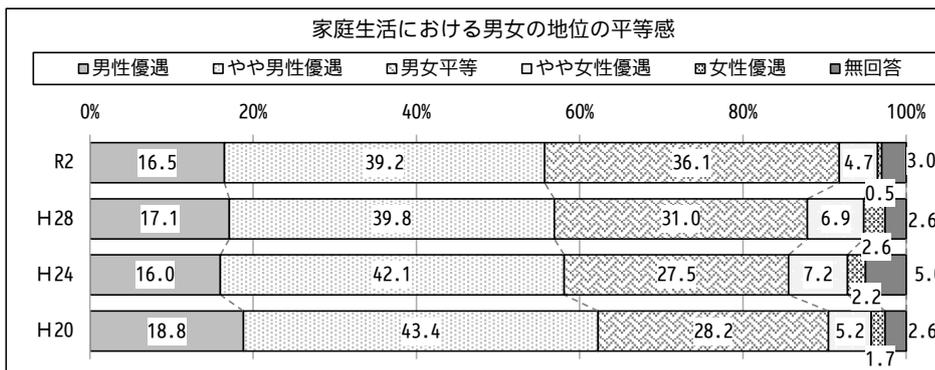
調査対象：市内在住20歳以上の男女 3,000人

調査方法：郵送による自記式

回収率：36.6% 回答数：1,099件

(1) 各分野における男女の地位の平等感 (問5)

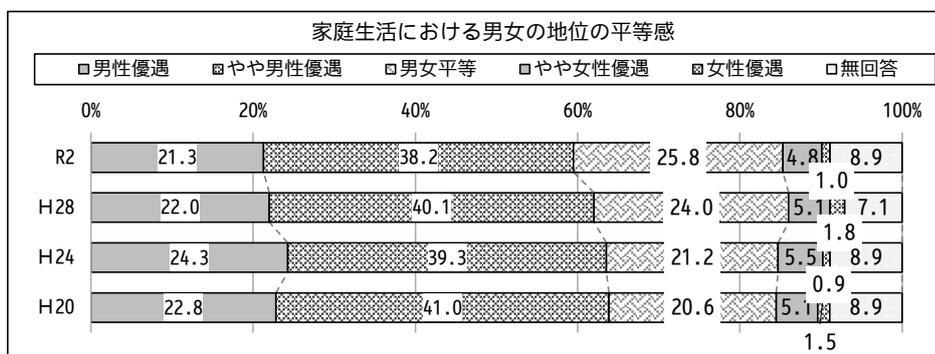
①家庭生活において



(%)

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	R2	1,007	16.5	39.2	36.1	4.7	0.5	3.0
	H28	968	17.1	39.8	31.0	6.9	2.6	2.6
	H24	917	16.0	42.1	27.5	7.2	2.2	5.0
	H20	1,099	18.8	43.4	28.2	5.2	1.7	2.6

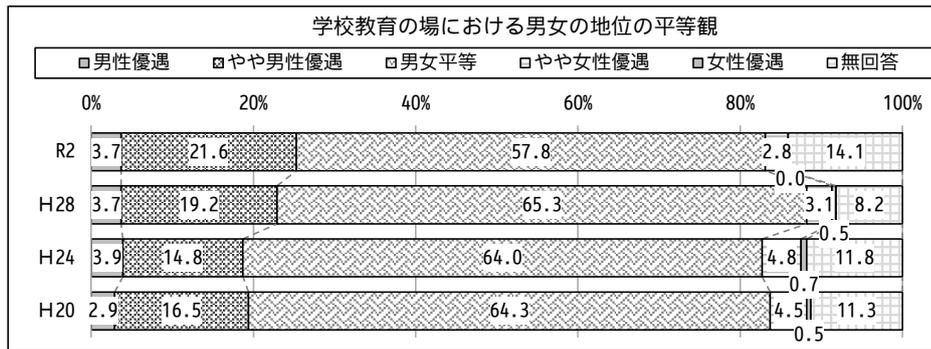
②職場において



(%)

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	R2	1,007	21.3	38.2	25.8	4.8	1.0	8.9
	H28	968	22.0	40.1	24.0	5.1	1.8	7.1
	H24	917	24.3	39.3	21.2	5.5	0.9	8.9
	H20	1,099	22.8	41.0	20.6	5.1	1.5	8.9

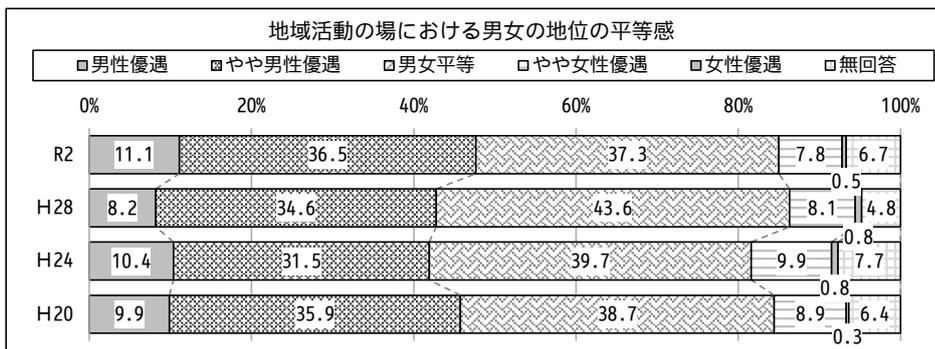
③学校教育の場において



(%)

		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	R2	1,007	3.7	21.6	57.8	2.8	0.0	14.1
	H28	968	3.7	19.2	65.3	3.1	0.5	8.2
	H24	917	3.9	14.8	64.0	4.8	0.7	11.8
	H20	1,099	2.9	16.5	64.3	4.5	0.5	11.3

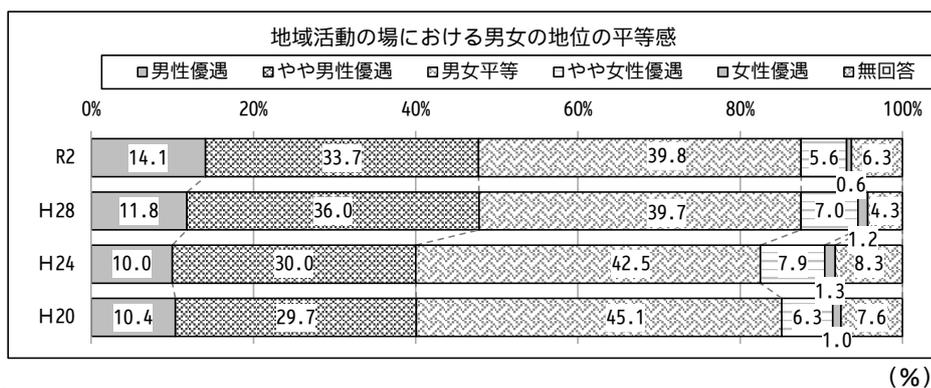
④地域活動の場において



(%)

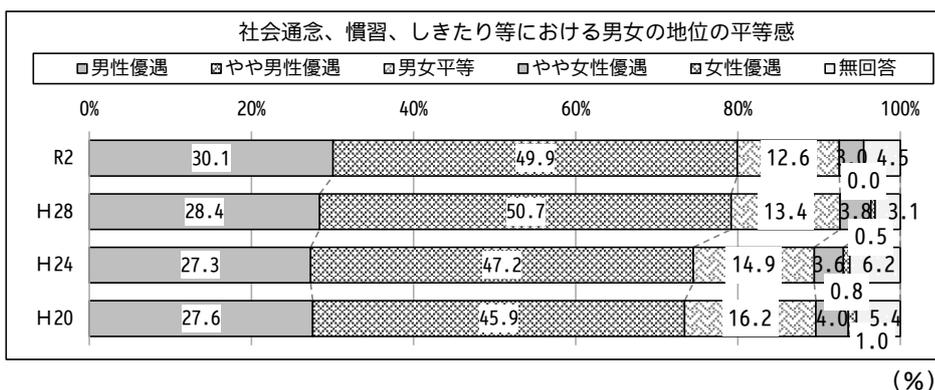
		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	R2	1,007	11.1	36.5	37.3	7.8	0.5	6.7
	H28	968	8.2	34.6	43.6	8.1	0.8	4.8
	H24	917	10.4	31.5	39.7	9.9	0.8	7.7
	H20	1,099	9.9	35.9	38.7	8.9	0.3	6.4

⑤法律・制度上において



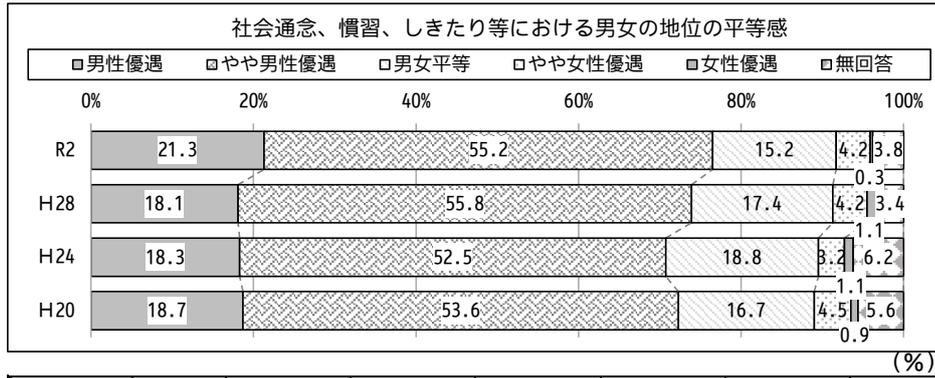
		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	R2	1,007	14.1	33.7	39.8	5.6	0.6	6.3
	H28	968	11.8	36.0	39.7	7.0	1.2	4.3
	H24	917	10.0	30.0	42.5	7.9	1.3	8.3
	H20	1,099	10.4	29.7	45.1	6.3	1.0	7.6

⑥社会通念、慣習、しきたり等において



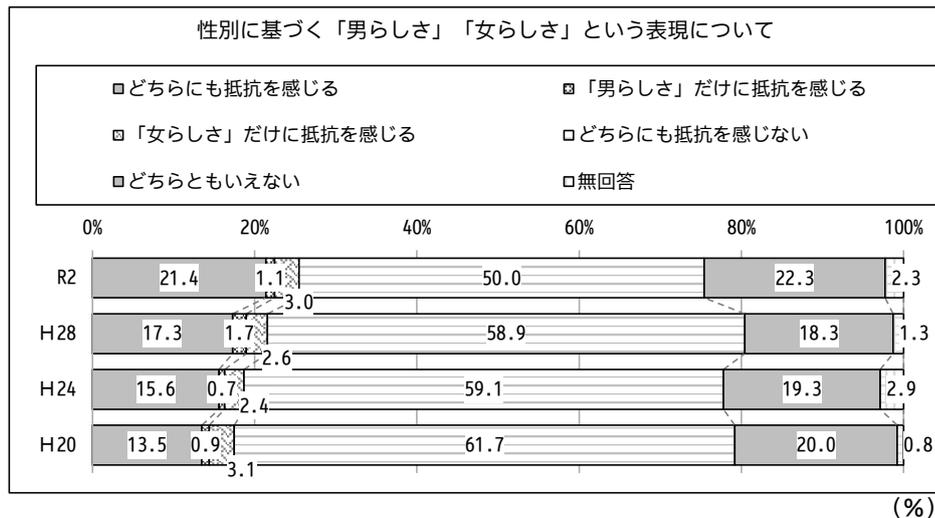
		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	R2	1,007	30.1	49.9	12.6	3.0	0.0	4.5
	H28	968	28.4	50.7	13.4	3.8	0.5	3.1
	H24	917	27.3	47.2	14.9	3.6	0.8	6.2
	H20	1,099	27.6	45.9	16.2	4.0	1.0	5.4

⑦社会全体において



		実人数	男性優遇	やや男性優遇	男女平等	やや女性優遇	女性優遇	無回答
全体	R2	1,007	21.3	55.2	15.2	4.2	0.3	3.8
	H28	968	18.1	55.8	17.4	4.2	1.1	3.4
	H24	917	18.3	52.5	18.8	3.2	1.1	6.2
	H20	1,099	18.7	53.6	16.7	4.5	0.9	5.6

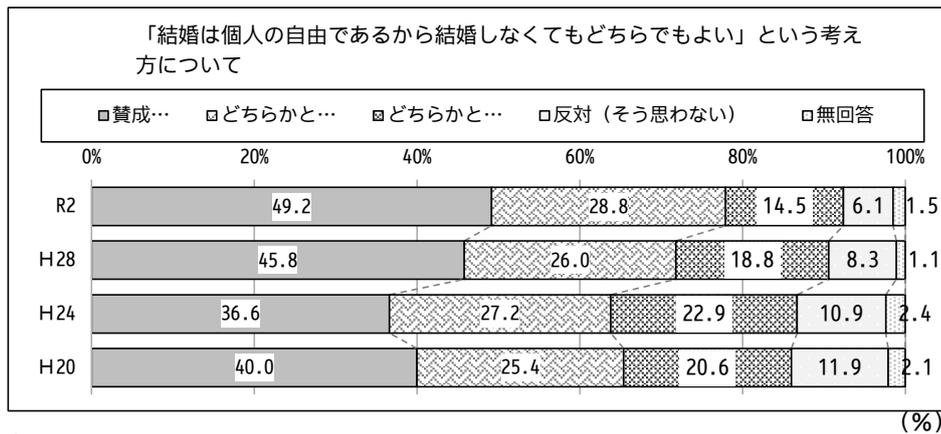
(2) 性別に基づく「男らしさ」「女らしさ」という表現について (問6)



		実人数	どちらにも抵抗を感じる	「男らしさ」だけに抵抗を感じる	「女らしさ」だけに抵抗を感じる	どちらにも抵抗を感じない	どちらともいえない	無回答
全体	R2	1,007	21.4	1.1	3.0	50.0	22.3	2.3
	H28	968	17.3	1.7	2.6	58.9	18.3	1.3
	H24	917	15.6	0.7	2.4	59.1	19.3	2.9
	H20	1,099	13.5	0.9	3.1	61.7	20.0	0.8

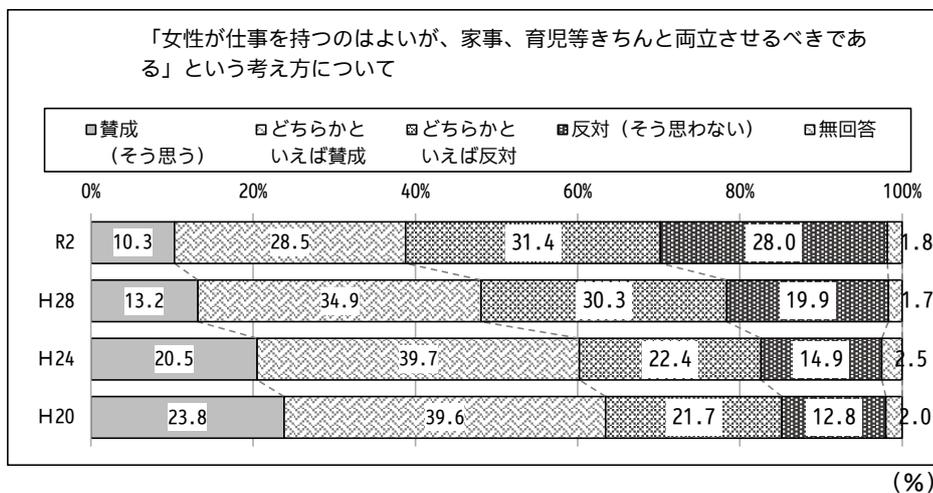
(3) 結婚、家庭、離婚についての考え方 (問7)

① 「結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方について



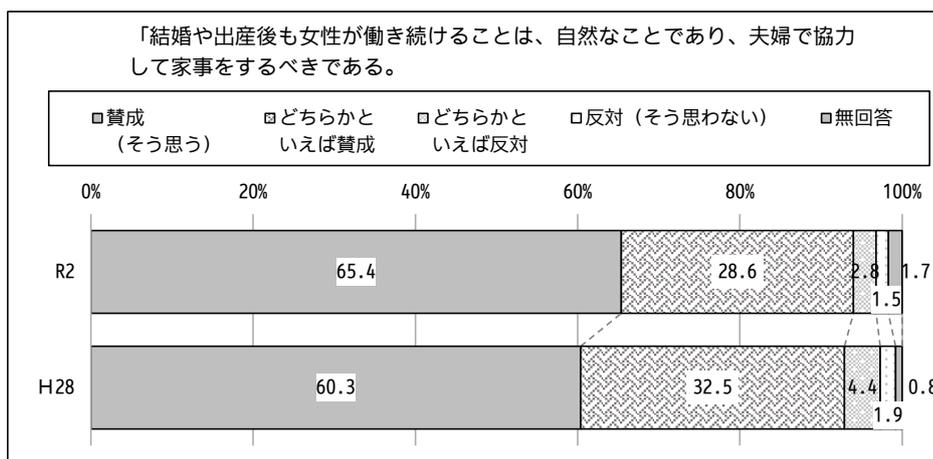
		実人数	賛成 (そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対 (そう思わない)	無回答
全体	R2	1,007	49.2	28.8	14.5	6.1	1.5
	H28	968	45.8	26.0	18.8	8.3	1.1
	H24	917	36.6	27.2	22.9	10.9	2.4
	H20	1,099	40.0	25.4	20.6	11.9	2.1

② 「女性が仕事を持つのはよいが、家事、育児等きちんと両立させるべきである」という考え方について



		実人数	賛成 (そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対 (そう思わない)	無回答
全体	R2	1,007	10.3	28.5	31.4	28.0	1.8
	H28	968	13.2	34.9	30.3	19.9	1.7
	H24	917	20.5	39.7	22.4	14.9	2.5
	H20	1,099	23.8	39.6	21.7	12.8	2.0

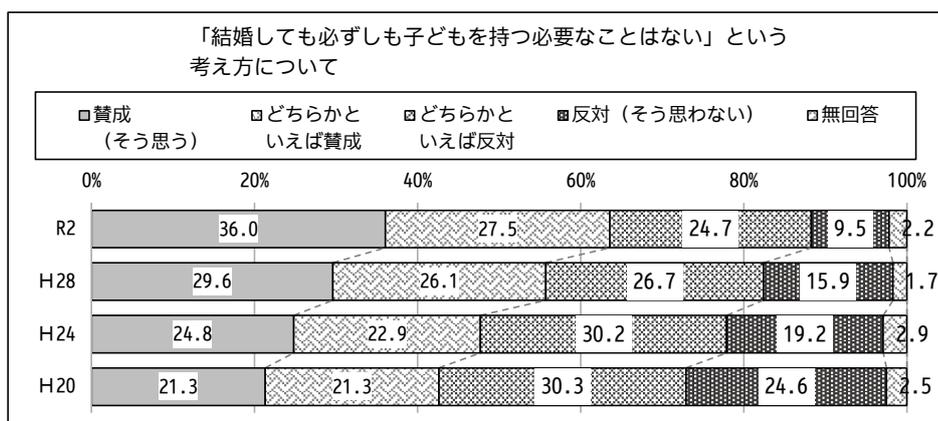
③ 「結婚や出産後も女性が働き続けることは、自然なことであり、夫婦で協力して家事をするべきである」という考え方について



(%)

		実人数	賛成 (そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対 (そう思わない)	無回答
全体	R2	1,007	65.4	28.6	2.8	1.5	1.7
	H28	968	60.3	32.5	4.4	1.9	0.8

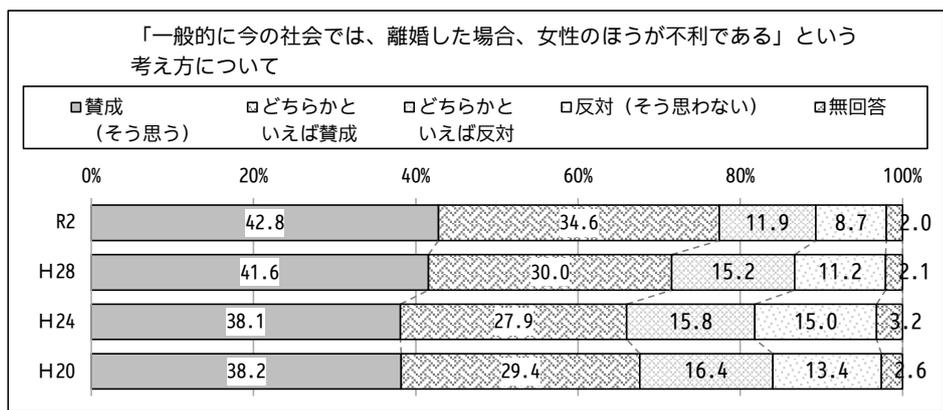
④ 「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について



(%)

		実人数	賛成 (そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対 (そう思わない)	無回答
全体	R2	1,007	36.0	27.5	24.7	9.5	2.2
	H28	968	29.6	26.1	26.7	15.9	1.7
	H24	917	24.8	22.9	30.2	19.2	2.9
	H20	1,099	21.3	21.3	30.3	24.6	2.5

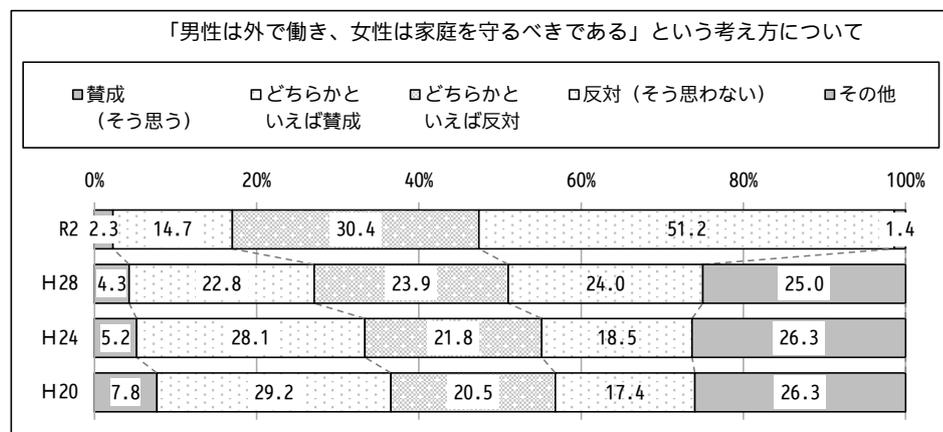
⑤ 「一般的に今の社会では、離婚した場合、女性のほうが不利である」という考え方について



(%)

		実人数	賛成 (そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対 (そう思わない)	無回答
全体	R2	1,007	42.8	34.6	11.9	8.7	2.0
	H28	968	41.6	30.0	15.2	11.2	2.1
	H24	917	38.1	27.9	15.8	15.0	3.2
	H20	1,099	38.2	29.4	16.4	13.4	2.6

⑥ 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について



(%)

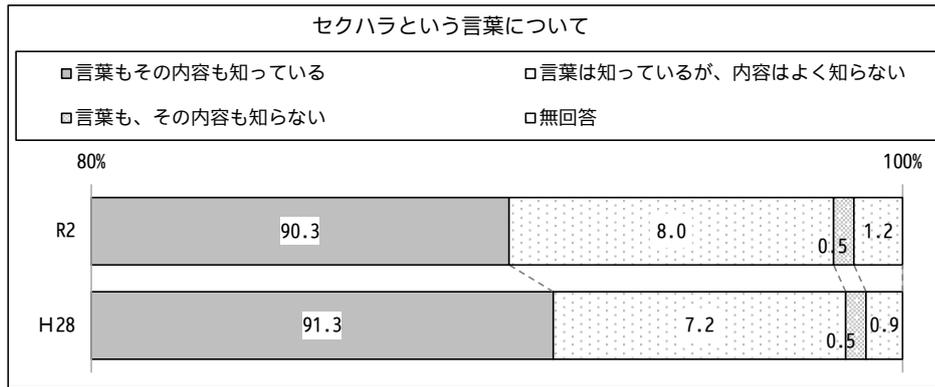
		実人数	賛成 (そう思う)	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対 (そう思わない)	その他
全体	R2	1,007	2.3	14.7	30.4	51.2	1.4
	H28	968	4.3	22.8	23.9	24.0	25.0
	H24	917	5.2	28.1	21.8	18.5	26.3
	H20	1,099	7.8	29.2	20.5	17.4	26.3

※R2年度から設問を変更し、今回から選択肢のうち「どちらともいえない」を削除。比較のため、「その他」欄を設け、「どちらともいえない」「無回答」を合算の上計上しました。

(4) 人権について (問8)

～人権に関する次の言葉を知っているか～

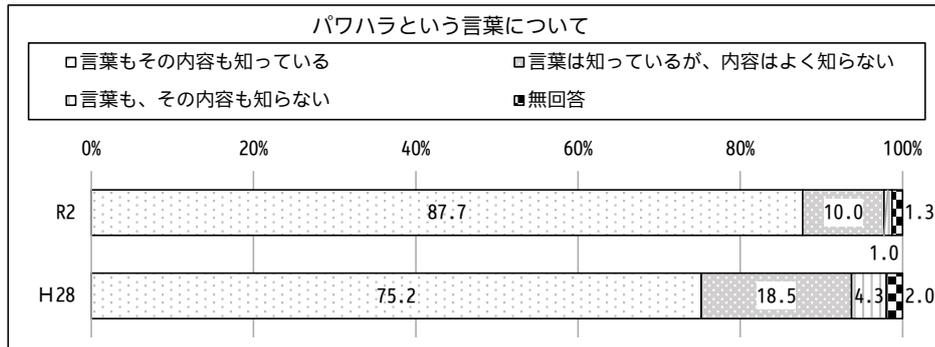
①セクハラ (セクシャル・ハラスメント) H28～



(%)

		実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	R2	1,007	90.3	8.0	0.5	1.2
	H28	968	91.3	7.2	0.5	0.9

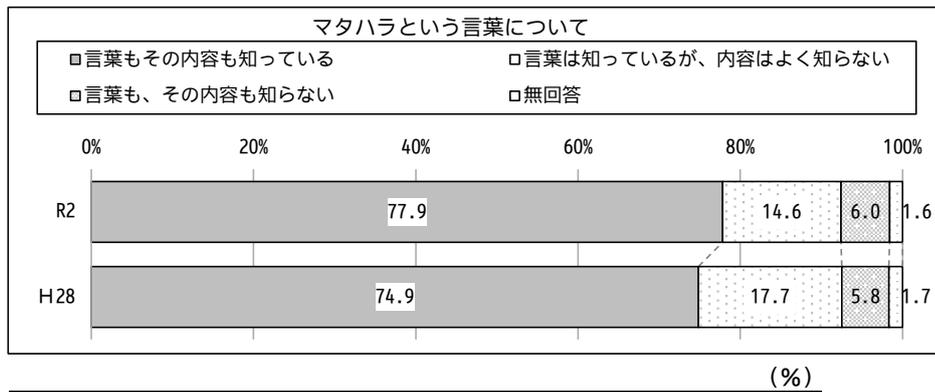
②パワハラ (パワー・ハラスメント) H28～



(%)

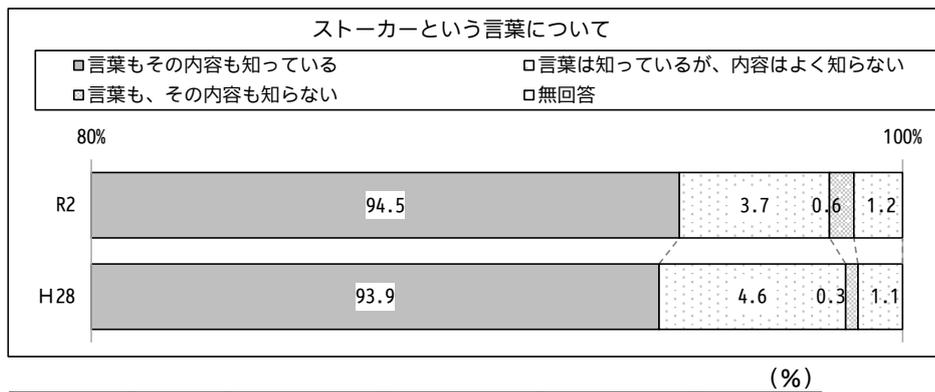
		実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	R2	1,007	87.7	10.0	1.0	1.3
	H28	968	75.2	18.5	4.3	2.0

③マタハラ（マタニティ・ハラスメント） H28～



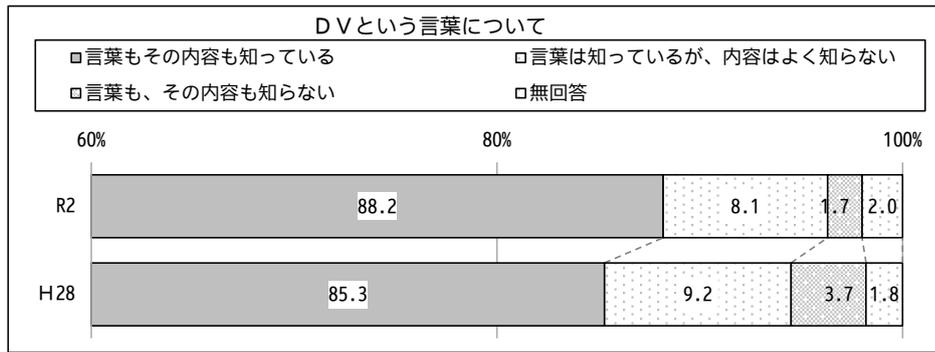
		実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	R2	1,007	77.9	14.6	6.0	1.6
	H28	968	74.9	17.7	5.8	1.7

④ストーカー H28～



		実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	R2	1,007	94.5	3.7	0.6	1.2
	H28	968	93.9	4.6	0.3	1.1

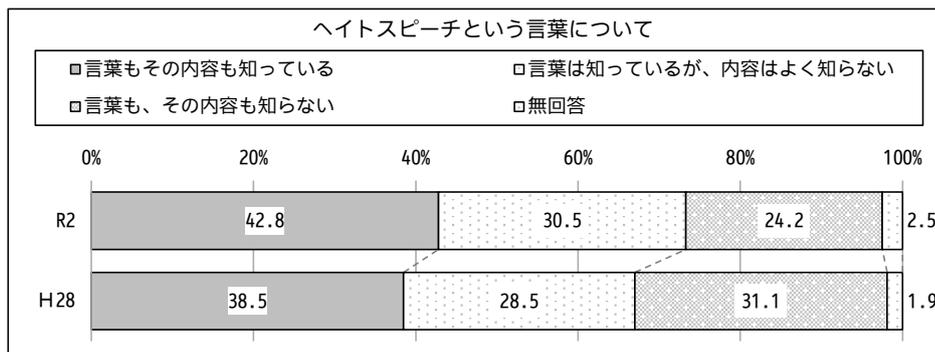
⑤DV（ドメスティック・バイオレンス） H28～



(%)

		実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	R2	1,007	88.2	8.1	1.7	2.0
	H28	968	85.3	9.2	3.7	1.8

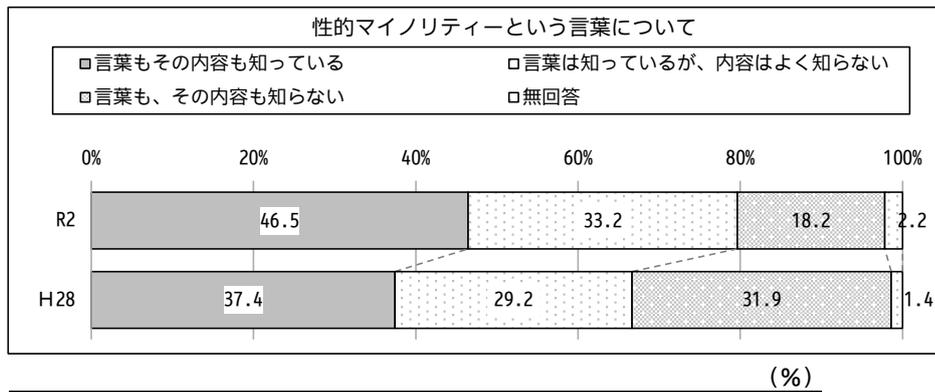
⑥ヘイトスピーチ H28～



(%)

		実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	R2	1,007	42.8	30.5	24.2	2.5
	H28	968	38.5	28.5	31.1	1.9

⑦性的マイノリティー H28～



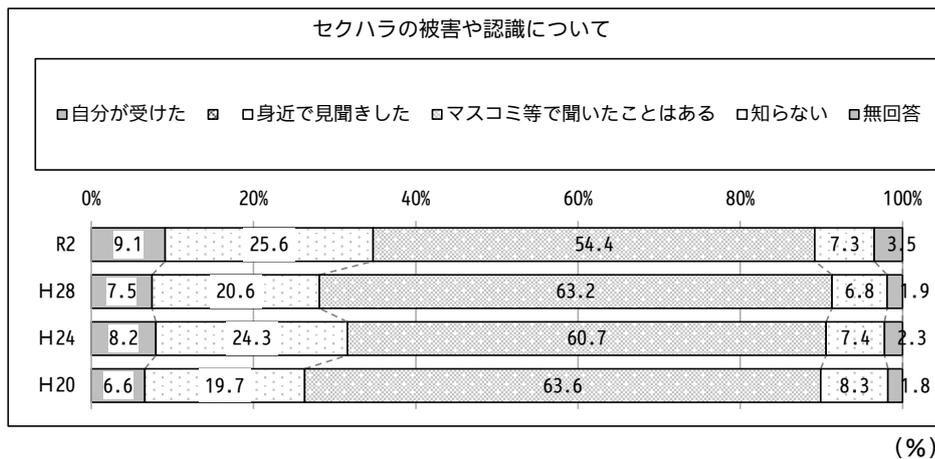
(%)

		実人数	言葉もその内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよく知らない	言葉も、その内容も知らない	無回答
全体	R2	1,007	46.5	33.2	18.2	2.2
	H28	968	37.4	29.2	31.9	1.4

(5) 人権について (問10)

～次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことがあるか～

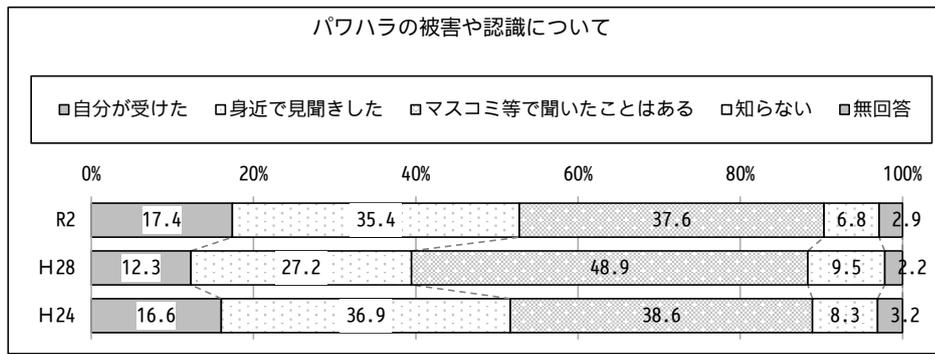
①セクハラ (セクシャル・ハラスメント)



(%)

		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	R2	1,007	9.1	25.6	54.4	7.3	3.5
	H28	968	7.5	20.6	63.2	6.8	1.9
	H24	917	8.2	24.3	60.7	7.4	2.3
	H20	1,099	6.6	19.7	63.6	8.3	1.8

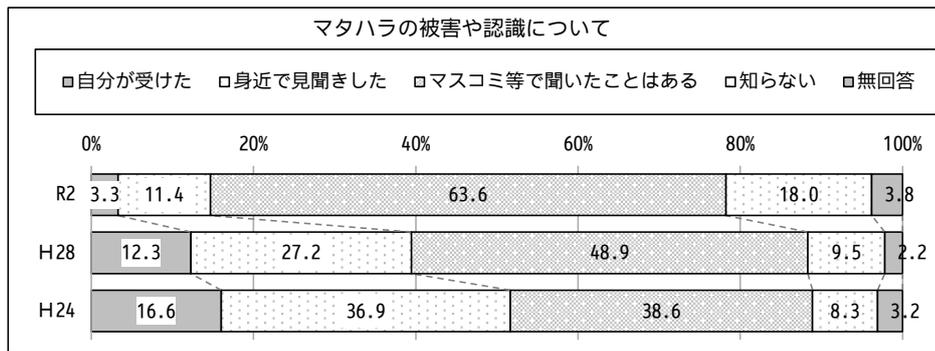
②パワハラ（パワー・ハラスメント） H24～



(%)

		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	R2	1,007	17.4	35.4	37.6	6.8	2.9
	H28	968	12.3	27.2	48.9	9.5	2.2
	H24	917	16.6	36.9	38.6	8.3	3.2

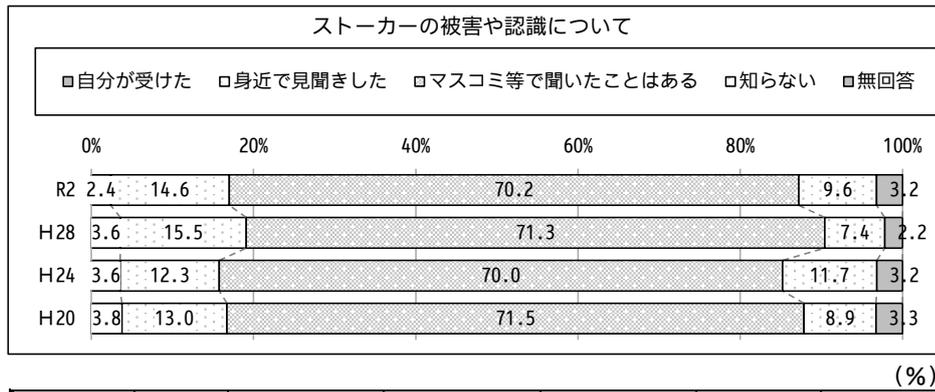
③マタハラ（マタニティ・ハラスメント） H24～



(%)

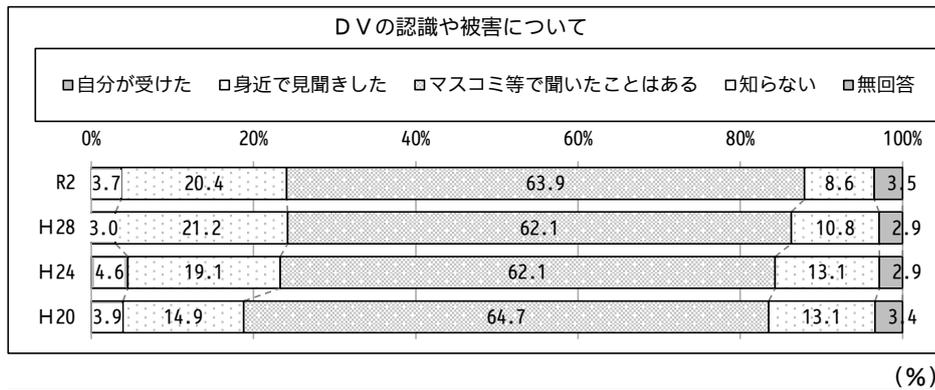
		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	R2	1,007	3.3	11.4	63.6	18.0	3.8
	H28	968	12.3	27.2	48.9	9.5	2.2
	H24	917	16.6	36.9	38.6	8.3	3.2

④ ストーカー



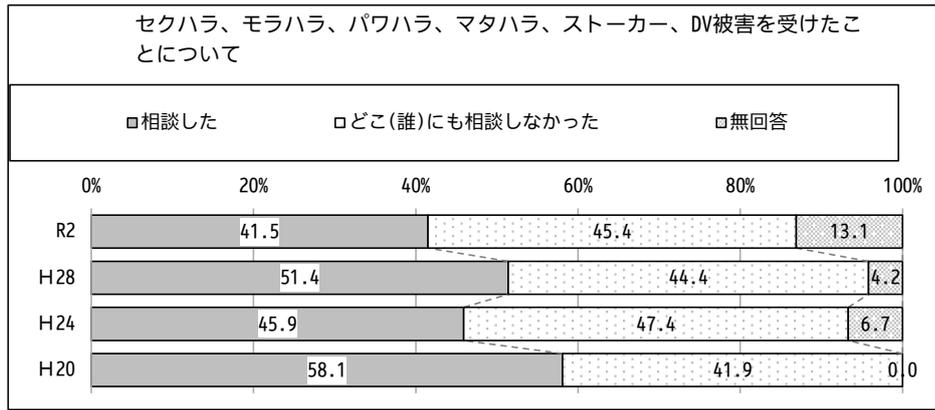
		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	R2	1,007	2.4	14.6	70.2	9.6	3.2
	H28	968	3.6	15.5	71.3	7.4	2.2
	H24	917	3.6	12.3	70.0	11.7	3.2
	H20	1,099	3.8	13.0	71.5	8.9	3.3

⑤ DV (ドメスティック・バイオレンス)



		実人数	自分が受けた	身近で見聞きした	マスコミ等で聞いたことはある	知らない	無回答
全体	R2	1,007	3.7	20.4	63.9	8.6	3.5
	H28	968	3.0	21.2	62.1	10.8	2.9
	H24	917	4.6	19.1	62.1	13.1	2.9
	H20	1,099	3.9	14.9	64.7	13.1	3.4

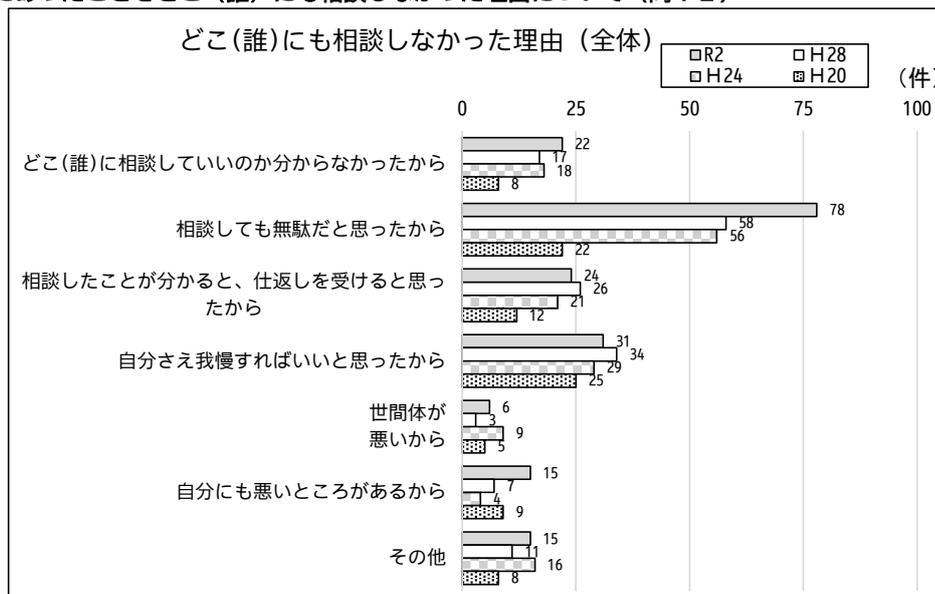
⑥セクハラ、パワハラ、ストーカー、DV被害にあったことを相談したかどうか（問11）



(%)

		回答数	相談した	どこ(誰)にも相談しなかった	無回答
全体	R2	1007	41.5	45.4	13.1
	H28	356	51.4	44.4	4.2
	H24	209	45.9	47.4	6.7
	H20	117	58.1	41.9	0.0

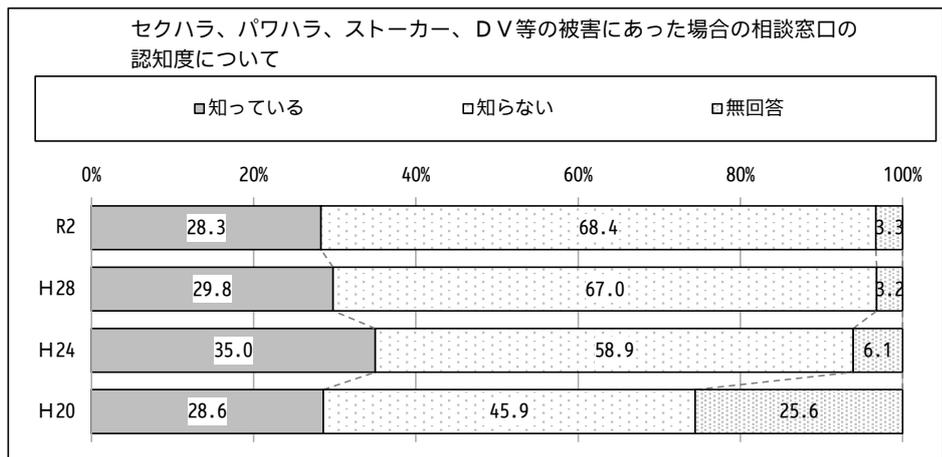
⑦被害にあったことをどこ(誰)にも相談しなかった理由について（問12）



(件)

		回答件数	らしど なてこ かい一 つい誰 たのし かにか ら分相 か談	と相 思つし たても ら無 駄だ	ら受か ける るとし と、た 思仕こ つ返と たしが かを分	らば自 い分 いざと え思我 つ慢 たす かれ	悪世 間か 体が ら	ろ自 が分 あに も悪 ら いと こ	そ の 他
全体	R2	191	22	78	24	31	6	15	15
	H28	156	17	58	26	34	3	7	11
	H24	99	18	56	21	29	9	4	16
	H20	49	8	22	12	25	5	9	8

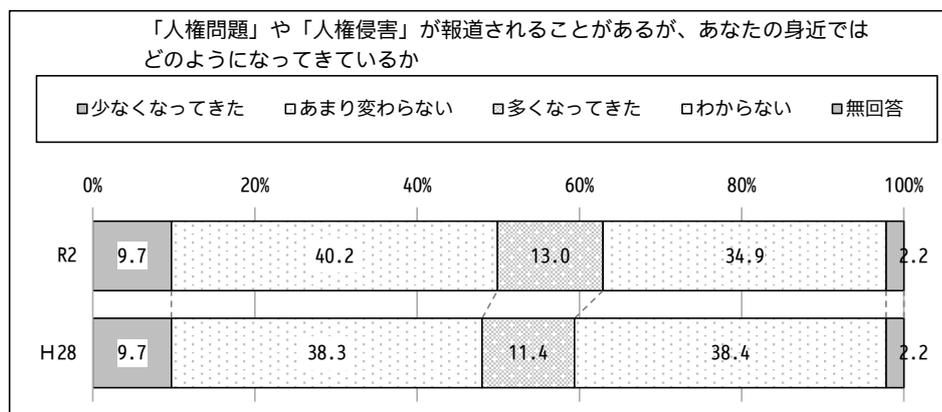
◎相談窓口の認知度について（問13）



(%)

		実人数	知っている	知らない	無回答
全体	R2	1007	28.3	68.4	3.3
	H28	968	29.8	67.0	3.2
	H24	917	35.0	58.9	6.1
	H20	1,099	28.6	45.9	25.6

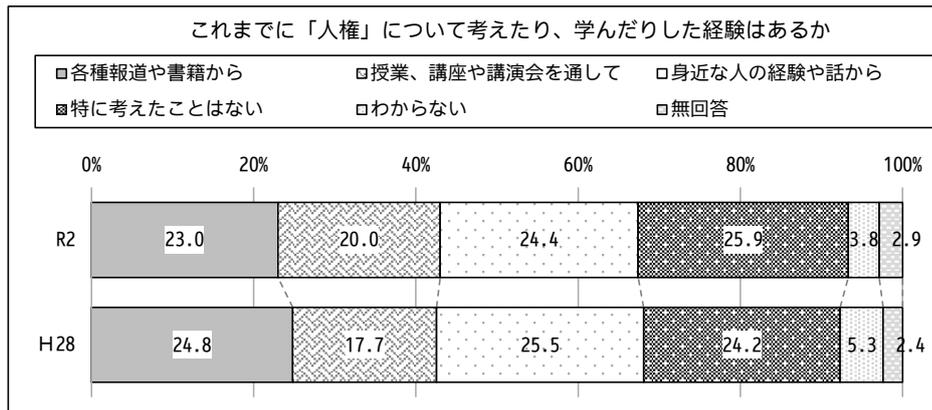
◎「人権問題」や「人権侵害」が報道されることがあるが、あなたの身近ではどのようになってきているか（問14） H28～



(%)

		実人数	少なくなってきた	あまり変わらない	多くなってきた	わからない	無回答
全体	R2	1,007	9.7	40.2	13.0	34.9	2.2
	H28	968	9.7	38.3	11.4	38.4	2.2

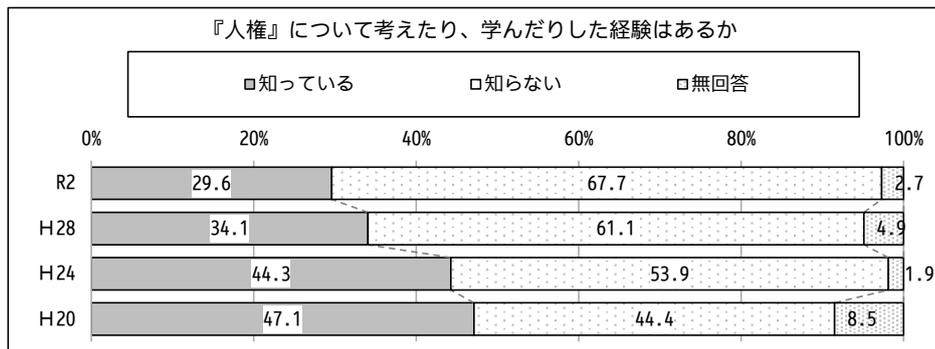
⑩ これまでに「人権」について考えたり、学んだりした経験はあるか (問15) H28～



(%)

		実人数	各種報道や書籍から	授業、講座や講演会を通して	身近な人の経験や話から	特に考えたことはない	わからない	無回答
全体	R2	1,007	23.0	20.0	24.4	25.9	3.8	2.9
	H28	968	24.8	17.7	25.5	24.2	5.3	2.4

⑪ 『人権相談』の認知度について (問16)

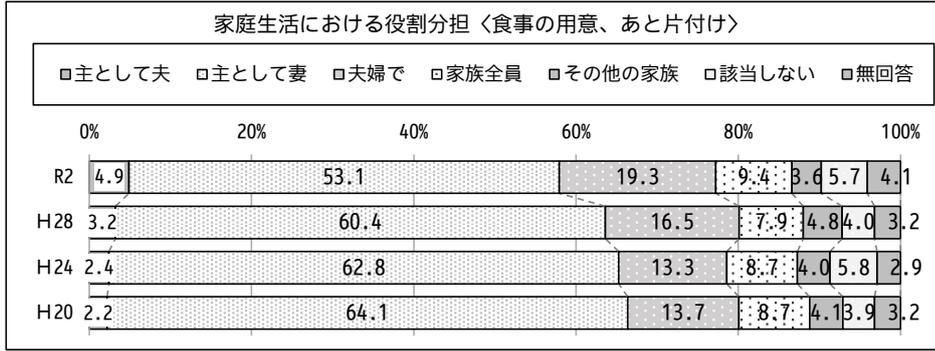


(%)

		実人数	知っている	知らない	無回答
全体	R2	1007	29.6	67.7	2.7
	H28	968	34.1	61.1	4.9
	H24	917	44.3	53.9	1.9
	H20	1,099	47.1	44.4	8.5

(6) 家庭生活における役割分担について (問17)

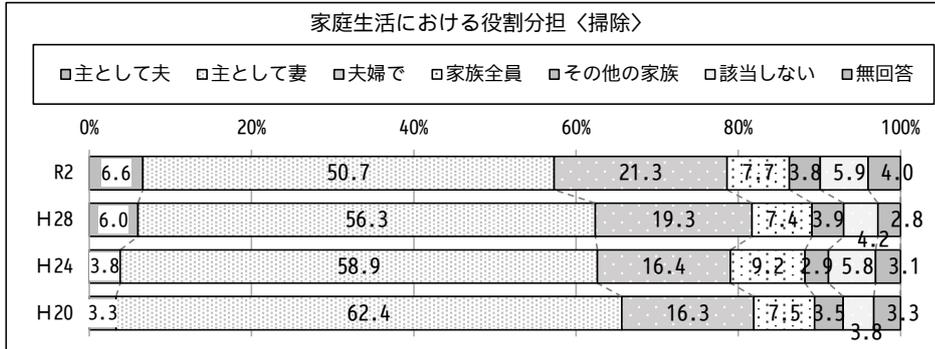
①食事の用意、あと片付け



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	R2	1007	4.9	53.1	19.3	9.4	3.6	5.7	4.1
	H28	968	3.2	60.4	16.5	7.9	4.8	4.0	3.2
	H24	917	2.4	62.8	13.3	8.7	4.0	5.8	2.9
	H20	1,099	2.2	64.1	13.7	8.7	4.1	3.9	3.2

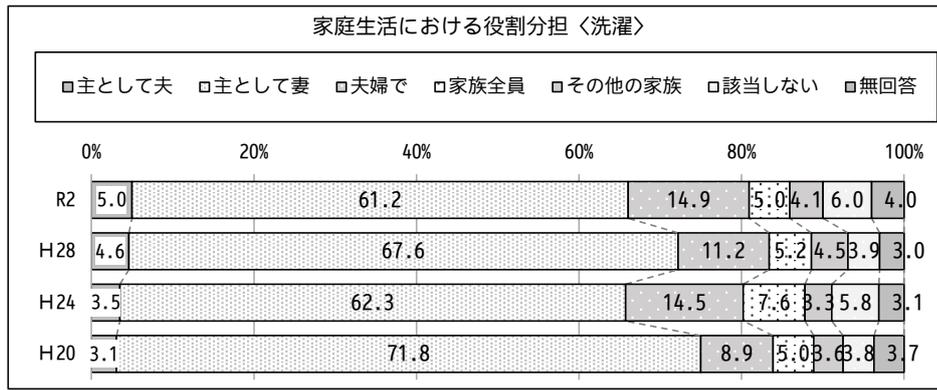
②掃除



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	R2	1,007	6.6	50.7	21.3	7.7	3.8	5.9	4.0
	H28	968	6.0	56.3	19.3	7.4	3.9	4.2	2.8
	H24	917	3.8	58.9	16.4	9.2	2.9	5.8	3.1
	H20	1,099	3.3	62.4	16.3	7.5	3.5	3.8	3.3

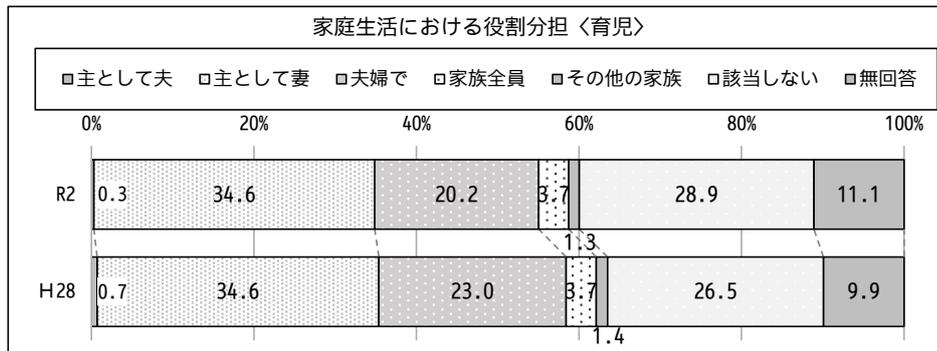
③洗濯



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	R2	1007	5.0	61.2	14.9	5.0	4.1	6.0	4.0
	H28	968	4.6	67.6	11.2	5.2	4.5	3.9	3.0
	H24	917	3.5	62.3	14.5	7.6	3.3	5.8	3.1
	H20	1,099	3.1	71.8	8.9	5.0	3.6	3.8	3.7

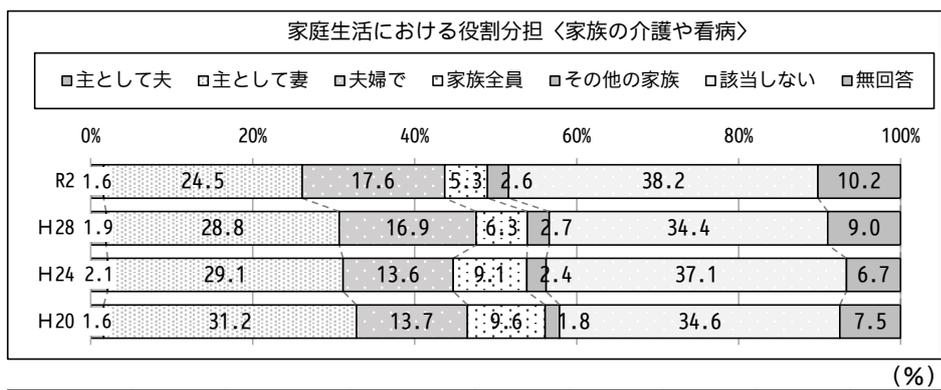
④育児 H28～



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	R2	1007	0.3	34.6	20.2	3.7	1.3	28.9	11.1
	H28	968	0.7	34.6	23.0	3.7	1.4	26.5	9.9

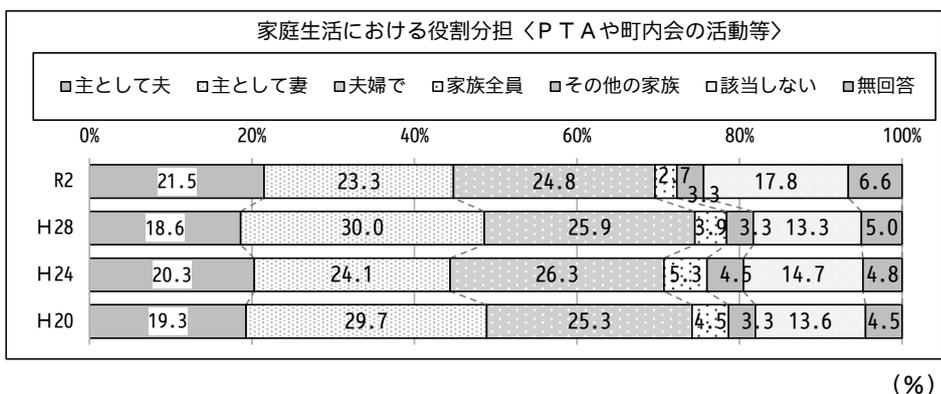
⑤家族介護や看病



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	R2	1,007	1.6	24.5	17.6	5.3	2.6	38.2	10.2
	H28	968	1.9	28.8	16.9	6.3	2.7	34.4	9.0
	H24	917	2.1	29.1	13.6	9.1	2.4	37.1	6.7
	H20	1,099	1.6	31.2	13.7	9.6	1.8	34.6	7.5

⑥地域活動（PTAや町内会の活動等）

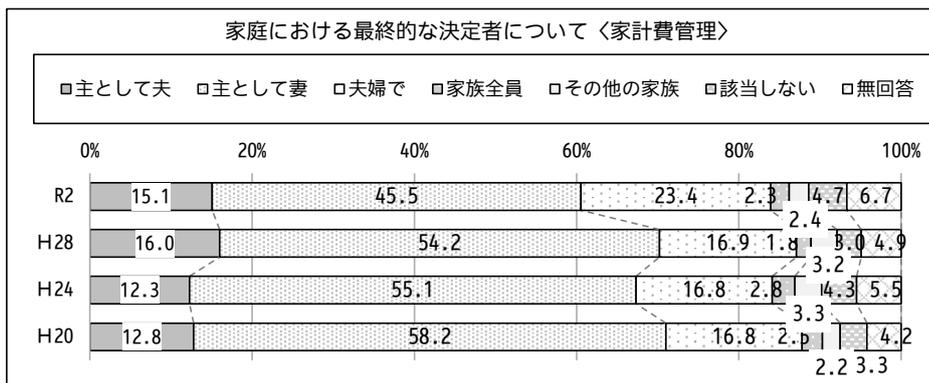


(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	R2	1,007	21.5	23.3	24.8	2.7	3.3	17.8	6.6
	H28	968	18.6	30.0	25.9	3.9	3.3	13.3	5.0
	H24	917	20.3	24.1	26.3	5.3	4.5	14.7	4.8
	H20	1,099	19.3	29.7	25.3	4.5	3.3	13.6	4.5

(7) 家庭における最終決定者について (問18)

①家計費管理

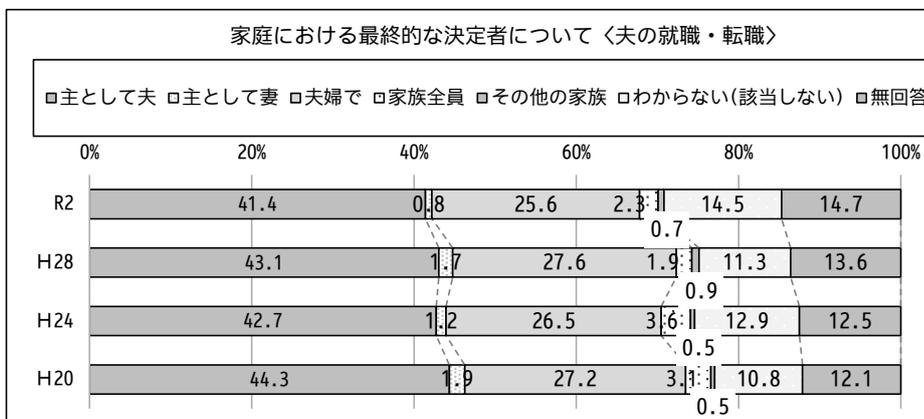


(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	該当しない	無回答
全体	R2	1,007	15.1	45.5	23.4	2.3	2.4	4.7	6.7
	H28	968	16.0	54.2	16.9	1.8	3.2	3.0	4.9
	H24	917	12.3	55.1	16.8	2.8	3.3	4.3	5.5
	H20	1,099	12.8	58.2	16.8	2.5	2.2	3.3	4.2

②投資・不動産：令和2年度新規調査項目

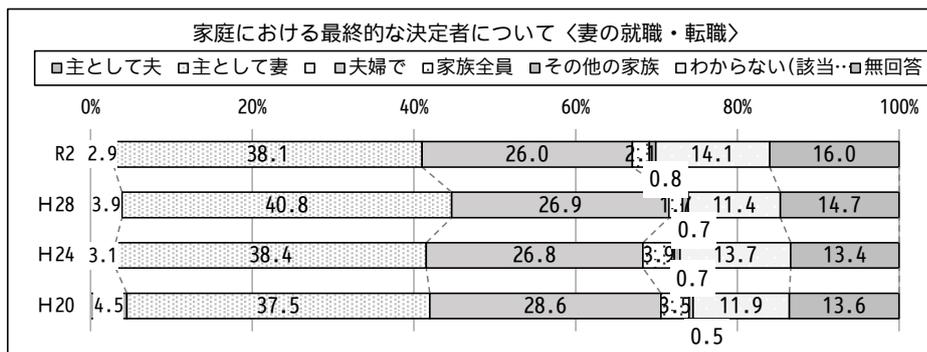
③夫の就職・転職



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	わからない(該当しない)	無回答
全体	R2	1,007	41.4	0.8	25.6	2.3	0.7	14.5	14.7
	H28	968	43.1	1.7	27.6	1.9	0.9	11.3	13.6
	H24	917	42.7	1.2	26.5	3.6	0.5	12.9	12.5
	H20	1,099	44.3	1.9	27.2	3.1	0.5	10.8	12.1

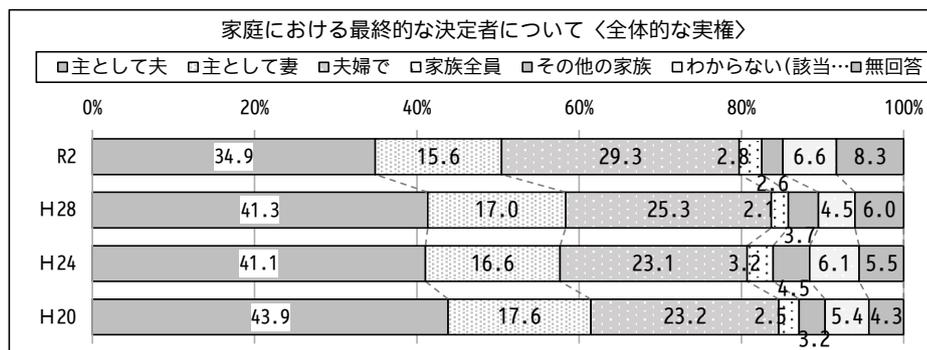
④妻の就職・転職



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	わからない(該当しない)	無回答
全体	R2	1,007	2.9	38.1	26.0	2.1	0.8	14.1	16.0
	H28	968	3.9	40.8	26.9	1.7	0.7	11.4	14.7
	H24	917	3.1	38.4	26.8	3.9	0.7	13.7	13.4
	H20	1,099	4.5	37.5	28.6	3.5	0.5	11.9	13.6

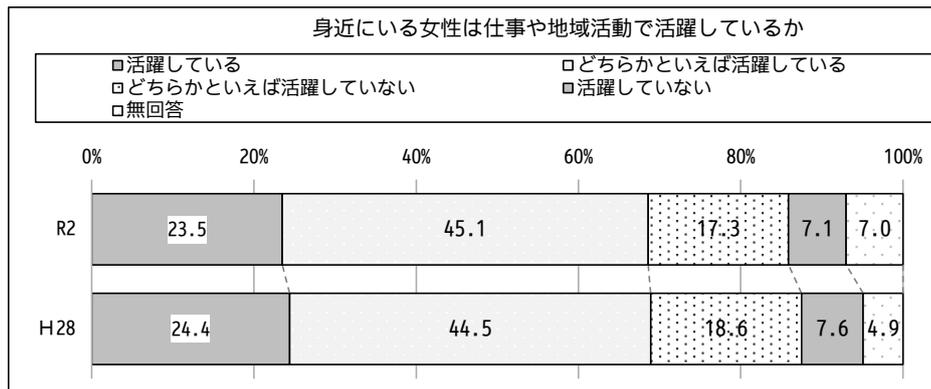
⑤全体的な実権



(%)

		実人数	主として夫	主として妻	夫婦で	家族全員	その他の家族	わからない(該当しない)	無回答
全体	R2	1,007	34.9	15.6	29.3	2.8	2.6	6.6	8.3
	H28	968	41.3	17.0	25.3	2.1	3.7	4.5	6.0
	H24	917	41.1	16.6	23.1	3.2	4.5	6.1	5.5
	H20	1,099	43.9	17.6	23.2	2.5	3.2	5.4	4.3

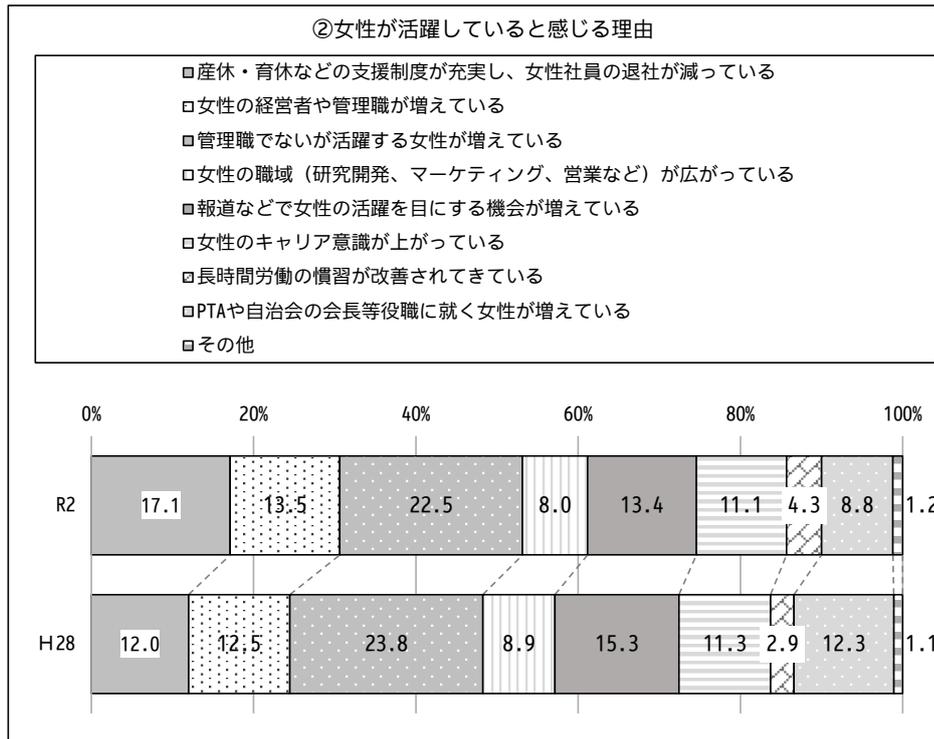
(8) 女性活躍について
 身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍しているか (問19) H28～



(%)

		実人数	活躍している	どちらかとい えば活躍して いる	どちらかとい えば活躍して いない	活躍して いない	無回答
全体	R2	1,007	23.5	45.1	17.3	7.1	7.0
	H28	968	24.4	44.5	18.6	7.6	4.9

①女性が活躍していると感じる理由（問20-①） H28～



(%)

		実人数	産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている	女性の経営者や管理職が増えている	管理職でないが活躍する女性が増えている	女性の職域（研究開発、マーケティング、営業など）が広がっている	報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている	女性のキャリア意識が上がっている	長時間労働の慣習が改善されてきている	PTAや自治会の会長等役職に就く女性が増えている	その他
			17.1	13.5	22.5	8.0	13.4	11.1	4.3	8.8	1.2
全体	R2	1,007	17.1	13.5	22.5	8.0	13.4	11.1	4.3	8.8	1.2
	H28	968	12.0	12.5	23.8	8.9	15.3	11.3	2.9	12.3	1.1

②女性が活躍していないと感じる理由（問20-②） H28～



		(%)									
全体	実人数	産休・育休などの支援制度が不充実である	産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい（できない）	女性の経営者や管理職が少ない	女性の職域が限定的である	女性のキャリア意識が向上していない	キャリア形成が難しいため、男性に比べ	男性優位の考え方が変わっていない	長時間労働の慣習が改善されていない	PTAや自治会の会長等役職に就いている女性がいない	その他
		R2	1,007	6.1	11.8	11.8	10.2	7.1	17.3	18.2	7.8
H28	968	8.2	10.4	11.6	10.6	6.5	16.5	18.4	8.0	5.9	3.9

③女性が活躍するにはどのようなことが必要か（問21） H28～

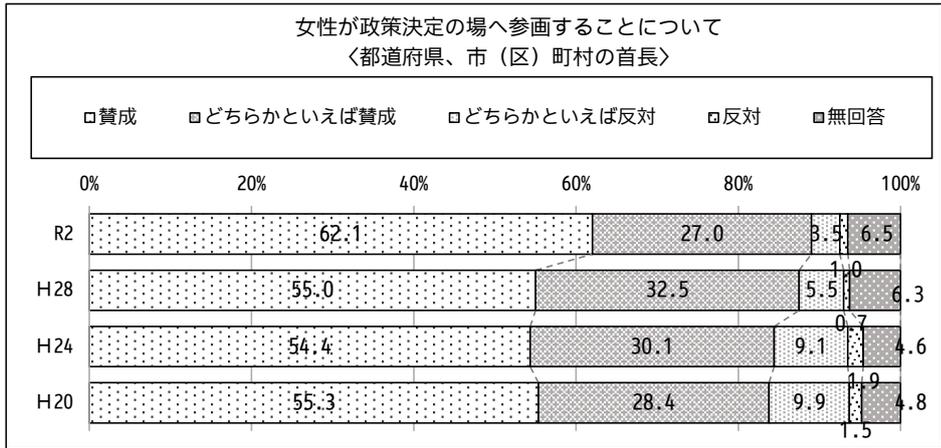


(%)

		実人数	企業トップが女性の活躍促進に積極的であること	職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること	育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること	企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること	仕事が適正に評価されていること	職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること	キャリア形成のための研修制度があること	保育施設が充実していること	国や地方自治体など行政による企業支援があること	地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること	わからない	その他
			全体	R2	1,007	8.5	18.7	21.8	8.0	2.8	12.2	3.8	1.8	14.3	3.4
	H28	968	8.3	19.8	20.2	8.7	2.0	12.6	3.4	1.2	14.0	4.2	2.6	1.7	1.1

(9) 女性の政策決定の場への参画について

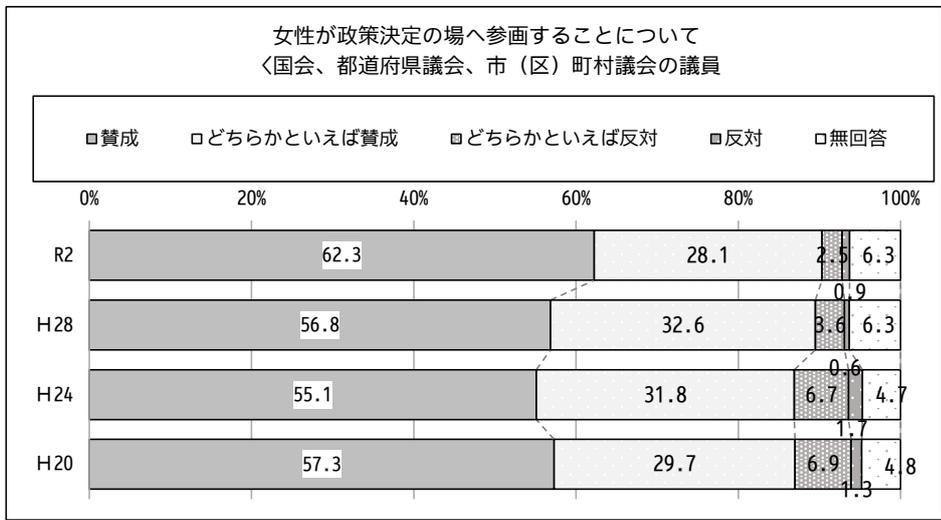
①都道府県、市（区）町村の首長（問22）



(%)

		実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	R2	1,007	62.1	27.0	3.5	1.0	6.5
	H28	968	55.0	32.5	5.5	0.7	6.3
	H24	917	54.4	30.1	9.1	1.9	4.6
	H20	1,099	55.3	28.4	9.9	1.5	4.8

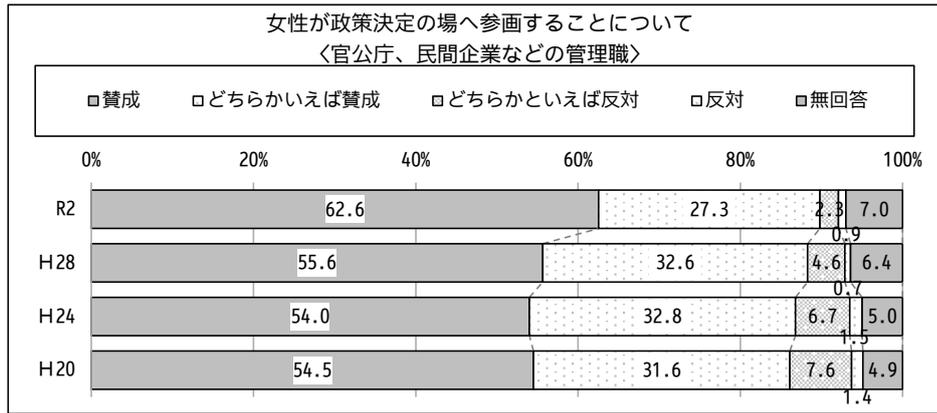
②国会、都道府県議会、市（区）町村議会の議員（問22）



(%)

		実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	R2	1,007	62.3	28.1	2.5	0.9	6.3
	H28	968	56.8	32.6	3.6	0.6	6.3
	H24	917	55.1	31.8	6.7	1.7	4.7
	H20	1,099	57.3	29.7	6.9	1.3	4.8

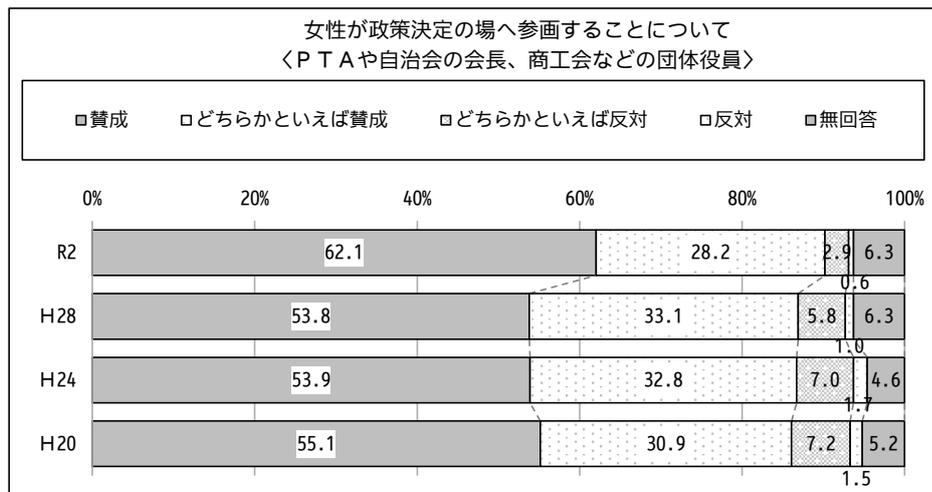
③官公庁、民家企業などの管理職（問２２）



(%)

		実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	R2	1,007	62.6	27.3	2.3	0.9	7.0
	H28	968	55.6	32.6	4.6	0.7	6.4
	H24	917	54.0	32.8	6.7	1.5	5.0
	H20	1,099	54.5	31.6	7.6	1.4	4.9

④PTAや自治会の会長、商工会などの団体役員（問２２）



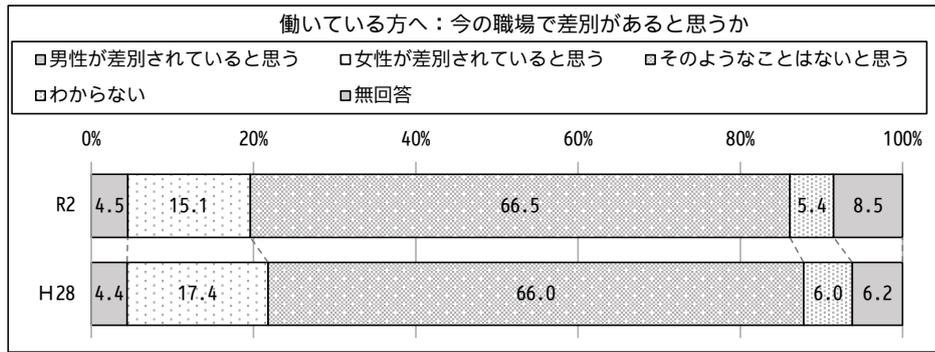
(%)

		実人数	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	無回答
全体	R2	1,007	62.1	28.2	2.9	0.6	6.3
	H28	968	53.8	33.1	5.8	1.0	6.3
	H24	917	53.9	32.8	7.0	1.7	4.6
	H20	1,099	55.1	30.9	7.2	1.5	5.2

⑤女性の議員が増加するためにはどのようなことが必要か（問２３）：令和２年度新規調査項目

(10) 就業について

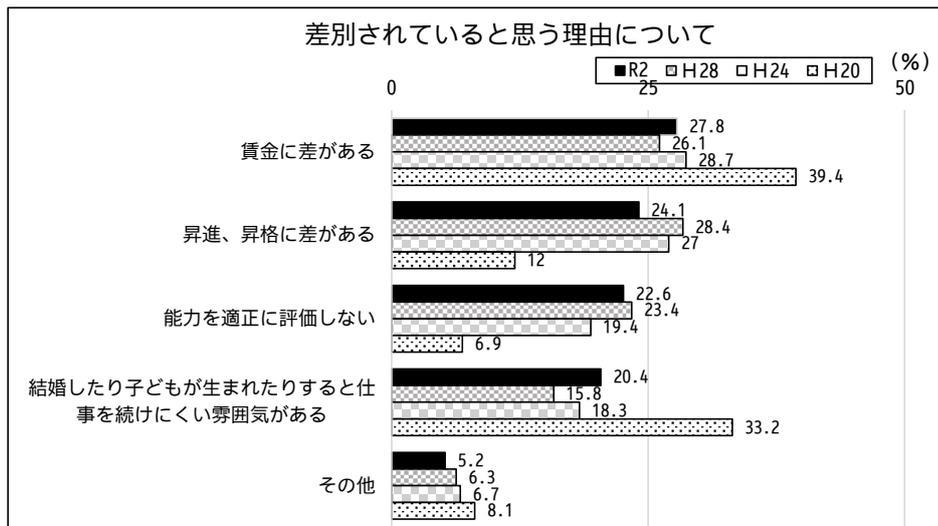
①働いている方への質問：今の職場で差別があると思うかについて（問24）H28～



(%)

		回答数	男性が差別されていると思う (%)	女性が差別されていると思う (%)	そのようなことはないと思う (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	R2	644	4.5	15.1	66.5	5.4	8.5
	H28	564	4.4	17.4	66.0	6.0	6.2

②「差別されていると思う」方へ質問：具体的な理由について（問25）

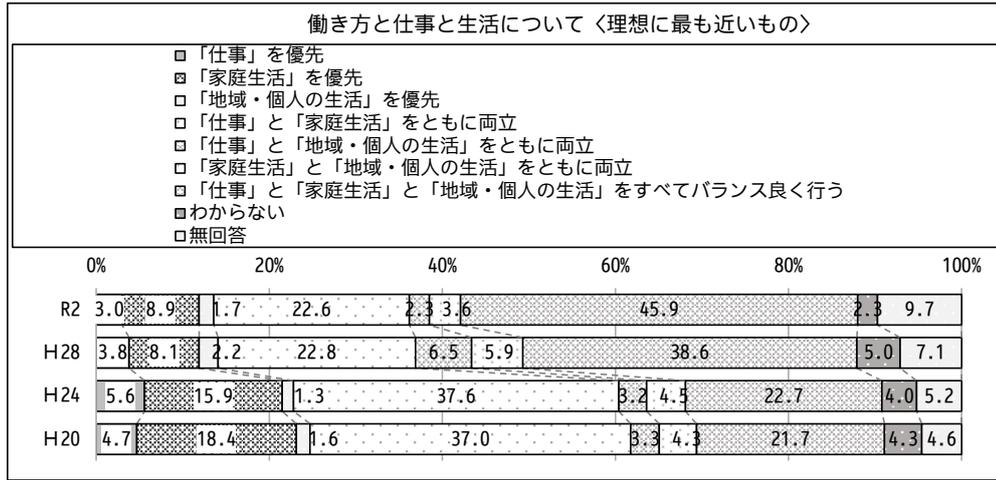


(%)

		回答数	賃金に差がある (%)	昇進、昇格に差がある (%)	能力を適正に評価しない (%)	結婚したり子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある (%)	その他 (%)
全体	R2	150	27.8	24.1	22.6	20.4	5.2
	H28	222	26.1	28.4	23.4	15.8	6.3
	H24	345	28.7	27	19.4	18.3	6.7
	H20	259	39.4	12	6.9	33.2	8.1

(11) 男女の働き方と仕事と生活の調和について (問26)

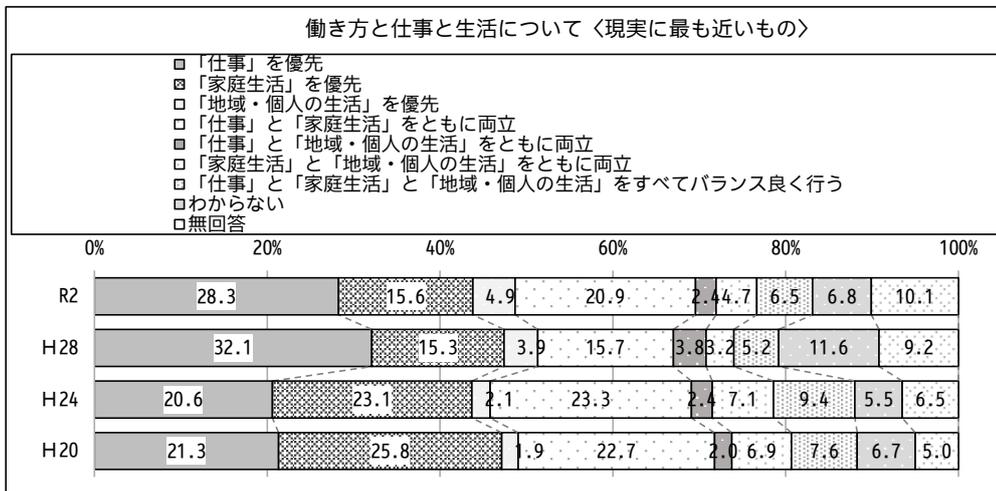
①あなたの考え方にもっとも近いもの



(%)

	実人数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに両立	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	わからない	無回答	
全体	R2	1,007	3.0	8.9	1.7	22.6	2.3	3.6	45.9	2.3	9.7
	H28	968	3.8	8.1	2.2	22.8	6.5	5.9	38.6	5.0	7.1
	H24	917	5.6	15.9	1.3	37.6	3.2	4.5	22.7	4.0	5.2
	H20	1,099	4.7	18.4	1.6	37.0	3.3	4.3	21.7	4.3	4.6

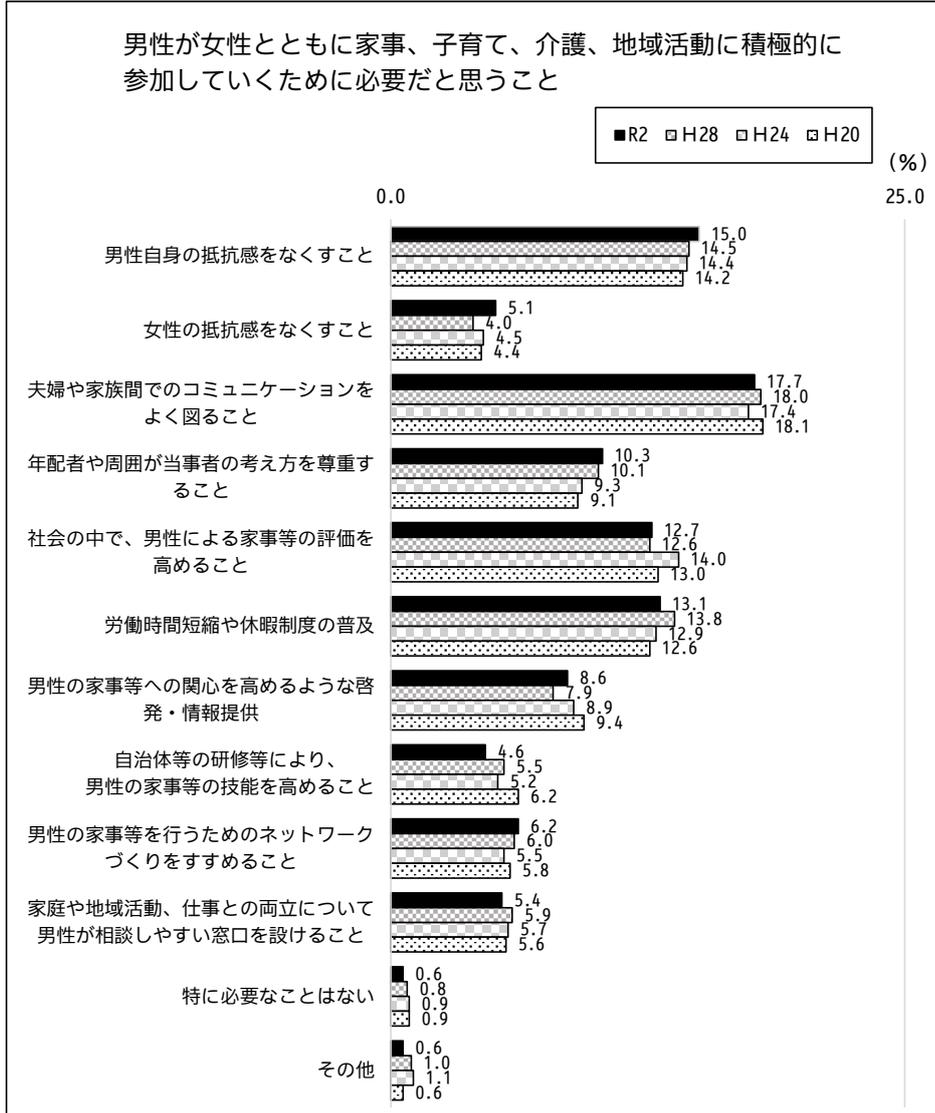
②あなたの現実(現状)にもっとも近いもの



(%)

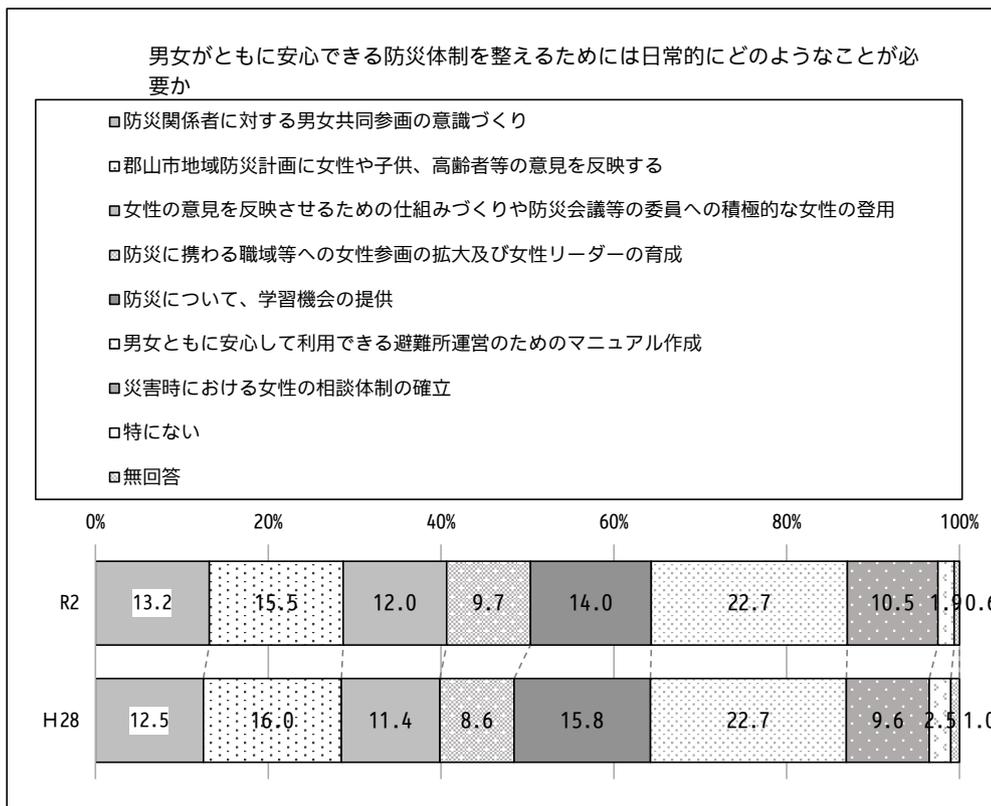
	実人数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに両立	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランス良く行う	わからない	無回答	
全体	R2	1,007	28.3	15.6	4.9	20.9	2.4	4.7	6.5	6.8	10.1
	H28	968	32.1	15.3	3.9	15.7	3.8	3.2	5.2	11.6	9.2
	H24	917	20.6	23.1	2.1	23.3	2.4	7.1	9.4	5.5	6.5
	H20	1,099	21.3	25.8	1.9	22.7	2.0	6.9	7.6	6.7	5.0

(12) 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと (問27)



		実人数	男性自身の抵抗感をなくすこと	女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	年配者や周囲が当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事等の評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度の普及	男性の家事等への関心を高めるような啓発・情報提供	自治体等の研修等により、男性の家事等の技能を高めること	男性の家事等を行うためのネットワークづくりをすすめること	家庭や地域活動、仕事との両立について男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要なことはない	その他
全体	R2	1,007	15.0	5.1	17.7	10.3	12.7	13.1	8.6	4.6	6.2	5.4	0.6	0.6
	H28	968	14.5	4.0	18.0	10.1	12.6	13.8	7.9	5.5	6.0	5.9	0.8	1.0
	H24	917	14.4	4.5	17.4	9.3	14.0	12.9	8.9	5.2	5.5	5.7	0.9	1.1
	H20	1,099	14.2	4.4	18.1	9.1	13.0	12.6	9.4	6.2	5.8	5.6	0.9	0.6

(13) 防災について (問28)

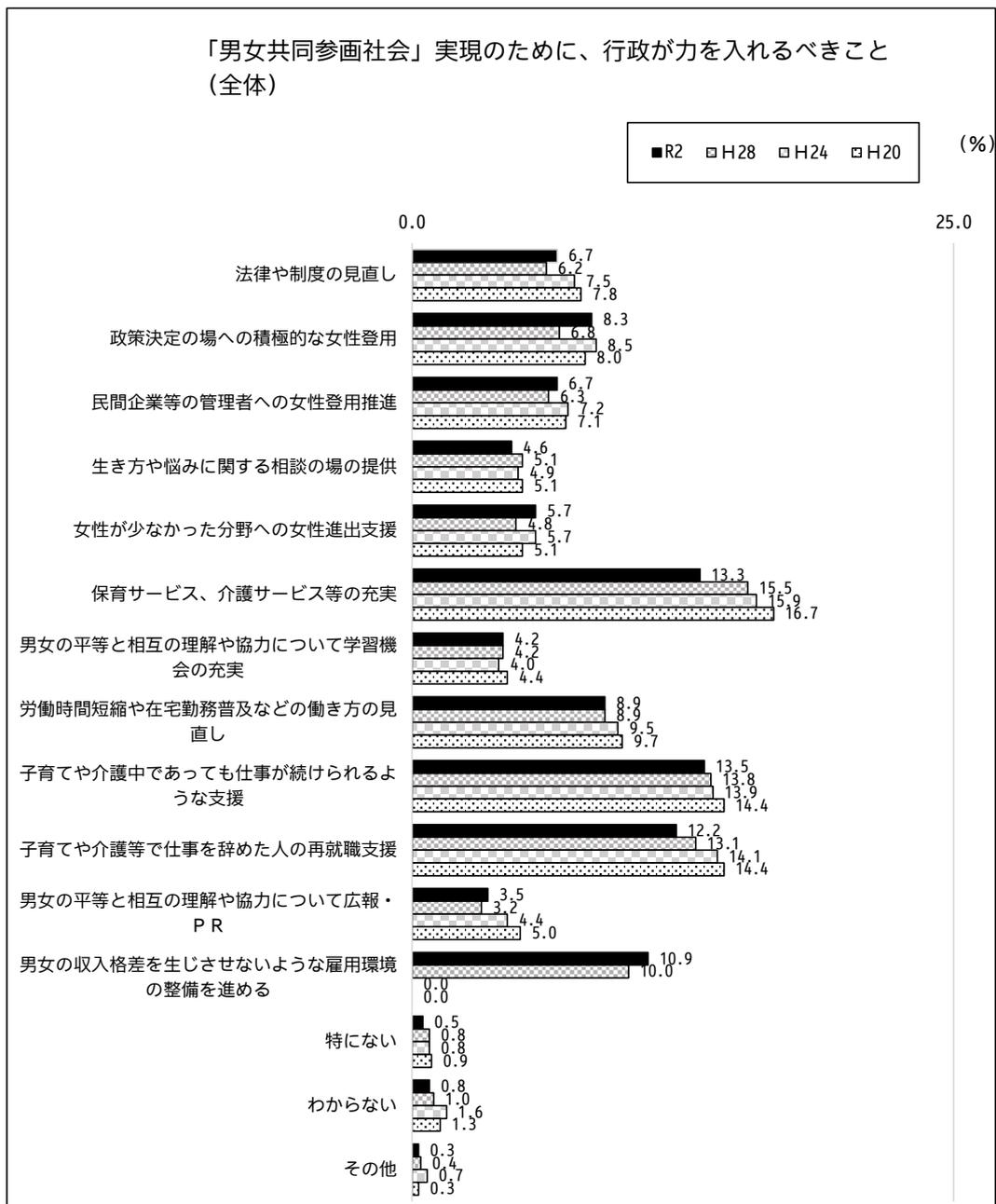


(%)

		実人数	画防	画防	員仕	員仕	防	防	災	特	無
			の災	の災	組の	組の	災	災	に	回	
全体	R2	1,007	13.2	15.5	12.0	9.7	14.0	22.7	10.5	1.9	0.6
	H28	968	12.5	16.0	11.4	8.6	15.8	22.7	9.6	2.5	1.0

(14) 郡山市の男女共同参画推進の取り組みについて (問29)

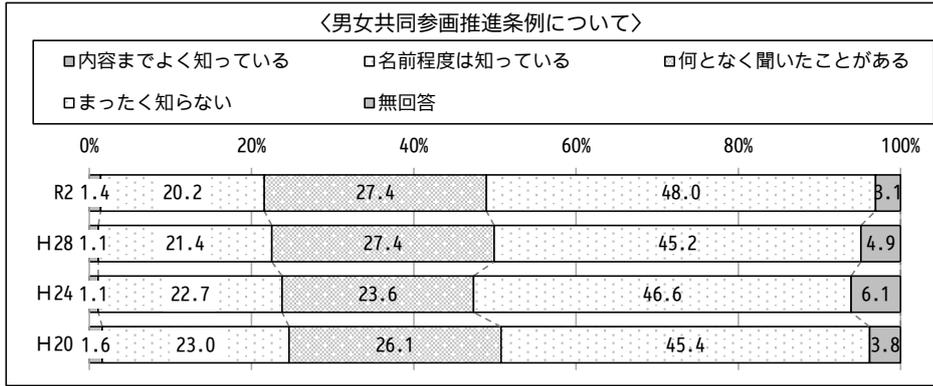
①「男女共同参画社会」実現のために、行政が力を入れていくべきこと



	実人数	(%)															
		法律や制度の見直し	政策決定の場への積極的な女性登用	民間企業等の管理者への女性登用推進	生き方や悩みに関する相談の場の提供	女性が少なかった分野への女性進出支援	保育サービス、介護サービス等の充実	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会の充実	労働時間短縮や在宅勤務普及などの働き方の見直し	子育てや介護中であっても仕事が続けられるような支援	子育てや介護等で仕事を辞めた人の再就職支援	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR	男女の収入格差を生じさせないような雇用環境の整備を進める	特にない	わからない	その他	
全体	R2	1,007	6.7	8.3	6.7	4.6	5.7	13.3	4.2	8.9	13.5	12.2	3.5	10.9	0.5	0.8	0.3
	H28	968	6.2	6.8	6.3	5.1	4.8	15.5	4.2	8.9	13.8	13.1	3.2	10.0	0.8	1.0	0.4
	H24	917	7.5	8.5	7.2	4.9	5.7	15.9	4.0	9.5	13.9	14.1	4.4	—	0.8	1.6	0.7
	H20	1,099	7.8	8.0	7.1	5.1	5.1	16.7	4.4	9.7	14.4	14.4	5.0	—	0.9	1.3	0.3

(15) 郡山市の男女共同参画推進の取り組みについて (問30)

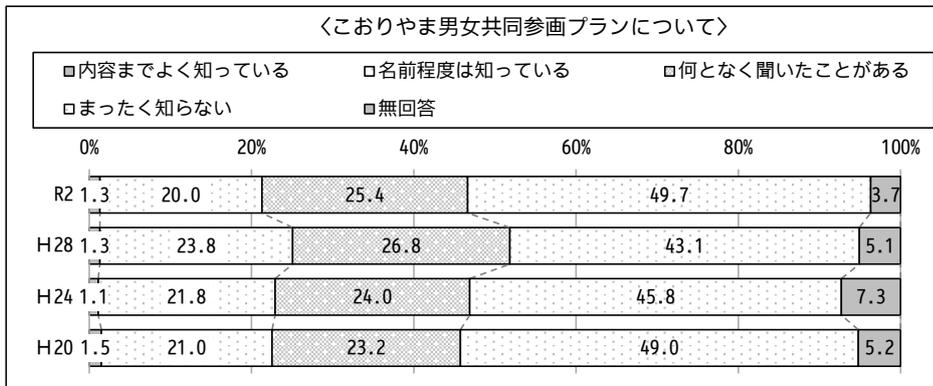
①男女共同参画推進条例



(%)

		実人数	内容までよく知っている	名前程度は知っている	何となく聞いたことがある	まったく知らない	無回答
全体	R2	1,007	1.4	20.2	27.4	48.0	3.1
	H28	968	1.1	21.4	27.4	45.2	4.9
	H24	917	1.1	22.7	23.6	46.6	6.1
	H20	1,099	1.6	23.0	26.1	45.4	3.8

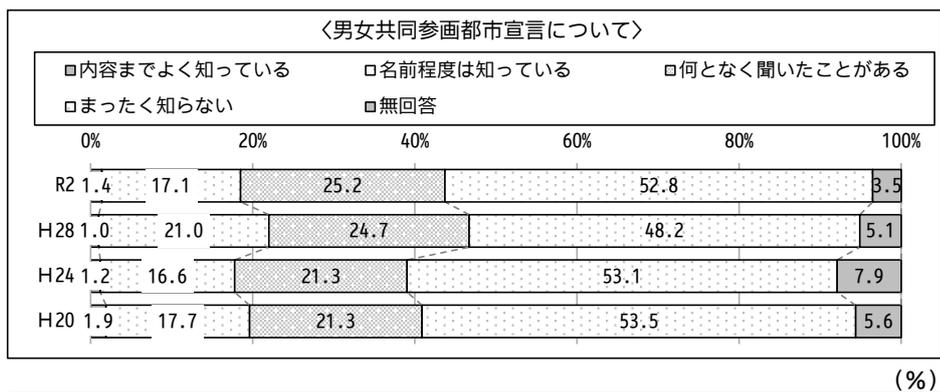
②こおりやま男女共同参画プラン



(%)

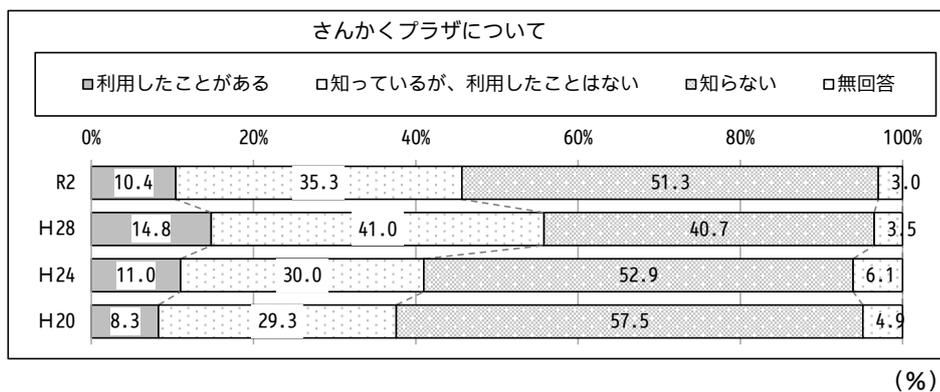
		実人数	内容までよく知っている	名前程度は知っている	何となく聞いたことがある	まったく知らない	無回答
全体	R2	1,007	1.3	20.0	25.4	49.7	3.7
	H28	968	1.3	23.8	26.8	43.1	5.1
	H24	917	1.1	21.8	24.0	45.8	7.3
	H20	1,099	1.5	21.0	23.2	49.0	5.2

③男女共同参画都市宣言



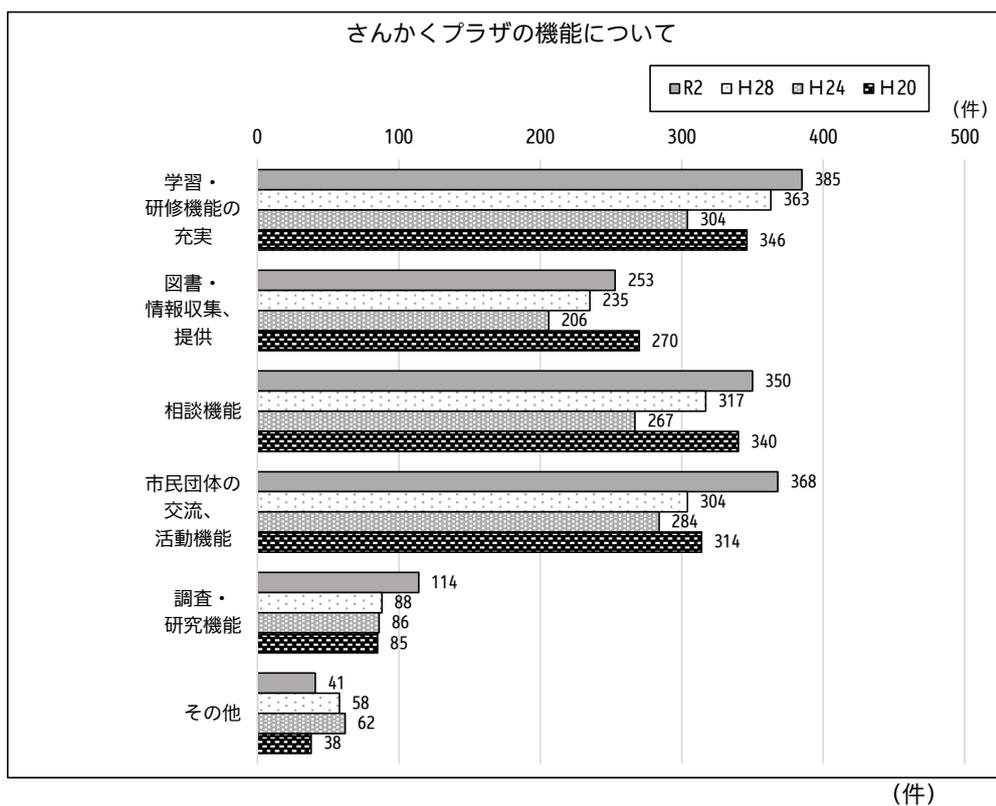
		実人数	内容までよく知っている	名前程度は知っている	何となく聞いたことがある	まったく知らない	無回答
全体	R2	1,007	1.4	17.1	25.2	52.8	3.5
	H28	968	1.0	21.0	24.7	48.2	5.1
	H24	917	1.2	16.6	21.3	53.1	7.9
	H20	1,099	1.9	17.7	21.3	53.5	5.6

(16) 男女共同参画センター（さんかくプラザ）の利用について（問31）



		実人数	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答
全体	R2	1,007	10.4	35.3	51.3	3.0
	H28	968	14.8	41.0	40.7	3.5
	H24	917	11.0	30.0	52.9	6.1
	H20	1,099	8.3	29.3	57.5	4.9

(17) 男女共同参画センター（さんかくプラザ）の機能について（問31）



		実人数	学習・研修機能の充実	図書・情報収集、提供	相談機能	市民団体の交流、活動機能	調査・研究機能	その他
全体	R2	1,007	385	253	350	368	114	41
	H28	968	363	235	317	304	88	58
	H24	917	304	206	267	284	86	62
	H20	1,099	346	270	340	314	85	38

第6章 参考

この章では、今回の市民意識調査の結果と国及び県の意識調査との比較について掲載しています。

1 国・県・市の比較資料

地域差の有無を調査するために、国（内閣府）及び福島県が実施した調査結果との比較を行った。

なお、比較した調査結果は、次のとおりであり、それぞれ調査の時期や対象が違い、かつ、設問に対する選択肢の違いがあるため、単純比較することはできないが、おおよその意識の違いをみる参考とするものである。

また、調査対象等の標記については、それぞれの調査報告書の表現を用いているため、統一されていない。

【国（内閣府）の調査】

調査名：男女共同参画社会に関する世論調査

実施時期：令和元年9月5日～22日

調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者 5,000人

調査方法：個別面接調査

【福島県の調査】

調査名：男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査報告書

調査時期：令和元年11月12日～25日

調査対象：福島県内の20歳以上の男女個人 2,000人

調査方法：郵送による自記式

【郡山市の調査】

調査名：郡山市男女共同参画に関する市民意識調査

調査時期：令和2年7月1日～31日

調査対象：市内在住20歳以上の男女 3,000人

調査方法：郵送による自記式又はインターネットによる電子申請

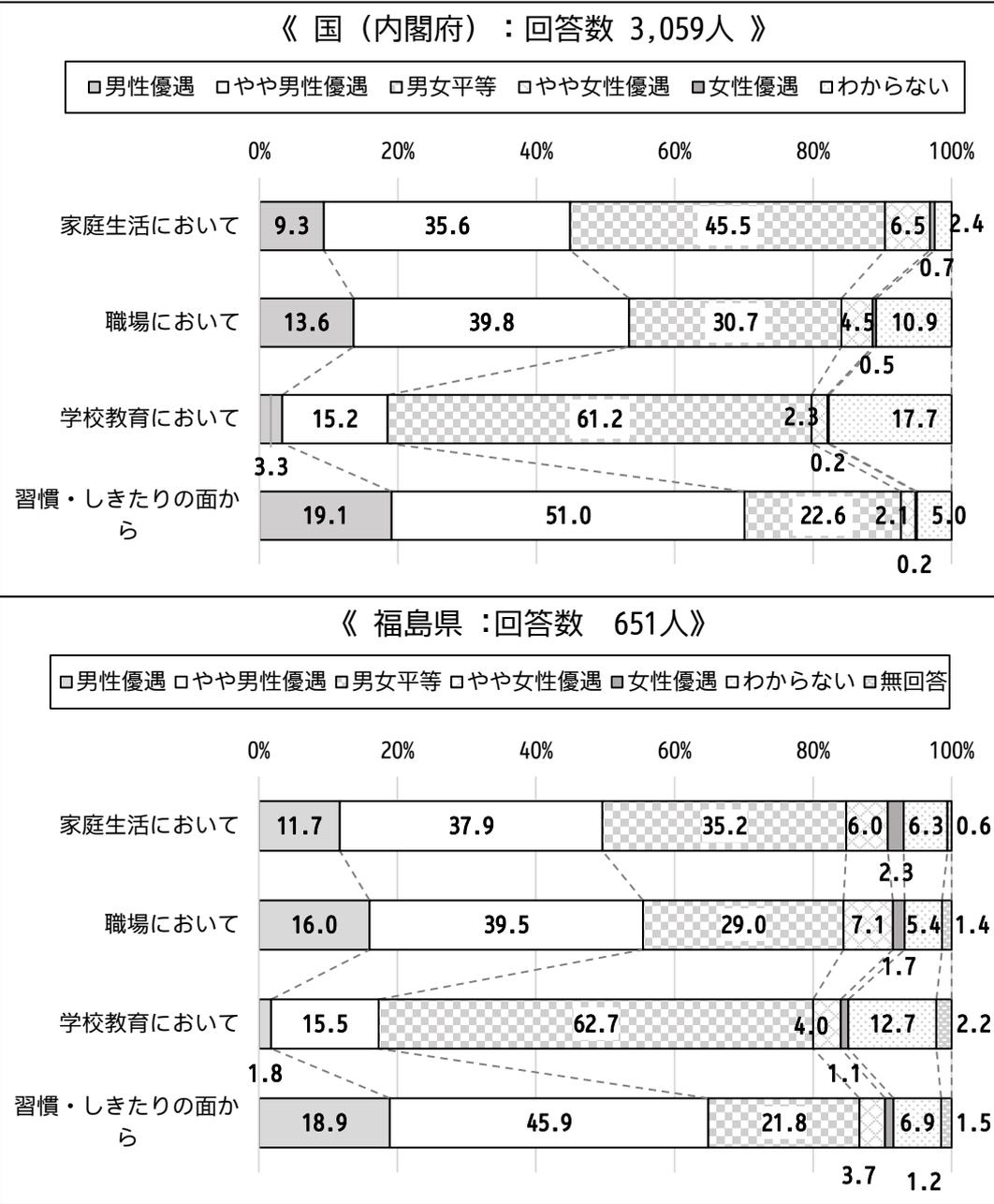
問：あなたは、次の各分野での男女の地位が平等だと思いますか。

国、県、市ともに「男女平等」と回答した割合が最も高いのは、「学校教育において」で、それぞれ国61.2%、県62.7%、市57.8%と、ほぼ同様の結果となっている。

次に、「男女平等」と回答した割合が高かったのは、「家庭生活において」であるが、国45.5%、県35.2%、市36.1%と国と比べ、県及び市が低い傾向があり、その分、「男性優遇・やや男性優遇」の割合が、国44.9%、県49.6%、市55.7%と、県及び市が増加する。

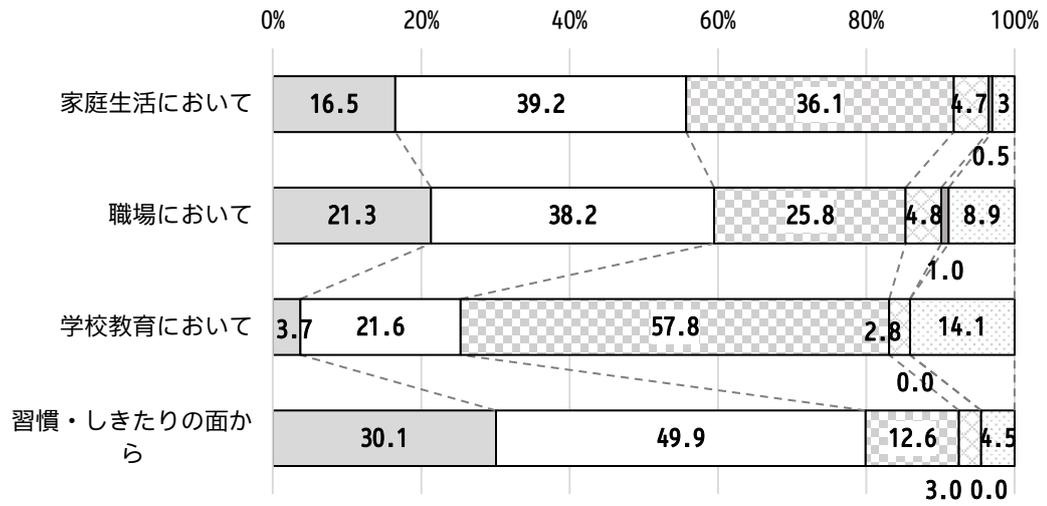
次に「男女平等」と回答した人の割合が高かったのは、「職場において」であり、国30.7%、県29.0%、市25.8%と全体的に低く、「男性優遇・やや男性優遇」と回答した割合が国53.4%、県55.5%、市59.5%となっている。

「男女平等」と回答した割合が最も低かったのは「習慣・しきたりの面から」で、国22.6%、県21.8%、市12.6%と全体的に低く、「男性優遇・やや男性優遇」と回答した割合は、国70.1%、県64.8%、市80.0%と高い状況にある。



《 市：回答数 1,007人 》

□男性優遇 □やや男性優遇 □男女平等 □やや女性優遇 □女性優遇 □無回答



男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和3年3月発行

発行：郡山市市民部男女共同参画課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

TEL：024-924-3351

FAX：024-921-1340

メール：danjokyoudou@city.koriyama.lg.jp

郡山市ウェブサイト：<http://www.city.koriyama.lg.jp/>
